

# 下新庄アラチ遺跡

野々市町南部土地区画整理事業に係る  
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 II

1999年

石川県野々市町教育委員会  
野々市町南部土地区画整理組合

# 下新庄アラチ遺跡

野々市町南部土地区画整理事業に係る  
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ

1999年

石川県野々市町教育委員会  
野々市町南部土地区画整理組合

## 例 言

- 1 本書は石川県石川郡野々市町上林4丁目及び新庄6丁目に位置する下新庄アラチ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、野々市町南部土地区画整理事業に係る下新庄アラチ遺跡の緊急発掘調査報告書で、野々市町教育委員会が野々市町南部土地区画整理組合の委託を受けて1991～92年・1994年・1996年の4次にわたり調査を実施したものである。
- 3 現地における調査の期間、面積、担当者は以下のとおりである。

年 度	期 間	面 積	担 当 者
1991年度	4月15日～6月5日	1,600m <sup>2</sup>	社会教育課主事 横山 貴広
1992年度	5月20日～12月8日	8,000m <sup>2</sup>	同 上
1994年度	4月21日～12月20日	5,900m <sup>2</sup>	文化課主事 横山 貴広 同 徳野(雄見)裕子
1996年度	5月2日～10月2日	2,850m <sup>2</sup>	横山 貴広(現 主査)

- 4 遺物の整理及び報告書作成に必要な記録資料整理にあたっては、洗浄・記名・選別・接合の各作業を、伊藤忠行、猪又邦子、井村外喜子、彦田洋子、佛田正子、谷内茂代が、また接合・復元・実測・トレースを竹田倫子、野村祥子がおこなった。その他、図版作成・遺構図トレースを横山が、写真撮影を永野勝章(野々市町教育委員会文化課主事)が担当した。
- 5 本書の執筆及び編集は横山がおこなった。
- 6 図版の縮尺はすべて図上に標示し、水平基準線レベルは海拔高である。なお方位はすべて磁北を指す。

- 7 調査によって得られた資料は、すべて野々市町教育委員会が一括して保存管理しており、一部野々市町ふるさと歴史館において展示をおこなっている。
- 8 発掘調査から報告書作成に至るまで、多くの方々や機関からご教示、ご協力をいただいた。以下にご芳名を記して深甚の謝意を表したい。(敬称略・順不同)

伊藤雅文・垣内光次郎・金山弘明・北野 博・木田 清・小嶋芳孝・小林 修(故人)

田嶋明人・出越茂和・戸潤幹夫・西村康賢(故人)・布尾和史・橋本澄夫・藤田邦雄

三浦純夫・山本直人・湯尻修平・吉岡康暢・吉本外茂治

石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター・松任市教育委員会

野々市町南部土地区画整理組合

# 目 次

## 例 言

第1章 調査の経過（調査日誌抄）	1
第2章 調査の成果	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 遺構について	8
1. 竪穴住居跡	8
2. 掘立柱建物跡	12
3. その他の遺構	18
第3節 遺物について	19
1. 竪穴住居出土遺物	19
2. 掘立柱建物柱穴出土遺物	20
3. その他の遺構出土遺物	20
第3章 考 察 —古代集落の一様相—	155
第1節 掘立柱建物の類別	155
1. 桁行／梁行での検討（建物プラン）	155
2. 床面積及び軸方位での検討	155
第2節 集落の変遷	158
第3節 集落の位置づけ	159
遺構図版	22
遺物図版	64
遺物観察表	115

## 写 真 図 版

## 第1章 調査の経過（調査日誌抄）

野々市町南部土地区画整理事業に係る発掘調査については、1989年度から96年度までの延べにして8年間を費やしており、この内下新庄アラチ遺跡については冒頭に記したごとく4次にわたる本調査をおこなっている。このため、調査の契機及び周辺の歴史的環境については既刊『上新庄ニシウラ遺跡』（野々市町南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 I 1998年3月刊）を参照していただきたい。

### 1. 1991年度の調査

4月15日（月）晴 調査区設定。午後より畦畔ブロックの除去とあわせ、表土除去作業を開始する。

4月18日（木）曇のち雨 表土除去作業終了。

4月19日（金）曇のち晴 機材搬入。併せて今調査区が学童の通学路に面しているため、安全確保のための保護柵を設ける。

4月22日（月）晴 東側より遺構検出作業開始。ベルトコンベア等調査機材のセッティングをおこなう。

4月23日（火）晴のち曇 SB-01検出。写真撮影をおこなう。耕作中の1筆上手の田より大量に漏水、止水作業とともに排水をおこなう。今後に生かすべき苦い経験である。

4月24日（水）曇のち雨 遺構検出作業継続。合間をぬって実測作業用の杭打ちをおこなう。

4月25日（木）曇のち晴 西側鞍部掘り下げをおこなう。下面より竪穴住居2棟検出。上面では判別できなかったが、床面の傾きより竪穴住居建築段階ではすでに鞍部は埋没していたことが判明。

4月30日（火）曇時々晴 遺構検出作業と平行して平面実測作業を開始する。

5月7日（火）晴 午前中で平面実測作業は終了。統いてレベル記入をおこなう。週末の雨のため調査区の半分近くが冠水、排水作業をおこないながら遺構検出作業も平行しておこなう。

5月10日（金）晴 竪穴住居のセクション実測及び撤去、カマドの断ち割りとセクション実測をおこなう。ベルトコンベア下を除き遺構検出作業はほぼ終了。

5月13日（月）晴 ベルトコンベア下の遺構検出作業をおこなう。また、北東側より余剰人員を遺構清掃に割り振る。平面図レベル記入終了。午後より統いて調査実施予定の上林新庄遺跡へ調査区の設定に出向く。県埋文センターの田嶋、三浦両氏来跡。

5月14日（火）晴 竪穴住居のカマド等をすべて撤去し、完掘写真を撮影する。鞍部の断ち割り及びセクション実測。遺物をすべて取り上げ、翌日の写真撮影に備える。

5月15日（水）曇 RCヘリコプターによる空中写真撮影実施。調査面積が狭く、予算の制約もあつたため今年度は空中写真のみに止め遺構図については手実測で作成した。機材等を翌週より調査予定の上林新庄遺跡へ運搬、91年度の下新庄アラチ遺跡の調査については本日で現場作業を終了した。天候を問わず上手の田からの漏水に悩まされ続け、排水ポンプもフル稼働の調査であった。（以降埋め戻し作業は6月5日で終了。）

## 2. 1992年度の調査

- 5月20日（水）晴 重機オペレーターと現場で土置場等について打ち合わせ。
- 5月22日（金）曇 調査区設定。
- 5月25日（月）雨のち曇 現場仮設小屋立て上げ。調査備品等搬入。
- 5月26日（火）晴 調査区全体の畦畔ブロックを除去後、表土除去作業開始。
- 6月1日（月）晴 本日で表土除去作業終了。当初の予想より土量が多く、残土の仮置き場に苦慮したがなんとか無事終了する。
- 6月2日（火）晴 調査用の機材等搬入。予算区分の関係で都市計画道路建設予定地の南側より遺構検出作業を開始する。以外と遺構密度は希薄なようである。
- 6月4日（木）晴のち曇 都市計画道路予定地の遺構検出作業継続。ベルトコンベア等機材の搬入とセッティングをおこなう。
- 6月5日（金）曇 仮設水道の連結工事をおこなう。
- 6月9日（火）晴 好天に恵まれ、遺構検出作業も順調に進む。午後より金沢市四十万小学校の6年生児童4名が見学に訪れる。支障のない部分で僅かな時間ではあるが発掘調査を体験させてあげることとする。
- 6月11日（木）曇時々雨 久しぶりの雨で午後3時をもって作業中止。都市計画道路予定地の遺構検出も調査区中央になると次第に遺構密度を増しており、連日新たな掘立柱建物跡が次々と姿を現す。この時点で当遺跡のただならぬ性格を実感する。
- 6月15日（月）・16日（火）晴 先週末に担当者の不注意からプライベートな場面で重度の捻挫を負い、現場作業を休止する。日頃の精進の足りなさをただただ反省するのみである。
- 6月17日（水）晴のち曇 本日より現場作業を再開する。松葉杖をつきながらの指示は非常に辛いが、自業自得である。新たに竪穴住居1棟、掘立柱建物3棟を確認。
- 6月18日（木）曇のち晴 調査区西側を北流する溝（SD-07）より円面硯が出土。あとは墨書き器の確認に期待を寄せる。
- 7月1日（水）晴 先月末の降雨により調査区の大半が水没、急速排水ポンプを追加し排水作業をおこないながら島状に残った僅かな微高地の調査を進める。松任市金山氏来跡。
- 7月17日（金）曇のち雨 遺構検出作業は順調に進んでいる。今調査区の中で、都市計画道路予定地以外の民地部分については手実測となるため、測量用の杭打ちを委託、本日より作業にかかる。
- 7月20日（月）晴 先日円面硯が出土したSD-07の南北流路を掘進中に、今度はやや南よりの溝底より稜桷が出土する。担当者の力量を越える連日の発見に、更なるプレッシャーを感じる。金沢市小西氏来跡。
- 7月28日（火）曇 大型土坑群（SK-10～14）、竪穴住居等の平面実測作業開始。以後は担当者が一人のため実測作業を進めながらの調査指示となるが、調査作業員が習熟しているためさほど負担とは感じない。県埋文協会宮本氏来跡。
- 7月30日（木）～8月11日（火）天候にも恵まれ、盆休み前のひとくぎりとして竪穴住居の調査、記録を集中的におこなう。
- 8月17日（月）晴 調査再開。都市計画道路予定地の航空測量に備え、南側から遺構等の清掃作業を開始する。

8月20日（木）曇のち晴 航空測量実施。盆休み明け以来連日続く夕立に泣かされたが、なんとか予定どおり測量を終了する。午後より個別の遺構写真撮影をおこなう。

8月24日（月）～10月2日（金） 街区（都市計画道路北西側）の調査をおこなう。北流するSD-07は北へ下るにつれて幅、深さとも大幅に縮小し、遺物も極端に少なくなる。掘り上がった遺構を追いかけるように実測作業も平行して進める。

10月6日（火）晴 都市計画道路南東側の街区部分の調査開始。これより先は真近に迫った国民文化祭の打ち合わせや準備のために、担当者が不在もしくは半日で作業中止といった日々がしばらく続く。残った面積と調査の日程を考えるとやはり不安を感じる。

10月14日（木）曇時々雨 北西側街区の記録作業終了。工事業者に引き渡す。

10月21日（水）～26日（月） 国民文化祭のため現場作業は休止。

10月27日（火）曇のち晴 現場作業再開。調査区排水作業と同時に旧河道西側の包含層掘り下げをおこなう。

10月28（水）・29日（木）晴 包含層掘り下げとともに遺構検出、掘進をおこなう。天気が不安定なことに加え、調査区の水捌けが悪いためその日掘り進む分を完掘していくといった手法を取る。

11月4日（水）～13日（金） 旧河道流路に時代確認のため幅3～4m程度の断ち割りを3ヶ所設ける。

11月16日（月）～18日（水） 最後に残った旧河道東側の遺構検出とともに調査区全体の清掃作業をおこなう。遺構写真撮影後機材の洗浄、荷造りをおこなう。

11月20日（金）雨 機材搬出、仮設小屋清掃。本日で作業員の仕事は終了。

11月24日（火）～30日（月） 平面図作成作業。

12月4日（金）雨のち曇 調査機材搬出。本日ですべての作業を終了する。

### 3. 1994年度の調査

4月21日（木）晴 東側の区画道路建設予定地より表土除去作業開始。

4月25日（月）曇のち晴 機材搬入。調査区排水作業と同時に周辺の草刈りをおこなう。終了後南側より遺構検出開始。細い溝が多数見られる。東南方向に向けて地山が極端に落ち込んでおり、分調データの正確さを確認して自己満足。

4月26日（火）～5月10日（火）天候に恵まれ、順調に作業も進む。遺構完掘後全体を清掃、写真撮影をおこなう。調査区内に測量用の杭打ちをおこない平面図作成作業開始。

5月12日（木）曇のち晴 西調査区の農業用水西側（W-1区と仮称）より表土除去作業を開始する。

5月17日（火）曇のち晴 表土除去作業と平行して南側より遺構検出作業を開始。

5月18日（水）晴 表土除去作業終了。

5月20日（金）晴 遺跡の縁辺ということもあり、遺構密度が低い。作業も順調に進み、完掘後写真撮影をおこなう。午後より用水東側調査区（W-2区と仮称）の表土除去作業開始。

5月24日（火）晴 表土除去作業終了。北側の鞍部周辺より遺構検出開始。

5月25日（水）～6月2日（木）大きな天候の崩れもなく、順調に遺構を掘り進む。

6月3日（金）晴 午前中で検出作業はほぼ終了、写真撮影後W-1区に測量用の杭打ちをおこなう。午後より平面図作成開始。来週から作業員は上林新庄遺跡へ移動。

6月22日（水）曇のち晴 W-1区の平面図作成終了。担当者もしばらく上林新庄遺跡の調査に専念する。

7月12日（火）曇のち晴 しばらく留守にしていたW-2区の排水作業とともに遺構清掃、崩落土除去をおこなう。航空測量に備えてセクションベルトの取り外しと遺物の取り上げもおこなう。

7月13日（水）晴 組合との協議の結果、当初予定になかった西側区画道路と平成4年度調査区の間の民地部分（W-5区と仮称）の調査をおこなうこととなり、表土除去とともに遺構検出を開始。トータルでの年間調査面積は10,000m<sup>2</sup>を越えることとなった。

7月15日（金）晴 W-2区航空測量実施。午後よりW-1区から埋め戻し作業を開始。

7月18日（月）～29日（金） W-5区の調査継続。SD-07以南は比較的遺構密度が薄い。8月からは工事日程の関係で再び上林新庄遺跡の調査を優先することとなり、当遺跡の調査はしばらく休止することとなる。

9月19日（月）晴のち曇 最東端の調査区（E区と仮称）表土除去作業開始。

9月20日（火）晴 E区表土除去作業終了。

10月3日（月）曇のち晴 E区南端より遺構検出開始。

10月4日（火）～7日（金） E区遺構検出作業終了。遺跡推定地の縁辺のため中央を北流する溝以外目立った遺構もなく、比較的順調に調査が進む。実測用の杭を打った後平面図作成作業開始。6日より最後に予定されている下新庄タナカダ遺跡の調査のため表土除去作業開始。

10月11日（火）曇 再びW-5区へ戻り、遺構検出作業を再開する。南側は遺構密度が薄いため平行して北側より掘り上がった遺構の清掃開始。

10月19日（水）曇 W-1区の航空測量実施。終了後各遺構の個別写真を撮影する。

10月28日（金）晴のち曇 E区の平面図作成作業終了。来週より下新庄タナカダ遺跡及び上林新庄遺跡の遊歩道部分の調査に専念することとなる。

12月20日（火）晴 下新庄アラチ遺跡の調査区すべての埋め戻し作業を終了したが、まだ下新庄タナカダ遺跡の調査は終了していない。延べにして3遺跡を調査し、当遺跡についても調査区が大きく東西に別れていたためてんてこ舞いの1年であった。パートナーの鶴見主事にも奉職初年度から相当負担をかけてしまった。感謝。

#### 4. 1996年度の調査

5月2日（木）晴 調査区設定、重機オペレーターと現場打ち合わせ。

5月7日（火）晴 表土除去作業開始。周辺の開発がかなり進み、調査区外へ堆土を仮置きできないため今年度は調査区を二分し南側調査区（S区）と北側調査区（N区）に分割、S区より調査を進めることとする。

5月14日（火）晴 S区表土除去作業終了。

5月15日（水）晴 現場仮設小屋立て上げ。

5月16日（木）晴のち曇 機材・事務所備品搬入。南壁及び東壁の調整と周辺の草刈りをおこなった後、南側より包含層の掘り下げと遺構検出を開始する。

5月29日（水）晴のち曇 S区南半は予想外に遺構が少なく、旧河道の検出を続ける。打製石斧から薬の小瓶まで様々なものが出土する。連日の好天はありがたいが、粘土質の土が堅くてせっかく出

土した土器も壊してしまうことが多い。やはり多少の降雨は必要である。

5月31日（金）曇 表土除去の段階で多量の土器が確認された北東側包含層の掘り下げ開始。生活面の確認が困難なため結局かなりの厚さの包含層を地山まで掘り下げる。遺構上面で出土した遺物については遺構出土として扱うこととし、さらに覆土出土のものと区別することとする。夕方、前理事長小林修氏の訃報に接する。調査開始当初より非常に良くしていただいたため心が痛む。

6月3日（月）～20日（木） 遺構掘進。

6月25日（火）雨 先日からの記録的な豪雨で調査区は完全に水没。なんでも1ヶ月分の雨が1日で降ったとのこと。急速排水ポンプを追加借り上げする。

7月11日（木）雨のち曇 遺構検出及び清掃ほぼ終了。明日の航空測量のための準備作業をおこなう。

7月12日（金）曇のち晴 航空測量実施。午後より個別遺構写真撮影。

7月17日（水）晴 補足作業も終わりS区の埋め戻しを開始する。同時にN区の表土除去もおこなう。

7月22日（月）曇のち晴 N区の表土除去作業と平行して北側より遺構検出開始。S区とは対照的に相当量の遺構の存在が見込まれる。

7月23日（火）雨のち曇 午前中の雨で現場作業は中止。表土除去作業のみをおこない本日で終了。

7月29日（月）晴 梅雨明け直後の猛暑で遺構面が硬化、ひび割れをおこしているため散水しての検出作業となる。北半の狭い地域に竪穴住居や掘立柱建物がひしめき合うように姿を現す。職業体験の野々市中学校生徒2名来跡。

8月8日（木）晴のち曇 竪穴住居さらに3棟検出。遺跡の姿を考えると胸が踊るが、秋から末松地区での別調査を抱えている担当者としては期日までに終えることができるかという焦りが強くなる。

8月12日（月）晴のち曇 中央やや西寄りで一際大きな竪穴住居（SI-43）と二重構造かと思われる掘立柱建物2棟（SB-49, 50）検出。阿拉チ村のオサの居館に間違いないという直感が頭をよぎる。

8月19日（月）晴 週末の台風で仮設トイレが倒れ、復旧作業をおこなう。大型の竪穴住居及び掘立柱建物完掘。卓越した丁寧な造りに驚くが、大きすぎて脚立程度では全体のイメージがつかみ難い。

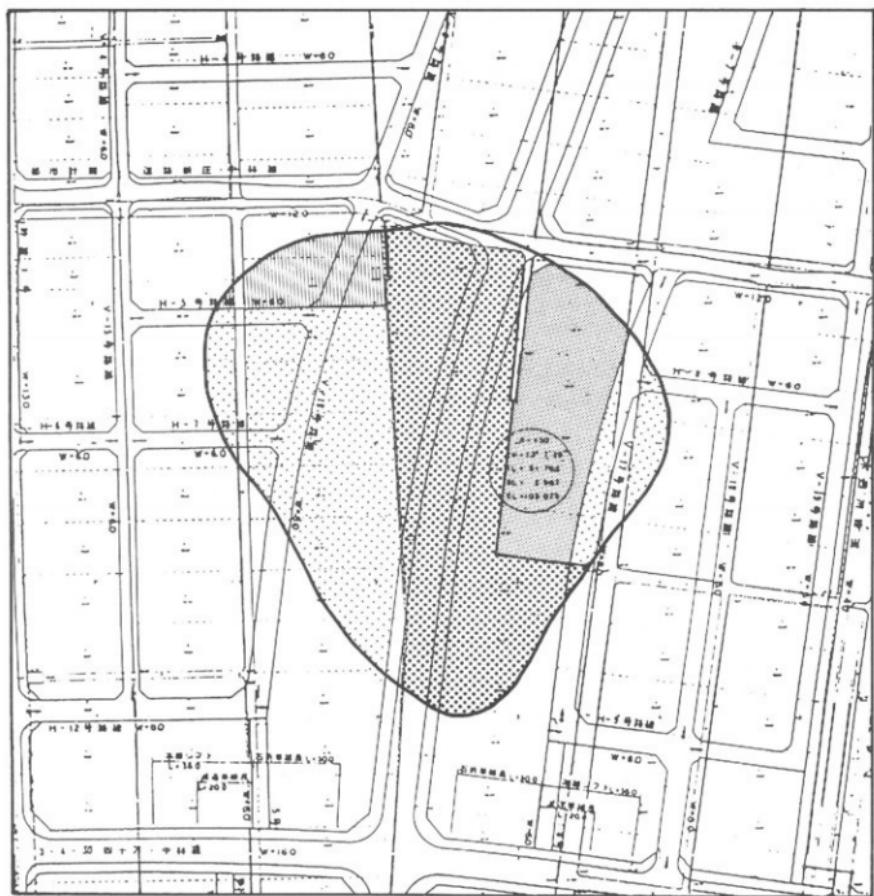
8月20日（火）～9月18日（水） 遺構検出、掘進作業。明日に迫った2度目の航空測量に向か、清掃作業も平行して進める。

9月19日（木）晴 午前中に遺構個別写真的撮影をおこなう。正午ごろ航空測量実施。

9月20日（金）曇のち雨 カマド等の精査をおこなう。機材等撤収。最後に週末に台風が近づいているということで現場仮設小屋等の台風対策をおこなう。

9月26日（木）曇 現場での補足調査すべて終了。

10月2日（水）晴 調査区埋め戻し作業終了。本日をもって8年間続いた南部遺跡群の現場での調査はすべて終了した。



[Diagonal Lines] 1991年度 調査区 面積 1,600m<sup>2</sup>

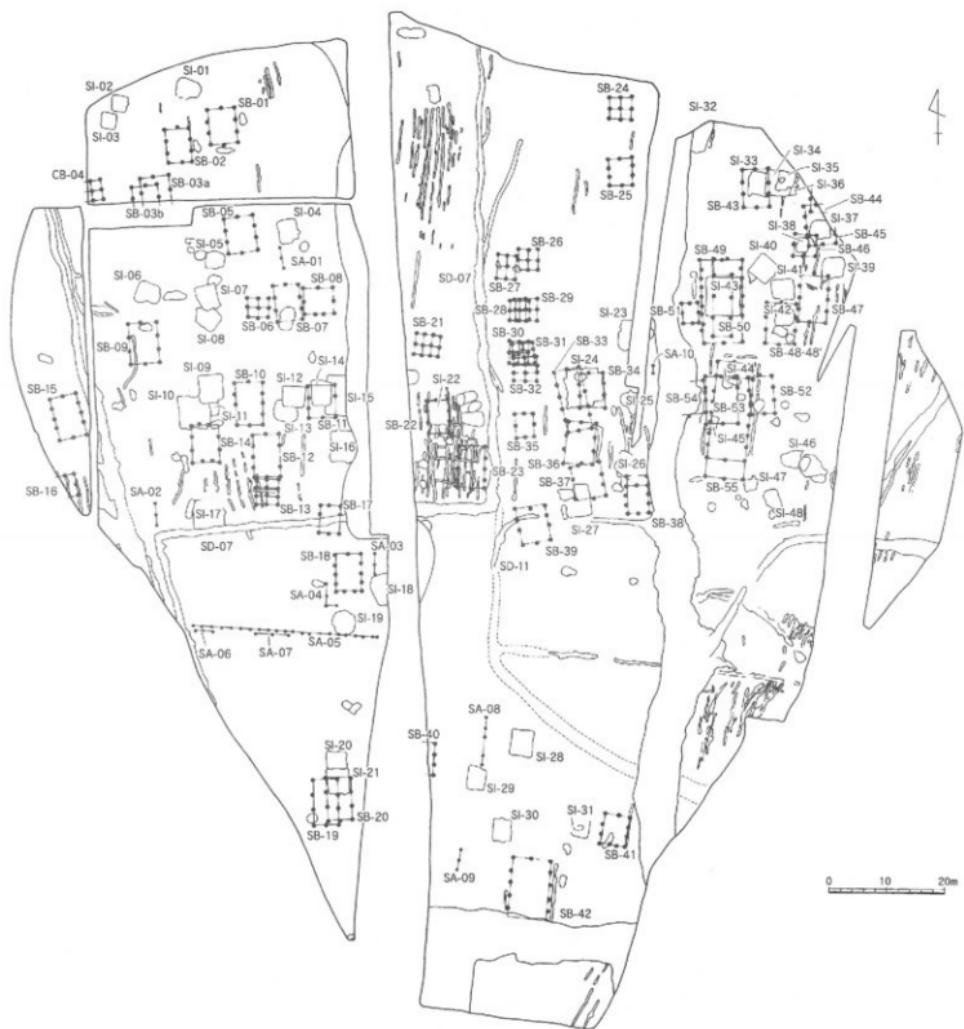
[Dots] 1992年度 調査区 面積 8,000m<sup>2</sup>

[Horizontal Lines] 1994年度 調査区 面積 5,900m<sup>2</sup>

[Vertical Lines] 1996年度 調査区 面積 2,850m<sup>2</sup>

合計 18,350m<sup>2</sup>

第1図 下新庄アラチ遺跡 調査区図



第2図 主要遺構配置図

## 第2章 調査の成果

### 第1節 遺跡の概要

下新庄アラチ遺跡は野々市町南部土地区画整理事業施行区域の中央やや東に南北に伸びる島状微高地のほぼ中心に位置しており、その伸びは少なくともさらに北側に展開する粟田遺跡にまで及ぶことが確認されている。推定面積20,000m<sup>2</sup>余りを測る大集落跡であり、周辺の中心的な集落跡のひとつであることは間違いない。当遺跡はこれまで四次にわたり延べにして18,350m<sup>2</sup>を調査しており、ほぼその全容を知ることができたものと考えている。以下、遺構ごとに順次報告をおこなっていくこととするが、紙数の制約もあり竪穴住居跡及び掘立柱建物跡以外の遺構については主体的なものを、また出土遺物についてはその概略を記すに止め、詳細は別表遺物観察表を参照していただきたい。

### 第2節 遺構について

#### 1. 竪穴住居跡

SI-01(第3図) A区中央北側に位置し、不定形な平面プランを呈する。長軸4.19m、短軸3.08m、深さ15cm、面積約13.1m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN75°Wである。床面はほぼ平坦であるが壁の立ち上がりは弛緩しており、明確な柱穴は確認されていない。

SI-02(第3図) A区北西隅に位置する均整のとれた方形を呈する住居であり、長軸2.72m、短軸2.68m、深さ17cm、面積約7.1m<sup>2</sup>を測る。軸方位はN9°Eであり、南東隅にカマド、南西隅に貯蔵穴状の浅い土坑を有する。床面はほぼ平坦に仕上げられており、3辺の中央に同時期と思われるピットを有するが柱穴となるものかどうかは判別できない。

SI-03(第3図) SI-02に隣接して存在する。長軸2.77m、短軸2.59m、深さ16cm、面積約7.1m<sup>2</sup>とSI-02とはほぼ同規模であり、軸方位も等しい。南東隅にカマドを有し、北側中央に方形の大きな浅い土坑を持つ。

SI-04(第4図) C区北東壁際に位置し、平面プランは略長方形を呈する。長軸4.24m、短軸3.42m、深さ26cm、面積約12.6m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN11.2°Wである。

SI-05(第4図) C区中央北側に位置し、平面プラン略長方形を呈する東西棟の住居である。長軸3.42m、短軸2.94m、深さ35cm、面積約8.9m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN87.9°W(N2.1°E)である。明確な柱穴は確認されておらず、カマド等の痕跡も検出されなかった。

SI-06(第5図) SI-05の南西約9mに位置し、不定形な平面プランを呈する。長軸4.38m、短軸3.96m、深さ35cm、面積約14.3m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN69.5°Wである。床面は起伏が激しく、その形状から当初は土坑として扱っていたものであるが、整理の段階で竪穴(状遺構)とした経緯がある。

SI-07(第5図) SI-05の南3mに隣接しており、平面プランは略長方形を呈する。長軸4.38m、短軸3.96m、深さ33cm、面積約14.3m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN13.7°Wである。プランからの確認では後述するSI-08に後続することが知られる。

SI-08(第5図) SI-07の南に重複して位置する。平面プランは略長方形であるが、コーナー部はやや弛緩しシャープさに欠ける。長軸4.28m、短軸3.65m、深さ23cm、面積約13.6m<sup>2</sup>を測り、軸方

位はN52° Wである。SI-07に先行する可能性が高いものの、遺物の出土がなく追認はできていない。

**SI-09** (第6図) SI-08の南8mに位置する。南東角が屈曲する略長方形を呈し、長軸5.16m、短軸4.10m、深さ18cm、面積約19.8m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN4.2° Wである。プラン上では重複する3棟の内最も新しいが、遺物は重複部分より出土した甕が僅かに1点と信憑性に乏しい。

**SI-10** (第6図) SI-09の南西に重複する。ほぼ正方形に近いプランを呈し、長軸5.42m、短軸5.18m、深さ19cm、面積約27.0m<sup>2</sup>、軸方位N5.6° Wを測る。前後の遺構の切り合いが激しく、その取り扱いには苦慮するものの遺物はある程度のまとまりを持って検出されており(第42・43図)、II<sub>3</sub>期(田嶋1988)あたりを考えておきたい。

**SI-11** (第6図) SI-09、10に挟まれるようにして重複する。規模等は不明であるが、調査時の感触から竪穴住居として扱ってよいと考えている。ただ、数は少ないものの確認された遺物(第43図)は明らかにSI-10に後続するものであり、内部に掘り込まれた遺構に帰属する可能性が高い。これら3棟については不確定要素が多いものの、III期を中心として展開した1つのブロックとしてとらえておきたい。

**SI-12** (第7図) SI-09の東10mに位置する。鋭角的な長方形を呈し、南東角に位置するカマド部分を除いて細い壁溝が巡り、壁の立ち上がりも鋭い。長軸3.97m、短軸3.56m、深さ39cm、面積約13.6m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN84.1° W(N5.9° E)である。プランでの確認では後述するSI-13に後続する。

**SI-13** (第7図) SI-12に重複し、略楕円形を呈する。長軸4.26m、短軸推定で3.30m、深さ35cm、面積約12.9m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN68° Wである。やはり当初は土坑として扱ったものであり、カマド等の確認はない。

**SI-14** (第7図) SI-12の東に隣接する略長方形を呈する住居である。長軸4.51m、短軸3.29m、深さ23cm、面積約13.5m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN4° Eである。SB-11の北側東柱と重複するが、検出時の土の状態が悪く前後関係は不明である。

**SI-15** (第7図) SI-14の東に重複して位置し、当初プラン上ではSI-14に先行するものとしたが、出土遺物の様相差ではこちらの方が新しい様相を見せる。東半を現代(大正初期の耕地整理以前)の旧河道に破壊されているため全容は不明であるが、長軸7.02m、深さ22cmを測る端正な方形を呈する大型の住居であり、軸方位はN5.5° Eを示す。やはりSB-11と重複するが、土が白く乾いている状態での掘進を強行するといった不手際からその前後関係は確認できていない。

**SI-16** (第8図) SI-15の南3mに位置し、やはり東側を旧河道により破壊されている。端正な方形を呈し、長軸5.33m、深さ17cm、軸方位N1° Wを測る。中央の大きな方形土坑はSI-16が造られる以前のものである。

**SI-17** (第9図) SI-10の南13mに位置し、SD-07に先行する。ほぼ正方形を呈すると思われるが、検出面から床面までが浅く北側では壁が消失している。長軸推定で5.40m、短軸5.35m、深さ最深で5cm程度、面積推定で27.2m<sup>2</sup>を測り、軸方位はほぼ磁北を向く。図化できた遺物は僅かに2点のみであるが、別個の遺構が多数切り込んでおりその帰属は確証を得ない。

**SI-18** (第8図) C区南半の東壁際に位置し、隅丸方形状を呈する住居である。東半は検出し切れていないが、現状で長軸5.10m、深さ20cm、軸方位N8.1° Wを測る。中央に拳大の自然礫が集中しており、北西コーナー部より排水と思われる小溝が北へ伸びる。

**SI-19** (第9図) SI-18の南西5mに位置し、ほぼ円形を呈する。長軸4.43m、短軸4.25m、深

さ24cm、面積約13.8m<sup>2</sup>を測り、軸方位は捉え辛いもののN2.8° E程度と思われる。南隅に見られる略楕円形の土坑は後世のものである。

**S I - 20** (第10図) SI-19の南21mに位置する東西棟のやや小振りの住居である。長軸3.62m、短軸2.89m、深さ14cm、面積約12.4m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN87.1° W(N2.9° E)である。遺物は轆轤甕が僅かに1点出土している。

**S I - 21** (第10図) SI-20に重複して南に隣接する。長軸推定で4.75m、短軸3.95m、深さ17cm、面積推定で17.5m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN2.5° Wである。遺物は僅かに1点のみであるがその様相からSI-20に先行することは妥当視され、検出時において南接するSB-19、20にも先行することが確認されている。

**S I - 22** (第11図) D区中央西側、SD-07が北折するコーナー部に位置する。長軸4.45m、短軸3.87m、深さ15cm、面積約14.6m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN3° Wである。東南角にカマドを有し、中央の円形土坑も付属施設の可能性が高い。重複するCB-22に先行しており、同一場所での建て替えを示唆する。

**S I - 23** (第11図) D区北半中央の東壁際に位置する。北側は端正な方形を呈するが、南側は不定形な構円状を示す。長軸5.32m、深さ28cm、軸方位N5° Eを測る。中央の土坑状遺構は先行するものである。

**S I - 24** (第12図) SI-23の南西5mに位置する不定方形の住居であり、重複するSB-34に先行する。長軸6.17m、短軸4.30m、深さ24cm、面積約34.5m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN1° Wである。遺物はある程度まとまって検出されており、切り込みの状態からやや錯綜した状況も見せるが概ねII:～III期の中で捉えられる。

**S I - 25** (第13図) SI-24の東3mに位置する不定形の住居であり、当初は土坑として扱ったものである。長軸現状で4.35m、深さ27cmを測る。

**S I - 26** (第13図) SI-25の南7mに位置する。略方形を呈するものと思われるが、平成8年度の調査では東コーナー部を検出することはできなかった。長軸3.74m、短軸推定で3.50m、深さ30cm、面積推定で12.9m<sup>2</sup>を測る。

**S I - 27** (第13図) D区ほぼ中央に位置する。北辺中程で屈曲するものはほぼ正方形を呈し、南東角にカマドを有する。長軸5.65m、短軸推定で5.50m、深さ27cm、面積推定で28.2m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN6.6° Wである。遺物はまとまって検出されており、轆轤甕が主体を占める。III～IV:期で捉えておきたい。

**S I - 28** (第14図) D区南半ほぼ中央に位置し、平面プランは長方形を呈する。長軸4.56m、短軸3.74m、深さ17cm、面積約16.4m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN7.1° Eである。側柱列を持つものと思われるが、南辺については未確認である。やはり東南角にカマドを有する。III期。

**S I - 29** (第14図) SI-28の南西5mに位置し、ほぼ方形を呈するものと思われるが西壁際を現代の旧用水で破壊されている。南北軸は4.22m、深さ23cmを測り、やはり東南角にカマドを有し、軸方位はN11° Eを示す。IV:期。

**S I - 30** (第15図) SI-29の南東5mに位置する方形の住居である。長軸3.85m、短軸3.15m、深さ17cm、面積約11.9m<sup>2</sup>を測り、壁際に側柱列を持つ。軸方位はN2° Eを示す。遺物は確認されていない。

**S I - 31** (第15図) SI-30の東11mに位置する略長方形の住居である。長軸推定で3.68m、短軸

2.98m、深さ18cm、面積推定で11.2m<sup>2</sup>を測り、北側及び西側の壁中央は確認できなかった。北辺に位置する楕円形の土坑は後世に掘り込まれたものである。遺物は確認されていない。

**S I - 32** (第16図) E区北西壁際に位置し、西側を旧河道に破壊されており、全容は明らかでない。方形もしくは長方形を呈するものと思われるが、床面が均一でなく大型の土坑を組み合わせたような起伏が見られる。南北軸は推定で6.30m程度と思われ、深さ南側で24cm、北側で28cm、軸方位はN 10° Eを示す。

**S I - 33** (第17図) E区中央北端に位置し、4棟が重複する1群の内最も西側の住居であり後述のSI-34に先行する。長軸3.66m、短軸3.54mのほぼ方形を呈し、深さ26cm、面積は約13.5m<sup>2</sup>、軸方位N 13° Eを測る。カマドは西南角にあり、南に煙道状の短い溝が伸びる。

**S I - 34** (第17図) SI-33に東接して重複し、ほぼ方形を呈するものと思われる。長軸4.21m、短軸推定で3.96m、深さ19cm、面積推定で16.4m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN 7° Eを示す。切り合いが激しくカマド状の施設は確認できなかったが、SB-43には後続するものと思われる。

**S I - 35** (第17図) SI-34に東接し、その過半を重複する。東南角が屈曲する方形を呈し、長軸3.12m、短軸2.84m、深さ30cm、面積約6.6m<sup>2</sup>を測り軸方位はN 14° Eを示す。やはりカマド等の痕跡は確認されていない。

**S I - 36** (第17図) 大半をSI-34、35に重複する。当初はSI-34と同一の住居跡として考えていたが、床面のレベルや軸方位が異なることから別の住居と判断した。規模等については不明であり、遺物も確認されていない。

**S I - 37** (第18図) SI-36の南東6mに位置し、やや弛緩した長方形を呈する東西棟の住居であり、壁の立ち上がりも不明瞭である。長軸3.67m、短軸3.47m、深さ27cm、面積約10.3m<sup>2</sup>を測り、軸方位N 7.5° Wを示す。遺物は轆轤甕を主体としており、IV<sub>2</sub>(新)期を考えておきたい。

**S I - 38** (第18図) SI-37の西に隣接するややいびつな長方形を呈する住居である。長軸2.52m、短軸2.16m、深さ13cm、面積約5m<sup>2</sup>を測り、軸方位N 6° Eを示す。規模に比較して床面の南半ほどんどを占めるほどの大きな焼土痕が認められることから、人の居住施設として独立して考えることは難しく、厨房という可能性も含めたSB-46の機能そのものを決定する地下施設とした方が適当かも知れない。

**S I - 39** (第16図) SI-37の南4mに位置し、略長方形を呈する東西棟の住居である。長軸3.77m、短軸3.48m、深さ28cm、面積約12.2m<sup>2</sup>を測り、軸方位N 3.8° Wを示す。東南隅にカマドを有し、南に煙道状の溝が伸びる。遺物はやはり轆轤甕が主体となる。

**S I - 40** (第17図) SI-39の西8mに位置する端正な方形を呈する住居であり、周辺に存在する他の竪穴が磁北よりそう大きく軸を違えずして南北棟もしくは東西棟といった在り方を示すのに対して、この住居だけは軸方位N 47.7° Wを示しており異様な感を与える。また、その構造も大きく異なっており壁高が36cmと高く、カマドが存在する東角を除く四周に深さ10cm、幅5cm程度の壁溝が巡る。西角に接して外側に位置するカマド状の施設も同時期と考えられ、それぞれに煙道を有する。長軸3.92m、短軸3.91m、面積約14.2m<sup>2</sup>を測る。

**S I - 41** (第17図) SI-40の東南に隣接し、略長方形を呈する東西棟の住居である。長軸3.90m、短軸3.65m、深さ26cm、面積約12.5m<sup>2</sup>を測り、軸方位N 4° Wを示す。遺物は轆轤甕が主体となる。

**S I - 42** (第20図) SI-41に南接し、不定形な楕円形を2つ組み合わせたようなプランを呈する。2基の土坑とした方が適当かも知れないが、南東隅に焼土痕を確認したためここでは住居に含めた。

長軸4.06m、短軸3.48mを測り、深さは南半で19cm、北半で17cmと若干異なる。面積は約11.9m<sup>2</sup>、軸方位はほぼ磁北を指す。

**SI-43** (第21図) SI-40の南西2mに位置し、端正な長方形を呈する大型の住居である。長軸6.72m、短軸5.85m、深さ5cm、面積約39.3m<sup>2</sup>を測り軸方位N1°Eを示す。壁内面に沿って4×3間の側柱列が見られ、深さ11cm、幅18cmの壁溝が巡る。床面の整地も非常に丁寧であり、造りの良さは他の住居と比較して隔絶の感がある。東南隅にカマドを有し、北辺の壁溝が途切れた中央部分が入り口と考えられる。出土遺物は少ないもののⅢ期を上下しないものと考える。重複するSB-49、50には切り合いから先行していることが確認され、内部に存在する楕円形の土坑2基はさらに先行して掘り込まれたものである。

**SI-44** (第37図) SI-43の南10mに位置する小さな方形を呈する住居である。長軸1.92m、短軸1.80m、深さ10cm、面積約3.2m<sup>2</sup>を測り、軸方位N8.5°Eを示す。やはり焼土痕が確認されたためここでは堅穴住居として扱った。遺物は確認されていない。

**SI-45** (第37図) SI-44の南西6mに位置する小型の方形住居である。長軸2.28m、短軸2.46m、深さ15cm、面積約5.5m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN20°Eを示す。遺物については溝等の切り合いが激しく確實に伴うという自信はないが概ねⅣ<sub>2</sub>(新)～V<sub>1</sub>期で捉えられる。

**SI-46** (第22図) SI-45の南東13mに位置する不定形な楕円形を呈する東西棟の住居であり、当初は土坑として扱ったものであり壁の立ち上がりも非常に緩慢である。長軸3.92m、短軸3.27m、深さ16cm、面積約9.86m<sup>2</sup>を測り、軸方位N4.5°Wを示す。遺物は食膳具が大半を占め、有台坪の底部を用いた転用硯も1点見られる。概ねV<sub>2</sub>～VI<sub>1</sub>期と思われるが、後述のSI-47、48も含め周辺は遺物を多量に含む包含層が厚く堆積していた地点であり、遺構上面に帰属する土器も混入している可能性がある。いずれにしても当遺跡で最も新しい1群であることは間違いないと思われる。

**SI-47** (第22図) SI-46の南西6mに位置する小型の方形住居である。長軸2.02m、短軸1.94m、深さ21cm、面積約3.3m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN6.7°Eを指す。遺物はバラエティに富むもののほぼ前述のSI-46と同時期と思われる。

**SI-48** (第22図) SI-47の南東2mに位置する偏平な楕円形を呈する住居であり、やはり当初は土坑として扱ったものであるが、平坦に仕上げられた床面の状況等からここでは堅穴住居に含めた。長軸3.77m、短軸2.63m、深さ27cm、面積約8.8m<sup>2</sup>を測り、軸方位N19°Wを示す。遺物は堅穴としては最も多く出土しており、IV<sub>2</sub>(新)～V<sub>1</sub>期を下限としておきたい。

文 献 田嶋 明人 「古代土器編年軸の設定」  
シンポジウム『北陸の古代土器研究の現状と課題』1988  
石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

## 2. 捜立柱建物跡

**SB-01** (第23図) A区ほぼ中央に位置する3×2間の建物である。桁行5.95m、柱間1.95m、梁行4.83m、柱間2.50m(2.35m)、面積28.9m<sup>2</sup>を測り軸方位はN3.5°Wを示す。柱穴の形状は略方形を主体とし、径74～48cm、深さ49～25cmである。南梁の中柱が棟持柱のように若干外側へずれる。

**SB-02** (第23図) SB-01の西3mにやや南にずれて位置する3×2間の建物である。桁行5.83m、

柱間2.12m、梁行4.17m、柱間2.26m（1.95m）、面積24.3m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN1.4°Wを示す。柱穴の形状は略方形を呈し径76～47cm、深さ58cm前後である。北梁の中柱がやや外側に出ており、南梁の中柱は東側へずれている。

**SB-03a** (第23図) SB-02の南西2mに位置し、梁行2間の建物であり桁行は未検出。桁行の柱間2.57m前後、梁行5.07m、柱間2.65mを測り、軸方位はN4.5°Wを示す。柱穴の形状は略楕円形を呈し、径92～50cm前後、深さ67～48cmである。

**SB-03b** (第23図) SB-03aの南西方向に若干ずれて重複するが、直接干渉しておらず遺物も出土していないためその前後関係については不明である。梁行2間の建物であり、桁行柱間2.40m、梁行4.60m、柱間2.28mを測り、軸方位はN5.2°Wを指す。柱穴の形状は略方形を主体とし、径62～53cm、深さ52cmである。北梁中柱が若干外へずれる。

**SB-04** (第23図) A区南北西隅に位置し、全容は未検出。2×2間の総柱の建物と思われ、桁行3.43m、柱間1.71m、梁行の柱間1.76mを測り、軸方位はN7.6°Wを示す。柱穴の形状は略楕円形を主体とし、径61～37cm、深さ33cm前後である。

**SB-05** (第24図) C区中央北端に位置する3×2間の建物である。桁行6.47m、柱間2.16m、梁行5.20m、柱間2.72m、面積33.6m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN8°Wを示す。柱穴の形状は略円形を主体とし、径64～48cm、深さ48cm前後である。

**SB-06** (第25図) SB-05の南8mに位置する2×2間の東西棟の総柱建物である。桁行3.74m、柱間1.84m、梁行3.42m、柱間1.68m、面積12.8m<sup>2</sup>を測り、軸方位はほぼ磁北を指す。柱穴の形状は偏平な略楕円形を呈し、径80～52cm、深さ48cm前後である。

**SB-07** (第25図) SB-06の東に隣接する3×2間の建物である。桁行6.54m、柱間2.24m、梁行4.56m、柱間2.32m、面積29.8m<sup>2</sup>を測り、軸方位N5.8°Wを示す。柱穴の形状は方形を主体とし、径76cm、深さ64cm前後である。

**SB-08** (第25図) SB-07の東に隣接する東西棟の建物である。北桁2間、南桁3間、梁行2間であり、南側に入口を想定できる。桁行5.19m、柱間は北側で2.68m、南側で西より1.93～1.41～1.85m、梁行4.66m、柱間2.24m、面積24.2m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN1°Wである。柱穴の形状は偏平な楕円形を呈し、径72cm～47cm、深さ40cm前後であるが、南桁第2柱穴のみは1.06mと突出して深い。

**SB-09** (第24図) SB-06の西16mに位置する3×2間の建物であり、桁行7.14m、柱間2.24m、梁行5.12m、柱間2.65m、面積36.6m<sup>2</sup>を測り、軸方位N3.5°Wを示す。柱穴の形状は略方形を主体とし、径80～60cm、深さ68～48cmである。

**SB-10** (第26図) SB-06の南11mに位置する4×2間の建物である。桁行7.70m、柱間1.84m、梁行4.55m、柱間2.28m、面積35.0m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN1°Wを示す。柱穴の形状は略方形もしくは円形を呈し、径94～56cm、深さ56～32cmである。

**SB-11** (第7図) SB-10の東8mに位置する3×2間の建物である。桁行5.89m、柱間1.86m、梁行4.61m、柱間2.25m、面積27.2m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN2°Wとほぼ磁北を指す。柱穴の形状は略長方形もしくは円形を呈し、径86～56cm、深さ53～36cmを標準とするが、南梁中柱のみは径27cm、深さ16cmと小さい。東半のほとんどをSI-14、15と重複するが、検出時の条件が悪く前後関係は不明である。

**SB-12** (第27図) SB-10の南2mに位置する4×2間の建物であり、東桁の第3柱穴が未検出であるが建物の復元としては妥当と考えている。桁行7.54m、柱間2.01m、梁行4.72m、柱間2.32m、

面積35.6m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN1' Wを指す。柱穴の形状は略方形もしくは円形を呈し、径72~52cm、深さ46cm前後である。

**SB-13** (第27図) SB-12の北に隣接する3×2間の総柱建物であり、プランからの確認ではSB-12に先行する。桁行4.34m、柱間1.50m前後、梁行3.92m、柱間1.92m、面積17.0m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN2' Eを示す。柱穴の形状は略方形もしくは円形を呈し、径68cm、深さ55cm程度を標準とする。

**SB-14** (第26図) SB-10の南西3mに位置する。桁行は3間であるが、梁行は南側で3間、北側はSI-10との切り合いが激しく判然としないが、おそらく3間であろう。桁行6.65m、柱間2.20m、梁行4.80m、柱間は南梁で西より1.68~1.84~1.28m、面積31.9m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN2' Wを示す。柱穴の形状は略円形を主体とし、径68cm、深さ48cm前後である。

**SB-15** (第28図) B区南半の東壁際に位置する4×2間の建物である。桁行7.41m、柱間平均で1.82m、梁行4.77m、柱間2.35m、面積35.3m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN13.5' Wと大きく西に振れる。柱穴の形状は略方形もしくは円形を呈し、径76~51cm、深さ67~44cmである。

**SB-16** (第28図) B区南端に位置し、桁行2間以上、梁行2間の東西棟の建物と思われる。桁行の柱間1.55m、梁行3.64m、柱間北より1.93~1.71mを測り、軸方位はN12' Wを示す。柱穴の形状は略円形を基本とし、径58~44cm、深さ48cm程度である。

**SB-17** (第29図) C区SB-13の南東7mに位置する3×2間の建物で、柱穴の一部をSD-07に破壊されている。桁行5.11m、柱間1.48m、梁行3.60m、柱間南側で西より1.68~1.92m、面積18.4m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN5' Eを指す。柱穴の形状は略方形が基本で径66cm、深さ42cm前後が標準であるが、南梁中柱だけは1.06mと飛び抜けて深い。

**SB-18** (第29図) SB-17の南4mに位置する4×2間、南梁3間の建物である。桁行6.71m、柱間1.68m、梁行4.56m、柱間北梁で2.28m、南梁で西から1.36~1.80~1.40m、面積30.6m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN2' Eを指す。柱穴の形状は方形もしくは(稍)円形を呈し、径65cm~46cm、深さ38~24cmであり、東側及び南西側に軸方位を同じくする柵列SA-03、04を伴う。

**SB-19** (第10図) C区南端に位置し、後述するSB-20に重複する3×2間の建物である。桁行8.14m、柱間2.62m、梁行4.37m、柱間2.19m、面積35.6m<sup>2</sup>を測り、軸方位はほぼ磁北を指す。柱穴の形状は略円形を呈し、径68cm、深さ42cm程度を標準とする。

**SB-20** (第10図) SB-19の東側に半分近くを重複して位置する同じく3×2間の建物であり、ともにプラン上で北梁中柱を共有するが前後関係は明らかでない。桁行7.59m、柱間2.53m、梁行4.50m、柱間2.25m、面積34.2m<sup>2</sup>とSB-19よりやや小さく、軸方位N3' Wを示す。柱穴の形状は略方形もしくは円形を呈し、径73~58cm、深さ42cm前後である。

**SB-21** (第28図) D区を北流するSD-07の西側に位置する3×2間の東西棟総柱の建物であり、東西に走る弱い鞍部上にある。桁行4.18m、柱間1.40m、梁行3.68m、柱間1.84m、面積15.4m<sup>2</sup>を測り、軸方位N6.7' Eを指す。柱穴の形状は円形を主体とし、径56cm、深さ37cmを標準とする。

**SB-22** (第11図) SB-21の南8mに位置し、重複するSI-22に後続する3×2間の建物である。桁行5.90m、柱間1.97m、梁行3.72m、柱間1.86m、面積21.9m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN3' Wを指す。柱穴の形状は方形を基本とし、径68cm、深さ58cm前後であり、前述のごとく竪穴住居からの建て替えを示す好例と思われる。

**SB-23** (第30図) SB-22の南東3mにある桁行4間、梁行北側で3間、南側で2間の建物である。桁行7.30m、柱間1.90m(東西桁とも北より4間目は1.23mとやや狭い)、梁行4.64m、柱間北側で

西より1.45-1.38-1.81m、南側で同じく2.64-2.00m、面積33.9m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN2° Eを示す。柱穴の形状は方形、円形が混在し径91~46cm、深さ45~24cmである。意匠の異なる南列は底状施設の可能性もあるが、第4列に東柱は見られない。

**SB-24** (第30図) D区北東隅に位置する2×2間の総柱建物であり、桁行3.87m、柱間1.94m、梁行3.66m、柱間1.83m、面積14.2m<sup>2</sup>を測る。柱穴の形状は方形もしくは略楕円形を呈し、径81~46cm、深さ53cm前後、軸方位はN2° Eを示す。

**SB-25** (第30図) SB-24の南7mに位置する3×2間の建物である。桁行4.68m、柱間1.56m、梁行4.04m、柱間2.02m、面積18.9m<sup>2</sup>を測り、軸方位N2° Wを指す。柱穴の形状は方形と偏平な楕円形が混在し、径96~52cm、深さ47~28cmである。規模に比較して四隅の柱穴が大きく桁行の柱間も狭いことから、総柱ではないものの倉庫である可能性も考えられる。

**SB-26** (第30図) SB-25の南西17mに位置する2×2間の総柱建物である。桁行3.56m、柱間1.78m、梁行3.40m、柱間1.70m、面積12.1m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN1° Eを示す。柱穴の形状は方形または円形で径74~40cm、深さ44~24cmである。

**SB-27** (第31図) SB-26の西に隣接する2×2間の総柱建物である。桁行4.10m、柱間2.05m、梁行3.18m、柱間1.59m、面積13.0m<sup>2</sup>を測り、軸方位N5.7° Eを指す。柱穴の形状は略方形を基本とし、径68cm、深さ29cm前後を標準とするが一部41cmと深いものも見られる。

**SB-28** (第31図) SB-26の南5mに位置する2×2間の総柱建物である。桁行3.55m、柱間1.78m、梁行3.31m、柱間1.66m、面積11.8m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN1° Wを示す。柱穴の形状は方形を基本とし、径65cm、深さ36cm前後を標準とする。

**SB-29** (第31図) SB-28の東に重複して存在する同じく2×2間の総柱建物であり、僅かに1箇所干渉する柱穴からSB-28に後続することがわかる。桁行3.81m、柱間1.91m、梁行3.80m、柱間1.90mとほぼ正方形プランを取り面積14.5m<sup>2</sup>を測る。柱穴の形状はやはり方形を基本とし径88~62cm、深さ56cm前後、軸方位はN1° Eを指す。

**SB-30** (第31図) SB-28、29の南4mに位置する3棟からなる群の北西側の総柱建物であり、平面プランは2×2間である。桁行3.78m、柱間1.90m、梁行3.35m、柱間1.68m、面積12.7m<sup>2</sup>を測り、軸方位N2° Eを指す。柱穴の形状は偏平な楕円形を呈し、径94~43cm、深さ33cm前後である。

**SB-31** (第31図) SB-30の東側に若干軸を違えて重複する3×2間の総柱建物である。桁行3.74m、柱間1.25m、梁行3.60m、柱間1.80m、面積13.5m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN4° Wを示す。柱穴の形状はやや小振りな方形を主体とし、径56cm、深さ34cm前後を標準とするが、一部51cmと深いものも見られる。

**SB-32** (第31図) SB-31の南に重複する3×2間の総柱建物である。桁行4.25m、柱間1.42m、梁行3.95m、柱間1.98mと一回り大きく、面積16.8m<sup>2</sup>を測る。柱穴の形状は方形と略楕円形が見られ、径92~46cm、深さ38cm前後、軸方位はほぼ磁北を指す。これら3棟について切り合いの激しさによる検出時の混乱から図上で妥当性を欠いており、先後関係は未検討である。

**SB-33** (第32図) SB-32の東3mに位置する5×2間の大型建物である。桁行10.8m、柱間2.16m、桁行4.26m、柱間2.13m、面積46.0m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN13° Wを示す。柱穴の形状はやや小振りな方形もしくは円形が主体をなし、径98~41cm、深さ38cm前後である。

**SB-34** (第12図) SB-33の東に軸を違えて重複する3×2間の建物であり、SI-24に後続する。桁行6.17m、柱間2.06m、梁行4.30m、柱間北側で西より1.82-2.48m、面積26.5m<sup>2</sup>を測り、軸方位

N2' Wを示す。柱穴の形状は略方形を呈し、径58cm、深さ52cm前後を標準とする。南側梁の中柱は確認されていない。

**SB-35** (第32図) SB-33の西5mに位置する $2 \times 2$ 間の建物である。桁行4.13m、柱間2.07m、梁行3.13m、柱間1.56m、面積12.9m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN1.5' Wである。柱穴の形状は略円形を基本とし、径82~54cm、深さ52~31cmである。

**SB-36** (第33図) SB-33の南に重複してある $3 \times 2$ 間の建物である。桁行7.50m、柱間2.48m、梁行5.07m、柱間2.54m、面積38.0m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN7' Eを指す。柱穴の形状は略方形もしくは円形を呈し、径106~66cm、深さ55~32cmである。

**SB-37** (第33図) SB-36の南に接するように重複してある $3 \times 2$ 間の建物である。桁行6.05m、柱間2.02m、梁行5.04m、柱間北梁で西より2.63~2.41m、面積推定で30.5m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN12' Wを示す。柱穴の形状は略方形を基本とし、径74cm、深さ37cm前後を標準とするが南北梁行の中柱のみは小さく浅い円形を呈する。南西側をSI-27と切り合っており明確な柱穴の検討はできなかったが、建物としての復元は妥当と考えている。

**SB-38** (第36図) SB-37の東3mに位置する $3 \times 2$ 間の建物であり、北面に庇を持つ。桁行は身舎で5.08m、庇まで含めると6.67m、柱間1.68m、梁行3.76m、柱間1.90m、面積は身舎で19.1m (25.1m<sup>2</sup>・含庇部) を測り、軸方位N2' Wを示す。柱穴の形状は略方形を呈し、径62cm、深さ33cm前後を標準とする。

**SB-39** (第34図) SB-37の南西5mに位置する $3 \times 2$ 間の建物である。桁行6.39m、柱間は変則的で東桁北より1.75~1.80~2.84m、梁行5.12m、柱間2.56m、面積32.7m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN10.5' Wを示す。柱穴の形状は略方形を基本とし、径76~51cm、深さ54cm前後である。西桁の南から2基目のピットは意匠が異なり、本建物とは無関係である。

**SB-40** (第34図) D区南半の西壁際に位置し、東桁3間のみ検出されている。桁行5.48m、軸方位N5.5' Eを測り、柱穴の形状は略方形を呈する。径74cm、深さ34cm前後を標準とする。

**SB-41** (第34図) D区とE区を区分し北流する旧河道の南端西側に位置し、桁行3間、北梁行2間、南梁行3間の建物である。桁行5.19m、柱間1.74m、梁行4.45m、柱間北側で西より2.44~2.01m、南側で同じく1.75~1.12~1.58m、面積23.1m<sup>2</sup>を測り、軸方位N10' Eを示す。柱穴はやや小振りな円形を基本とし、径50cm、深さ47cm前後を標準とする。

**SB-42** (第35図) D区南端にある $5 \times 2$ 間の大型建物である。桁行10.86m、柱間2.20m前後、梁行6.82m、柱間北側で西より3.15~3.67m、面積74.1m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN6' Eである。柱穴の形状は略方形と偏平な梢円形が混在し、径76~57cm、深さ50cm前後である。東側に雨落溝かと思われる溝を伴う。

**SB-43** (第17図) E区北側でSI-33、34に重複する $3 \times 2$ 間の建物であり、SI-34に先行する。桁行6.53m、柱間2.18m、梁行4.54m、柱間2.27m、面積29.6m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN2' Wを指す。柱穴の形状は略円形を主体とし、径70cm、深さ65cm程度を標準とする。

**SB-44** (第18図) SB-43の東7mに位置する建物で、南西角の柱穴2基のみの検出である。柱穴は端正な方形を呈し、径62cm、深さ33cm、柱間2.33mを測り軸方位N1' Eを指す。建物の規模自体は不明。

**SB-45** (第18図) SB-44の南に軸を進めて重複する $4 \times 2$ 間の建物である。桁行7.22m、柱間1.80m、梁行4.90m、柱間2.45m、面積推定で35.4m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN6' Wを指す。柱穴の形状は

略円形であり径48cm、深さ38cm前後を標準とする。

**SB-46** (第18図) SB-45の西南に重複する $2 \times 2$ 間の東西棟の建物である。桁行3.98m、柱間は南桁で西より1.74-2.24m、梁行3.78m、柱間西側で北より1.76-2.02m、面積15.0m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN4.5' Eを示す。柱穴の形状は略円形を主体とし、径70~40cm、深さ44cm前後である。

**SB-47** (第20図) SB-46の南3mに位置する $4 \times 2$ 間の建物である。桁行8.30m、柱間2.08m、梁行4.95m、柱間2.48m、面積41.1m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN3.2' Eを示す。柱穴の形状は偏平な円形を主体とし、径86~51cm、深さ58cm前後である。

**SB-48** (第20図) SB-47の西南に隣接する $3 \times 2$ 間の建物である。桁行7.24m、柱間2.41m、梁行5.17m、柱間2.56m、面積37.4m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN3' Eを示す。柱穴の形状は偏長方形を呈し、径76cm、深さ45cm前後を標準とする。

**SB-48'** (第20図) SB-48の内側に東桁の柱穴を共有して建つ一回り小さい建物であり、プランは同じく $3 \times 2$ 間である。桁行6.69m、柱間2.23m、梁行4.30m、柱間2.15m、面積28.8m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN2' Eを示す。柱穴の形状は西桁を見る限り小振りの略方形を主体とし、径54cm、深さ42cm前後である。

**SB-49** (第21図) SB-48の西4mにある $8 \times 3$ (2)間の大型の建物であり、桁行14.66m、梁行6.90m、面積101.2m<sup>2</sup>を測る。柱間は桁筋で北より第7柱穴以降変化し、北側で1.60m前後、南側で2.75m前後である。西桁第8柱穴は東桁では見られないものであり、本建物に伴うものかどうかは不明。また、梁行は北側で3間となるが中央にさらに1基柱穴状のピットを持ち、柱間は西より2.55-(1.30)-(0.98)-2.58mとなる。入口施設に伴うものであろうか。軸方位N1' Wを指し、両桁筋の柱穴には柱の抜き取り痕が顕著に見られる。柱穴の形状は略方形を基本とし、径78cm、深さ43cm前後を標準とする。

**SB-50** (第21図) SB-49の内側に収まるようにして存在する $3 \times 1$ 間の建物であり、桁行10.82m、柱間3.61m、梁行3.20m、面積34.6m<sup>2</sup>、軸方位N1' Eを測る。柱穴の形状は方形もしくは偏平な梢円形が混在し、径88~58cm、深さ50cm前後である。便宜上前述のSB-49と区別しているが、軸方位のいずれは柱筋の線の引き方の誤差程度であり、その在り方から両者は同時に存在した可能性が高く、二重構造の同一建物と考えられる。詳細は今後類例の増加を待って更に検討する必要があるが、卓越した規模と造りは先行するSI-43とともに特別なクラスの人物の居住を想定させ、同一場所で建物の構造こそ違え機能(目的)の継承が行われたものと考えられる。

**SB-51** (第37図) SB-49の西に隣接する $2 \times 2$ 間の小型の建物である。桁行3.49m、柱間1.75m、梁行2.82m、柱間1.40m、面積9.8m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN3' Wを示す。柱穴の形状は略円形を呈し、径80~53cm、深さ42cm前後である。

**SB-52** (第36図) SB-48の南5mに位置する $3 \times 2$ 間の建物である。桁行6.78m、柱間2.25m、梁行4.18m、柱間2.10m、面積28.3m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN5' Wを指す。柱穴の形状は略方形を主体とし、径72cm、深さ47cm前後を標準とする。

**SB-53** (第37図) SB-52の西2mに位置する $4 \times 2$ 間の建物である。桁行8.48m、柱間2.16m、梁行5.60m、柱間2.80m、面積32.7m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN1' Wを示す。柱穴の形状は略方形もしくは円形を呈し、径58cm、深さ40cm前後を標準とする。

**SB-54** (第37図) SB-53の西に東桁を重複して存在する $3 \times 2$ 間の建物と思われるが西桁行を旧河道に破壊されており、全容は明らかでない。柱間が狭く同規格であるSB-53よりもかなり小さく、桁

行5.76m、柱間1.46m、梁行推定で3.13m、柱間1.56m、面積同じく推定で18.0m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN4.5°Wを示す。柱穴の形状は確実な部分ではほぼ方形を呈し、径63cm、深さ34cm前後を標準とする。SB-53との先後関係は溝や土坑などが多数切り合っており、確認することはできなかった。

**SB-55** (第38図) SB-53を覆うようにして存在する7×2間の大型建物であり、南北に庇状の施設を有する。桁行は身舎で14.55m、全体で20.65m、柱間1.92m、梁行6.56m、柱間3.30m、面積身舎で95.4m<sup>2</sup>、全体で135.5m<sup>2</sup>を測り、軸方位はN6.7°Eを指す。柱穴の形状は偏平な楕円形を主体とし、径140~70cm、深さ55cm前後である。建物の周囲の一部に雨落溝と思われる細い溝が巡る。柱穴から出土した土器の様相から、この建物はSB-49に後続するものと見られ、前述のごとくSI-43→SB-49、さらにSB-55へと建物機能(目的)の継承、発展が行われたものと考えられる。

### 3. その他の遺構

**SK-10** (第39図) SB-22の東1mに位置する土坑群の内の1つである。長径1.96m、短径1.53m、深さ62cmを測る円筒形を呈する。土層の観察では隣接するSK-11に後続するものと考えられる。遺物は7点図化されており(第63図)、515は内面底部に渦巻き状の暗文を施す赤彩の楕である。甕はすべて非輪轆甕で占められる。

**SK-14** (第39図) SK-10と同じ1群の最も南に位置する。長軸3.86m、短軸2.69m、深さ32cmを測る偏平な略長方形を呈し、南側中央に小さな焼土痕が見られる。

**SD-01** B・C区の境を北流する自然河道である。最も残りの良い所で幅2.25m、深さ45cm前後を測り、河床は自然礫が多数表出している。遺物はある程度まとまって出土しているが、土師器については摩耗の激しいものもしくは細片が多く図化に耐えるものはほとんど見られない。V<sub>1</sub>~V<sub>2</sub>期頃が下限であろう。

**SD-07** 遺跡西側からカギ状に屈曲して北流する溝であり、本集落を区画するために掘られたものと思われる。検出された長さは西側南北流路で約28m、屈曲する東西流路で約59m、流路軸N88°E、さらに北へほぼ直角に屈曲する遺跡中央の南北流路で約82m、流路軸ほぼ磁北と総延長で170m近くに及ぶ。D区中程の西から北へ屈曲するあたりが最も当時の意匠をよく示しており、断面形状状台形、幅2~1.85m、深さ1~0.80m前後を測る。これより北に下るにしたがい地山の低下とともに細く、浅くなっている、北端で幅40cm、深さ15cmに満たない。西側も同様に細く、浅くなっているが北側流路ほどではない。西側南北流路については前述のSD-01に規制され、避けるように平行するものと思われる。土層図については残しておいたセクションベルトが冠水のため崩落し記録に残すことはできなかった。遺物は68点が図化されている(第71~73図)。稜楕(735)、円面硯(736)はともに本遺跡の性格を強く物語るものであり、前者は土坑群(SK-10~14)の東溝底から、後者はさらに北へ10m程下った中層より出土している。

**SA-05** C区南半、SI-19に南接する東西筋の構列であり、総延長は35m以上と思われる。現状で柱間23間を数え、柱間距離平均で1.72m、径、深さとも30cm前後の円形柱穴からなる。軸は磁北より85.5°ほど西に振れ、軸方位N3~4°E程度の建物に対応するものと思われる。遺物は確認されていない。

### 第3節 遺物について

### 1. 穴住居出土遺物（第40～60図）

当遺跡から検出された竪穴住居跡（竪穴状遺構含む）は48棟におよび、この内SI-08・18・22・30・31・36・44を除く41棟に量の多少はあれ図化可能な遺物が認められた。ここでは紙数の都合上それらに細かく解説を加えることは避け、遺構として編年的位置付けを行うことを主目的とする。想定される時期幅はII<sub>3</sub>～V<sub>1</sub>期を大きく外れるものではないと思われ、確実に掘立柱建物に付随するものが存在する。なお、図化することの適わなかった上記7棟についても細片の様相から奈良・平安時代に属することは間違いないく、この期を大きく逸脱するものは認められないが細分を行うまでは至らなかつた。下表はそれぞれの竪穴住居についてカマドに付くものもしくは床面近くより出土したものを第一義とし、少々強引ではあるが時期区分をおこなつたものである。

これによると、竪穴住居が主体的な時期は8世紀の後半前後までであり、それ以降9世紀にかけて急速に数を減していくことがわかる。一部SI-48のように長期間にわたる遺物が見られるものや、SI-46・47のように10世紀にまで降る可能性のあるものも存在するが、この3棟については周辺一帯が厚い包含層に覆われ、遺構検出面自体が緩く疊んだような状況を呈していたものであり、後世にかけて

一種の捨て場的な場所であったのかもしれない。

## 2. 捜立柱建物柱穴出土遺物 (第60・61図)

掘立柱建物については遺跡推定地の北半を中心<sup>55</sup>に55(54)棟が確認されているが、建物を構成する柱穴から出土した遺物が少なく、その様相をもって全体の時期的流れを窺い知ることは不可能である。以下、ある程度の遺物を図化し得た建物を中心に、ポイントとなる大型建物についても補足的な解説を加える。

**SB-07 (423~437)** 建物を構成する柱穴すべてから出土している。抜き取り痕等の痕跡は確認されおらず、ほぼ上限を示すものと考えて良い。Ⅲ期に位置付けておきたい。

**SB-50 (454~457)** 二重構造と思われる大型建物の内側柱穴から出土している。前節2で述べたごとく、SB-49とは同一の建物として扱って良いと考えている。僅か4点のみの図化であり時期の決定には慎重を要するが、重複するSI-43との時期差は非常に短いものと思われる。このことは豎穴住居のカマド付近もしくは床面より出土する遺物が多くの場合その住居の下限を示すのに対して、抜き取り痕等に付随しない柱穴の遺物は建物の上限を示すものである可能性が高いことから、プラン上で確認された前後関係に矛盾を生じるものではないと考えている。SI-43直後のⅢ期あたりに位置付けておきたい。

**SB-55 (458~468)** いずれも小片であり、径の測定もままならないものが多いが、蓋459の端部形態や調整痕を残さない輪轤小窓467、瓶468の形態よりⅣ<sub>1</sub>~Ⅳ<sub>2</sub>(古)前後に位置付けておきたい。SB-49の桁行に顯著に見られる抜き取り痕から、建物機能(目的)の継承とともに建築部材もこの建物に受け継がれた可能性が高い。

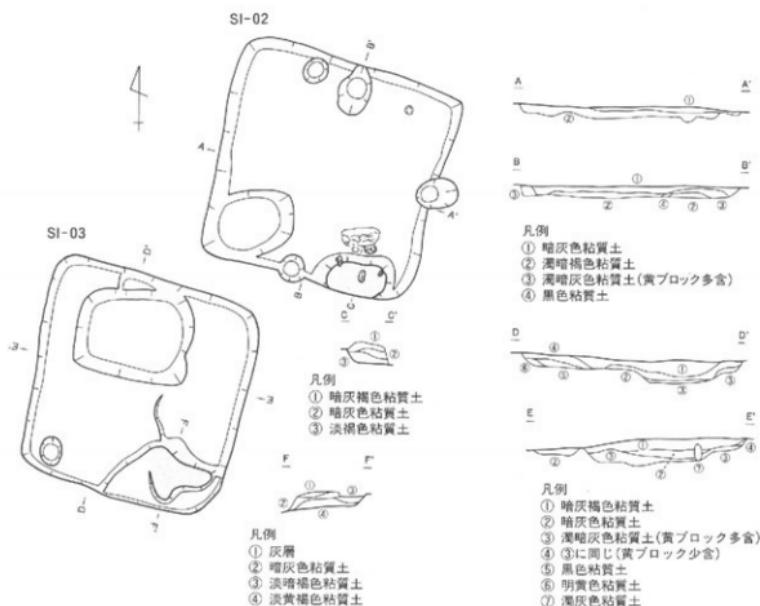
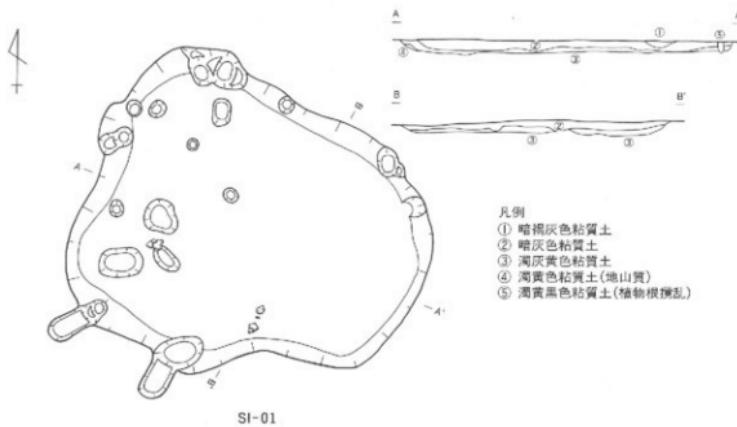
## 3. その他の遺構出土遺物 (第62~84図)

当遺跡からは住居、建物遺構以外にも多くの土坑や溝等が確認されており、それぞれからある程度まとまった量の遺物が出土している。この内土坑については予想される集落の存続期間とほぼ等しいⅡ<sub>3</sub>~Ⅴ<sub>2</sub>期の範疇におさまるものと考えられるが、唯一SK-33については上層(上面)より出土した602~610に一部10世紀にまで降る可能性のあるものも含む(605・607など)。周辺はSI-46~48と同様遺構上面に黒色土が厚く堆積していた地点であり、帰属に対する確証は未だ得られていない。

**SD-07 (684~751)** 大半がD区SB-28の西隣以南からの出土である。この内稜楕735は溝底面についた状態で検出されており、本溝の上限を定める基準資料として扱っても良いと考えている。非常に精緻な作りであり、稜下外面に「L」状の小さなヘラ記号のようなものが刻まれている。Ⅳ<sub>1</sub>~Ⅳ<sub>2</sub>(古)期の所産と思われ、707と共に当時この地に少なからず仏教の影響が及んでいたことを物語るものである。溝底よりやや浮いた状態で出土した円面硯736は時期的には稜楕よりやや遅るもの(Ⅲ期)、他に4点出土している転用硯(320・845・870・892)とともに識字層が存在していたことの証しであり、遺跡の性格の一端を示すものであるが、残念ながら墨書き器等の文字資料は確認されていない。その他、下限を示すものとして徳利形小瓶690や楕691(いずれも10世紀中葉)などが見られる。覆土の観察から2次的に別の遺構が掘り込まれた形跡は認められないと、溝そのものの機能は別にして少なくともこの時期までは半ば庭地として開口していたものと考えられる。SI-46~48の周辺同様、SI-43~SB-55という大型建物の推移を核とした集落機能が失われた後も、細々と人間の往来があったことを示すものであろう。

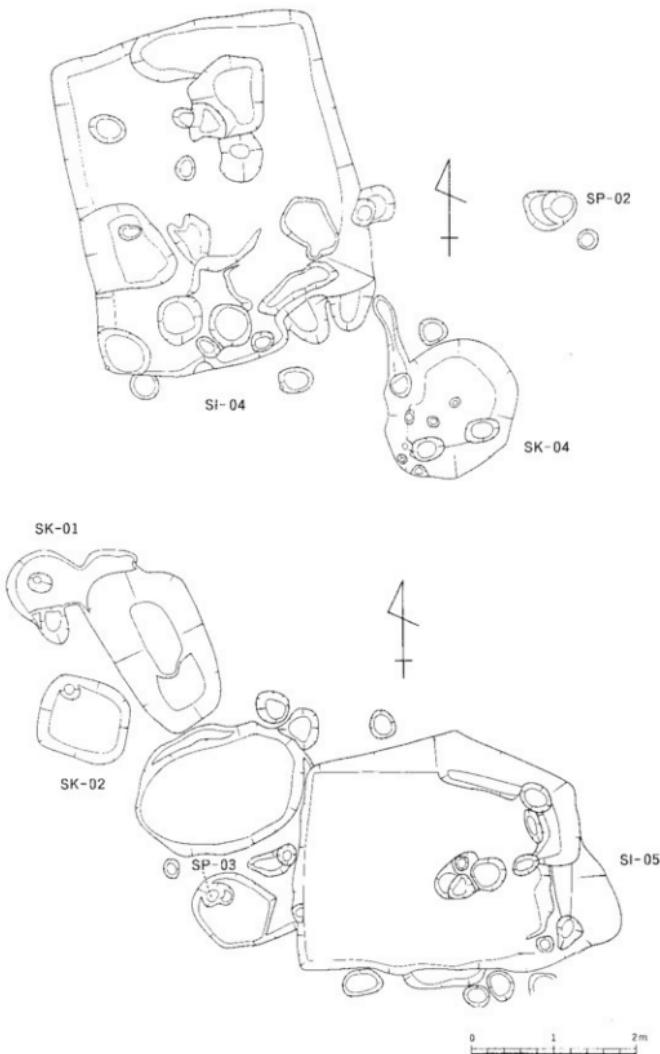
**南端土器羣まり** (984～990) C区南端に位置する70×50cm程度の不定形な浅い窪地より出土した一括土器群であり、遺構という意匠が非常に薄いと判断したためSK・SXに含めなかった。989・990は図上復元していないものの同一個体と思われる大甕である。肩部に径10.9cm程度の坏を伏せて焼成したと思われる重焼痕が最低4箇所見られる。窪地の中央に意図的に割られたと思われる状態で据えられ、周りに他の土器が散乱する状況で出土しており、破片の最も高い部分は遺構検出面のレベルを越えていた。

その他、旧河道については大正初期の耕地整理以前までは開口していたものであり、様々なものが混入している。

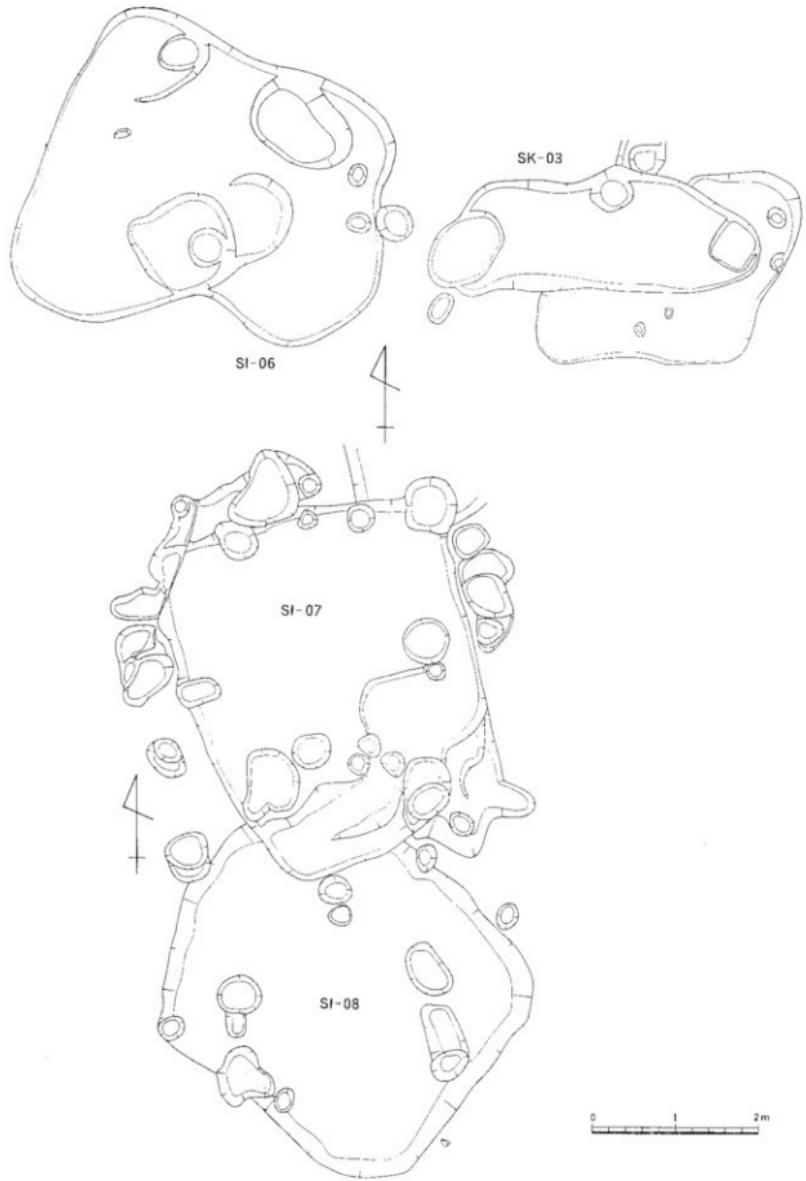


0 1 2m

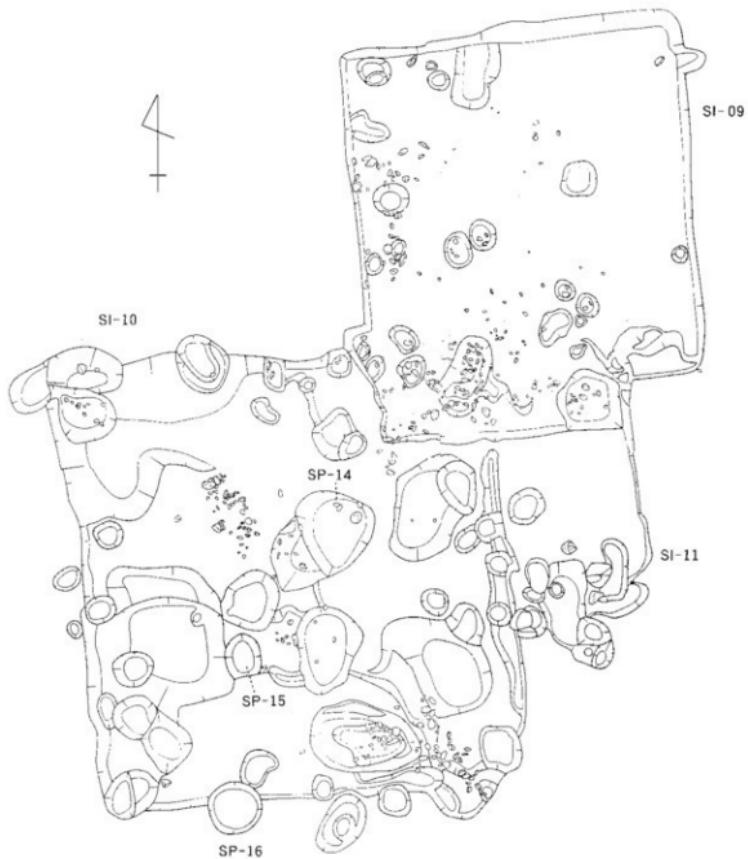
第3図 SI-01・02・03 (S=1/50)



第4図 SI-04・05 (S=1/60)

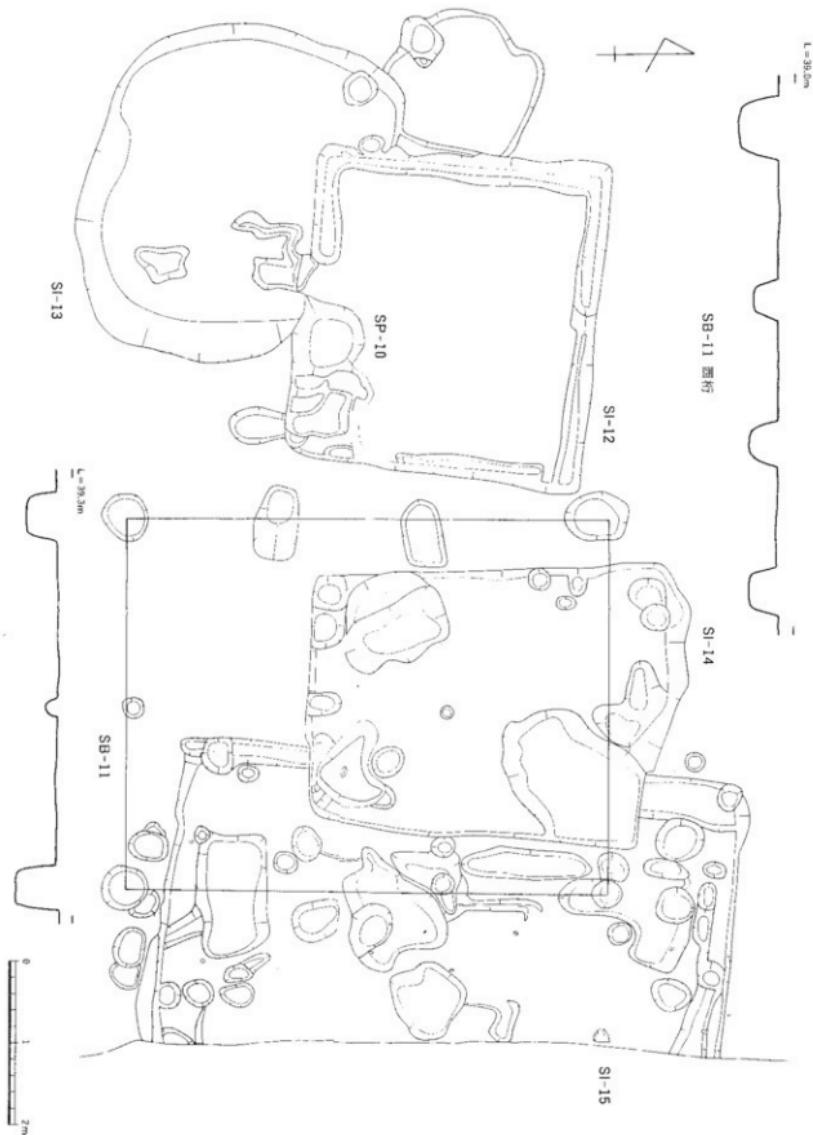


第5図 SI-06・07・08 ( $S=1/60$ )

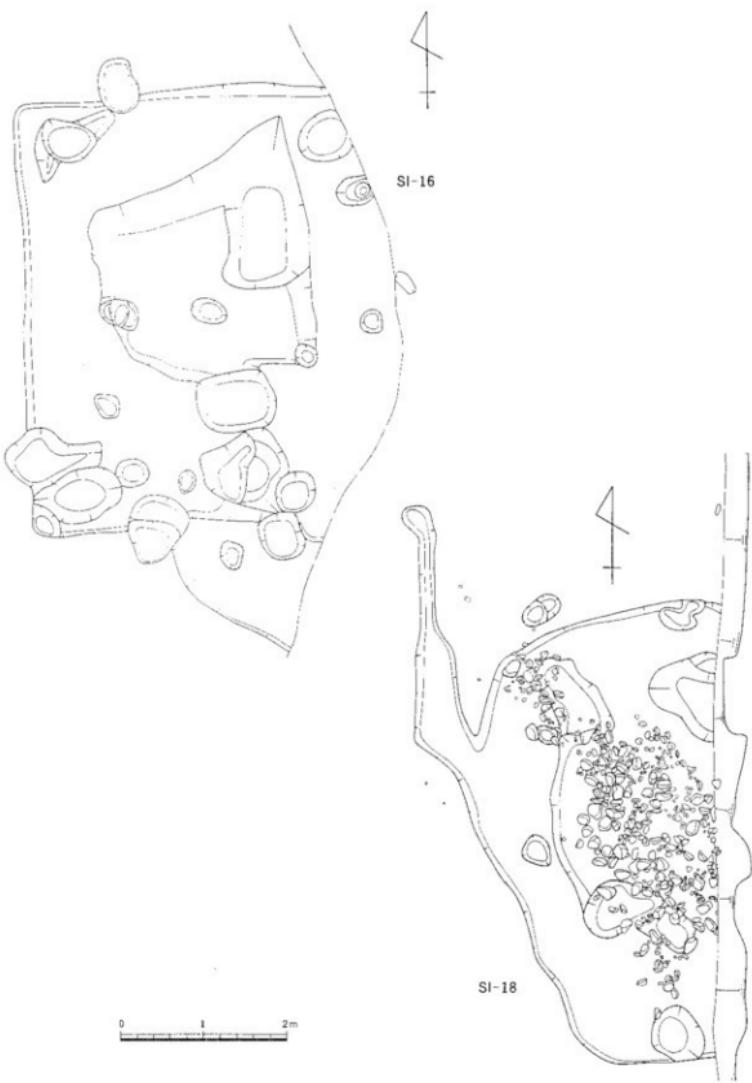


0 1 2m

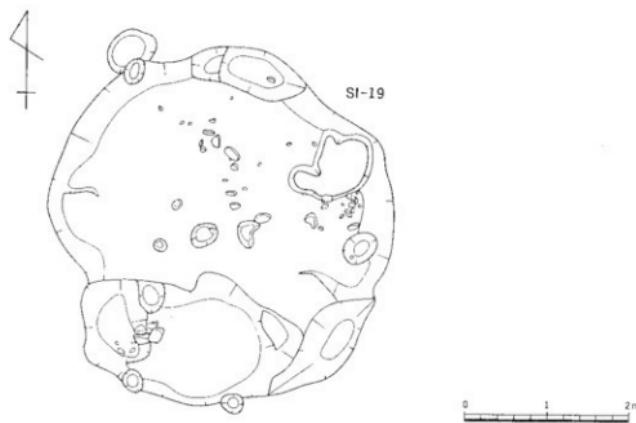
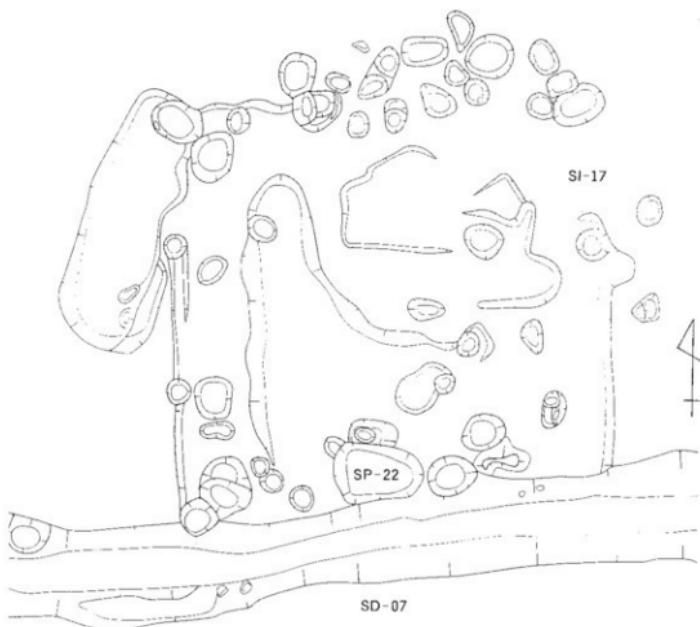
第6図 SI-09・10・11 ( $S=1/50$ )



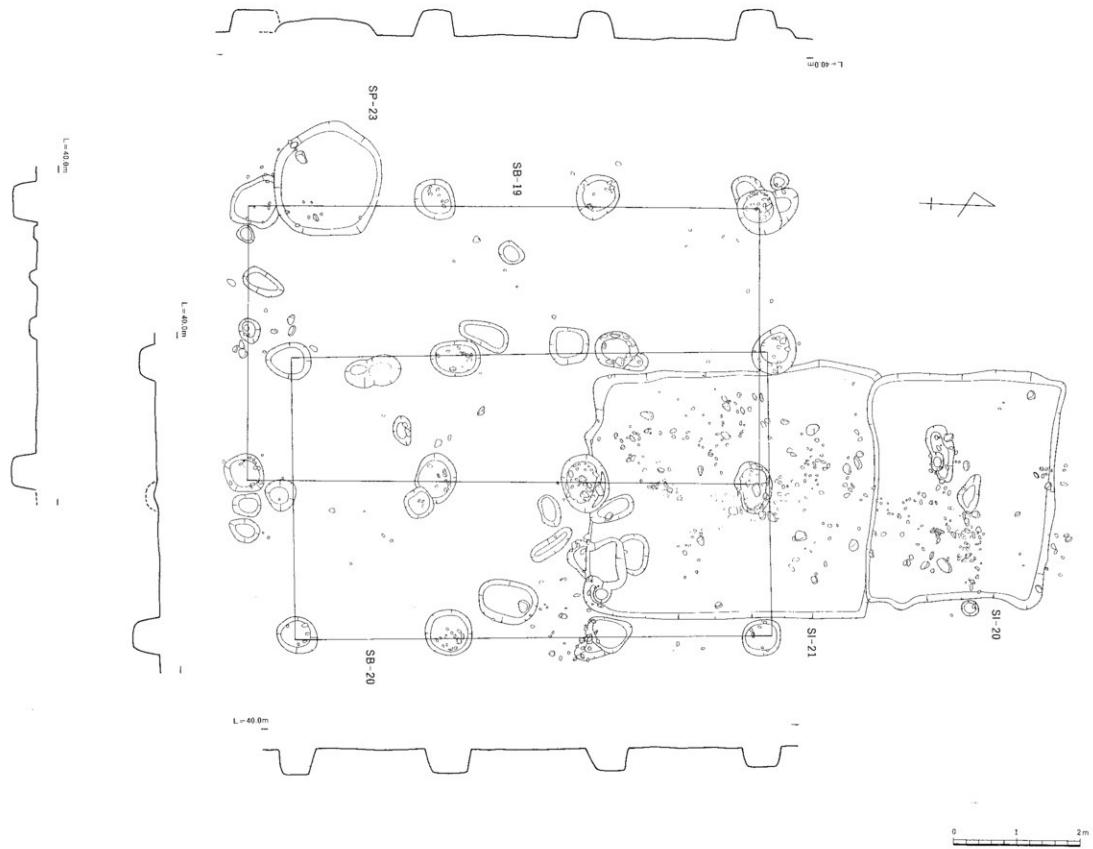
第7図 SI-12・13・14・15, SB-11 ( $S=1/60$ )



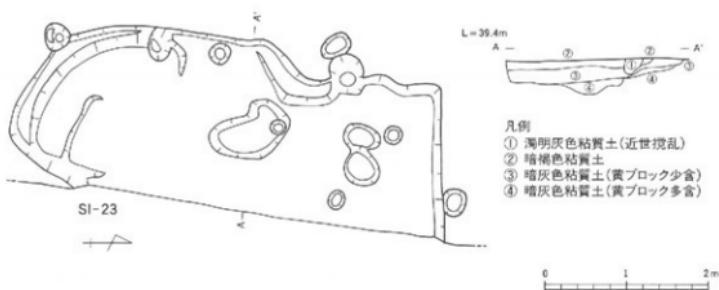
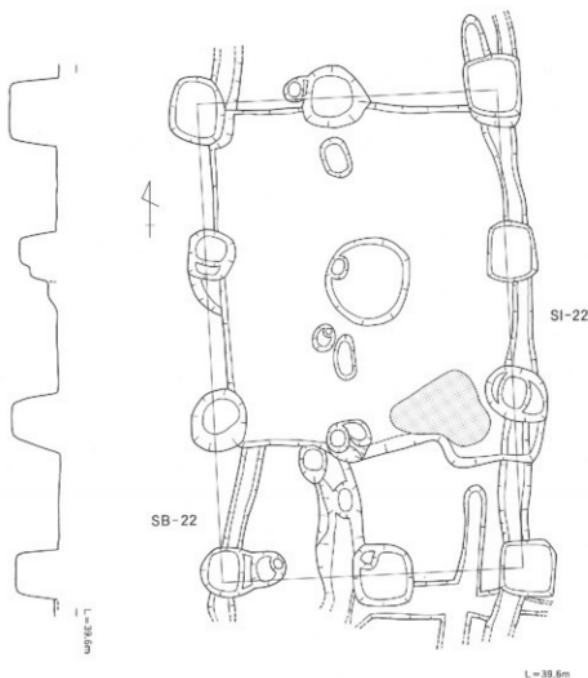
第8図 SI-16・18 ( $S=1/60$ )



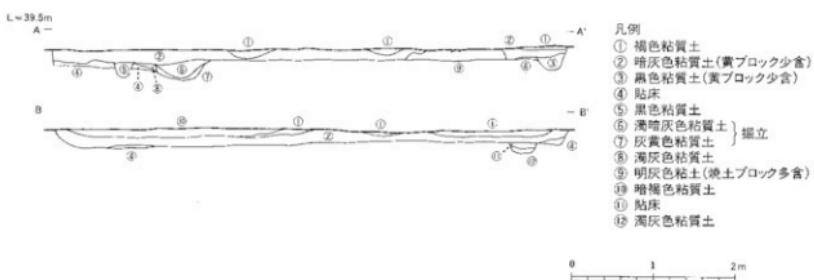
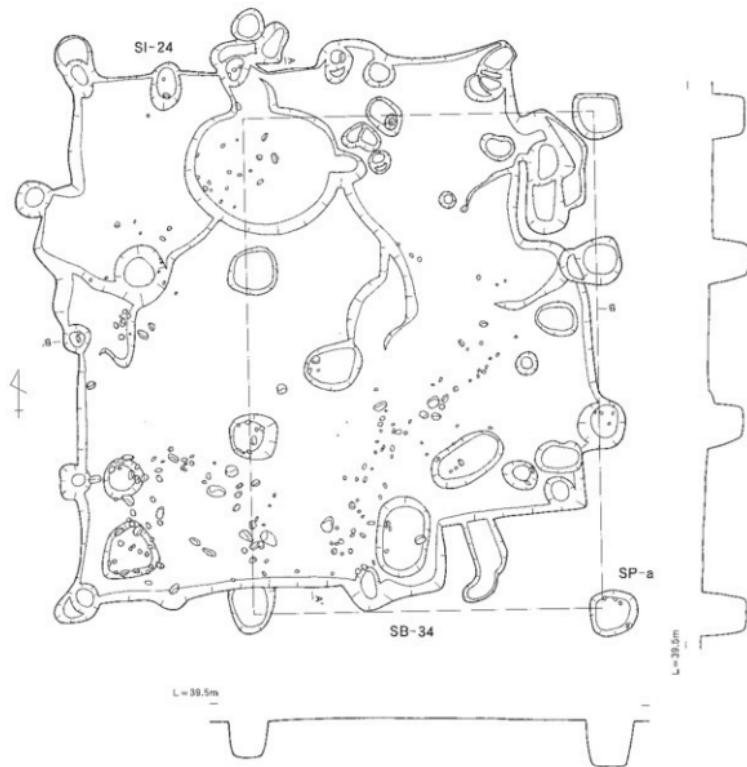
第9図 SI-17・19 (S=1/60)



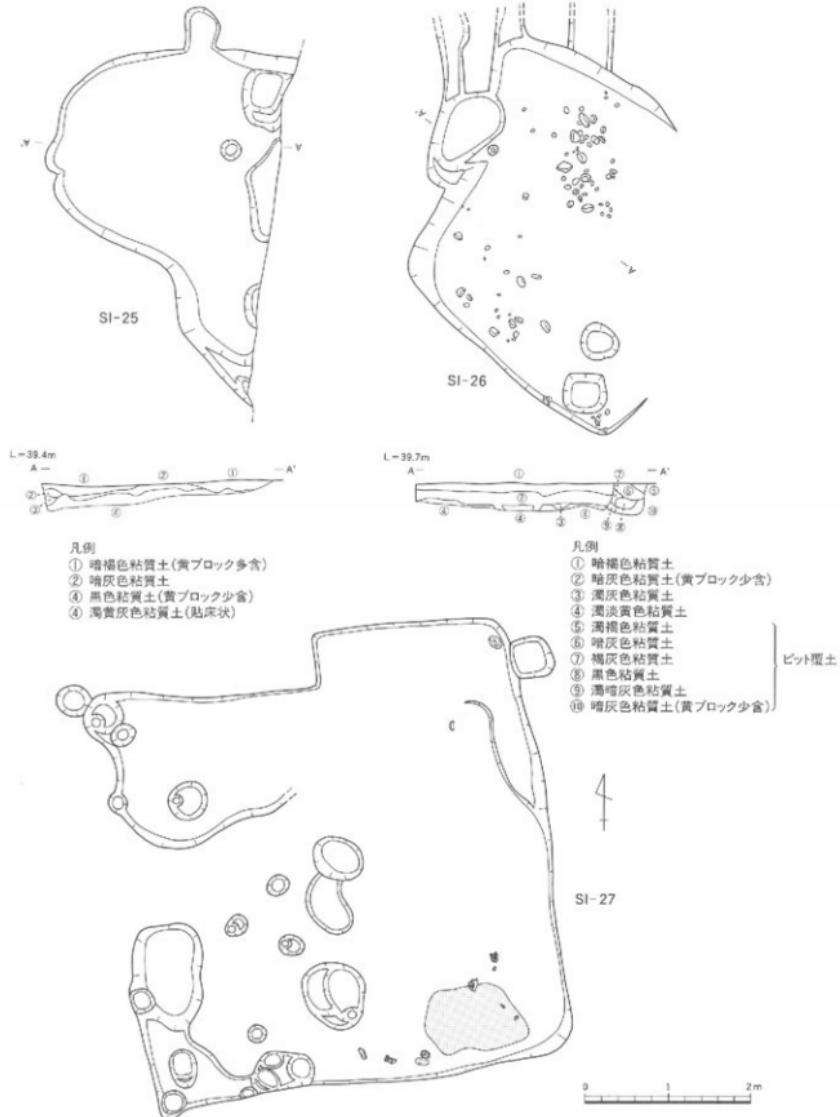
第10図 SI-20・21, SB-19・20 (S=1/60)



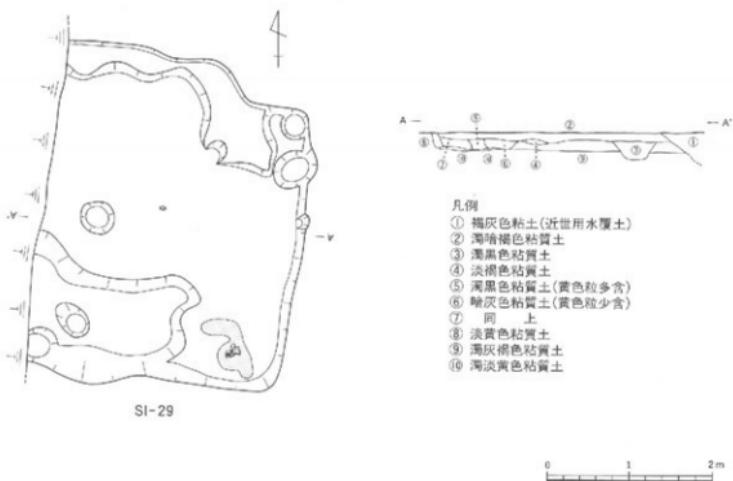
第11図 SI-22・23, SB-22 (S=1/60)



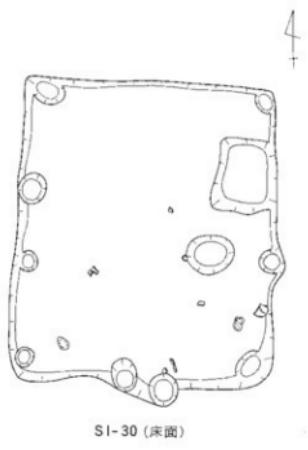
第12図 SI-24, SB-34 ( $S=1/60$ )



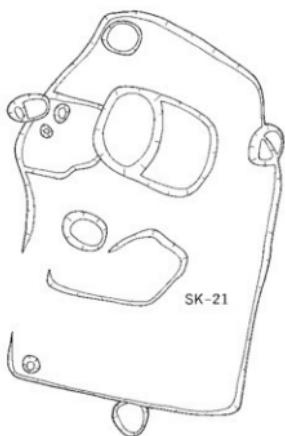
第13図 SI-25・26・27 (S=1/50)



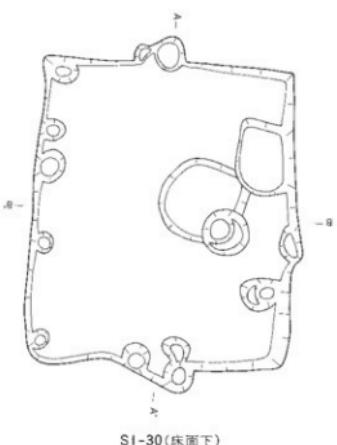
第14図 SI-28・29 (S=1/60)



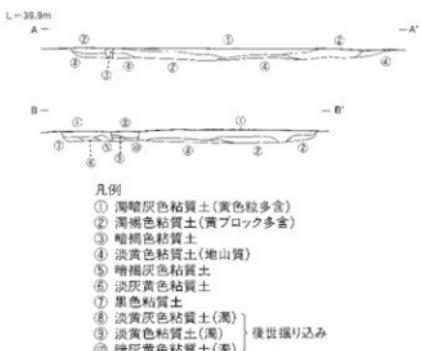
SI-30 (床面)



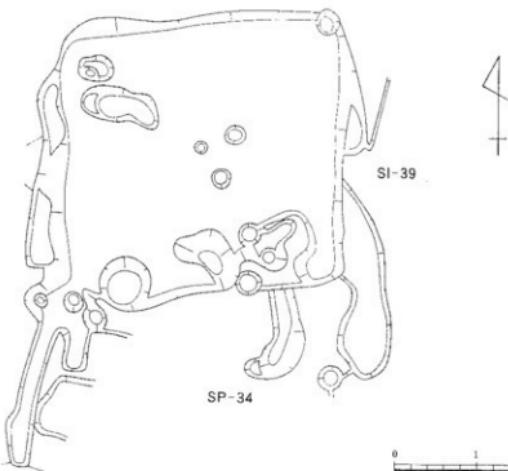
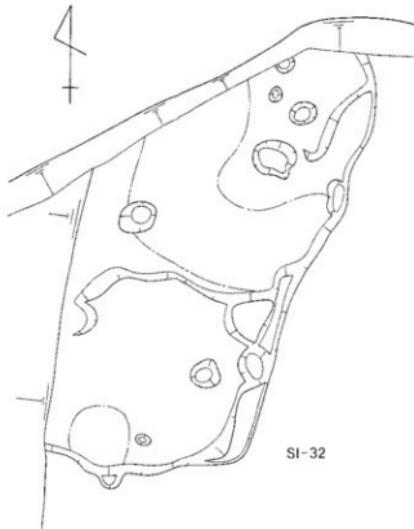
SI-31



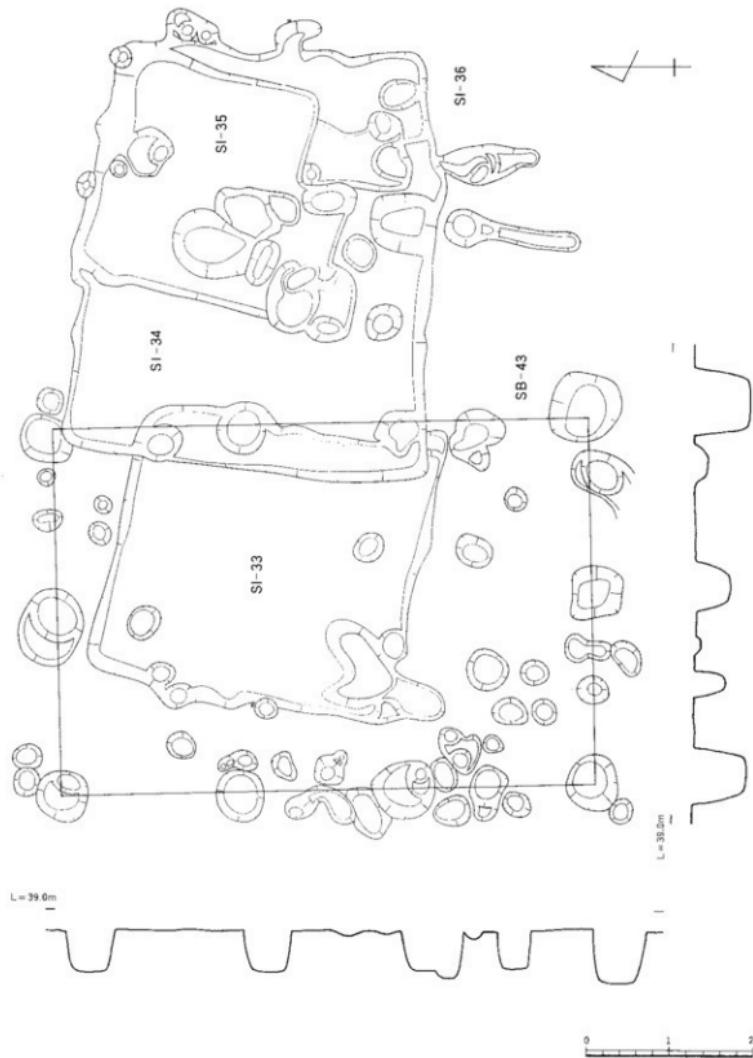
SI-30(床面下)



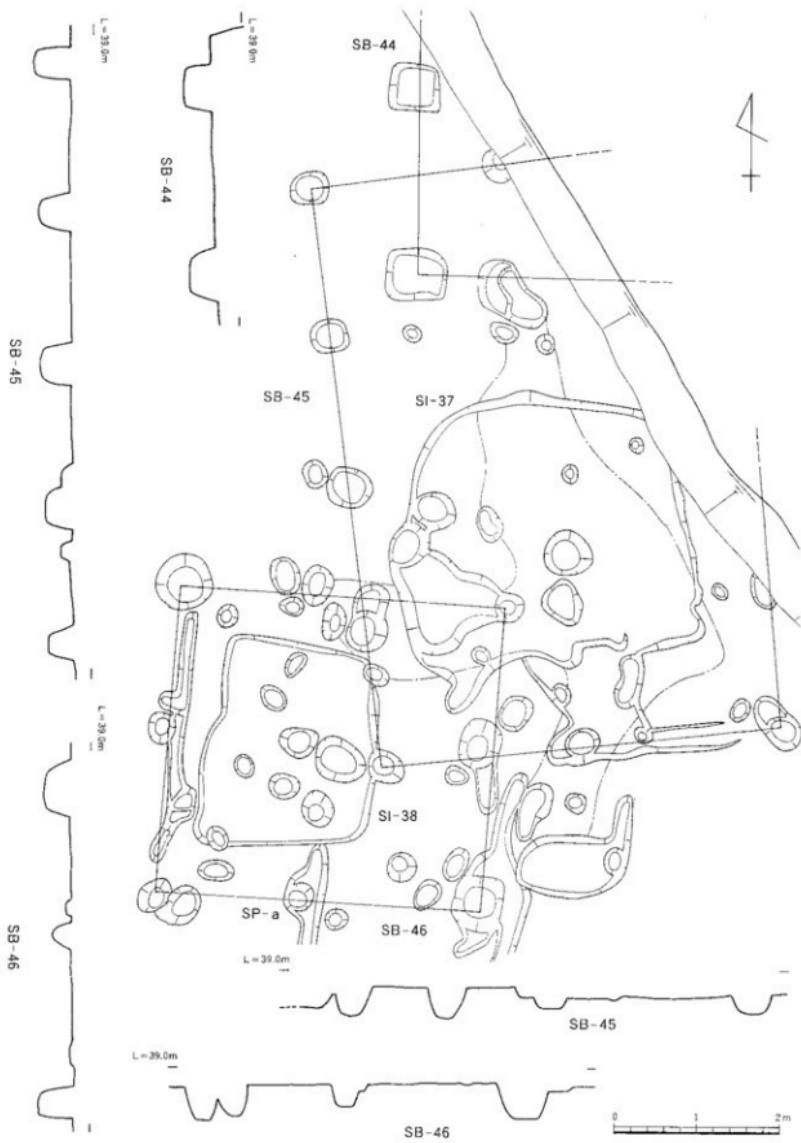
第15図 SI-30・31 (S=1/60)



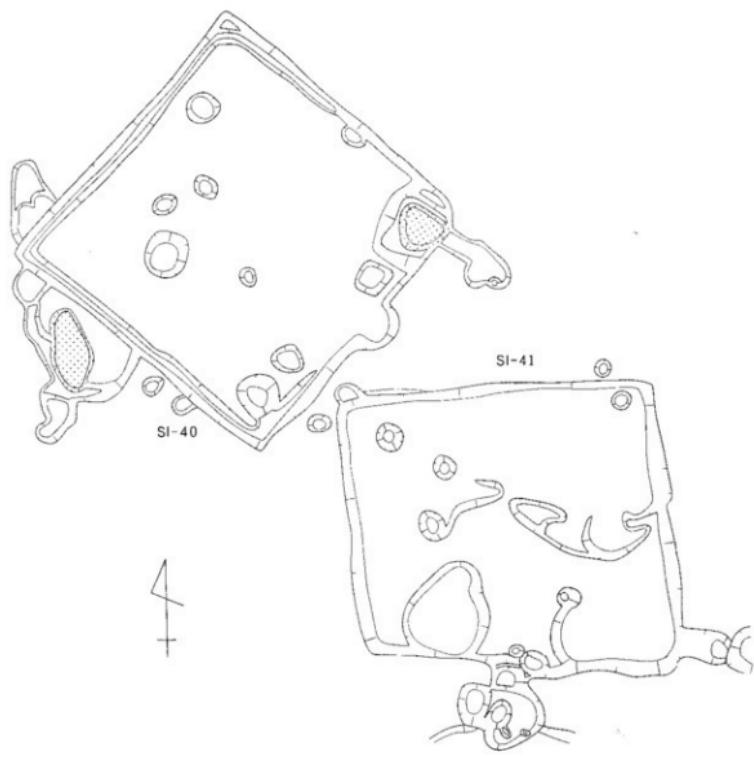
第16図 SI-32・39 (S=1/60)



第17図 SI-33・34・35・36, SB-43 (S=1/60)



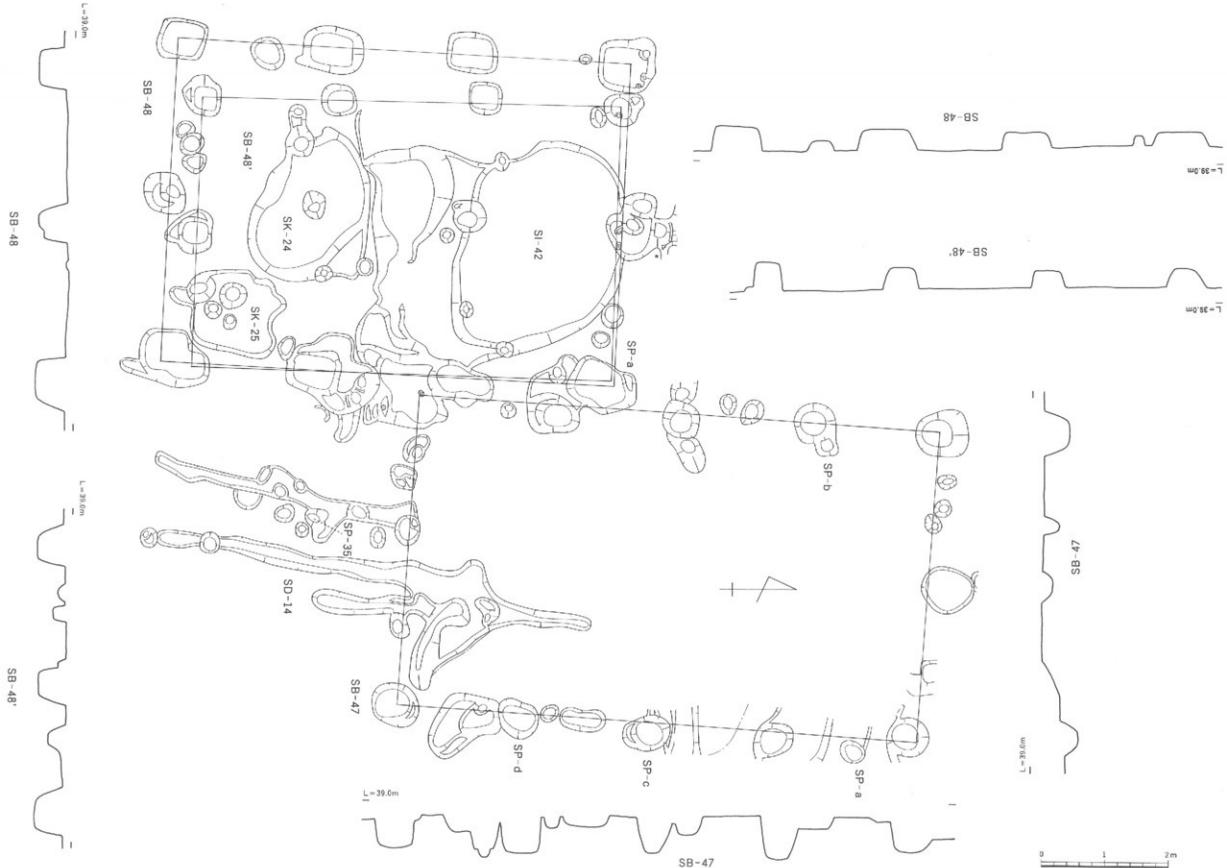
第18図 SI-37・38, SB-44・45・46 (S=1/60)



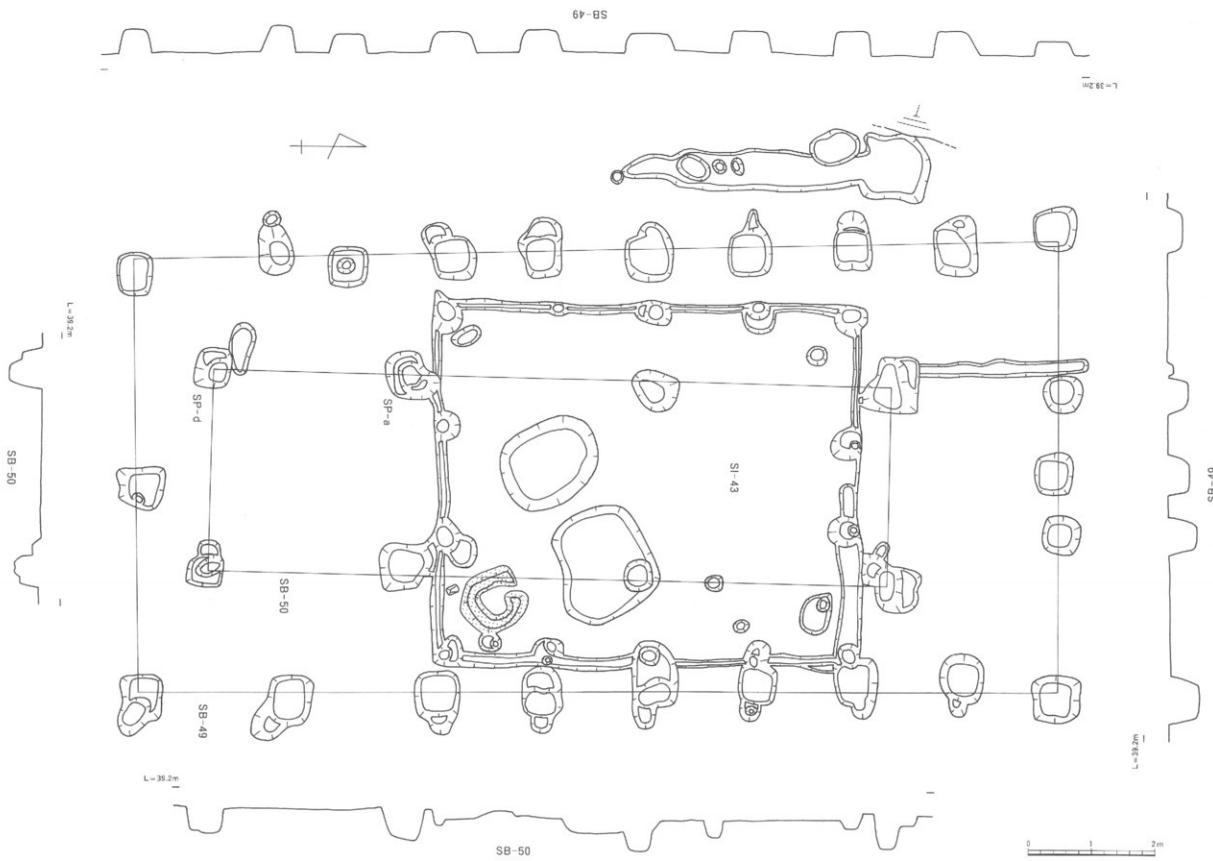
0 1 2m

第19図 SI-40・41 ( $S=1/50$ )

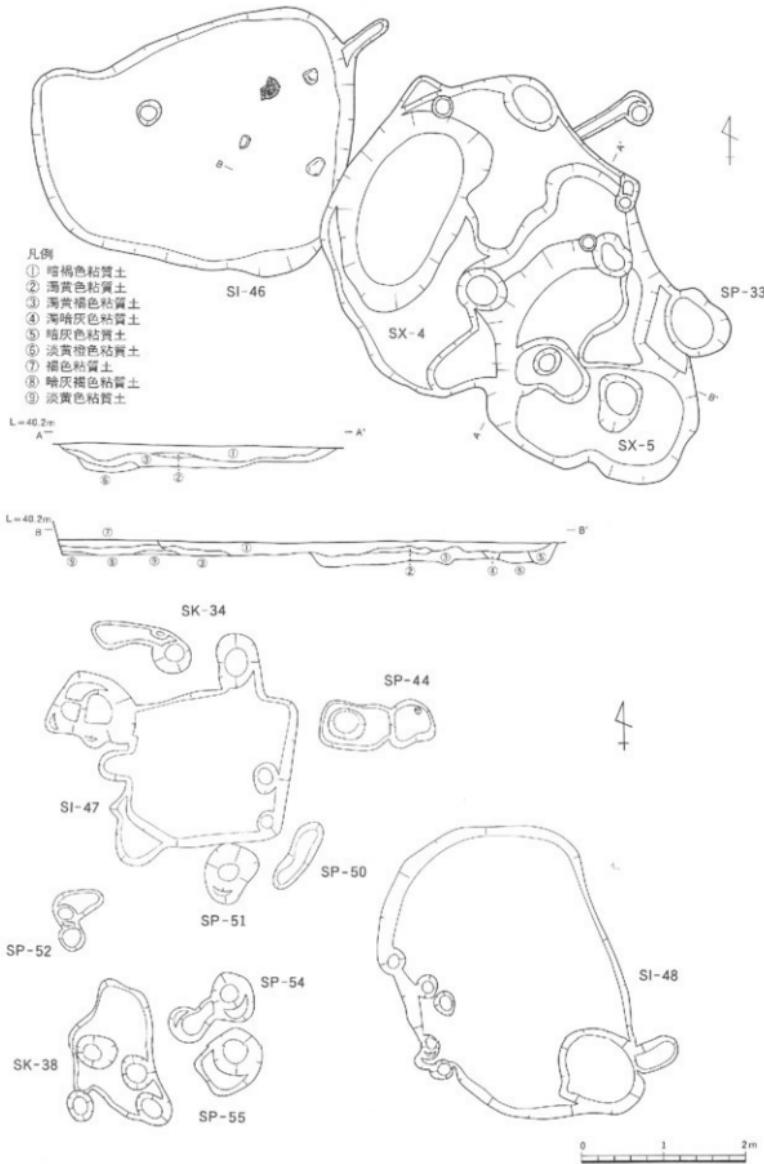




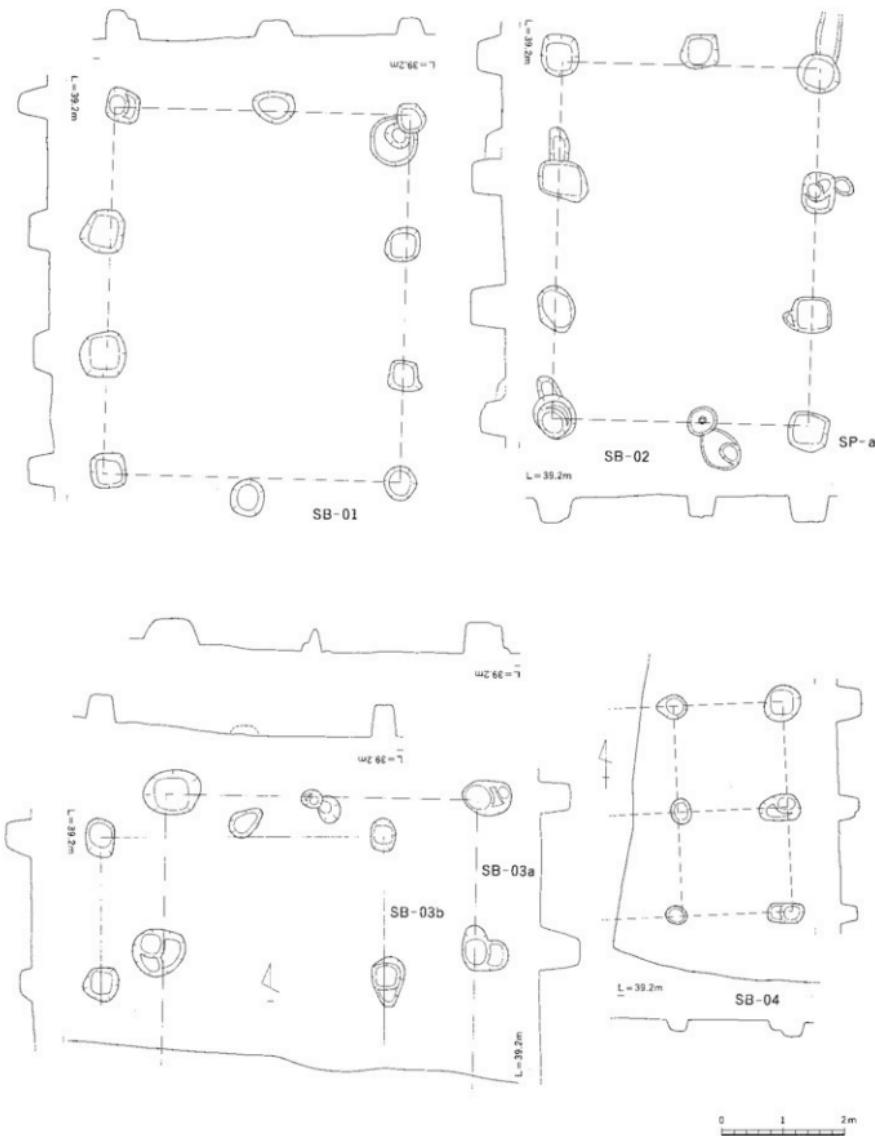
第20図 SI-42, SB-47・48・48' (S=1/60)



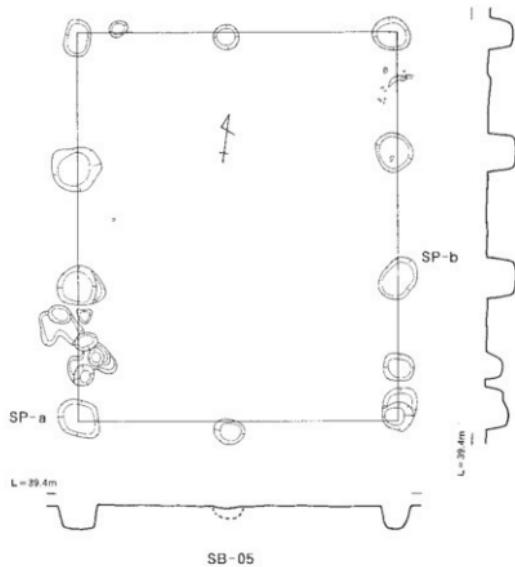
第21図 SI-43, SB-49・50 (S=1/60)



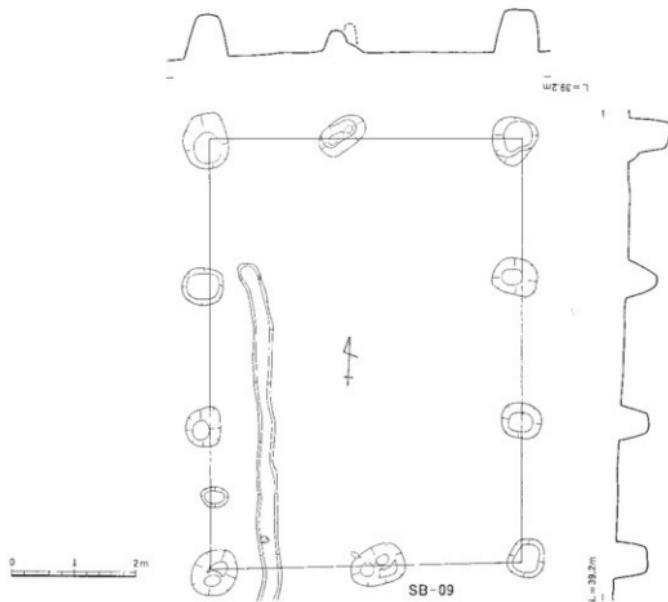
第22図 SI-46・47・48 (S=1/60)



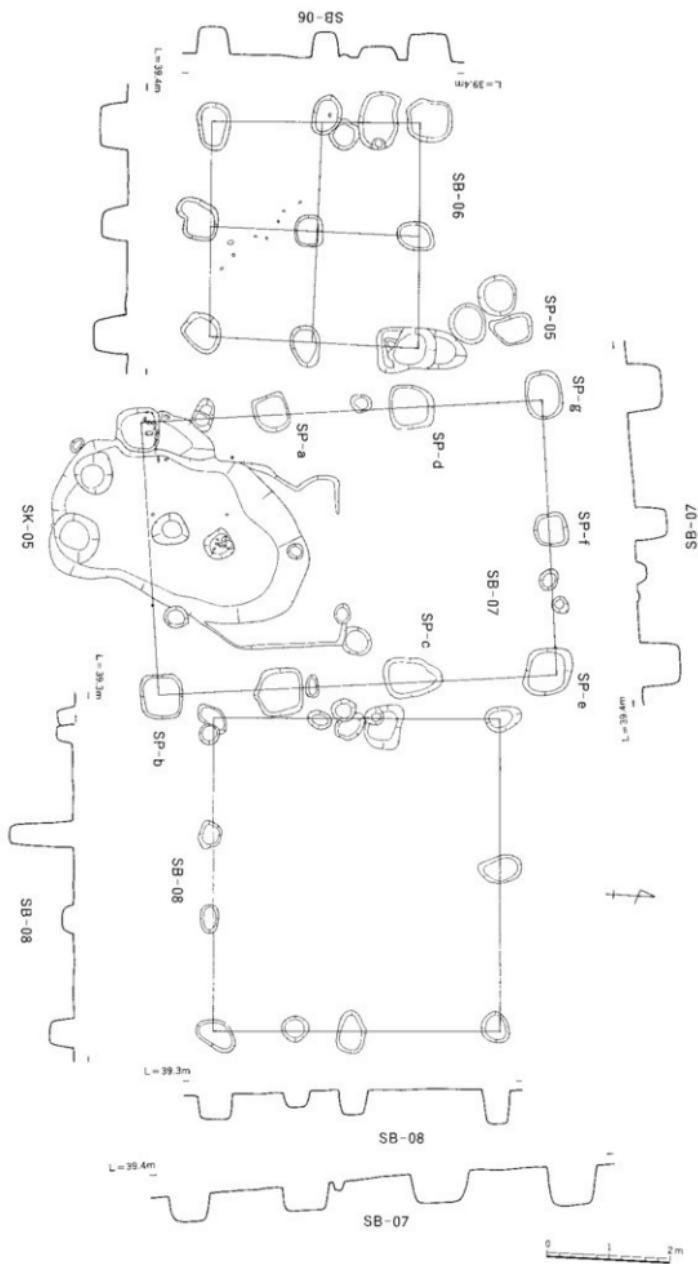
第23図 SB-01・02・03a・03b ( $S=1/80$ )



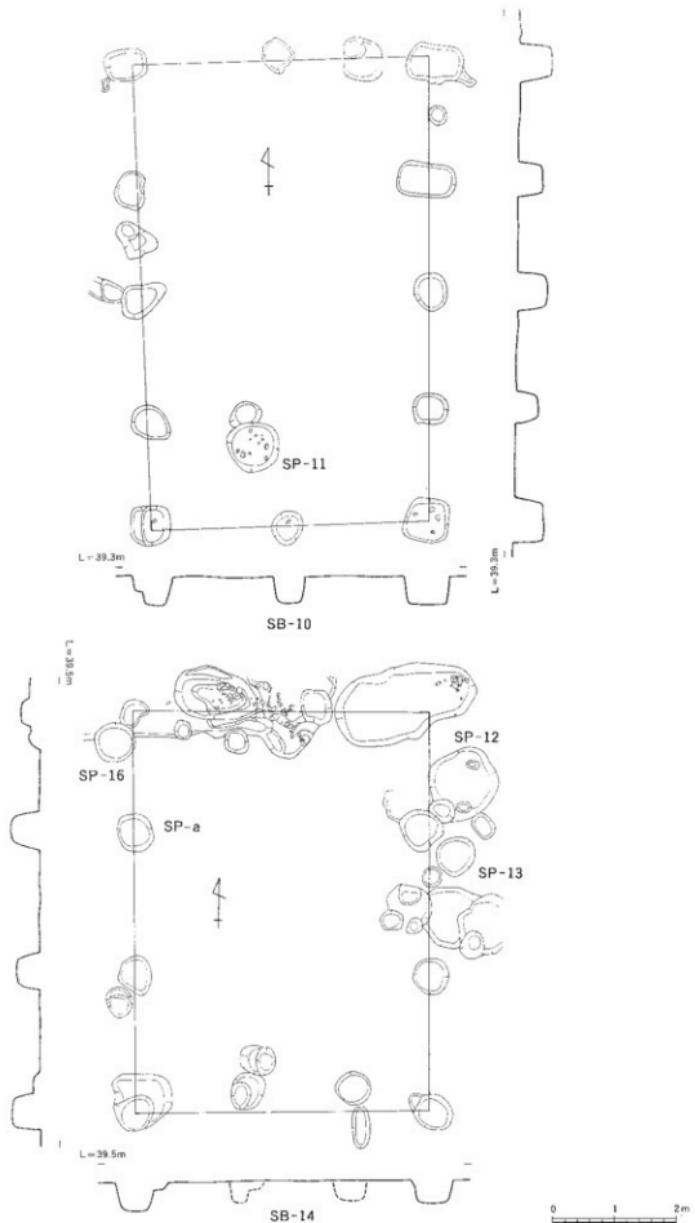
SB-05



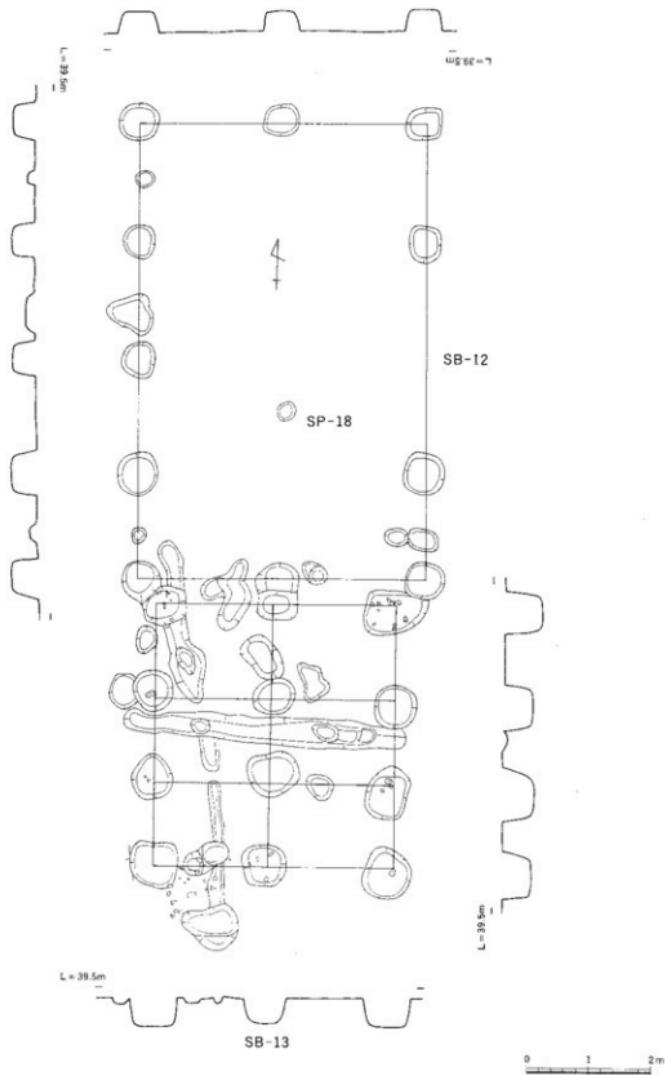
第24図 SB-05・09 (S=1/80)



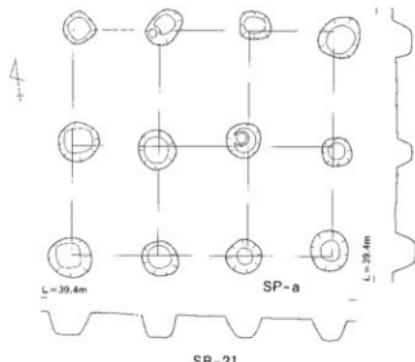
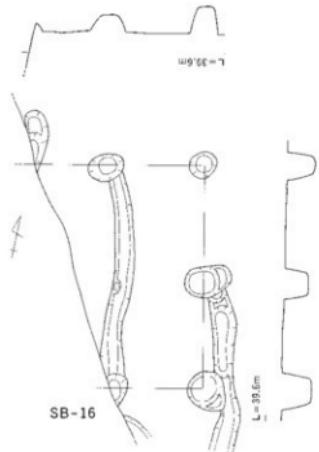
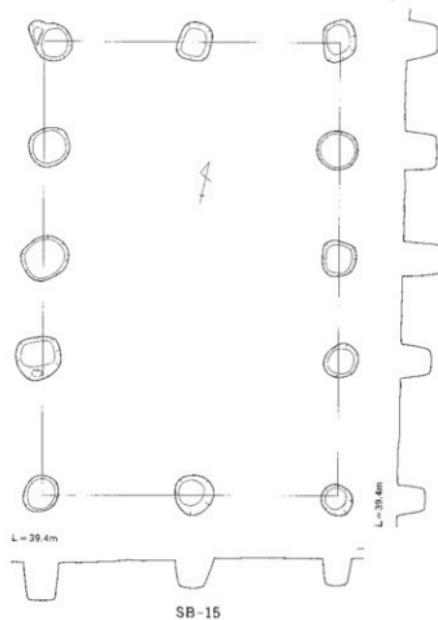
第25図 SB-06・07・08 ( $S=1/80$ )



第26図 SB-10・14 ( $S=1/80$ )

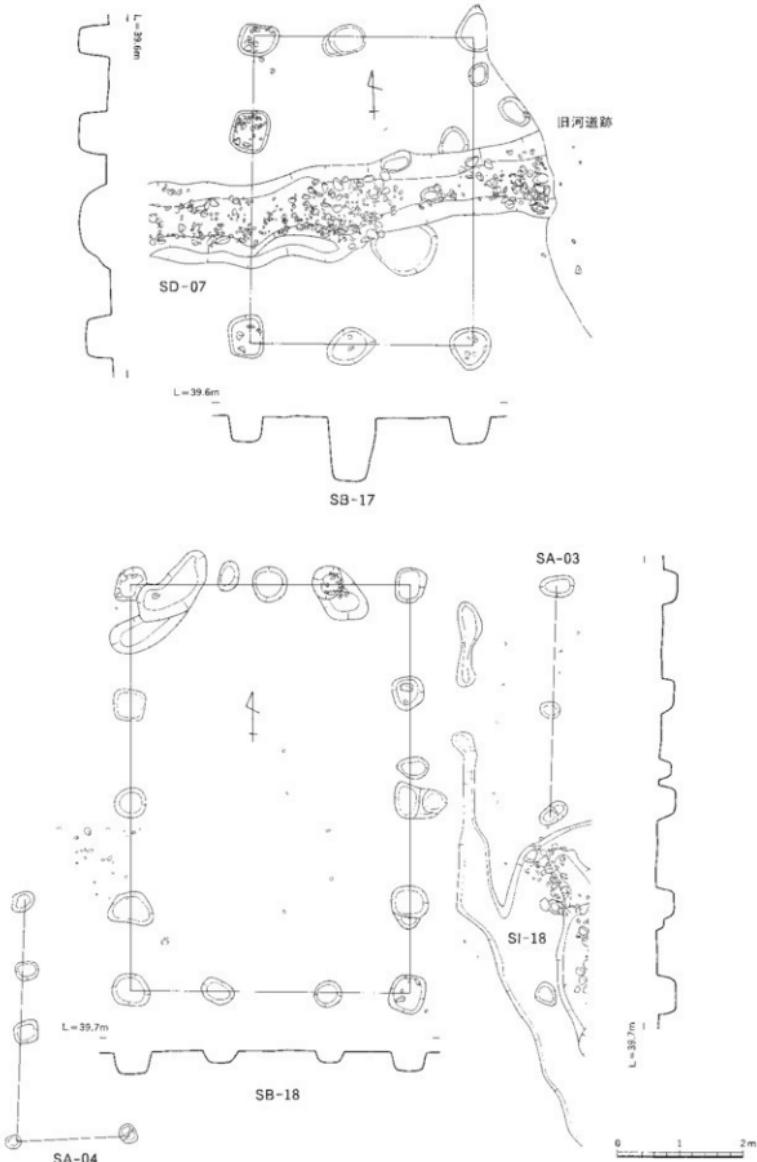


第27図 SB-12・13 (S=1/80)

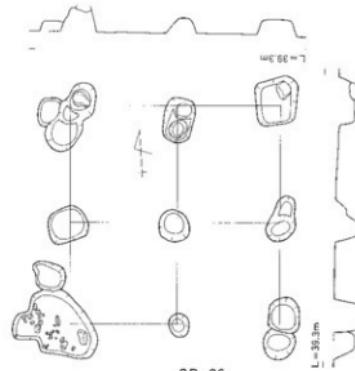
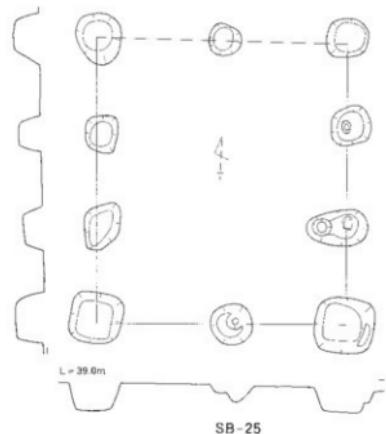
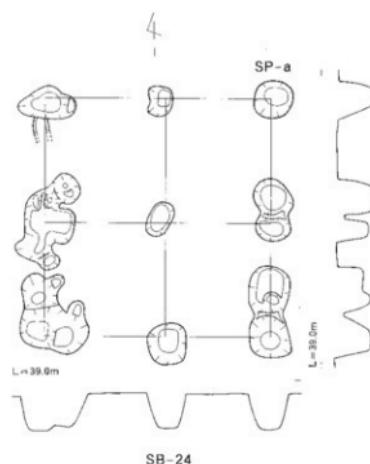
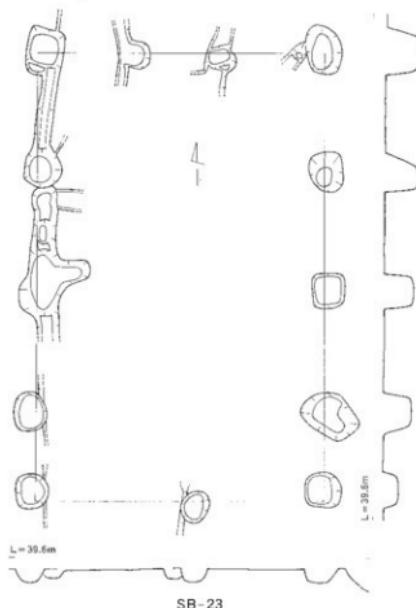


0 1 2m

第28図 SB-15・16・21 (S=1/80)

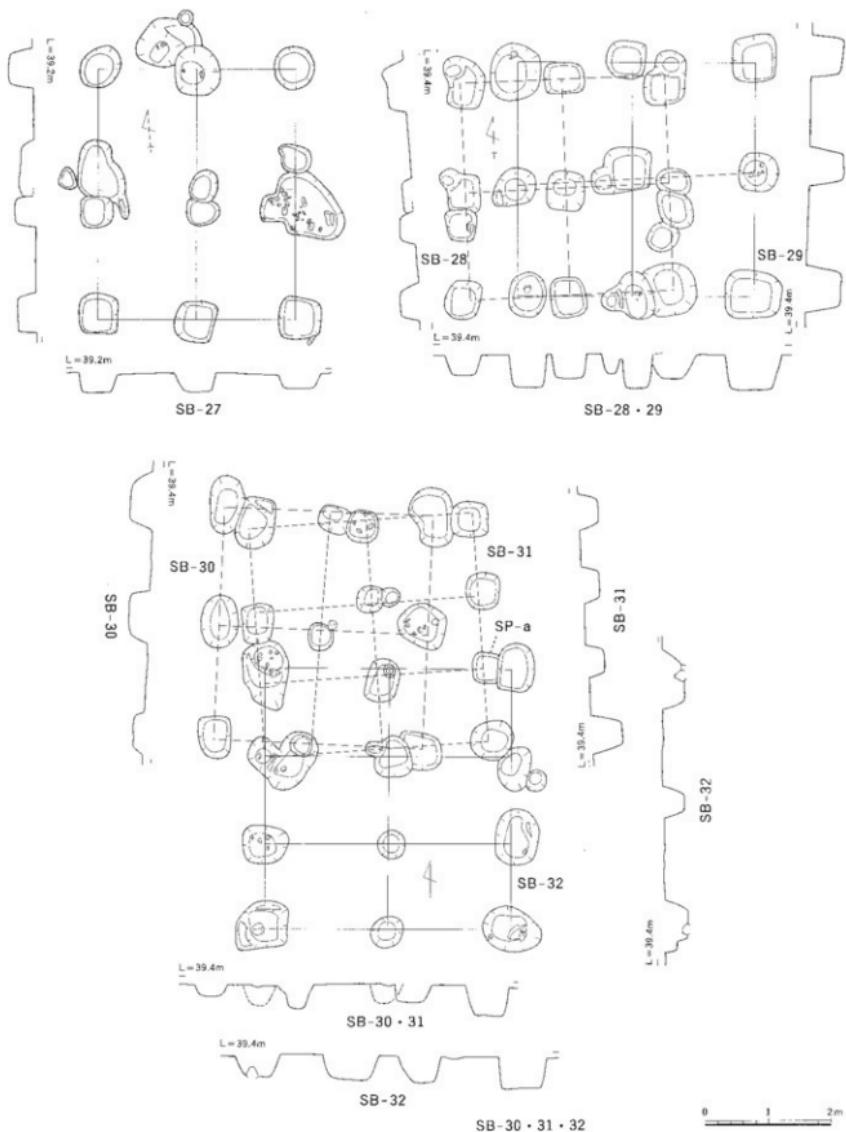


第29図 SB-17・18 ( $S=1/80$ )

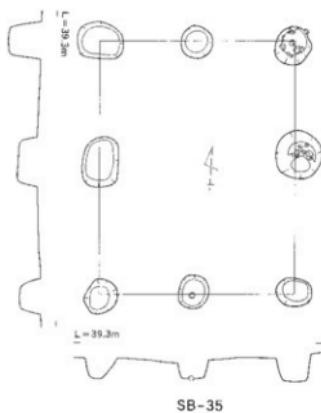
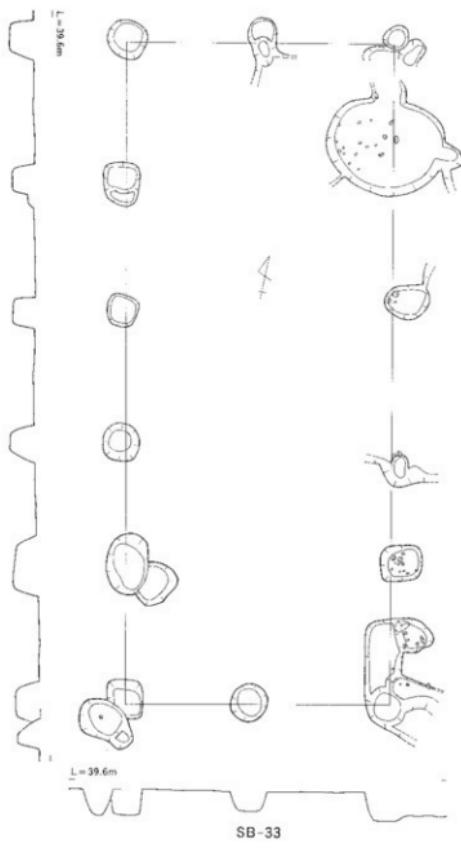


0 1 2 m

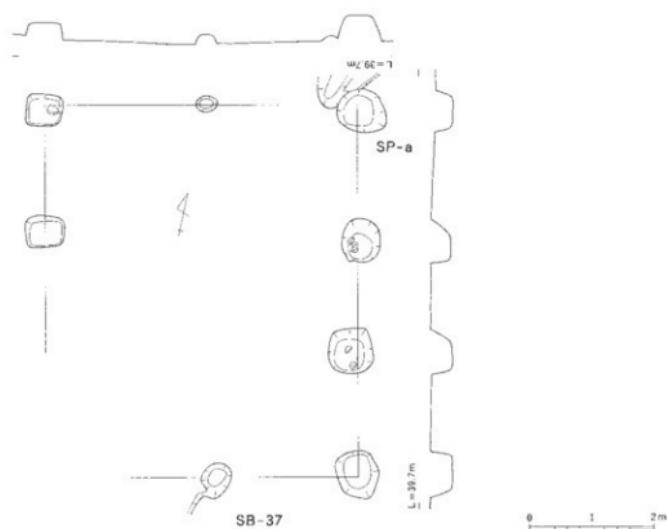
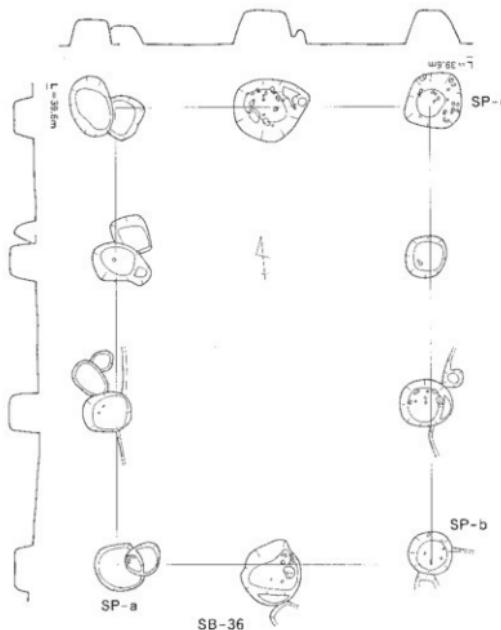
第30図 SB-23・24・25・26 ( $S = 1/90$ )



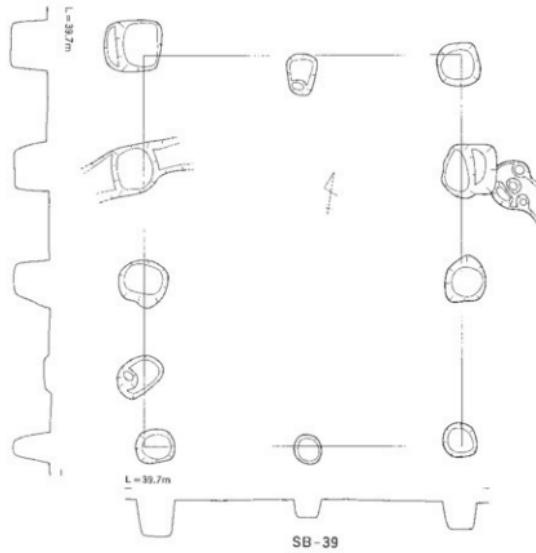
第31図 SB-27・28・29・30・31・32 (1/80)



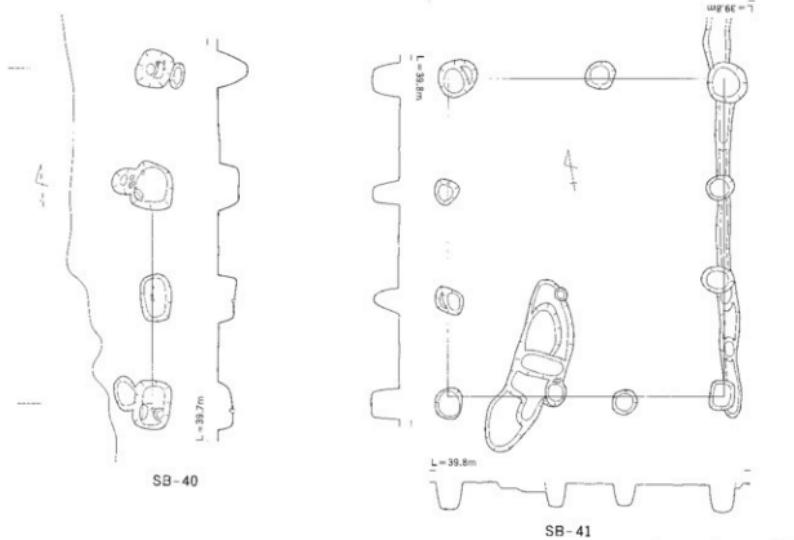
第32図 SB-33・35 ( $S=1/50$ )



第33図 SB-36・37 (S=1/80)

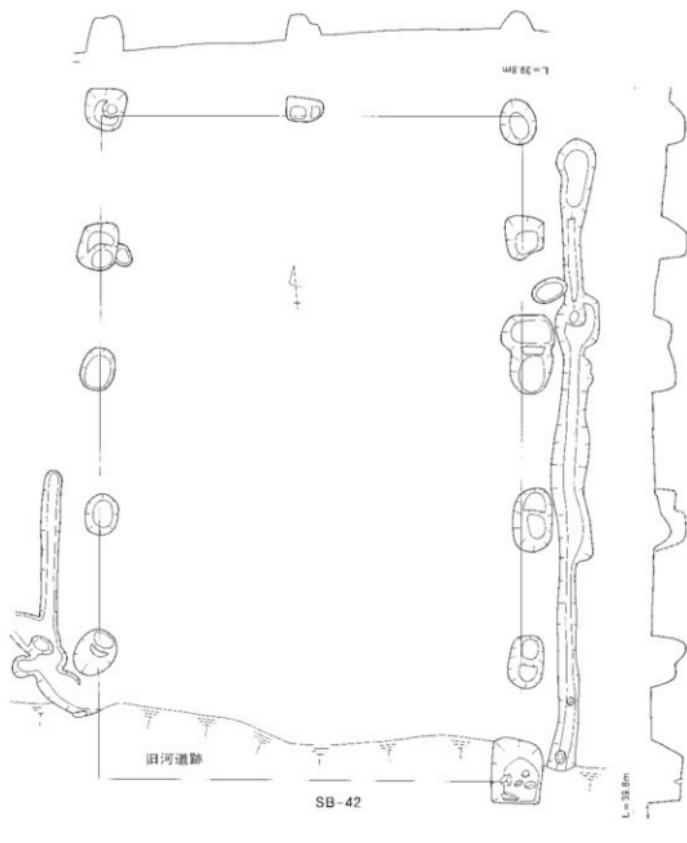


SB-39



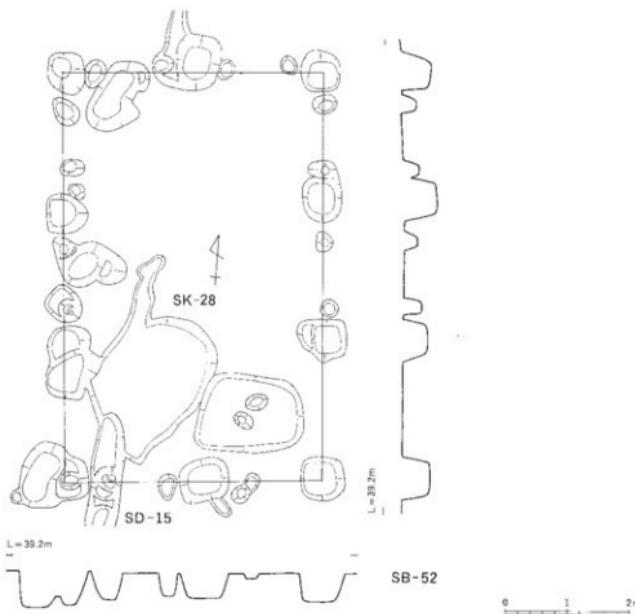
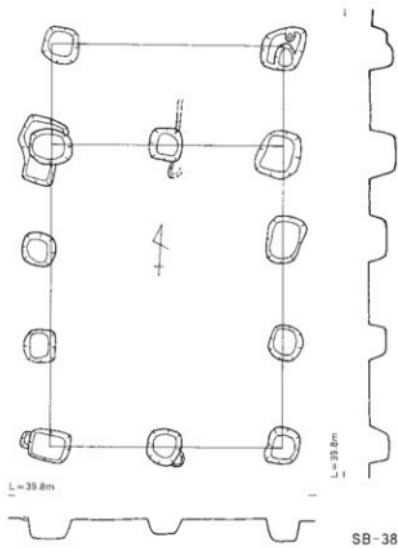
0 1 2 m

第34図 SB-39・40・41 (1/80)

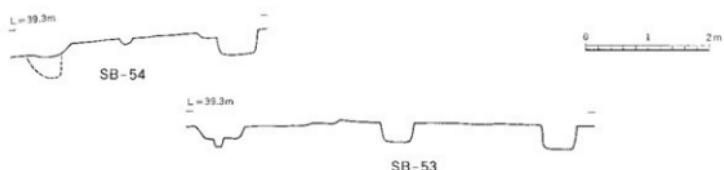
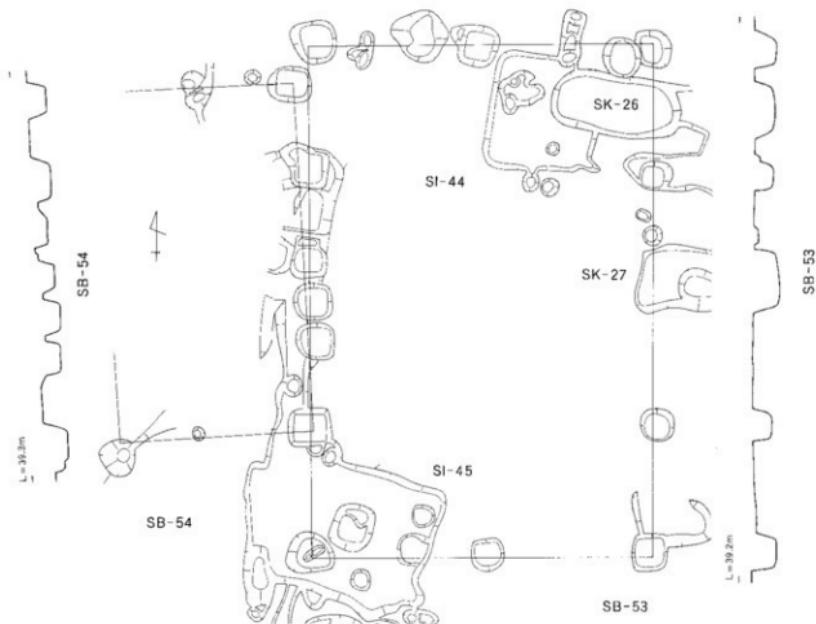
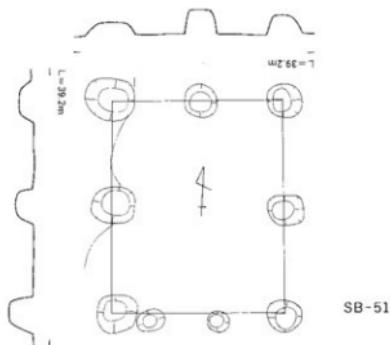


0 1 2m

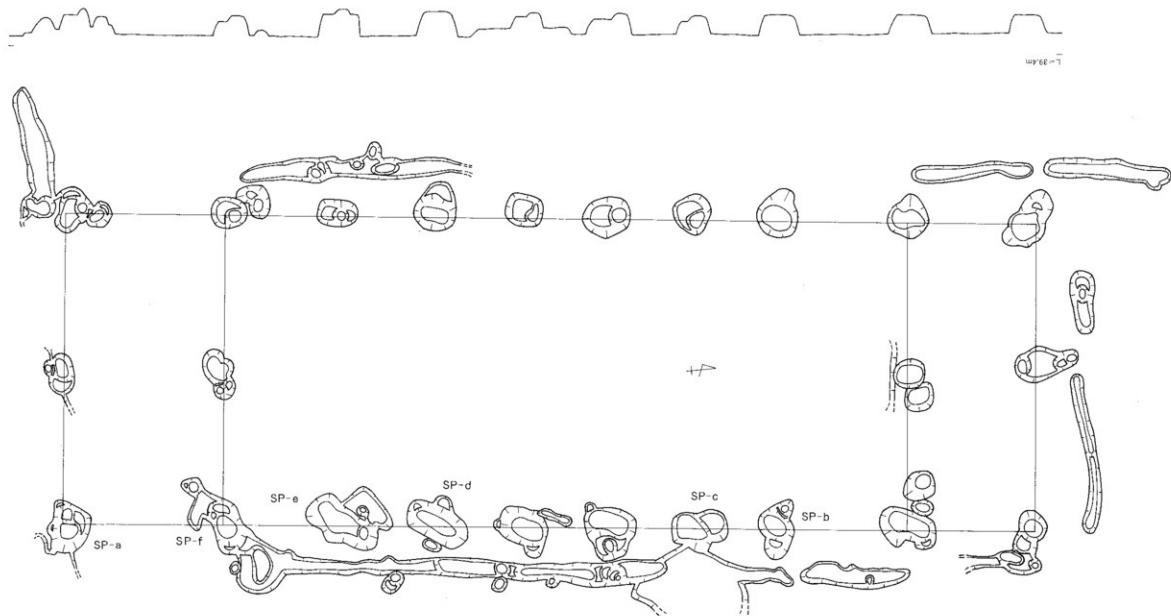
第35図 SB-42 ( $S=1/80$ )



第36図 SB-38・52 (S=1/80)



第37図 SB-51・53・54, SI-44・45 ( $S=1/80$ )



L = 39.4m

南 柔

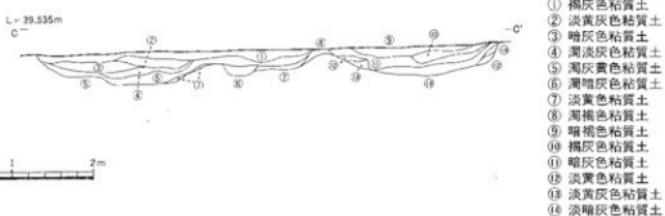
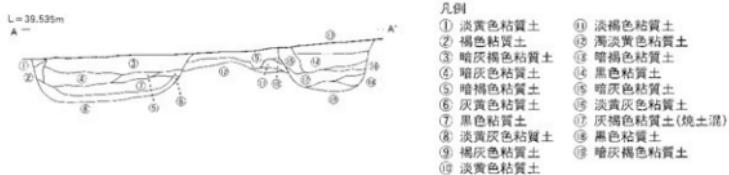
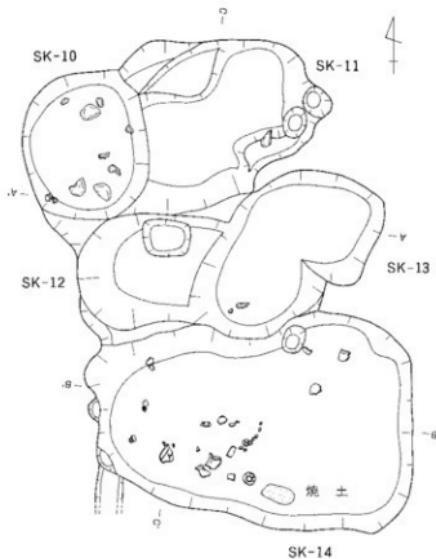
SB-55

L = 39.4m

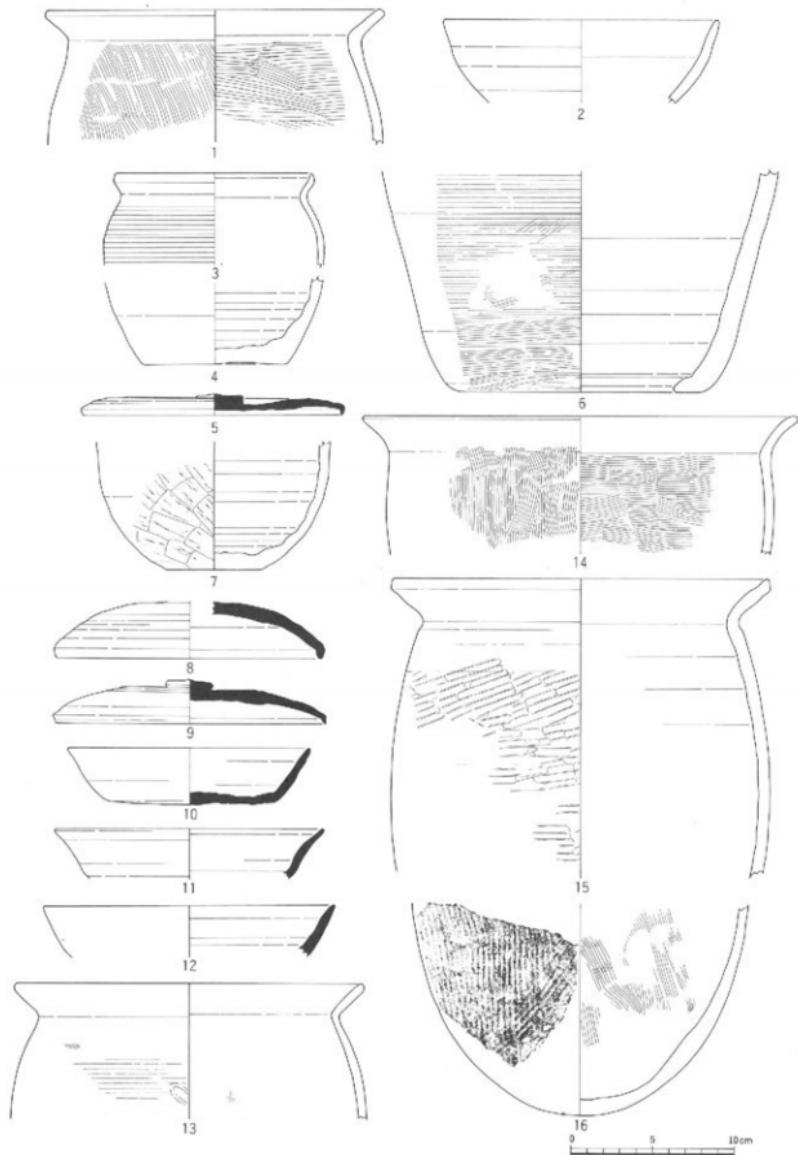
南 底

0 1 2 m

第38図 SB-55 (S=1/80)

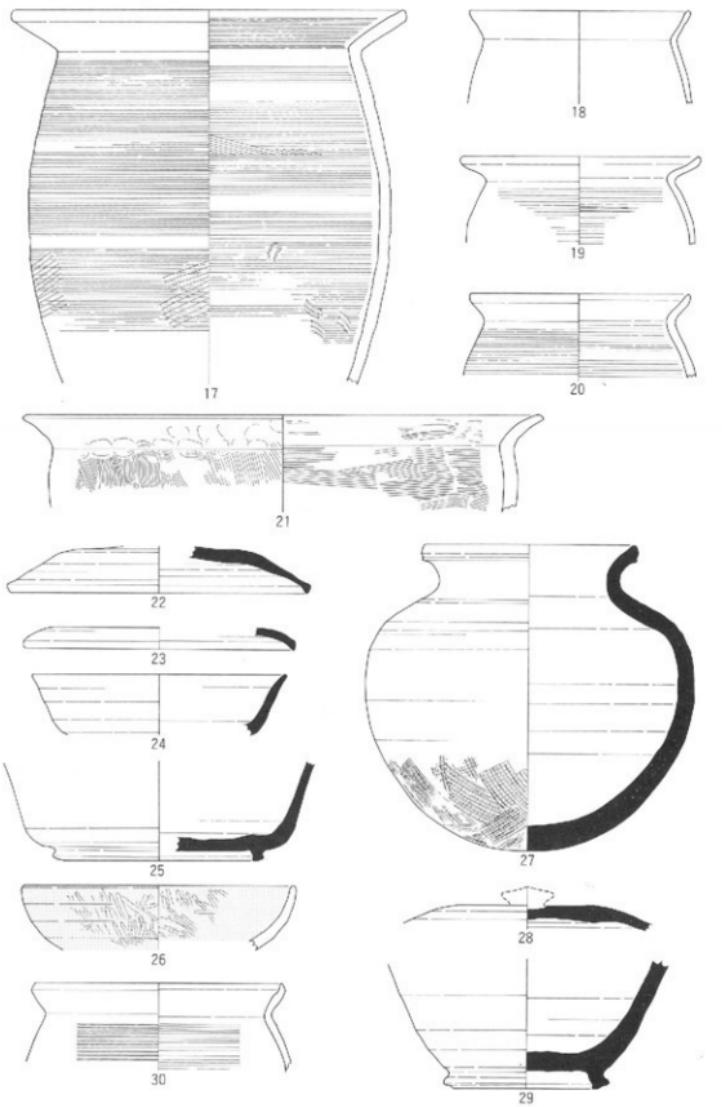


第39図 SK-10・11・12・13・14 (S=1/50)



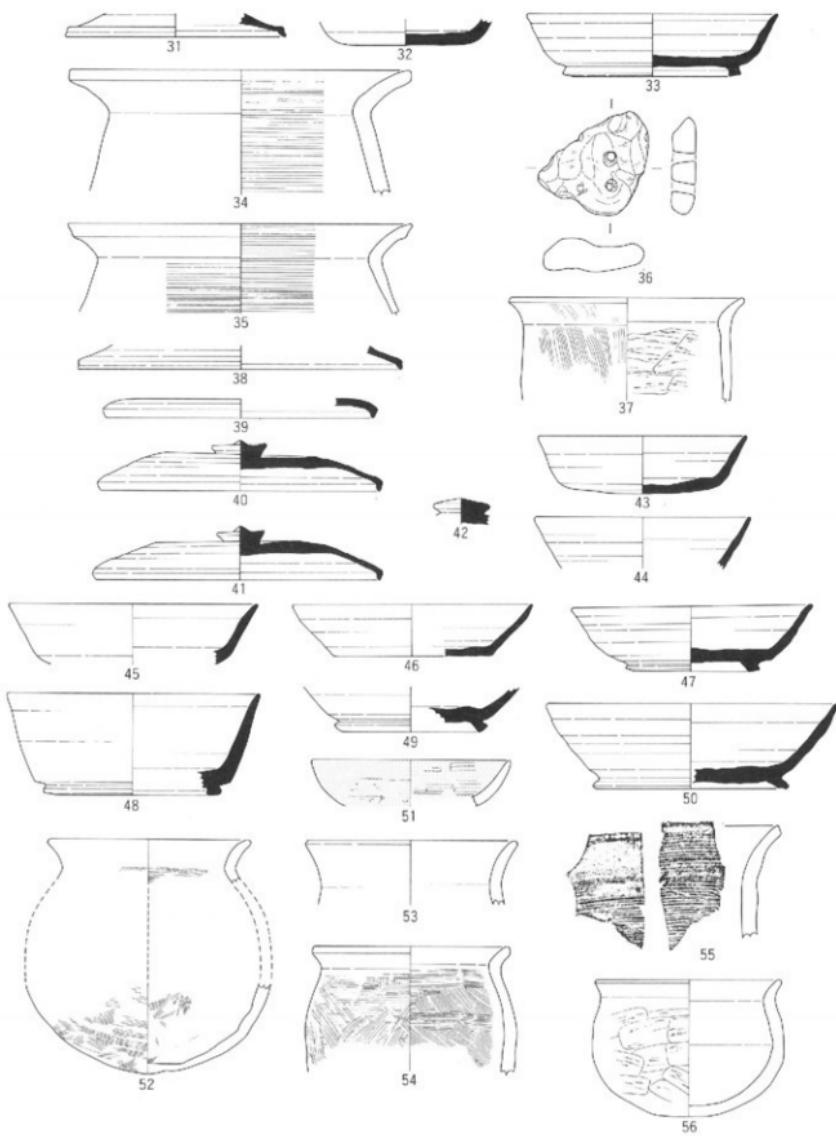
SI-01(1・2)・SI-02(3～6)  
SI-03(7)・SI-04(8～16)

第40図 積穴住居跡出土土器 (S=1/3)



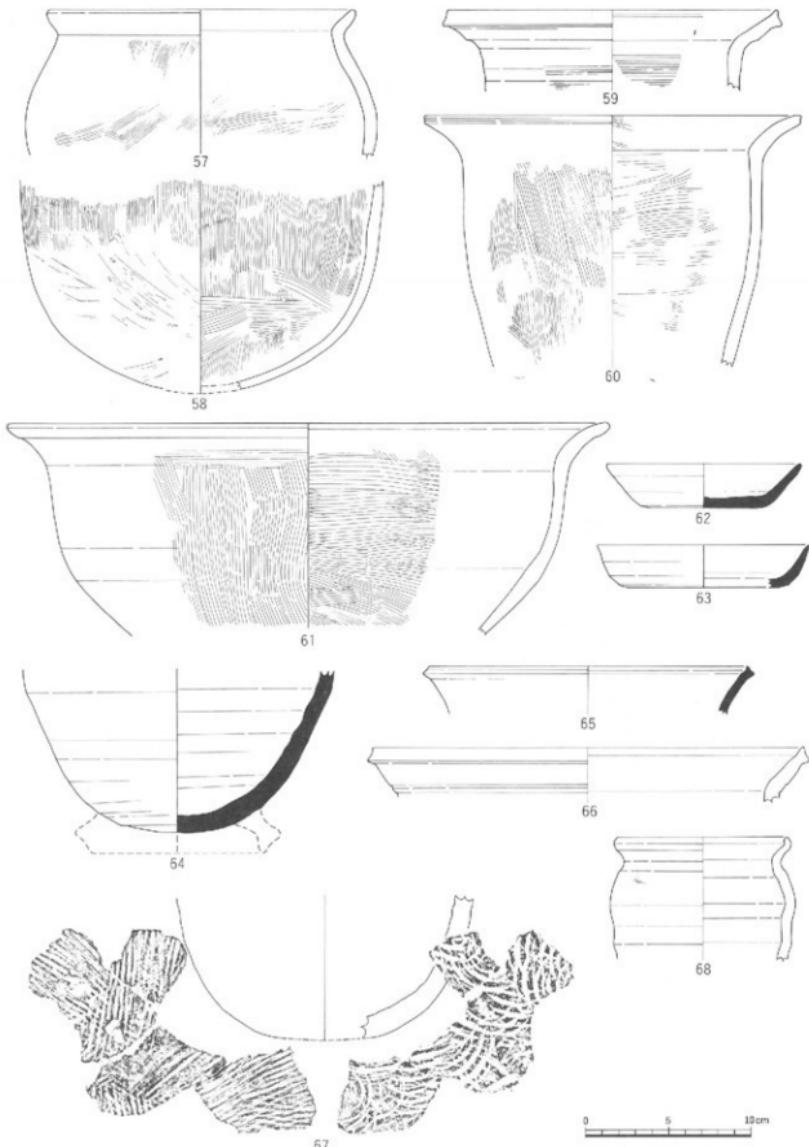
SI-04(17~21)・SI-05(22~27)  
SI-06(28~30)

第41図 積穴住居跡出土土器 (S=1/3)



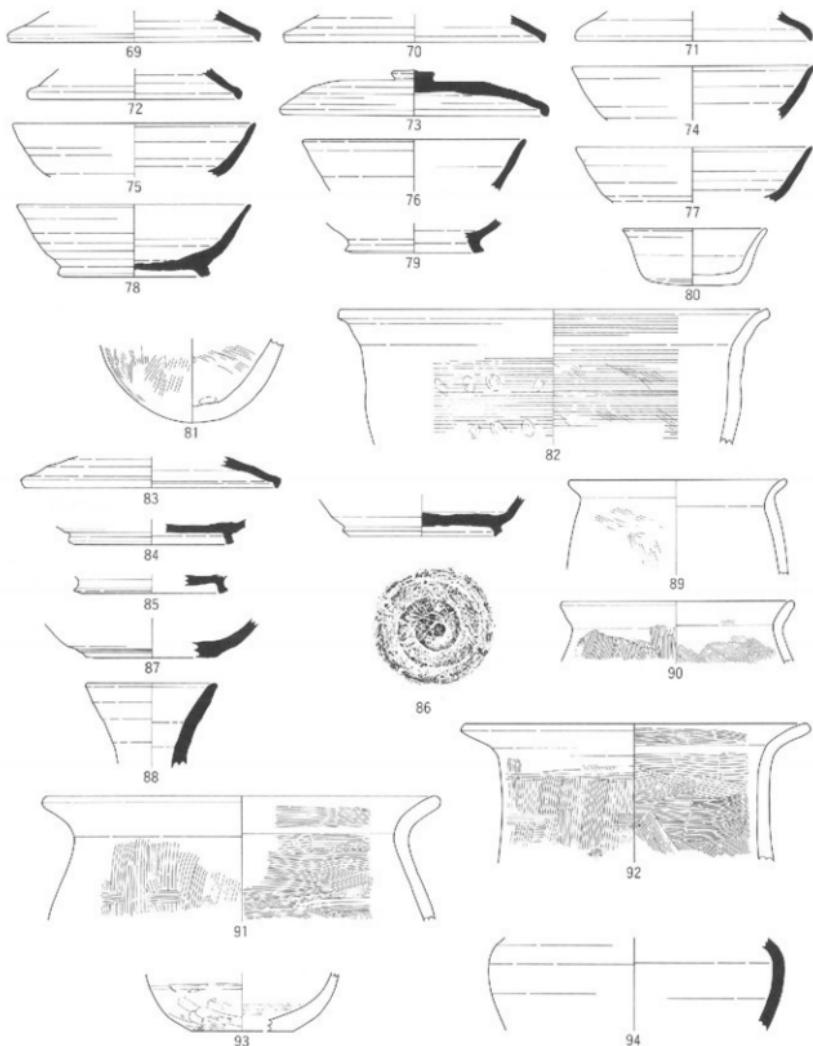
SI-07(31~36)・SI-09(37)  
SI-10(38~56)

第42図 積穴住居跡出土遺物 (S=1/3)



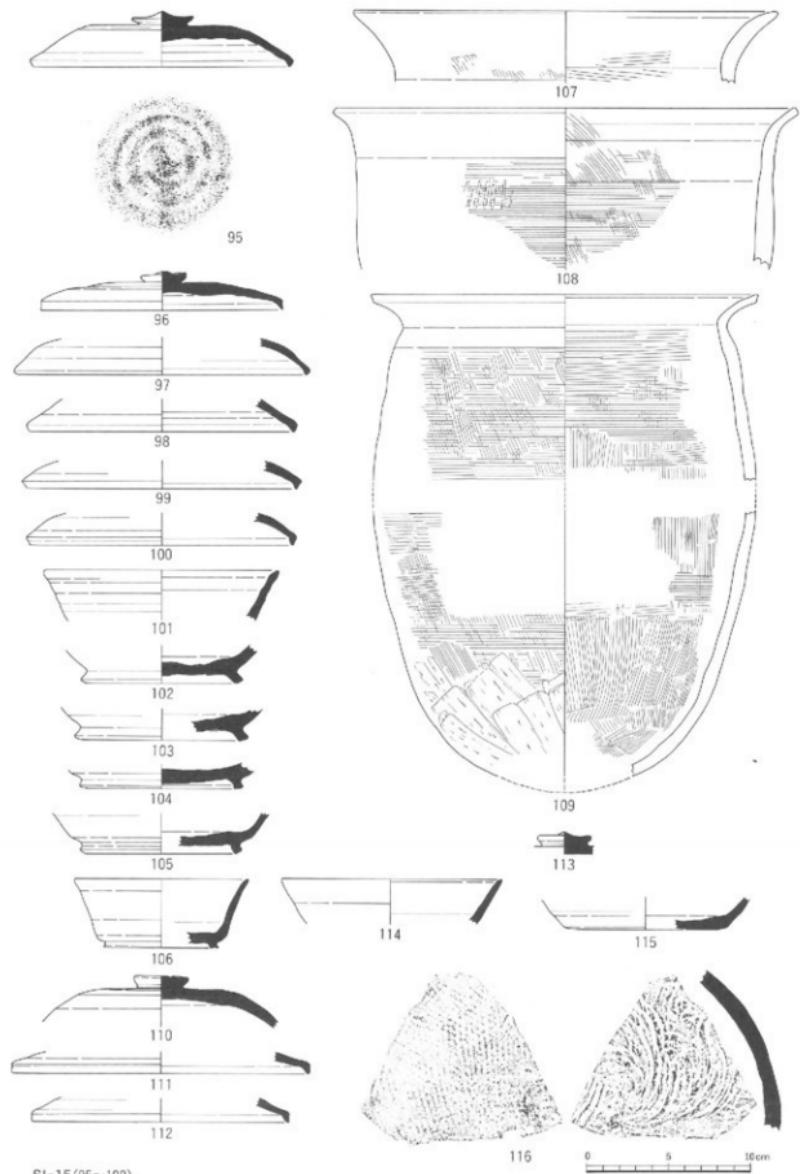
SI-10(57~61)  
SI-11(52~58)

第43図 整穴住居跡出土土器 (S=1/3)

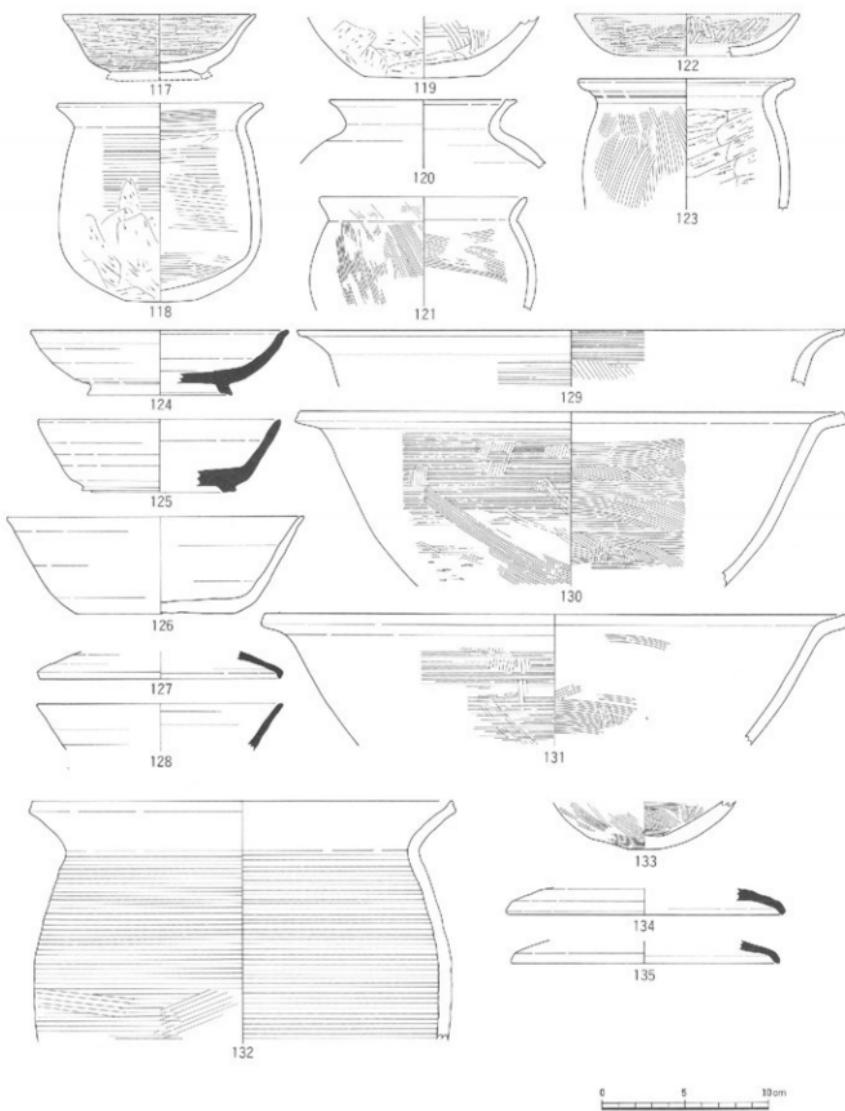


SI-12(69~82)  
SI-13(83~92)  
SI-14(93~94)

第44図 積穴住居跡出土土器 (S=1/3)



第45図 積穴住居跡出土土器 (S=1/3)

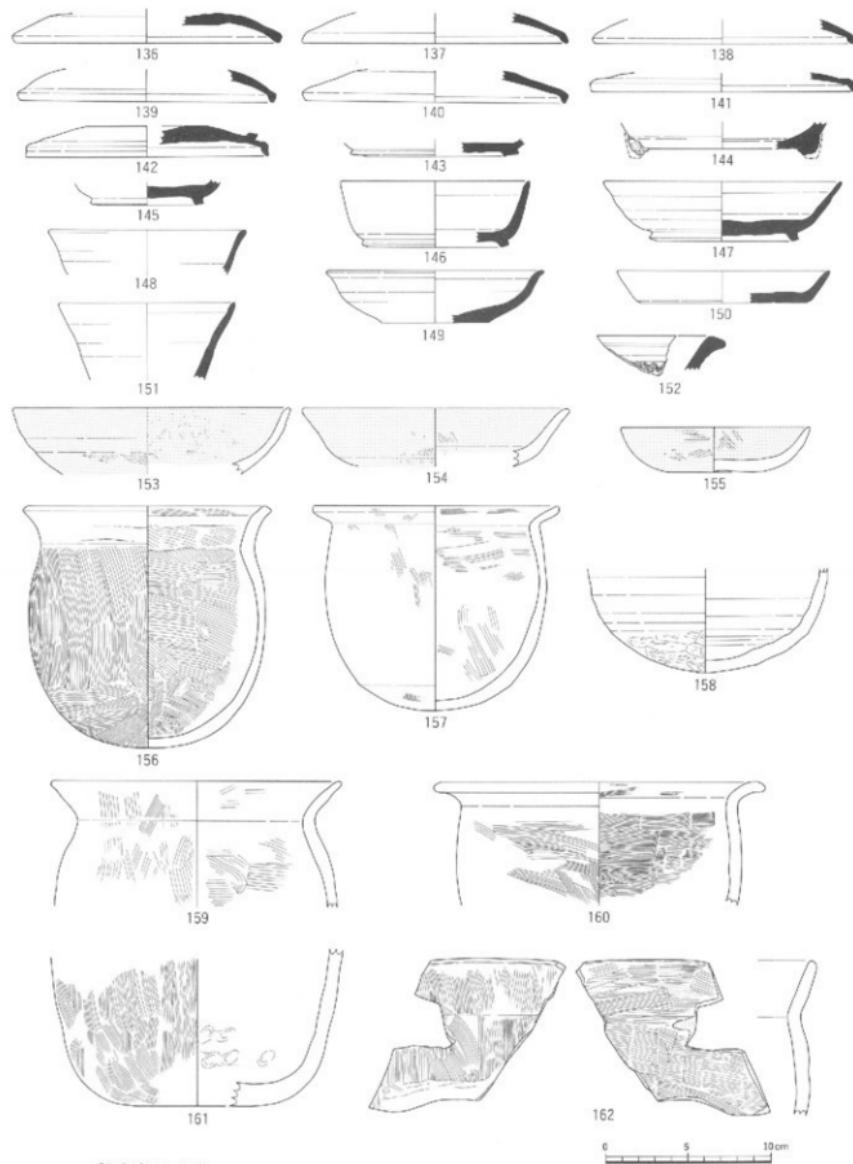


SI-16(117~121)・SI-17(122~123)

SI-19(124~131)・SI-20(132)

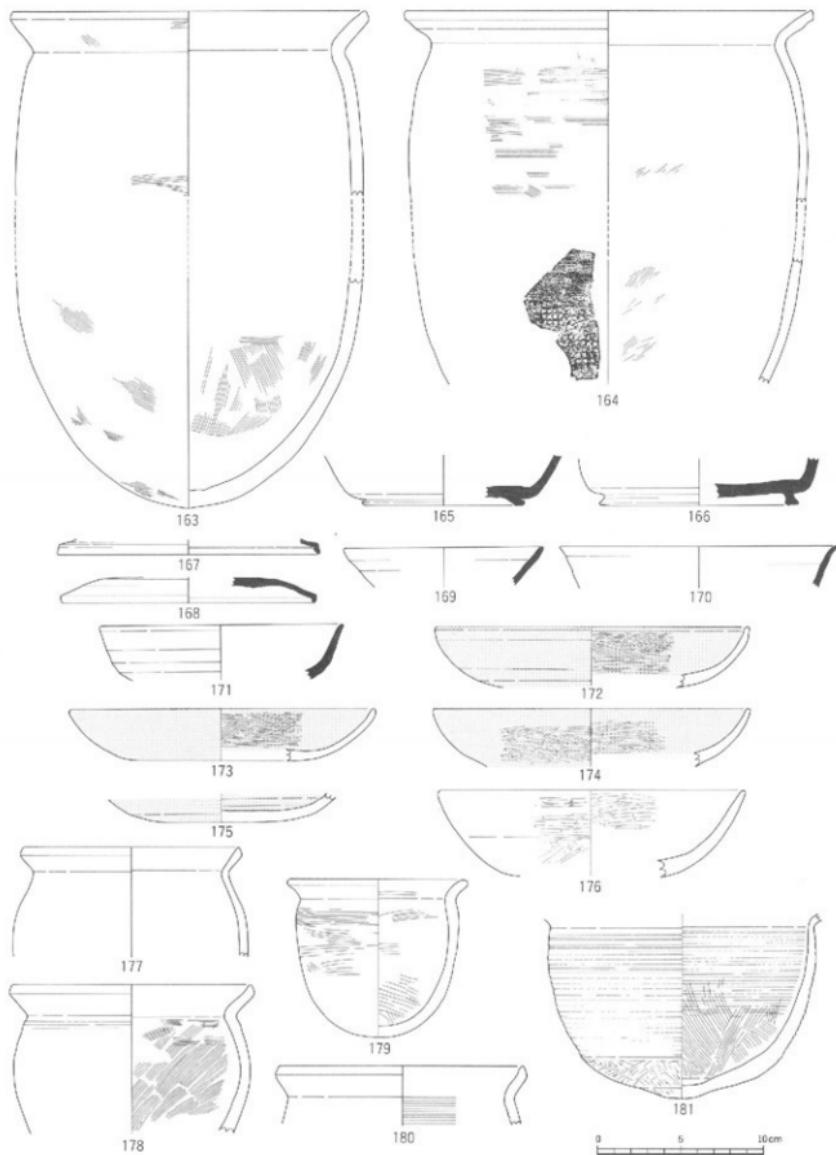
SI-21(133)・SI-23(134~135)

第46図 積穴住居跡出土土器 (S=1/3)



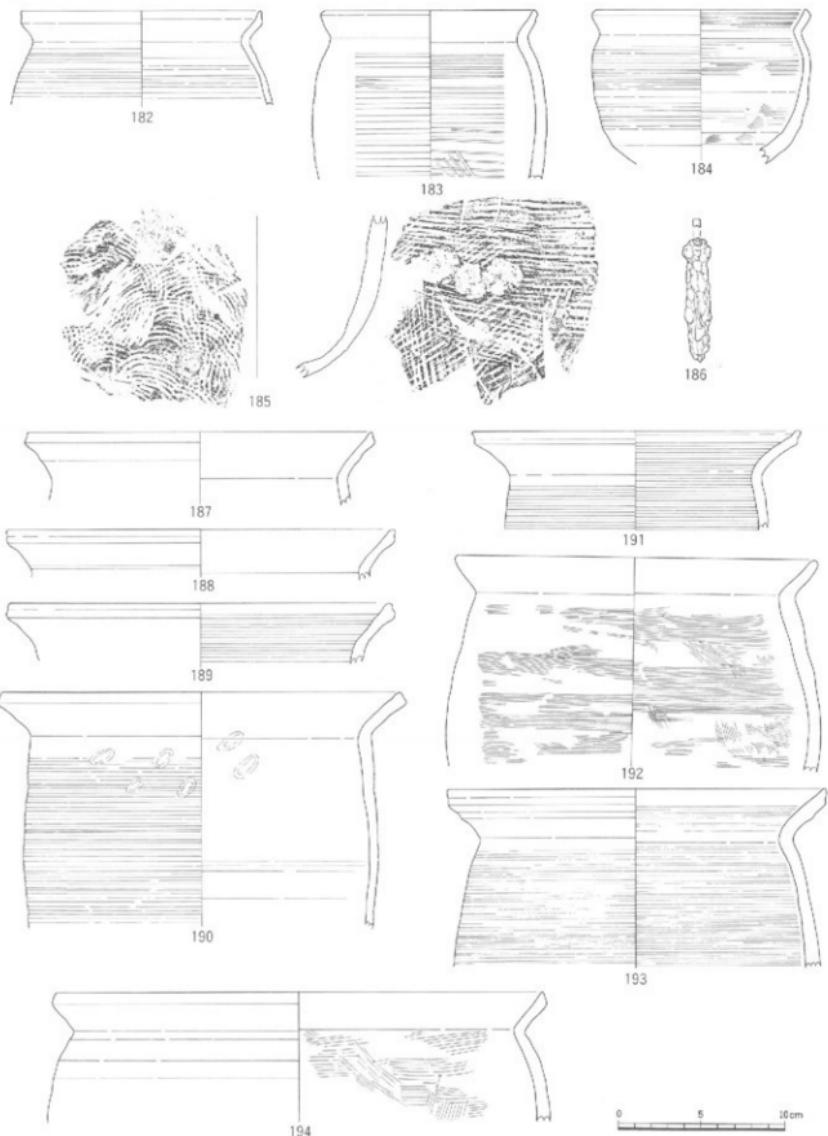
SI-24(136~162)

第47図 聖穴住居跡出土土器 (S=1/3)



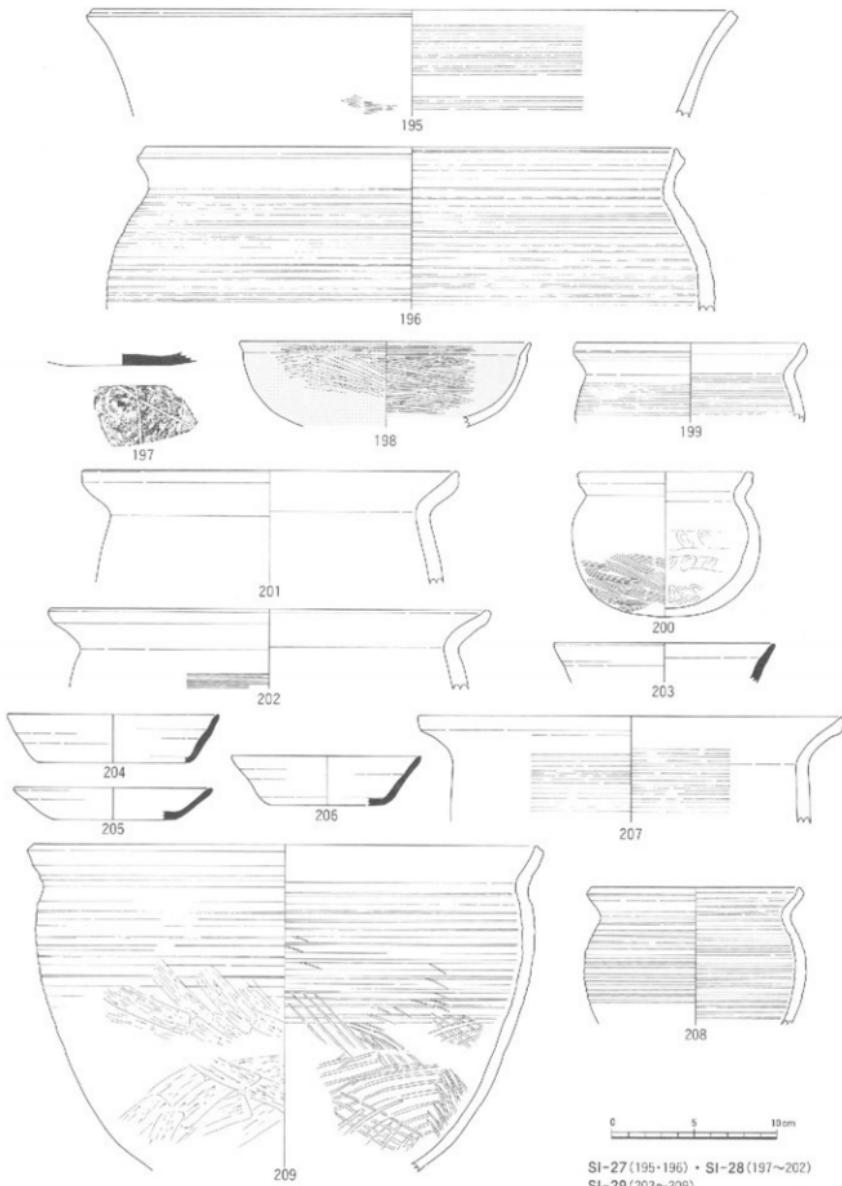
SI-24(163・164)・SI-25(165・166)  
SI-26(167～170)・SI-27(171～181)

第48図 積穴住居跡出土土器 (S=1/3)

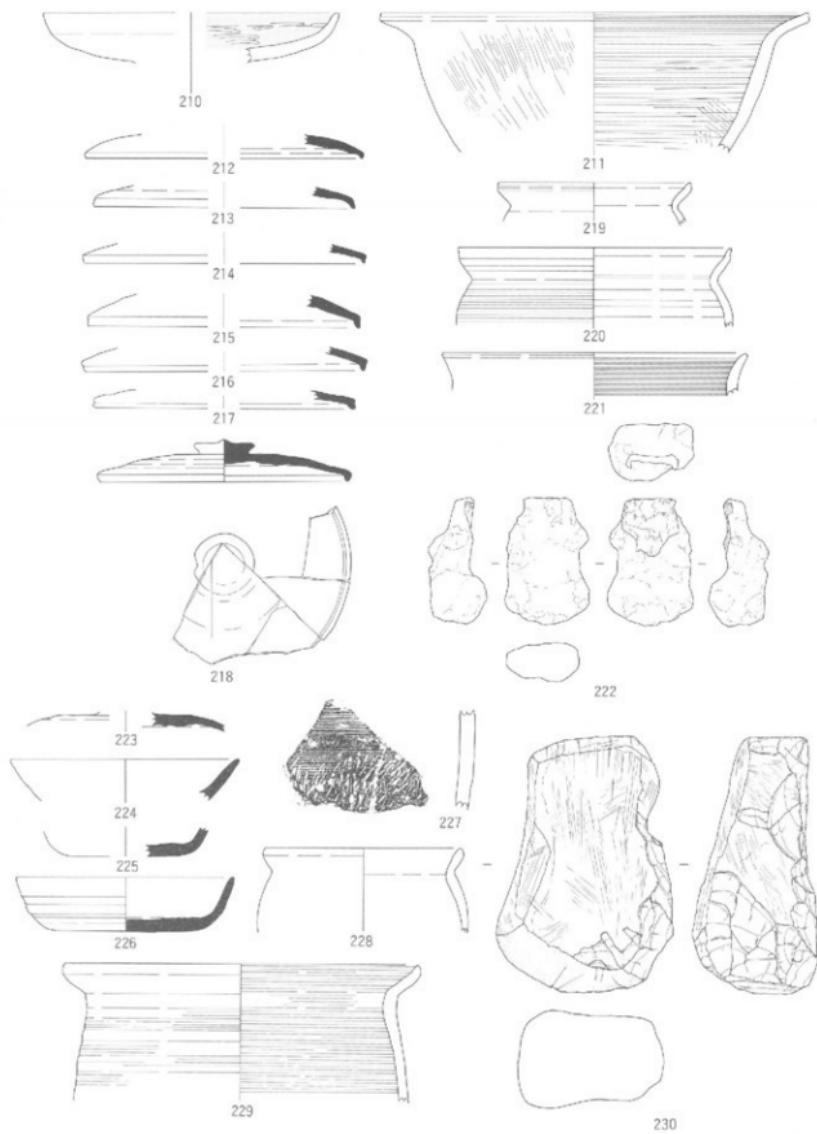


SI-27(182~194)

第49図 竪穴住居跡出土遺物 (S=1/3)



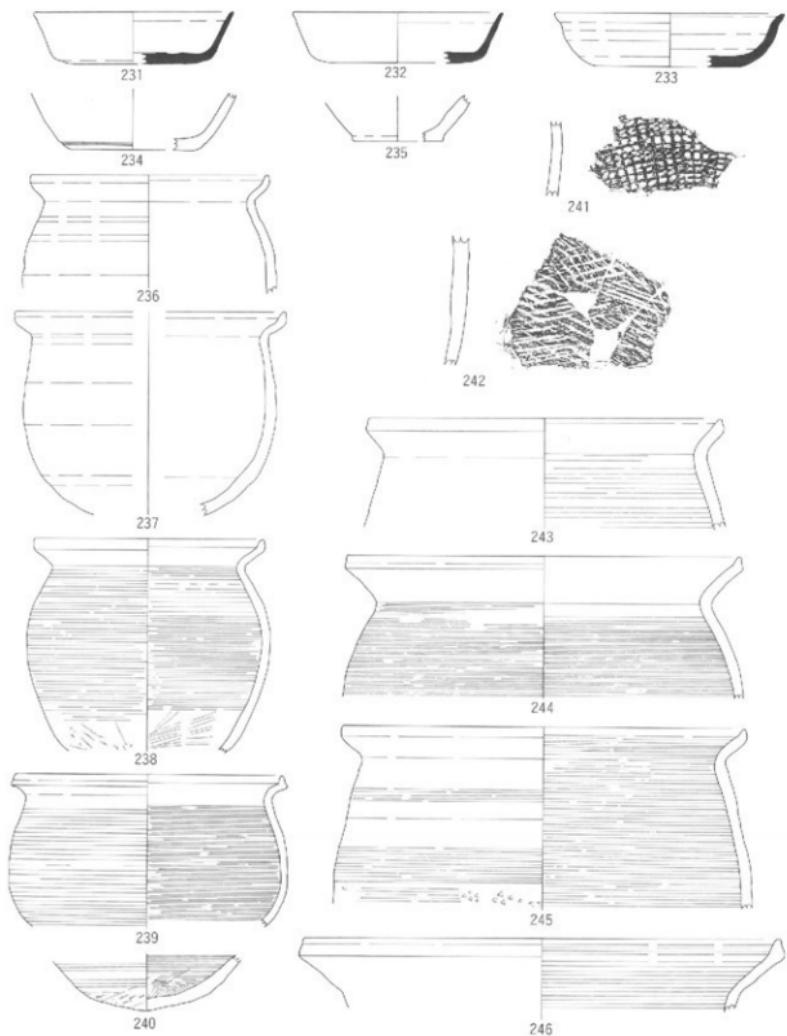
第50図 整穴住居跡出土土器 (S=1/3)



SI-32(210~211)・SI-33(212~222)  
SI-34(223~230)

0 5 10cm

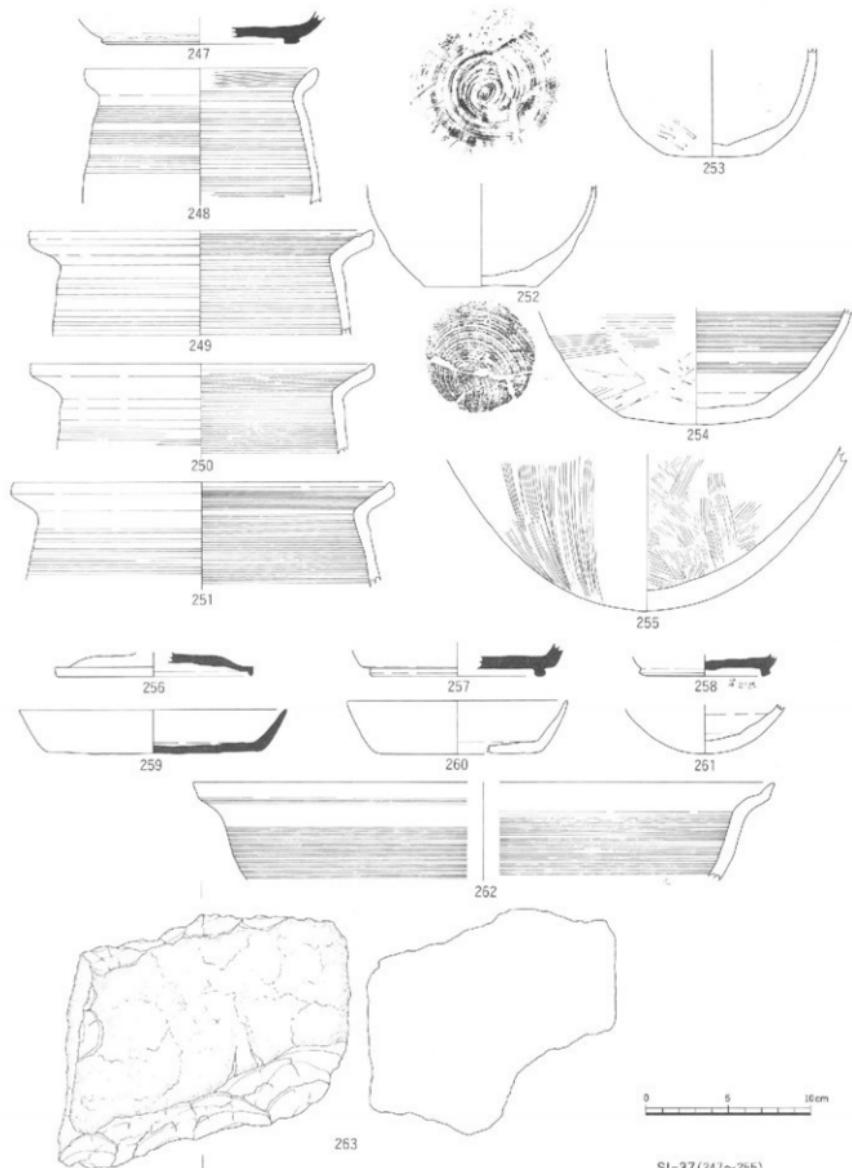
第51図 整穴住居跡出土遺物 (S=1/3)



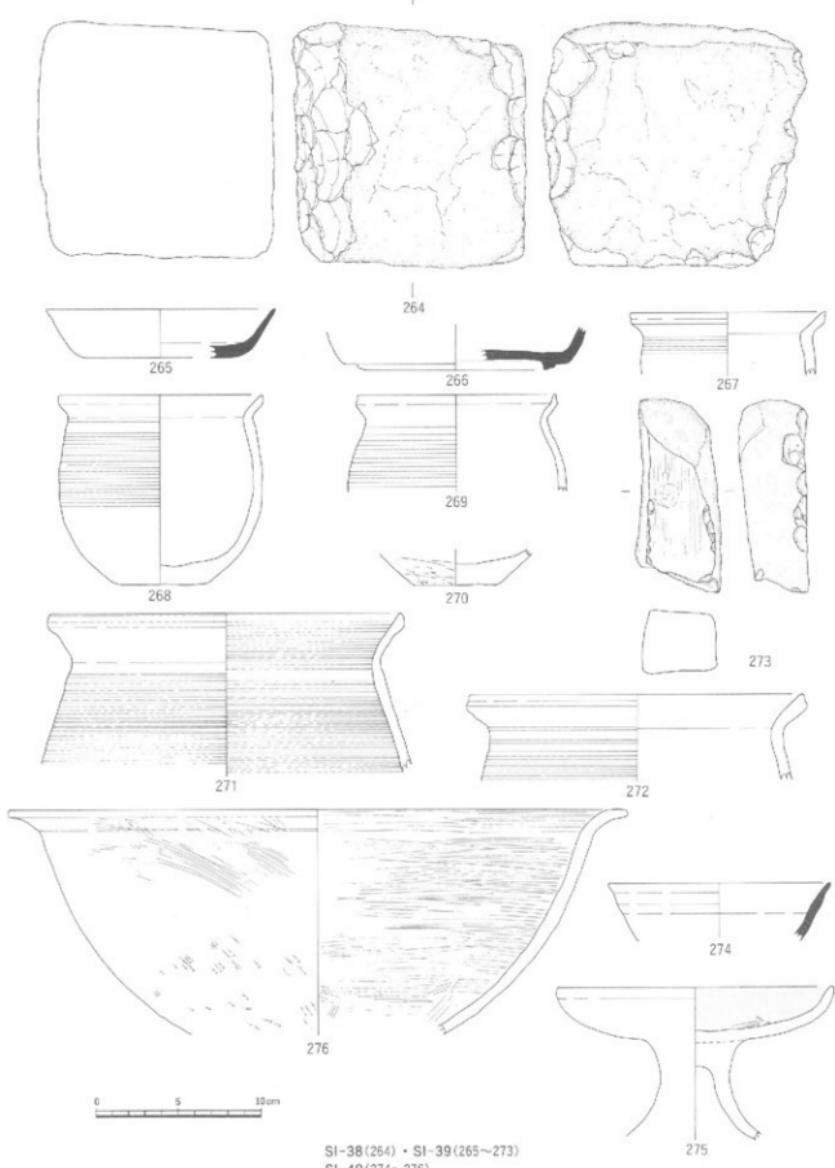
0 5 10 cm

SI-35(231~246)

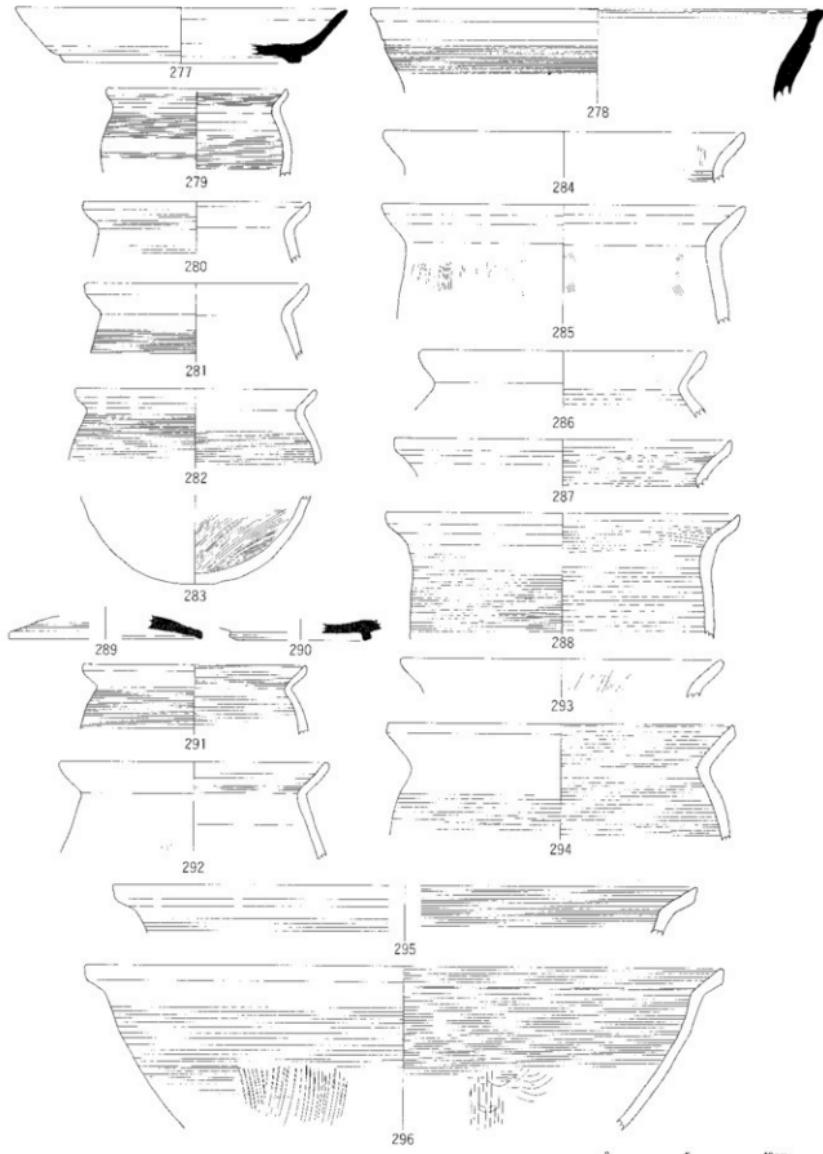
第52図 壁穴住居跡出土遺物 (S=1/3)



第53図 穂穴住居跡出土遺物 (S=1/3)

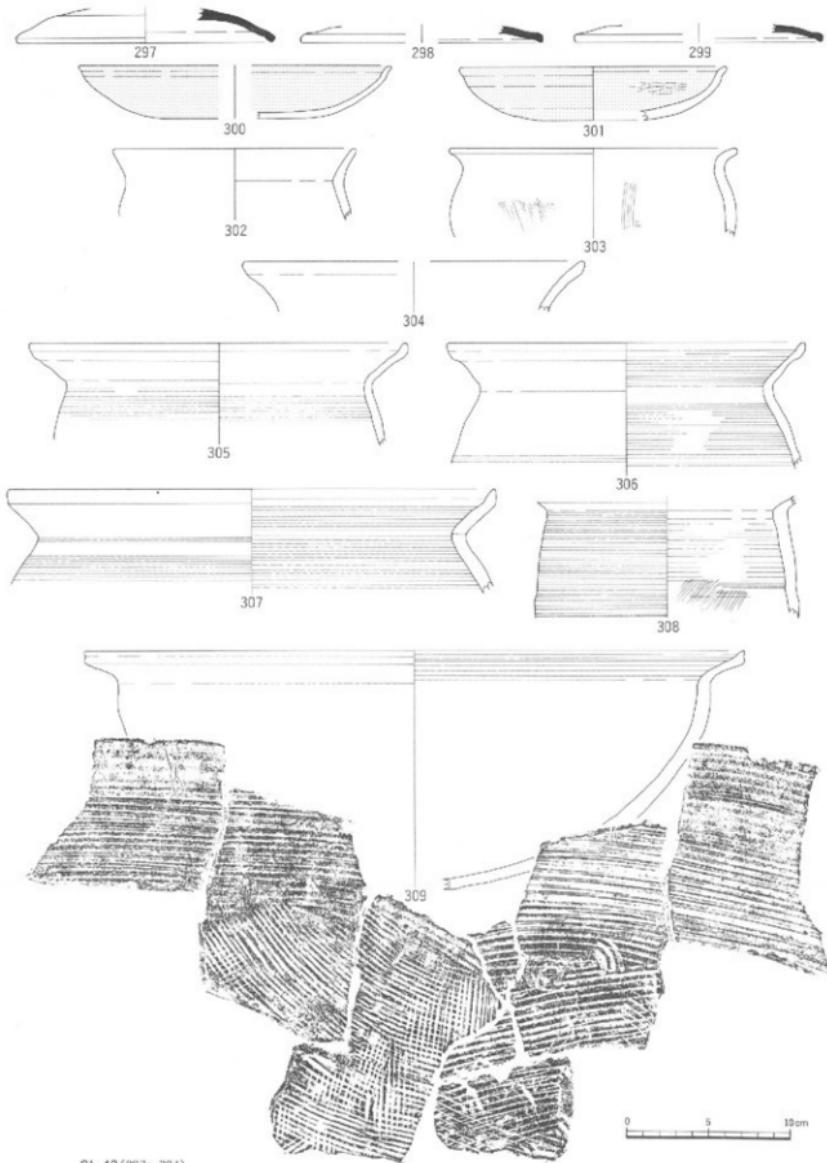


第54図 積穴住居跡出土遺物 (S=1/3)

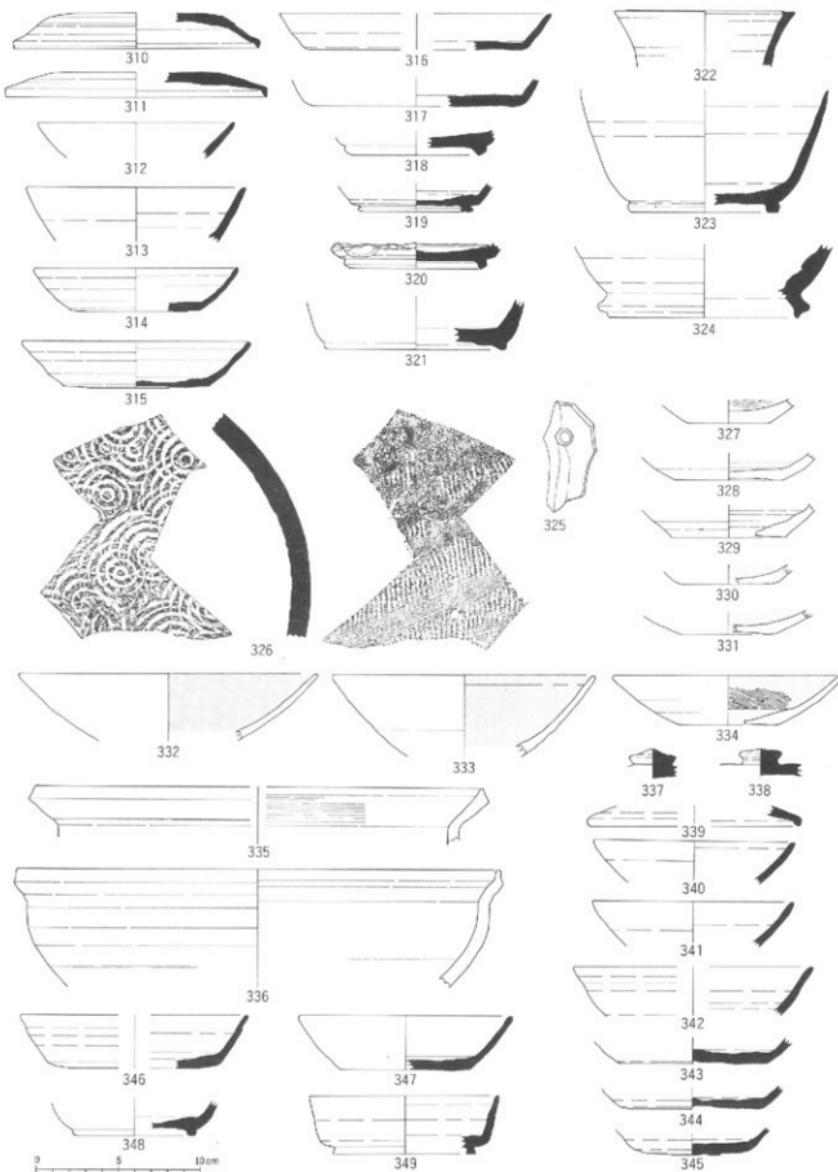


SI-41(277~288)  
SI-42(289~296)

第55図 積穴住居跡出土土器 (S=1/3)

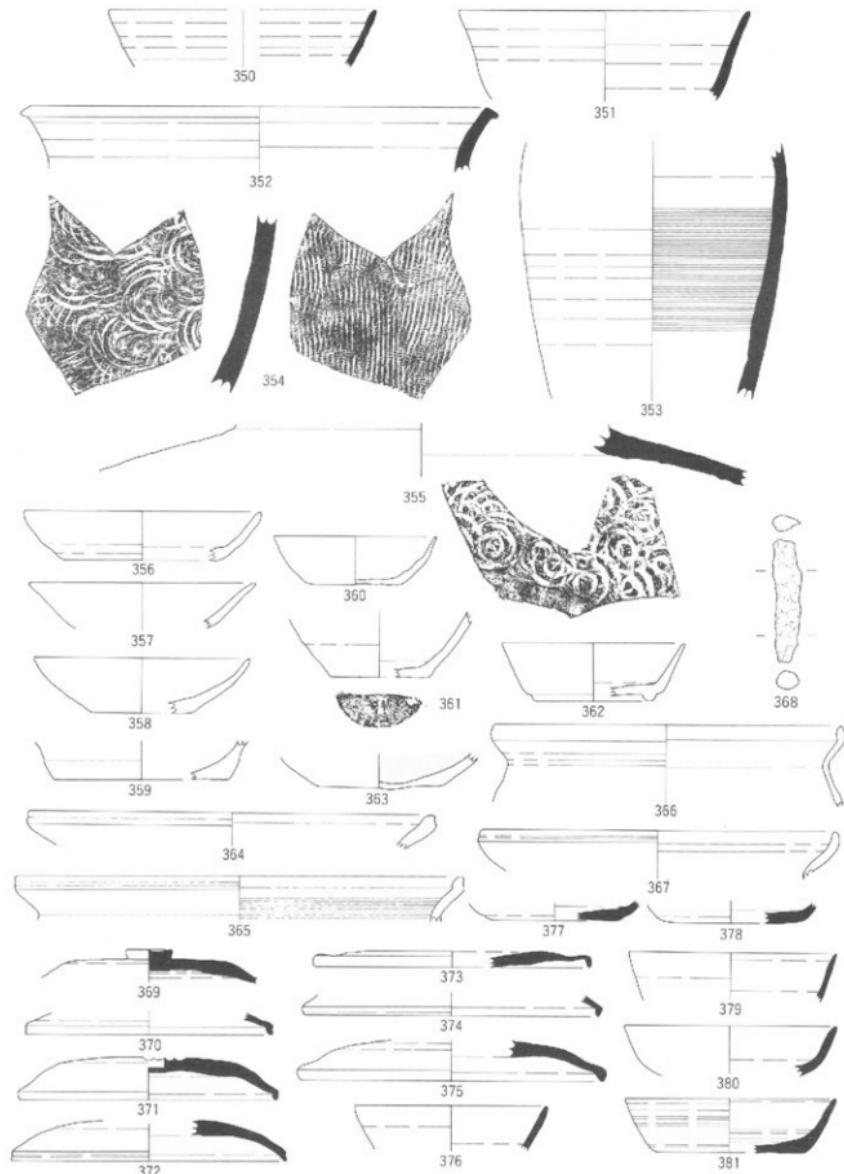


第56図 堅穴住居跡出土土器 ( $S=1/3$ )



第57図 墓穴住居跡出土土器 (S=1/3)

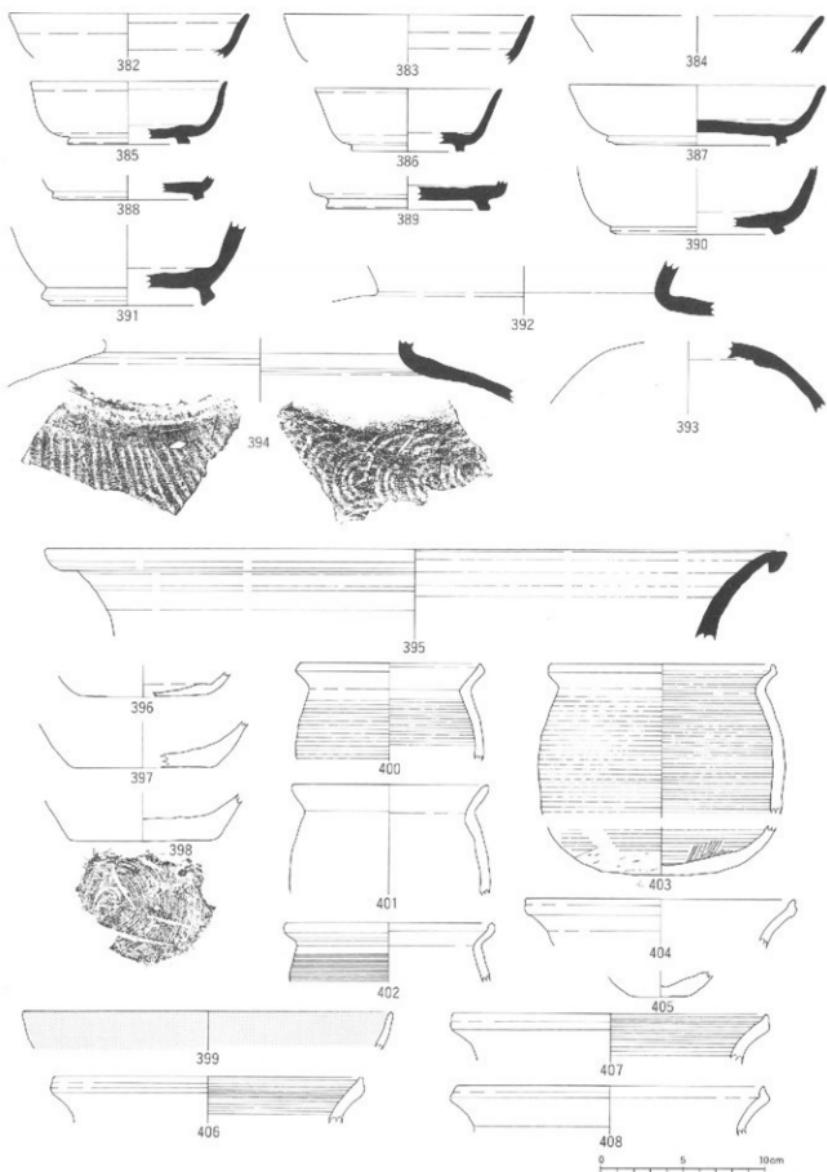
SI-46(310~336)  
SI-47(337~349)



SI-47(350~368)  
SI-48(369~381)

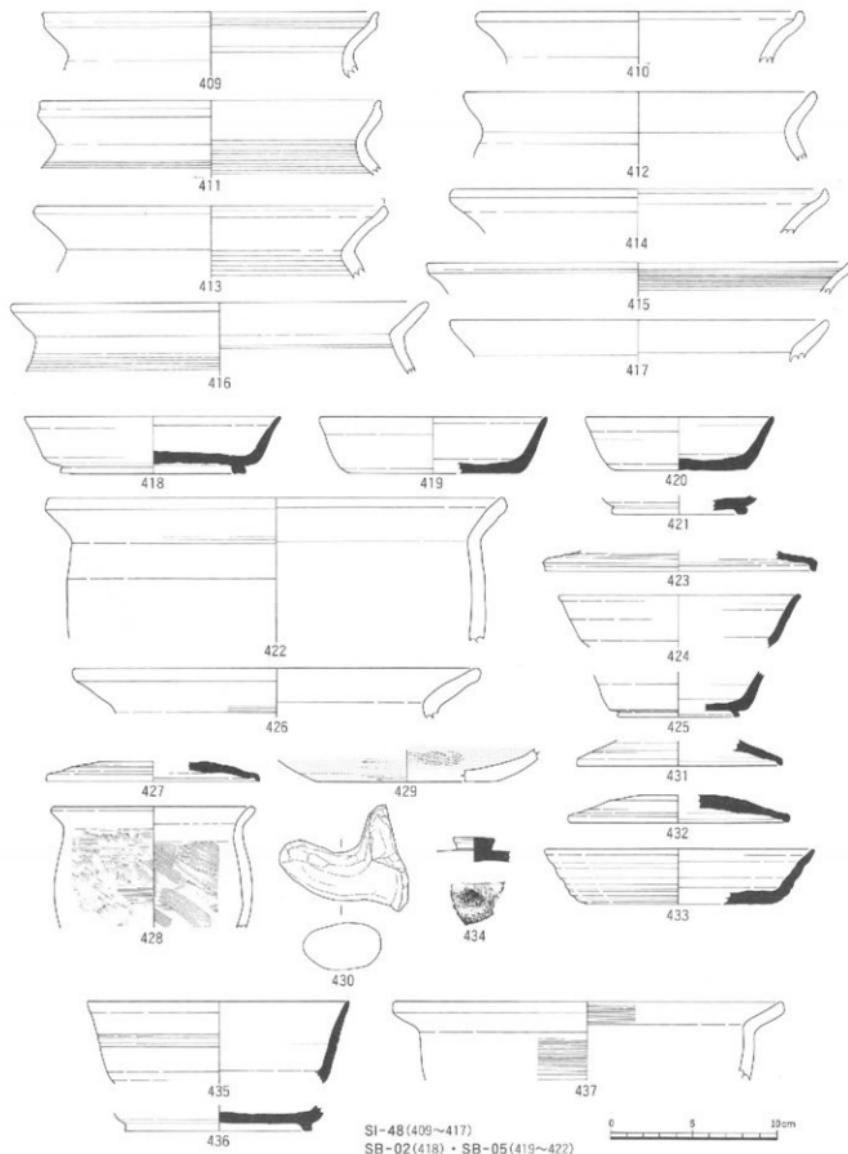
第58図 整穴住居跡出土遺物 (S=1/3)



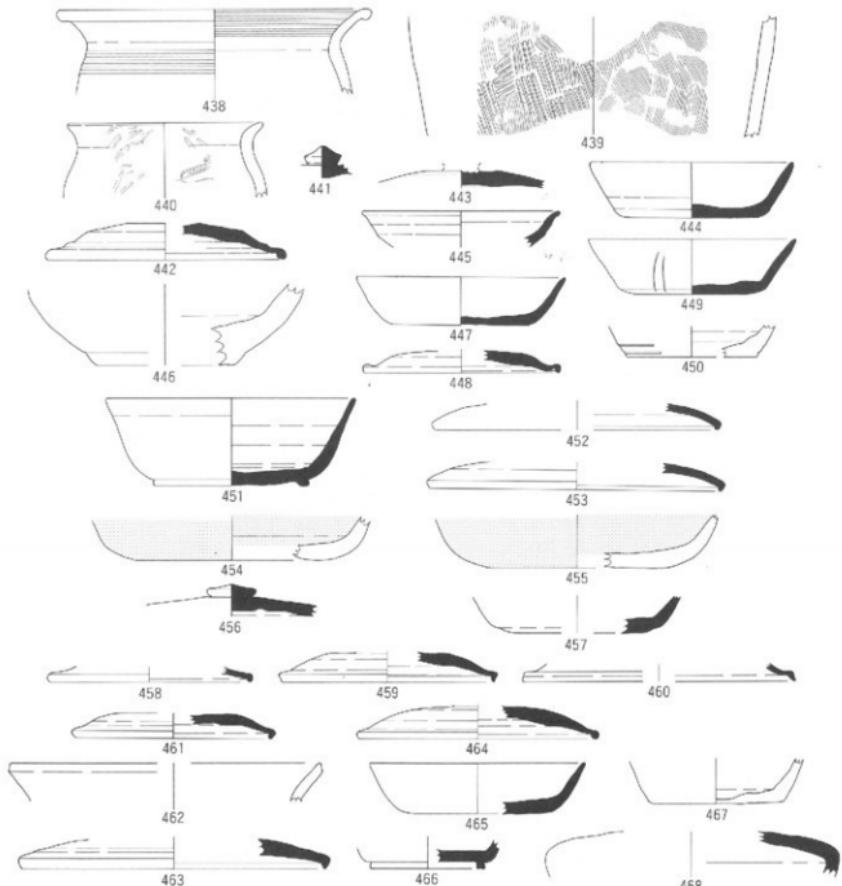


SI-48(382~408)

第59図 塗穴住居跡出土土器 (S=1/3)



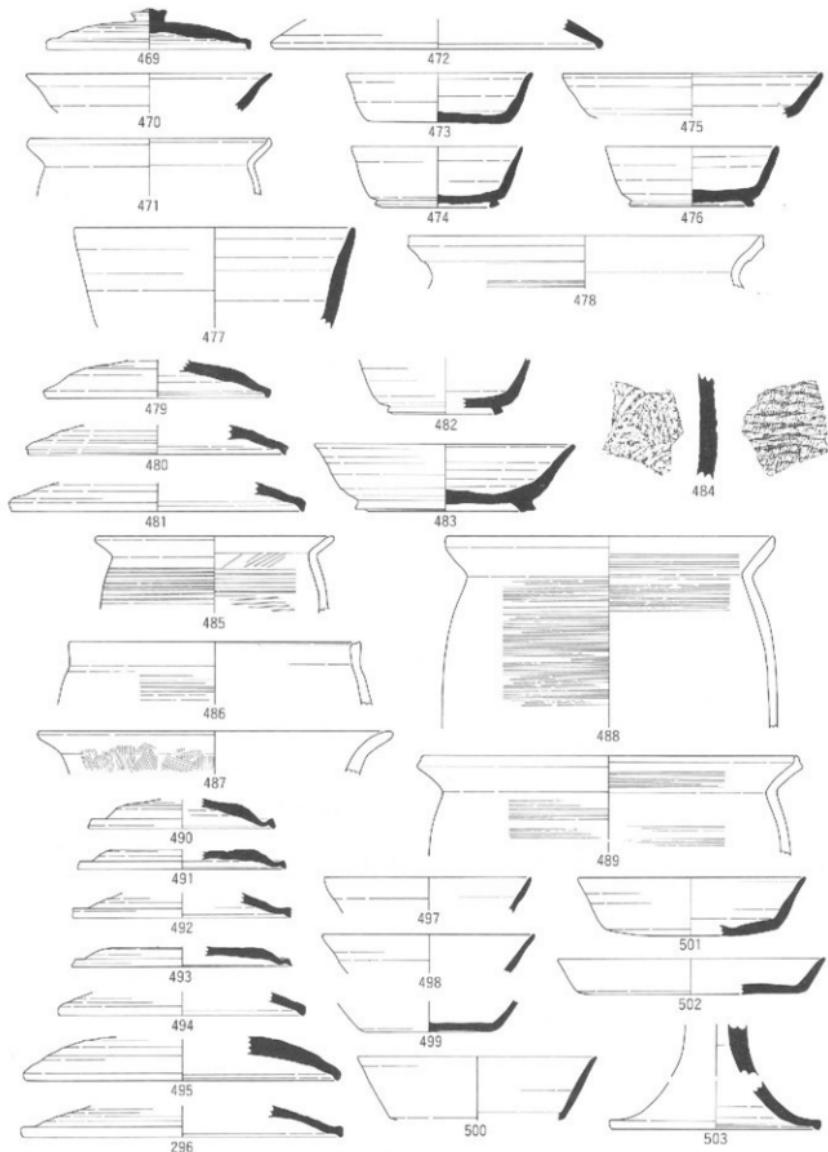
第60図 積穴住居跡・掘立柱建物柱穴出土土器 (S=1/3)



SB-14(439) • SB-24(438)  
 SB-21(440) • SB-31(441)  
 SB-34(442) • SB-36(443~445)  
 SB-37(446) • SB-46(447)  
 SB-47(448~451) • SB-48(452~453)  
 SB-50(454~457) • SB-55(458~468)

0 5 10cm

第61図 振立柱建物柱穴出土土器 (S=1/3)

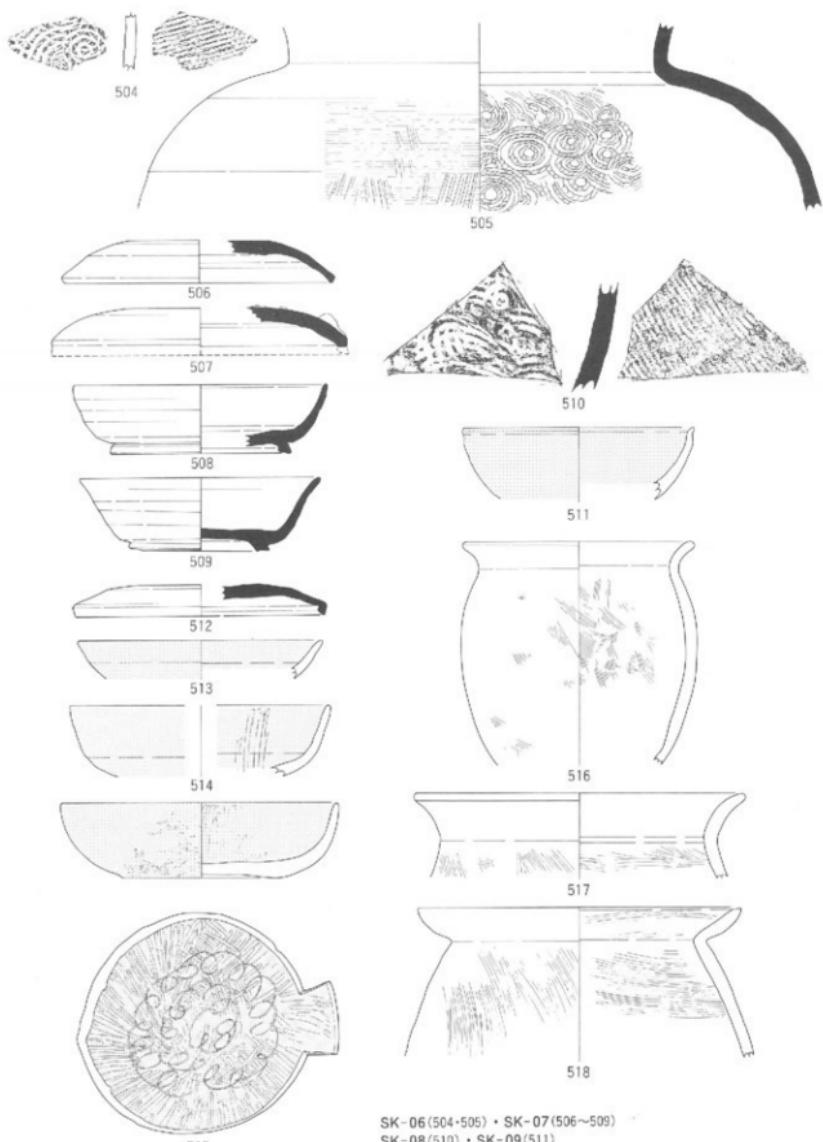


SK-01(469~471)・SK-02(472~474)

SK-03(475)・SK-04(476~478)

SK-05(479~489)・SK-06(490~503)

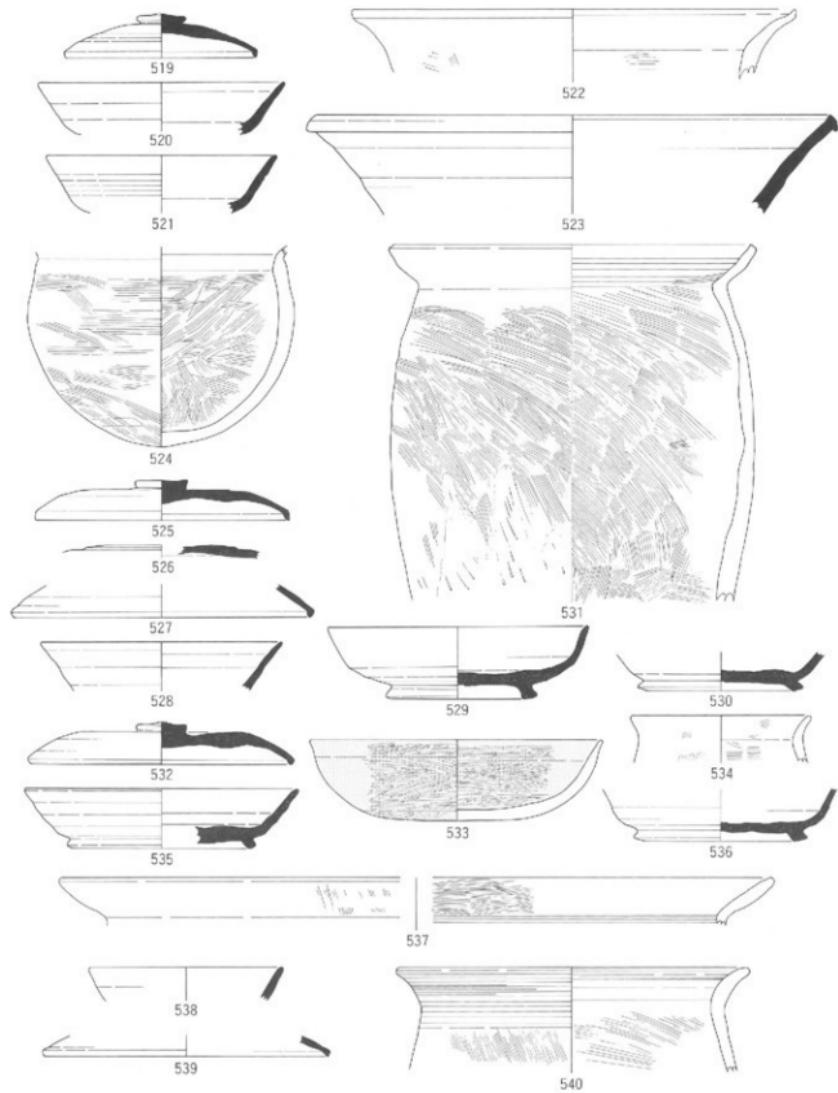
第62図 土坑出土土器 (S=1/3)



SK-06(504・505)・SK-07(506～509)  
 SK-08(510)・SK-09(511)  
 SK-10(512～518)

0 5 10cm

第63図 土坑出土土器 ( $S=1/3$ )



SK-11(519~522)・SK-12(523・524)

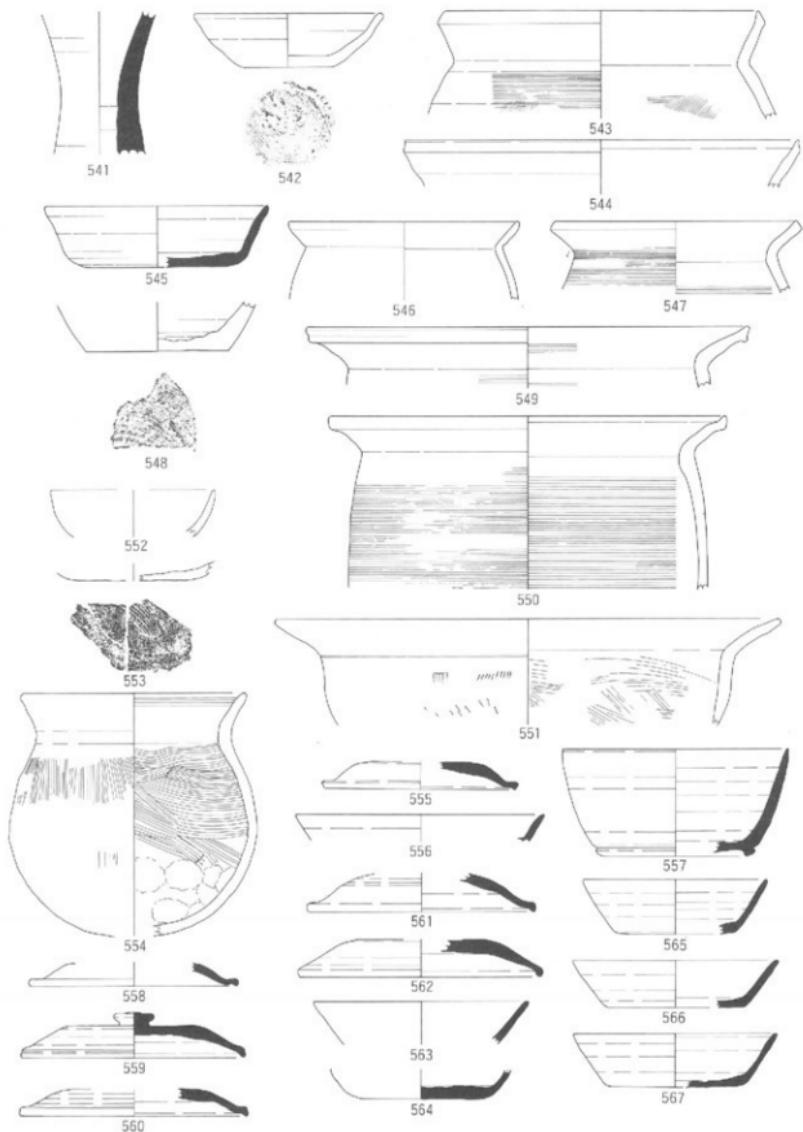
SK-14(525~531)・SK-15(532)

SK-16(533・534)・SK-17(535~537)

SK-18(538)・SK-19(539~540)



第64図 土坑出土土器 (S=1/3)



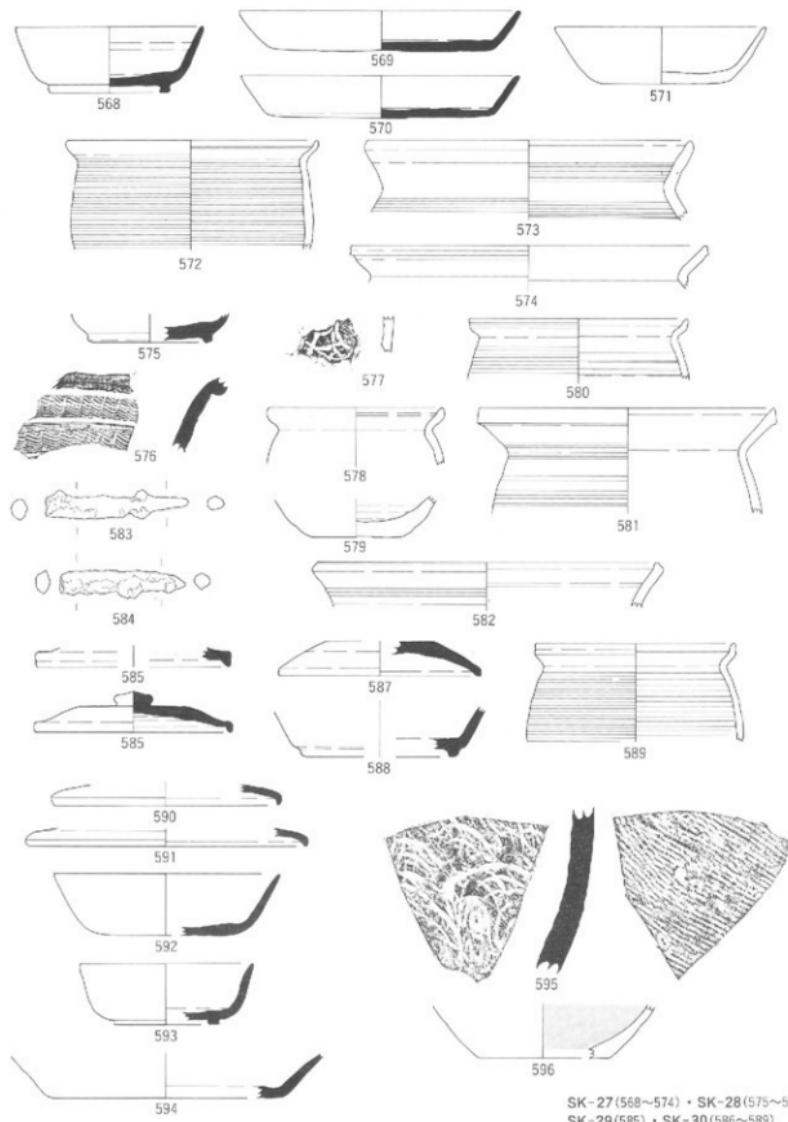
SK-20(541・542)・SK-21(543・544)

SK-22(545)・SK-23(546～550)

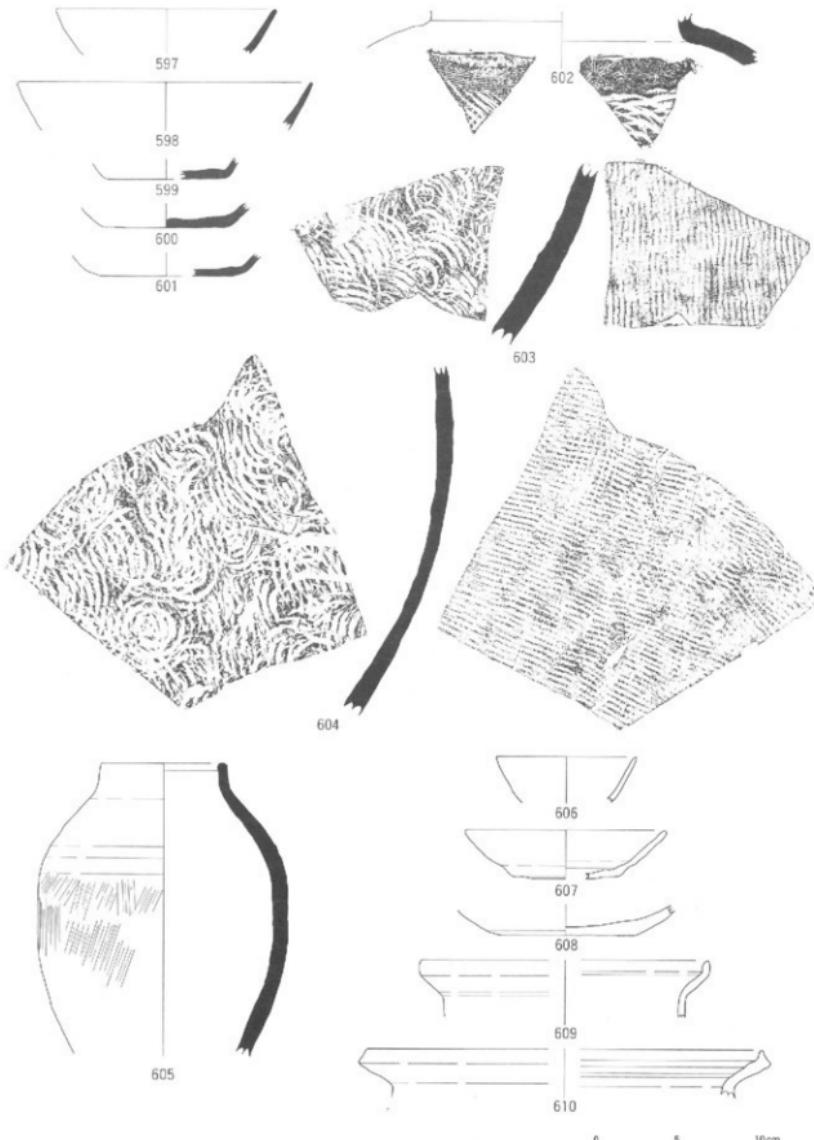
SK-24(551)・SK-25(552～554)

SK-26(555～557)・SK-27(558～567)

第65図 土坑出土土器 (S=1/3)



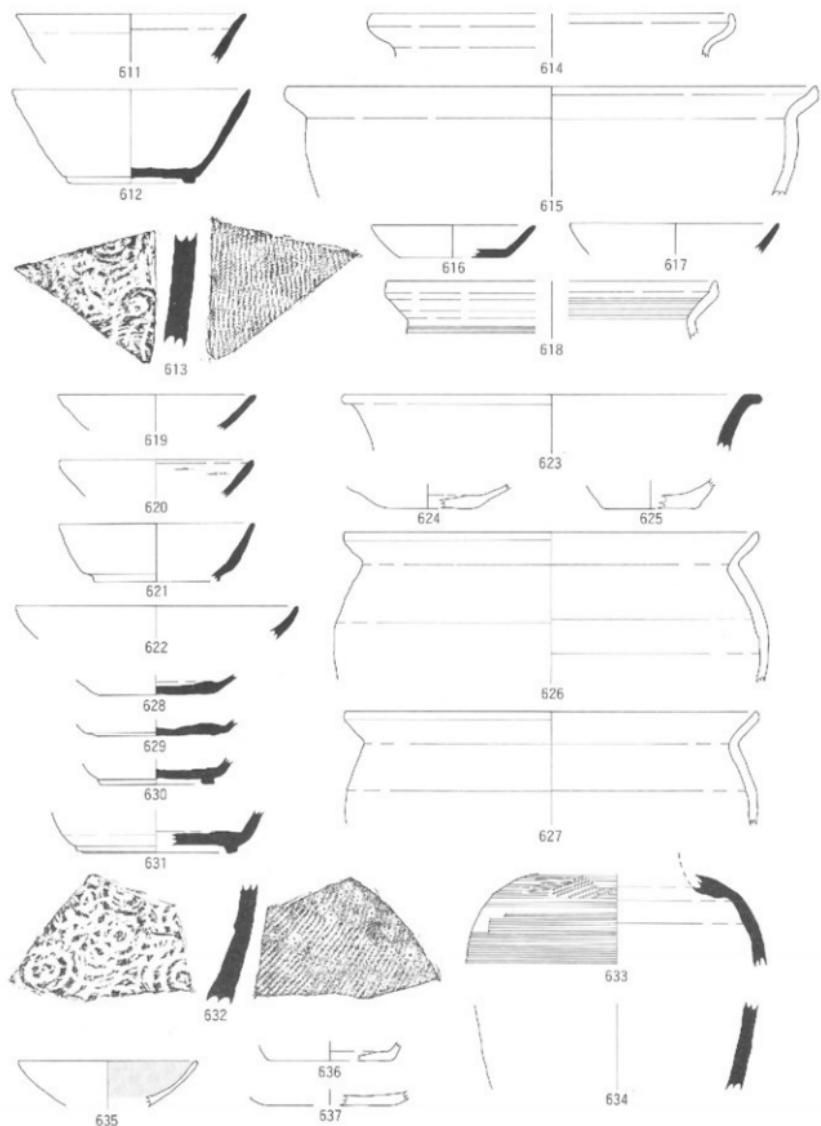
第66図 土坑出土遺物 (S=1/3)



SK-33(597~610)



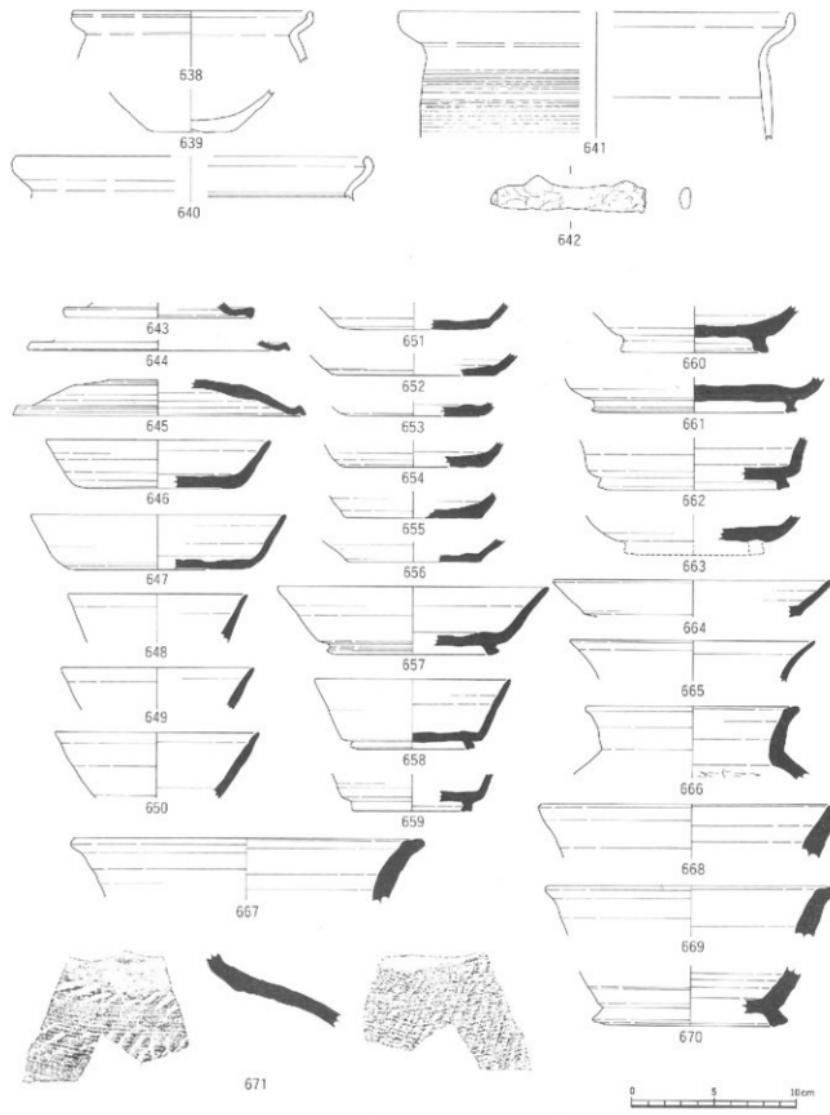
第67図 土坑出土土器 (S=1/3)



SK-34(611~615)・SK-35(616)  
SK-36(617・618)・SK-37(619~627)  
SK-38(628~637)

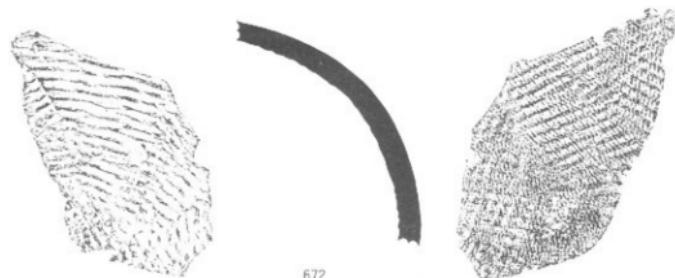
第68図 土坑出土土器 (S=1/3)



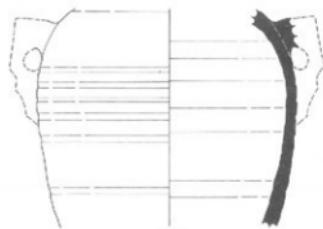


SK-3B(638~642)  
SD-01(643~671)

第69図 土坑・溝出土遺物 (S=1/3)



672



673



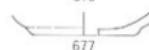
674



675



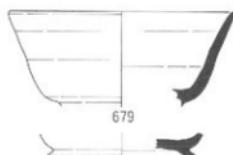
676



677



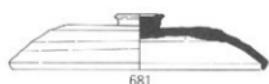
678



679



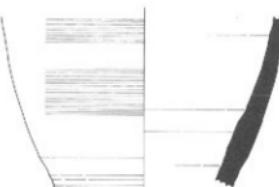
680



681



683

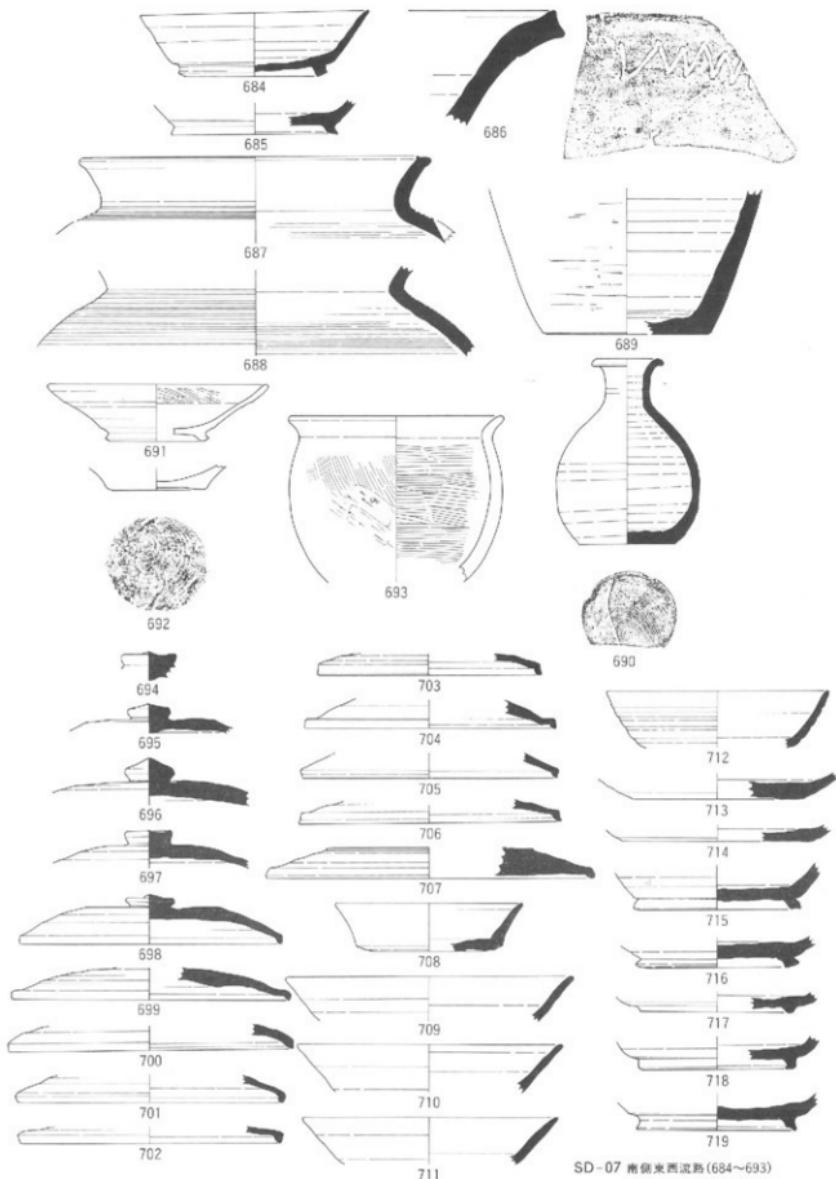


682

SD-01(672~677)・SD-02(678)  
 SD-03(679~680)・SD-04(681)  
 SD-05(682)・SD-06(683)



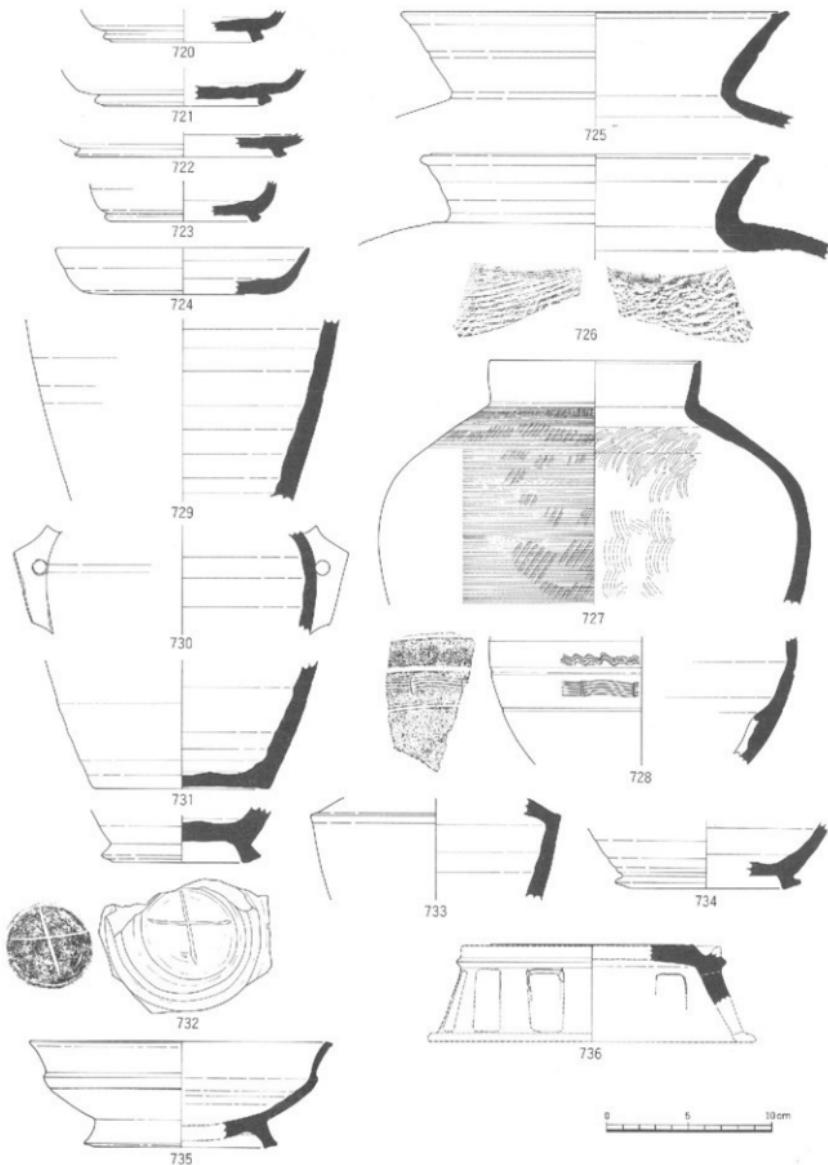
第70図 溝出土遺物 (S=1/3)



SD-07 南側東西流路(684~693)  
北側南北流路(694~719)

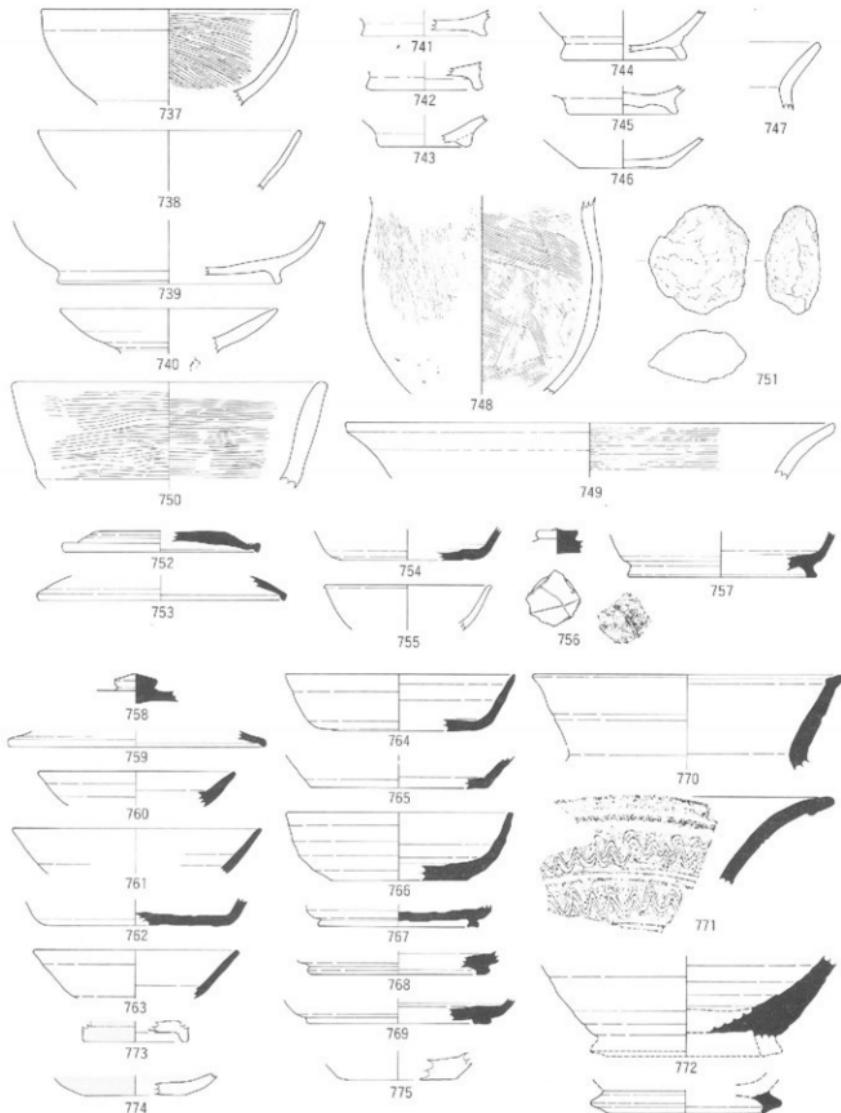
第71図 溝出土土器 (S=1/3)

0 5 10cm



SD-07 北側南北流路(720~736)

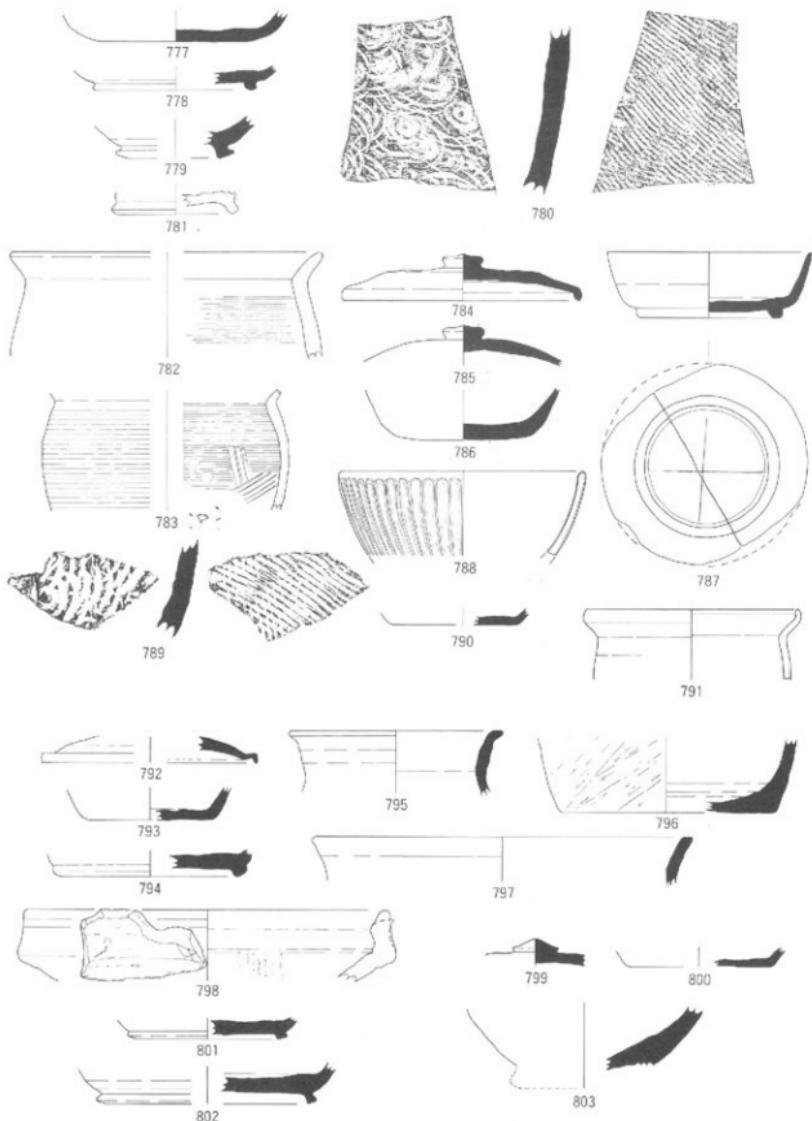
第72図 溝出土土器 (S=1/3)



SD-07(737~751)・SD-08(752~755)  
SD-09(756)・SD-10(757)  
SD-11(758~775)・SD-12(776)

0 5 10cm

第73図 溝出土遺物 (S=1/3)

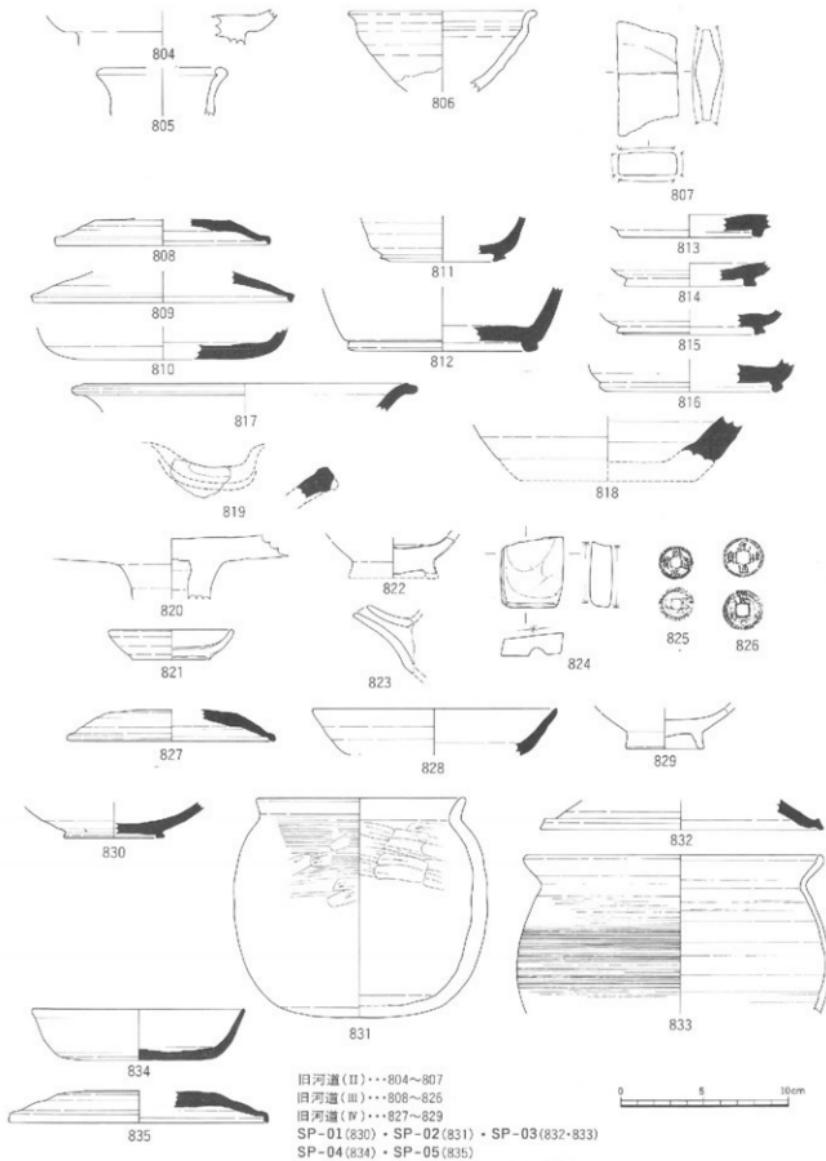


SD-13(777~781)・SD-14(782)  
 SD-15(783)・SD-16(784~787)  
 SD-17(788)・SD-18(789~790)  
 SD-29(791)

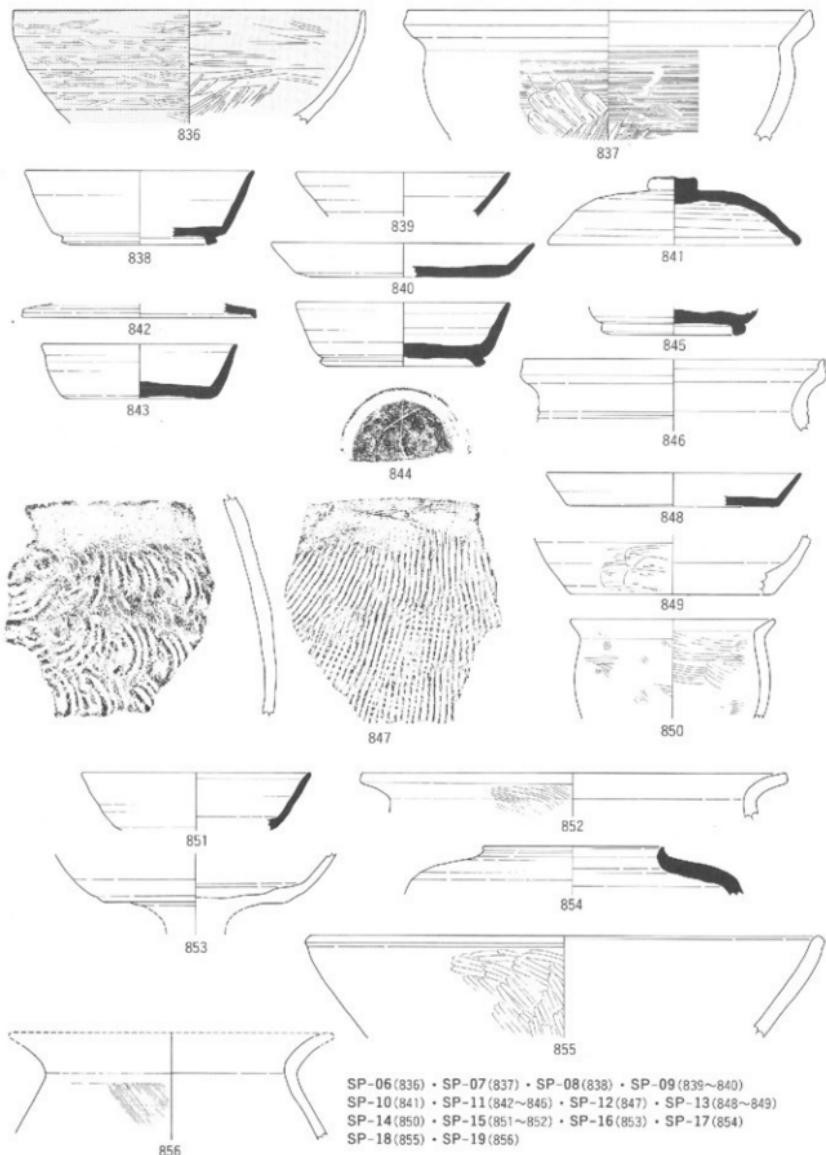
旧河道(I)…792~798  
 旧河道(II)…799~803

0 5 10cm

第74図 溝・旧河道跡出土遺物 (S=1/3)

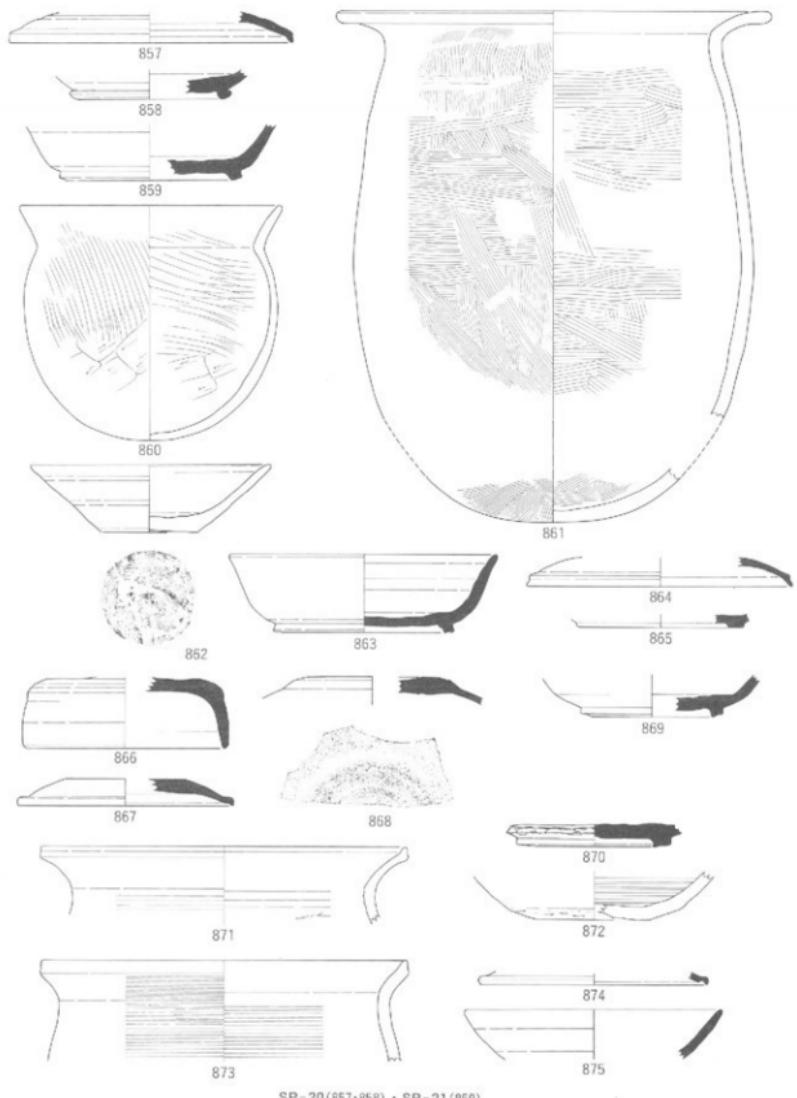


第75図 旧河道路・ピット出土遺物 (S=1/3)



第76図 ピット出土土器 (S=1/3)

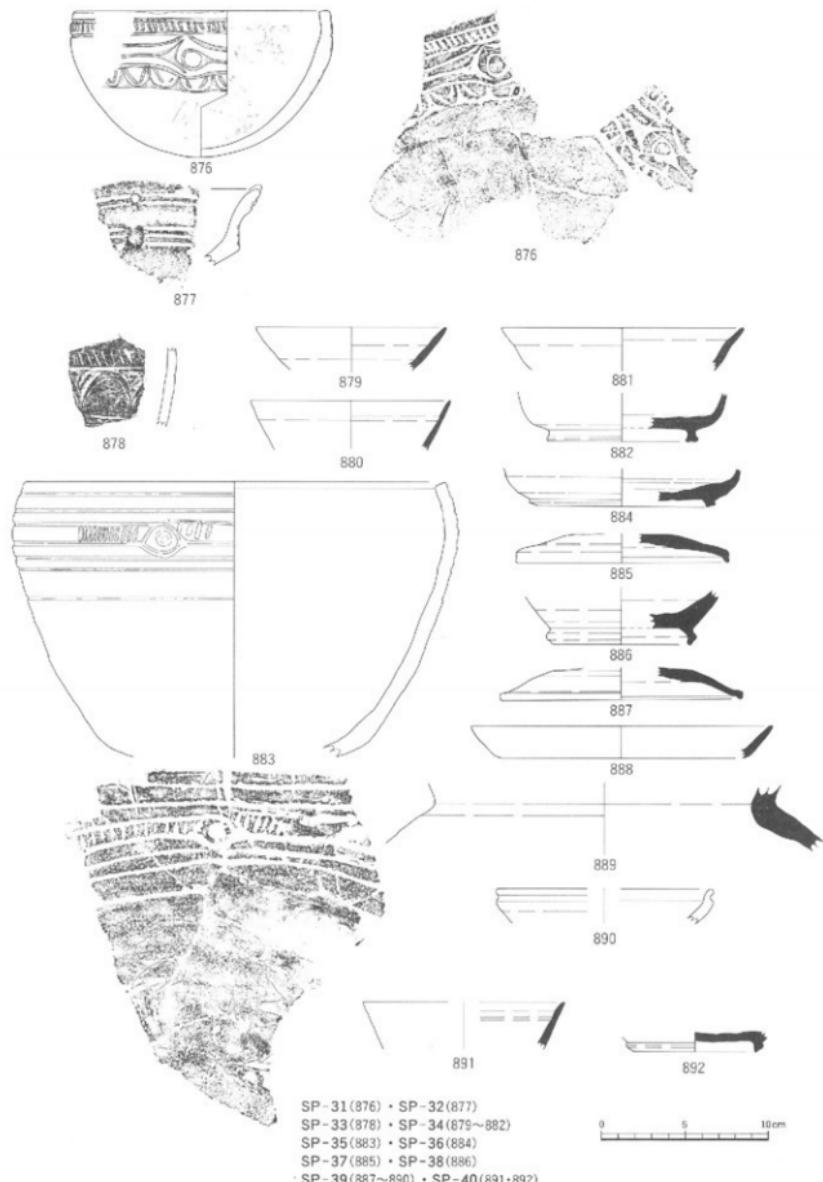




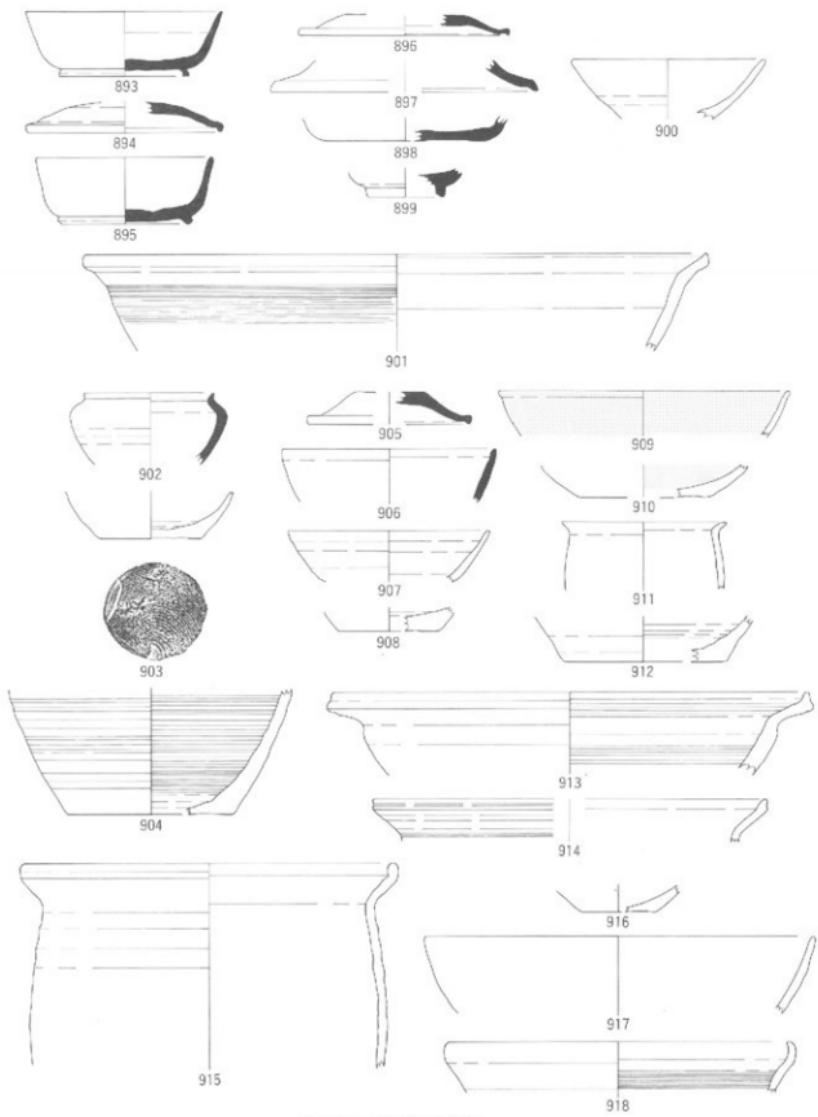
SP-20(857・858)・SP-21(859)  
 SP-22(860・861)・SP-23(862)  
 SP-24(863)・SP-25(864・865)  
 SP-26(866・867)・SP-27(868・869)  
 SP-28(870・872)・SP-29(873)  
 SP-30(874・875)

0 5 10cm

第77図 ピット出土土器 (S=1/3)



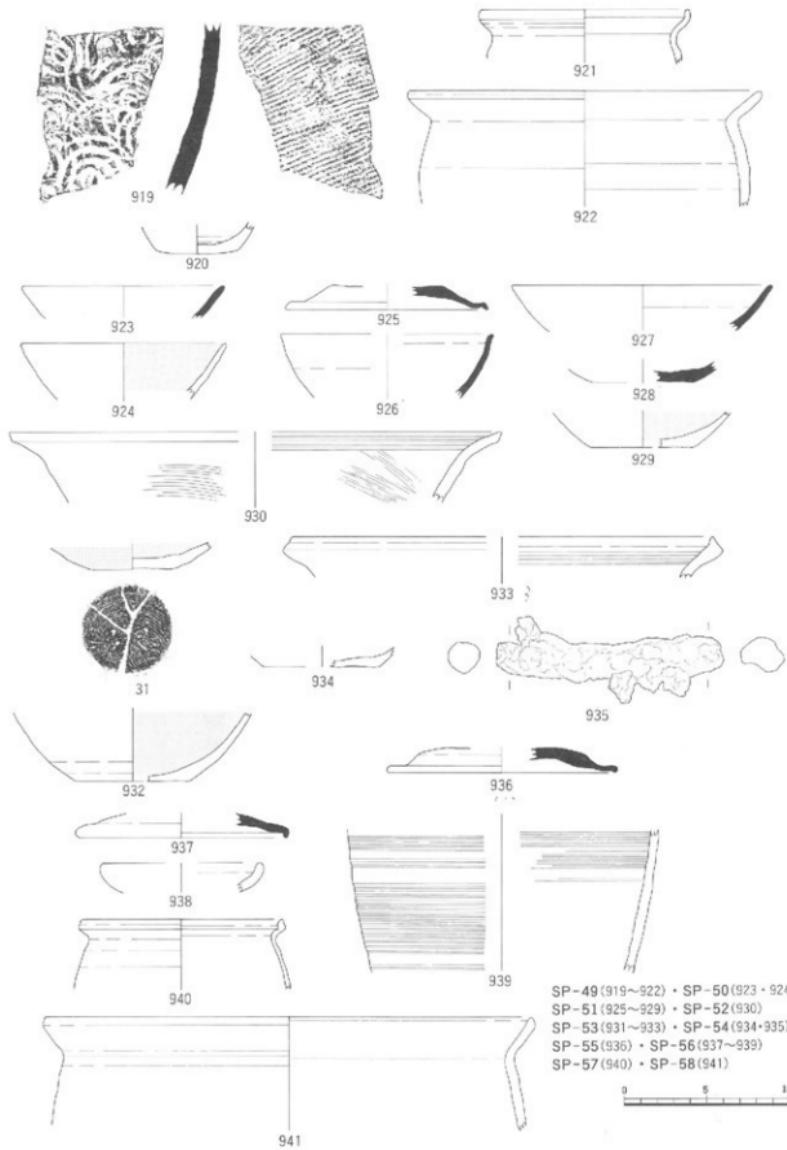
第78図 ピット出土土器 (S=1/3)



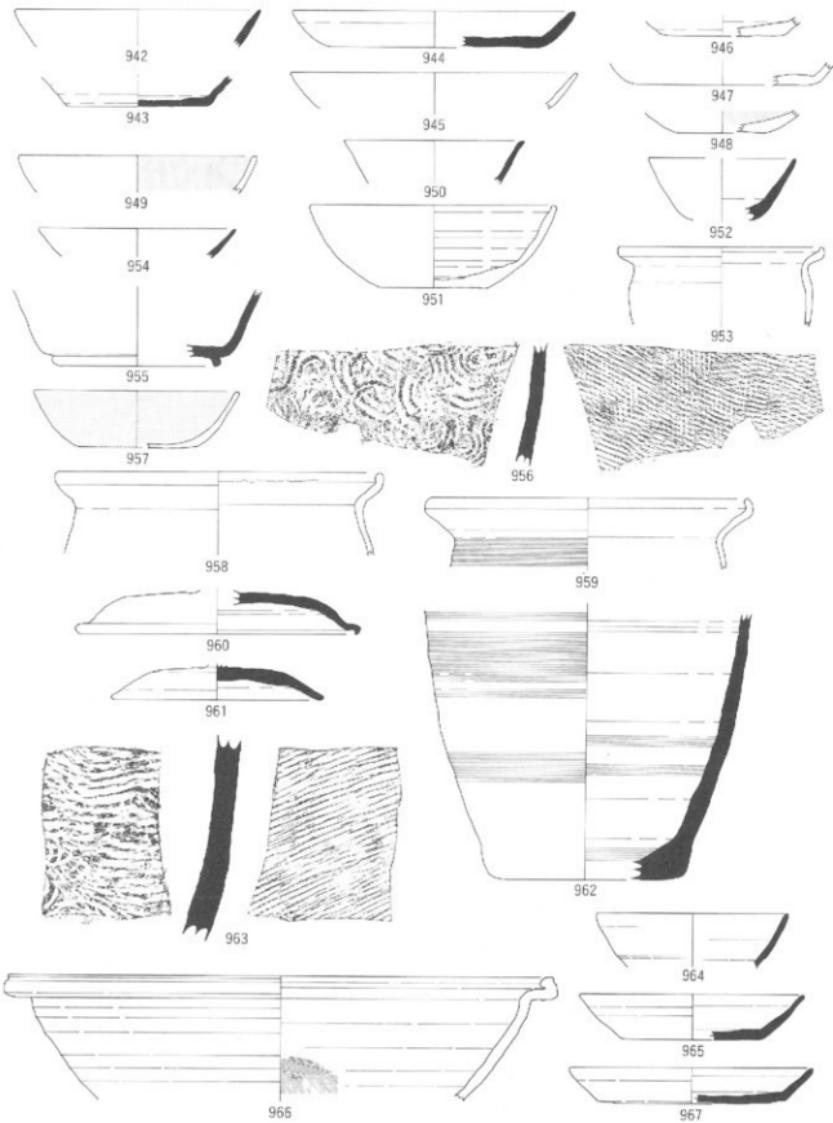
SP-41(893) • SP-42(894)  
 SP-43(895) • SP-44(896~900)  
 SP-45(901) • SP-46(902~904)  
 SP-47(905~915) • SP-48(916~918)

0 5 10cm

第79図 ピット出土土器 (S=1/3)



第80図 ピット出土遺物 (S=1/3)



SP-59(942~948)・SP-60(949)  
 SP-61(950~951)・SP-62(952~953)  
 SP-63(954~959)・SP-64(960)  
 SP-65(961)・SP-66(962)・SP-67(963)  
 SP-68(964)・SP-69(965)・SP-70(966)  
 SP-71(957)

第81図 ピット出土土器 (S=1/3)

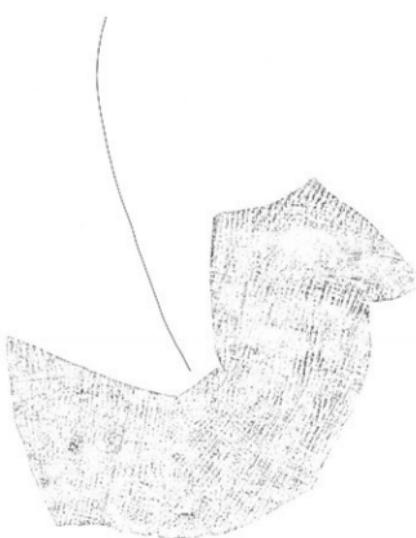
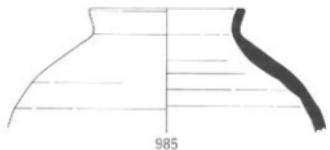
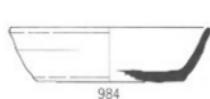
0 5 10cm



SX-1(968~971)・SX-2(972)  
 SX-3(973)・SX-4(974~977)  
 SX-5(978~980)・SX-6(981~982)  
 SX-7(983)

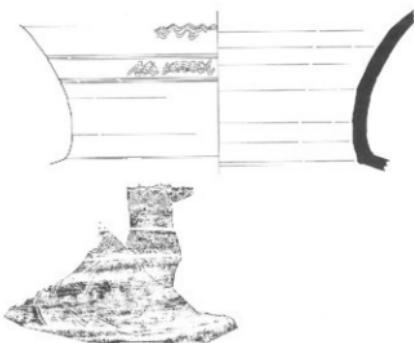
0 5 10cm

第82図 SX出土土器 (S=1/3)

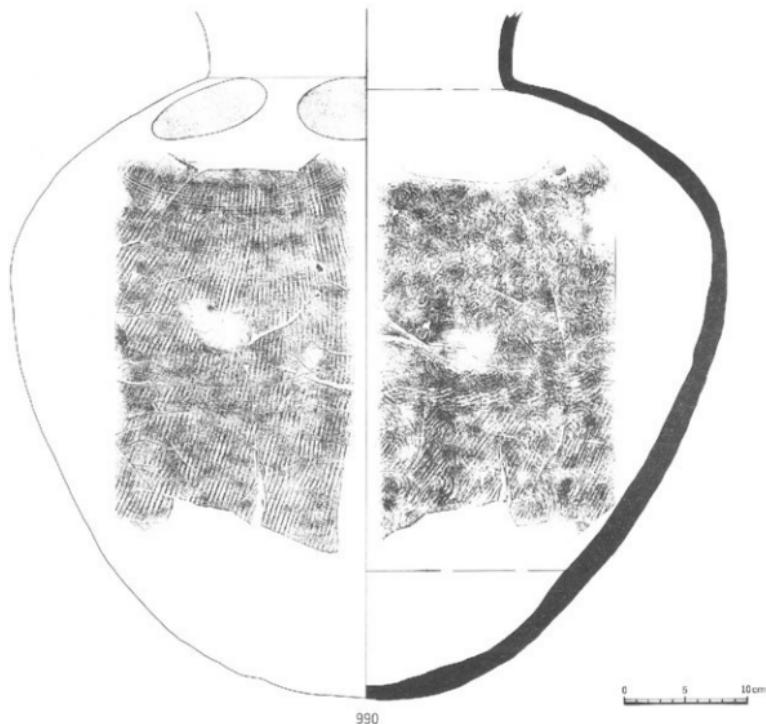


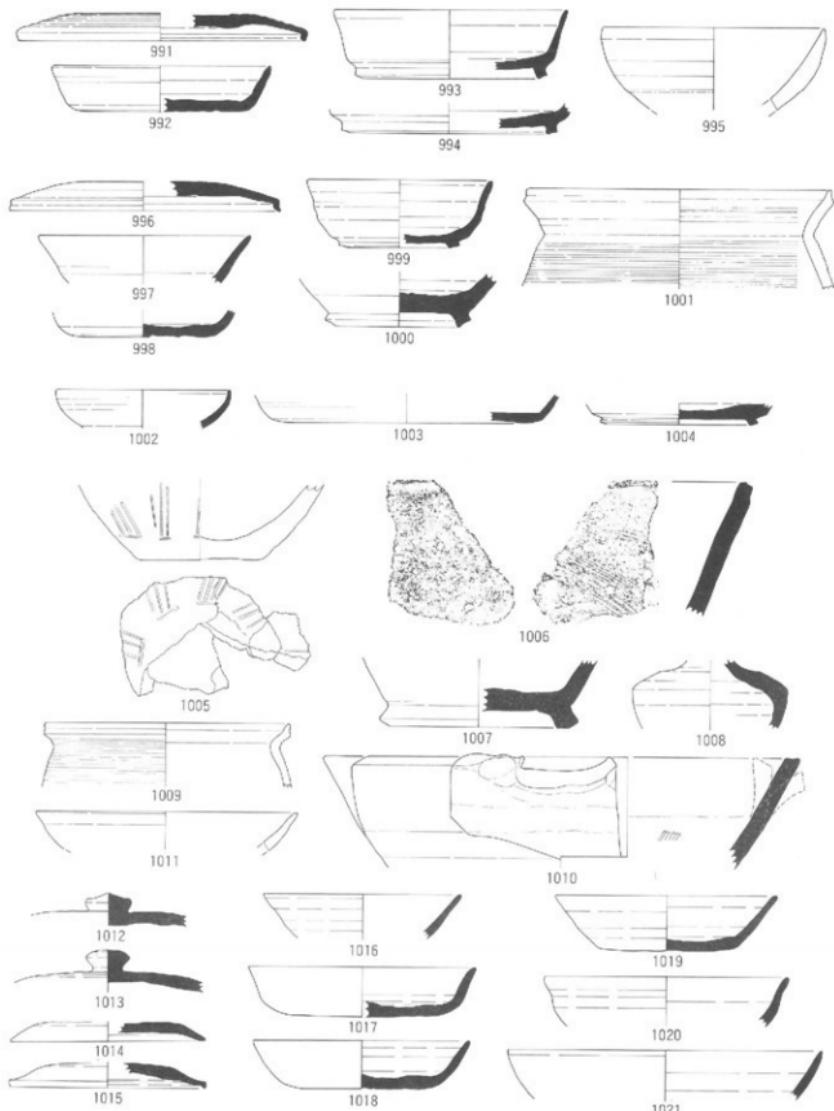
0 5 10cm

第83図 南端土器溜まり出土土器 (S=1/3)



989

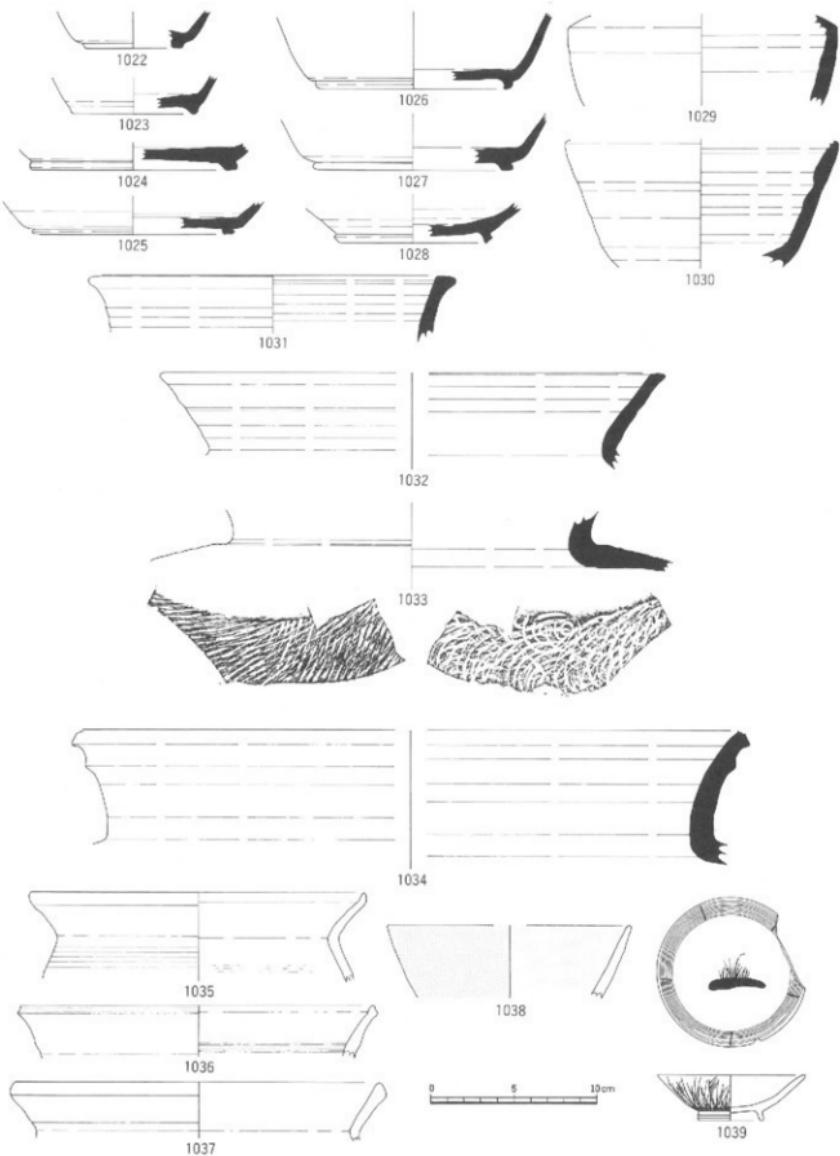
第84図 南端土器溝まり出土土器 ( $S=1/4$ )



A 区(991~995) • B 区(996~1001)  
C 区(1002~1004) • D 区(1005~1011)  
E 区北側(1012~1021)

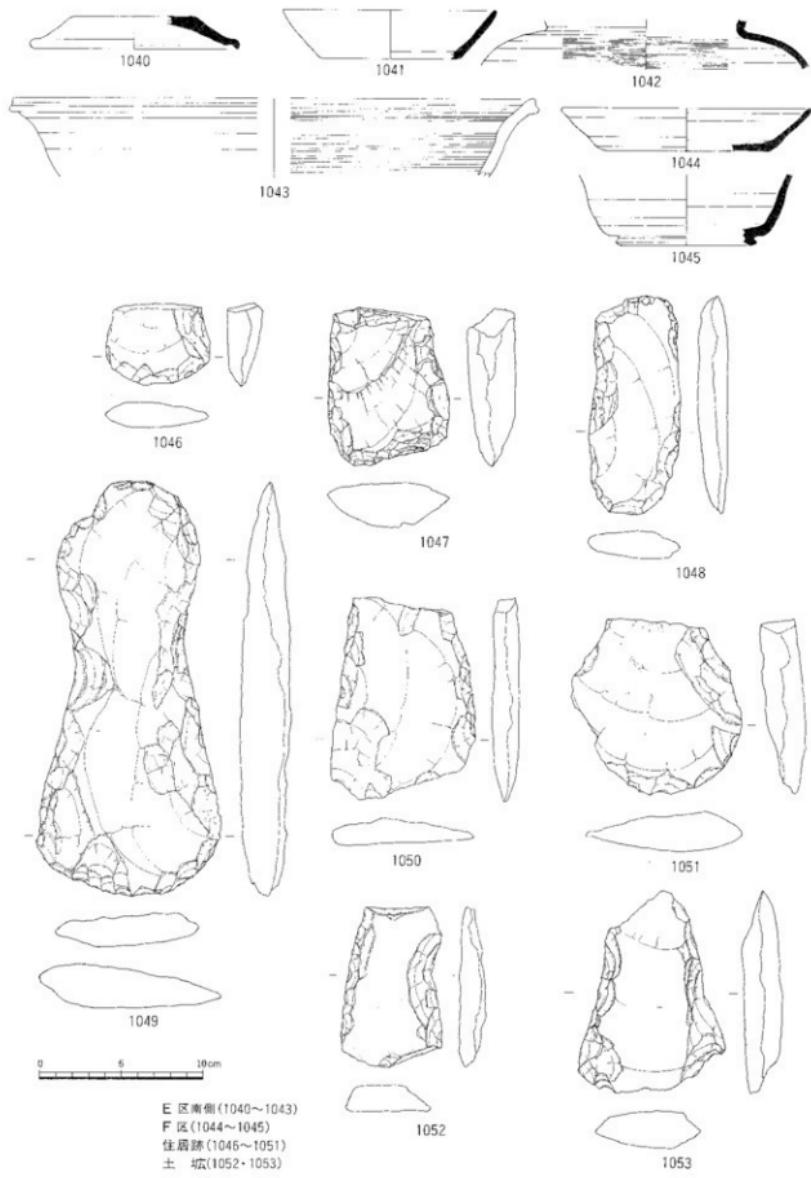
0 5 10 cm

第85図 包含層出土土器 (S=1/3)

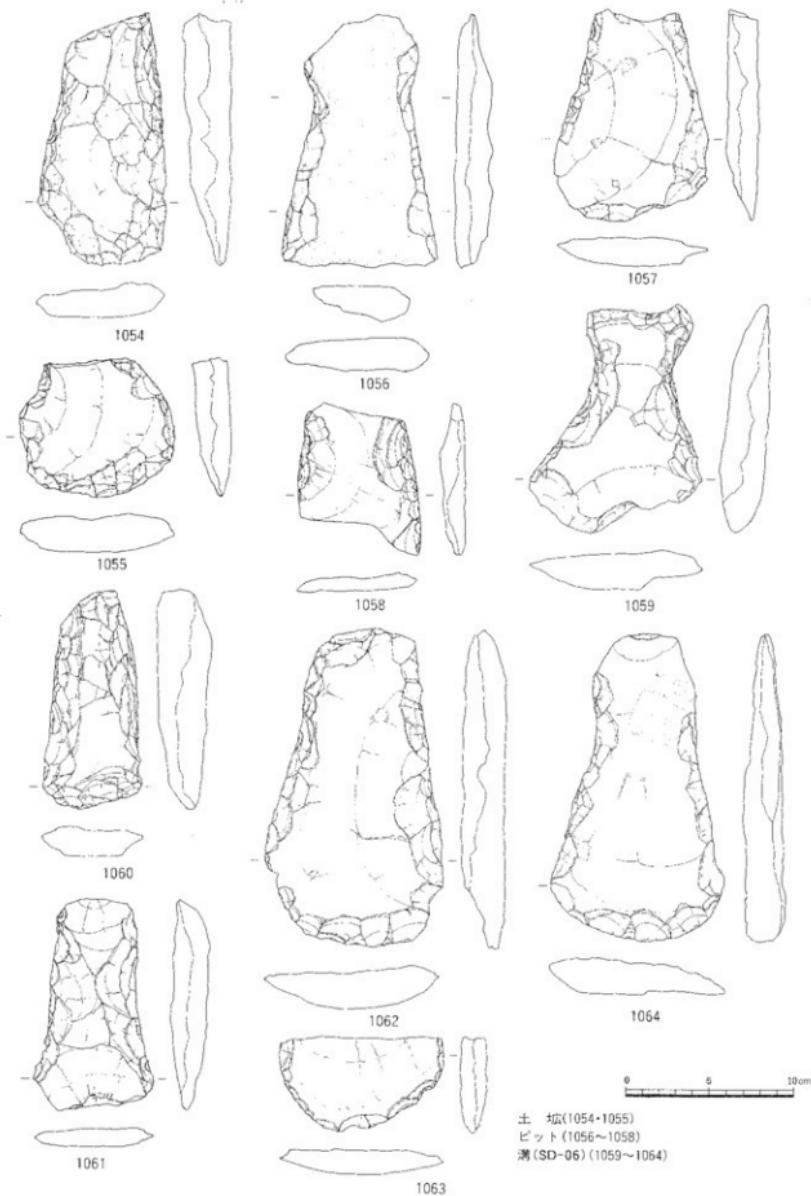


E区北面(1022~1039)

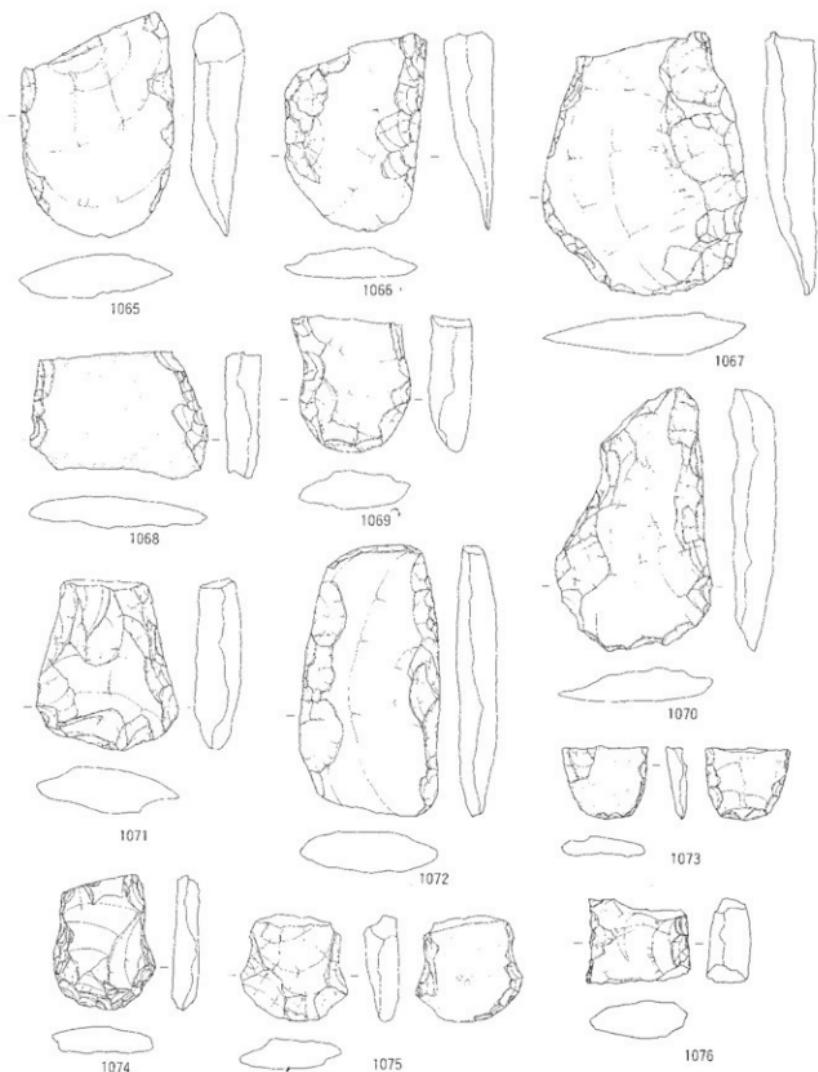
第86图 包含层出土土器 ( $S=1/3$ )



第87図 包含層出土土器・石器 (S=1/3)



第88図 石器 ( $S=1/3$ )



溝(SD-07)(1065~1067)

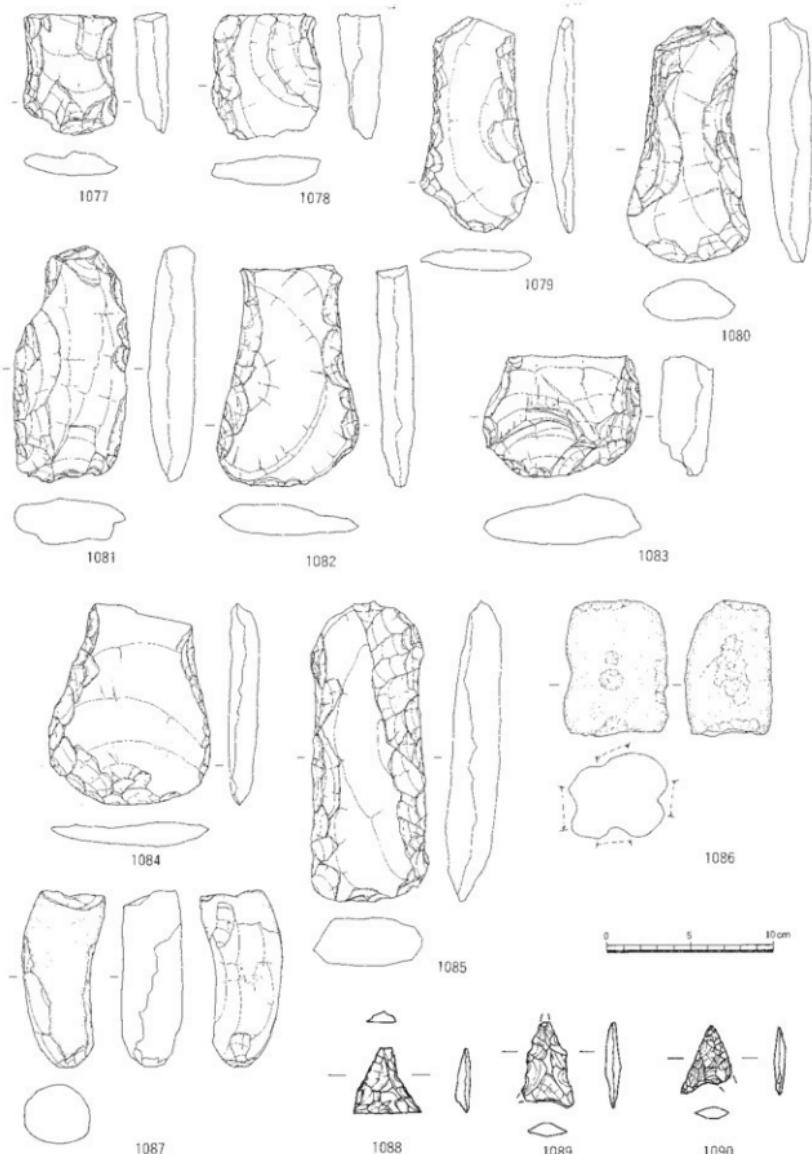
溝(SD-11)(1068)

近世溝(1070~1072)

包含層(1073~1076)



第89図 石 器 (S=1/3)



第90図 石 器 ( $S=1/3$ )

$(S=1/3 \cdots 1077 \sim 1087)$   
 $(S=1/2 \cdots 1088 \sim 1090)$

遺物観察表

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎土	遺存	備 考
				上部頭部	体 部	底 部					
40	1	甕	C・20.9 N・18.0 W・20.6	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		a・淡茶褐色 b・淡褐色	並	M-3 S-1 赤色粒	1/6	
	2	椀	C・16.9	摩耗			a・赤彩 b・赤彩	良	M-1	1/6	覆土
	3	甕	C・12.2 N・11.4 W・13.6	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ		a・暗茶褐色 b・暗褐色	良	M-1 S-2	1/6	カマド南
	4	甕(底部)	B・8.8			a・摩耗 b・ナデ	a・暗茶褐色 b・明茶褐色	並	L-1 M-3 赤色粒	2/3	覆土
	5	坏蓋	C・15.9 H・1.35	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・灰色 b・灰褐色	良	S-1	完	端部自然釉
	6	瓶	B・15.0		a・カキ目 b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・暗茶褐色 b・暗茶褐色	良	L-2 M-3	1/6	カマド全面煤付着
	7	甕(底部)	W・14.4 B・6.0		a・ケズリ b・ロウカスリ	a・ヘラ剥し b・押圧痕	a・暗茶褐色 b・淡茶褐色	良	L-1 M-2	1/2	カマド
	8	坏蓋	C・16.3	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・灰白色 b・淡灰色	良	M-1 S-1	1/5	重焼痕 内面自然釉
	9	坏蓋	C・16.7 H・2.6	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・灰綠色 b・灰色	良	M-1 S-1	完	外面自然釉
	10	坏	C・14.7 B・10.4 H・3.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ剥し b・ナデ	a・灰綠色 b・淡灰色	良	M-1 S-1	完	重焼痕
	11	坏	C・16.4 B・(12.6)	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・灰色 b・淡灰色	良	M-1	小片	
	12	坏	C・17.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰綠色	良	S-1	小片	
	13	甕	C・21.3	a・ナデ b・ナデ	a・ハナコ付 b・鞆(ハナ)		明黃褐色	並	M-2 S-2 赤色粒	1/8	
	14	壠	C・26.5	a・ナデ b・ハナコ付	a・ハケ b・ハケ		淡橙褐色	並	L-2 M-2 赤色粒多	1/7	傾き修正要
	15	甕	C・22.9 N・19.0 W・23.0	a・ナデ b・ナデ	a・ハナコ付 b・同上		橙褐色	良	M-2 L-3	1/2	
	16	甕(底部)	B・1.8		a・タタキ b・ハナコ付		a・棕褐色 b・淡橙色	並	L-2 M-1	1/3	カマド付近
41	17	甕	C・23.6 N・18.4 W・22.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目	a・ハナコ付 b・ハナコ付	a・淡橙褐色 b・棕褐色	良	L・M・S-1 赤色粒	1/3	カマド付近
	18	甕	C・13.2 N・11.8	a・摩耗 b・摩耗	a・摩耗 b・摩耗		a・淡黃褐色 b・明黃褐色	並	S・M・L-1	1/7	
	19	甕	C・14.3 N・11.4 W・13.8	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・褐色 b・棕褐色	並	S・M-1	1/4	
	20	甕	C・13.2 N・11.6	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡橙褐色	良	L・M-1 S-2	1/4	
	21	壠	C・31.2 N・30.1	a・ナデ b・ハナコ付	a・ハケ b・ハケ		a・淡橙色 b・橙色	並	M-1 S-2	1/4	カマド付近
	22	坏蓋	C・18.2	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・淡黃灰色 b・淡灰色	良	M-1	1/4	外面自然釉
	23	坏蓋	C・16.5	a・ナデ b・ナデ			a・淡褐灰色 b・灰色	並	M-1 S-2	小片	
	24	坏	C・15.5 B・(11.8)	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡黃灰色	並	L-1 M-2	1/5	
	25	有台坏	B・12.9		a・ナデ b・ナデ	a・ハナコ付 b・ナデ	灰色	良	L-1 M-2	1/2	胴部重焼痕

國版 番号	上器 番号	器種 形式	法量(c m)	調 整			色 調	燒成	胎 土	遺存	備 考
				上縁部	体 部	底 部					
41	26	壺	C・12.8 N・11.0 W・20.0 H・18.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・タタキ b・タタキ	a・暗褐色 b・淡青灰色	良	M-2	1周剥 落2/3	
	27	榦	C・16.4	a・ナデ b・ナデ	a・ミガキ b・ミガキ		赤褐色	並	M-1 砂質	1/4	内外面赤彩
	28	坏蓋			a・ケズリ b・ナデ		灰色	良	L-1 M-2	1/2	
	29	瓶 (底部)	B・10.2		a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	a・暗灰色 b・灰色	良	L-1 M-2	1/4	内外面一部に 自然釉付着
	30	甕	C・15.0 N・13.8	a・ナデ b・ナデ	a・カキ口 b・カキ口		a・暗褐色 b・橙褐色	良	M-3	1/6	
42	31	坏蓋	C・13.4	a・ナデ b・ナデ			淡灰色	並	M-1	小片	
	32	坏 (底部)	B・7.0			a・ケズリ b・ナデ	a・暗灰色 b・灰色	良	L-1 M-2	2/3	
	33	有台坏	C・15.4 B・11.0 H・3.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ出し b・ナデ	灰色	良	L-1 M-2	1/2	
	34	甕	C・19.0 N・15.8	a・ナデ b・カキ口	a・摩耗 b・カキ口		淡橙褐色	並	L-1, M-3 赤色粒	小片	
	35	甕	C・21.1 N・17.2	a・ナデ b・カキ口	a・カキ口 b・カキ口		明橙褐色	並	L-1	小片	
	36	石製品	L・6.4 W・6.8 D・2.2		摩耗						軽石製 20.4 g 穿孔2ヶ所
	37	甕	C・14.0 N・12.6 W・12.8	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ケズリ		a・淡橙褐色 b・暗橙褐色	並	L-2 M-3	1/3	カマド
	38	坏蓋	C・(19.2)	a・ナデ b・ナデ			淡灰色	良	M-2	小片	外面自然釉
	39	坏蓋	C・16.2	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	M-1	小片	外面自然釉
	40	坏蓋	C・16.9 H・3.2	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	良	L-1 M-2	4/5	
43	41	坏蓋	C・17.2 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	良	L-1 M-2	2/3	
	42	蓋鉢	W・3.4		a・ナデ		灰色	良	M-1	完	外面自然釉
	43	坏	C・12.8 B・5.5 H・3.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ出し b・ナデ	a・灰色 b・淡灰白色	並	M-2	完	重燒痕 外面自然釉
	44	坏	C・13.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・灰褐色 b・淡灰褐色	並	M-2	小片	
	45	坏	C・15.6 B・(10.0) H・(3.7)	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	良	L-1 M-2	1/4	
	46	坏	C・14.6 B・9.6 H・3.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ出し b・ナデ	a・淡褐色 b・淡黃灰色	不良	S-2	1/4	
	47	有台坏	C・14.7 B・8.2 H・4.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	灰色	並	L-1 M-2	完	
	48	有台坏	C・15.4 B・10.7 H・6.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・黒灰色 b・暗褐灰色	並	L-1 M-1	1/6	
	49	有台坏 (底部)	B・9.3			a・ケズリ b・ナデ	a・暗灰色 b・淡灰色	並	L-1 M-2	1/5	
	50	有台坏	C・17.7 B・12.0 H・5.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ出し b・ナデ	淡黄灰色	不良	M-2	1/2	
	51	榦	C・12.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ口 b・ミガキ			並	S, M-1	1/6	内外面赤彩

団版番号	土器番号	器種式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎土	遺存	備考
				口縁部	体部	底部					
42	52	甕	C・12.0 N・10.5 W・(15.0) H・(14.4)	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ, +テ	a・ハケ b・ハケ, +テ	淡橙褐色	並	L, M, S-? 海綿骨片	完	
	53	甕	C・12.0 N・11.0	a・ナデ b・ナデ			a・橙褐色 b・淡橙褐色	並	M-?, S-1 海綿骨片	1/6	
	54	甕	C・12.0 N・11.0 W・12.9	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		淡褐色	良	L, M-3 石英質		
	55	甕		a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・橙色 b・橙褐色	並	S-1	小片	
	56	甕	C・11.4 N・10.6 W・11.6 B・4.0 H・8.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ケズリ+テ	a・ナデ	a・暗褐色 b・暗橙褐色	並	L-2 M-3	1/3	
43	57	甕	C・18.8 N・17.4 W・21.3	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		淡橙褐色	並	L-2 M-3 石英質	1/4	
	58	甕 (底部)			a・ハケ b・ハケ	a・ケズリ	a・鰐鮋-鰐鮋 b・鰐鮋-鰐鮋	並	M, S-3	1/4	
	59	甕	C・20.0 N・14.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡橙褐色	並	M, S-1	小片	
	60	甕	C・22.5 N・18.2 W・18.0	a・ナデ b・ハケ+テ	a・ハケ b・ハケ		明橙褐色	良	M-1 S-2	1/8	
	61	壺	C・36.7	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		淡橙褐色	並	L-1 M-2	1/4	摩耗
	62	壺	C・11.6 B・7.6 H・2.75	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ナデ	a・淡色-褐色 b・淡灰色	並	M-1	1/4	端部内外面 降灰
	63	壺	C・12.8 B・9.6 H・2.65	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	S-1	小片	重燒痕
	64	瓶 (底部)			a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ+テ b・ナデ	a・鰐鮋-鰐鮋 b・淡灰色	並	砂粒少含 完		高台剥離痕
	65	壺 (広口)	C・19.3	a・ナデ b・ナデ			a・淡灰色 b・灰白色	並	M-2	小片	自然釉
44	66	甕	C・26.2	a・ナデ b・ナデ			橙褐色	良	L, M-2	小片	
	67	甕 (底部)			a・タタキ b・タタキ		淡橙褐色	良	M-2	小片	
	68	甕	C・10.4 N・9.5 W・11.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗橙褐色 b・淡橙褐色	良	L-1 M-2	1/3	
	69	环蓋	C・15.3	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・暗灰色	良	S-1	1/6	外面自然釉
	70	环蓋	C・15.7	a・ナデ b・ナデ			a・明灰色 b・灰色	良	S, M-1	小片	端部自然釉
	71	环蓋	C・14.4	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	S, M-1	1/8	外面自然釉 内面黑色粒
	72	环蓋	C・12.2	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	S-1	小片	外面自然釉
	73	环蓋	C・16.4 H・2.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・淡灰色 b・灰白色	良	M-2	完	外面自然釉 黑色粒
	74	壺	C・14.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗灰色 b・灰色	良	S, M-1	小片	内面黑色粒
	75	壺	C・14.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・淡灰色 b・灰色	良	S-1	小片	重燒痕
	76	壺	C・13.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗灰色 b・褐色	並	S-1	小片	

団版 番号	土器 番号	器種 形式	法量 (cm)	調 整 部			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
44	77	坏	C・14.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗灰色 b・灰色	良	S・M-1	小片	内面黒色粒
	78	有台坏	C・14.0 B・ 9.2 W・ 4.5	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ+ナ b・ナデ	a・ヘビ尾+ナ b・ナデ	灰色	良	S-1	1/2	
	79	有台坏 (底部)	B・ 8.4			a・ナデ b・ナデ	a・暗灰色 b・灰色	良	S・M-1	1/8	
	80	橈	C・ 8.5 B・ 5.4 H・ 3.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ尾+ナ b・ナデ	淡橙褐色	並	L・M-1	完	
	81	甕 (底部)				a・ハケ b・ハケ	a・橙褐色 b・褐色	並	M-2 海綿骨片		
	82	壺	C・26.0	a・ナデ b・カキ目	a・カキ目 b・ナ・ナ組		淡棕褐色	並	S・M-1	1/8	傾き修正
	83	坏蓋	C・15.8	a・ナデ b・ナデ			a・淡灰褐色 b・淡灰色	不良	S-1	小片	
	84	有台坏 (底部)	B・10.0			a・ヘビ尾+ナ b・ナデ	a・暗灰色 b・明灰色	良	S-1	1/8	
	85	有台坏 (底部)	B・ 9.3			a・ケズリ b・ナデ	a・灰色 b・淡灰色	並	S-1	1/5	
	86	有台坏 (底部)	B・ 9.6			a・ヘビ尾+ナ b・ナデ	淡灰色	並	S-1	完	底部ヘラ記号
45	87	底部	B・ 8.0			a・ケズリ b・ナデ	灰色	並	S-1	1/4	有台か 内面滑らか
	88	瓶	C・ 7.8 N・ 4.2	a・ナデ b・ナデ			a・淡灰色 b・淡灰褐色	並	M-2	1/4	外面自然釉
	89	甕	C・12.9 N・11.8	a・摩耗 b・11.8	a・ハケか b・摩耗		a・淡黄褐色 b・明黄褐色	並	L・M-1	1/5	
	90	甕	C・13.9 N・12.8	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		淡黄褐色	良	S・M-1 赤色粒	1/4	
	91	甕	C・23.6 N・20.8	a・ナデ b・ナ・ナ	a・ハケ b・ハケ		a・淡橙褐色 b・淡褐色	良	S・M-1	1/8	
	92	甕	C・20.8	a・ナデ b・ナ・ナ	a・ハケ b・ハケ		淡褐色	良	S・M-1 赤色粒	1/5	
	93	甕 (底部)	B・ 6.2			a・ケズリ+ナ b・ナデ	明橙褐色	並	M-1 S-3	2/3	
	94	瓶 (胴部)	W・18.0			a・ナデ b・ナデ	a・明灰色 b・黃灰色	良	M-2	小片	外面自然釉
	95	坏蓋	C・17.6 H・ 3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	良	L-1 M-2	完	外面自然釉 内面ヘラ記号
	96	坏蓋	C・14.7 H・ 2.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・灰色 b・暗灰色	良	S-1	完	外面自然釉
46	97	坏蓋	C・17.5	a・ナデ b・ナデ			a・灰白色 b・灰色	良	S・M-1	1/8	外面自然釉 重燒痕
	98	坏蓋	C・16.1	a・ナデ b・ナデ			a・綠灰色 b・暗灰色	良	S・M-1	1/4	外面自然釉
	99	坏蓋	C・16.4	a・ナデ b・ナデ			a・綠灰色 b・灰色	良	S-1	小片	外面自然釉
	100	坏蓋	C・16.0	a・ナデ b・ナデ			淡灰色	良	M-1	小片	外面自然釉
	101	坏	C・14.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・綠灰色 b・灰色	良	S-1	1/8	
	102	有台坏 (底部)	B・ 9.8			a・ナデ b・ナデ	a・褐灰色 b・灰色	並	M-2	1/2	
	103	有台坏 (底部)	B・10.5			a・ヘビ尾+ナ b・ナデ	a・褐灰色 b・灰色	並	M-1 長石多	1/8	
	104	有台坏 (底部)	B・ 9.9			a・ヘビ尾+ナ b・ナデ	a・綠灰色 b・灰色	良	M-2	小片	外底面自然釉
	105	有台坏 (底部)	B・ 9.8			a・ヘビ尾+ナ b・ナデ	暗灰色	良	S-1	1/8	

団版 番号	土器 番号	器種 形式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
45	106	有台坏	C・10.6 B・7.0 H・4.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	緑灰色	良	M-1	1/2	内外面自然釉
	107	甕	C・25.6	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		橙褐色	並	S, M-1	小片	
	108	壠	C・(27.7)	a・ナデ b・ナデ+ナ	a・ナデ+ナ b・ナデ+ナ		橙褐色	並	S-3, M-1 海綿骨片	小片	傾き修正
	109	甕	C・23.5 N・19.8 W・23.2 H・30.7	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ+ナ b・ハケ+ナ	a・ケズリ b・ハケ	a・懸鈍-鈍 b・淡褐色	良	S, M, L-1 海綿骨片	1/4	SK-14と接合
	110	坏蓋			a・ケズリ b・ナデ		褐灰色	並	S, L-1	1/4	
	111	坏蓋	C・18.2	a・ナデ b・ナデ			緑灰色	良	S, M-1	小片	
	112	坏蓋	C・15.6	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	S-1	小片	
46	113	蓋鉢	W・3.3		a・ナデ b・ナデ		灰色	良		完	
	114	坏	C・13.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗灰色 b・淡灰色	良	S, M-1	小片	
	115	坏 (底部)	B・10.0			a・ハネレ b・ナデ	淡黃灰色	不良	S-1	1/8	
	116	甕 (肩部)			a・ナデ+ナ b・肩押付		灰白色	並	S-1	5/8	内外面自然釉
	117	碗	C・11.6	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ			良	S-1	完	内外面赤彩
	118	甕	C・12.3 N・10.4 W・12.3 H・12.3	a・ナデ b・ナデ+ナ	a・カキ目 b・カキ目	a・ケズリ b・ナデ+ナ	淡褐色	並	M-1	1/6	
	119	甕 (底部)	B・7.3			a・ケズリ b・ナデ+ナ	a・淡褐色 b・暗褐色	並	S, M-1	1/4	
47	120	壺	C・11.2 N・9.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡褐色	並	S-1	1/4	
	121	甕	C・12.4 N・11.4 W・13.7	a・ナデ+ナ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		橙褐色	並	M-3	1/6	
	122	椀	C・13.6 B・8.0 H・2.6	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ		良	M-1 S-2	1/4	内外面赤彩
	123	甕	C・13.1 N・10.8 W・12.5	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ケズリ		a・赤褐色 b・淡赤褐色	良	L-1 M-3	1/2	カマド
	124	椀 (須慮)	C・15.7 B・8.8 H・4.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	灰色	並	S-2	1/3	カマド付近
	125	有台坏	C・14.6 B・9.4 H・4.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ+ナ b・ナデ	淡青灰色	並	S-1	1/4	カマド付近
	126	椀	C・18.0 B・9.7 H・6.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハネレ b・ナデ	橙褐色	良	L-1 M-2	1/4 (粘土)	カマド付近
48	127	坏蓋	C・14.6	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	S, M-1	小片	カマド
	128	坏	C・14.8	a・ナデ b・ナデ+ナ			淡灰色	並	S-1	1/4	カマド付近
	129	壠	C・33.2	a・ナデ b・ナデ+ナ	a・ハケ b・ハケ		a・暗橙褐色 b・橙褐色	良	S-1 赤色粒	小片	カマド付近
	130	壠	C・32.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ+ナ b・ハケ	a・ケズリ b・ハケ	a・淡黄褐色 b・橙褐色	並	L-1 S, M-1	小片	カマド付近

図版番号	土器番号	器種形	法量(cm)	調 整			色調	焼成	胎土	遺存	備考
				口縁部	体部	底部					
46	131	壺	C・35.3	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		橙褐色	並	S・M-1 赤色粒	小片	カマド付近
	132	甕	C・25.6 N・21.4 W・25.5	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・橙褐色 b・淡橙褐色	並	L・M-1 S-2	1/2	カマド付近
	133	甕 (底部)	B・2.6			a・ハケ b・ハケ	明褐色～ 淡橙褐色	良	M-1 S-3	完	
	134	壺蓋	C・16.6	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	M-1	小片	
	135	壺蓋	C・16.2	a・ナデ b・ナデ			灰褐色	良	M-2	小片	
47	136	壺蓋	C・16.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・褐灰色 b・濁褐色	並	S-1	1/4	外面自然釉
	137	壺蓋	C・16.2	a・ナデ b・ナデ			a・綠灰色 b・淡綠灰色	良	S-1	1/8	外面自然釉
	138	壺蓋	C・15.7	a・ナデ b・ナデ			a・褐灰色 b・灰白色	良	S-1	小片	
	139	壺蓋	C・15.4	a・ナデ b・ナデ			綠灰色	良	S-1	1/8	
	140	壺蓋	C・15.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・綠灰色 b・灰色	良	S-1	1/7	外面降灰
	141	壺蓋	C・15.9	a・ナデ b・ナデ			暗褐色	並	S-1 海綿骨片	1/5	
	142	壺蓋	C・14.7	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・淡灰色	良		1/7	翻面堆燒 外面自然釉
	143	有台壺 (底部)	B・10.2		a・ハケ b・ナデ		灰色	良	S-1	1/5	
	144	底部	B・9.8		a・ハケ b・ナデ		灰白色	良	S-1	小片	3足か
	145	有台壺	B・6.7		a・ハケ b・ナデ		a・暗灰色 b・灰白色	並	S-1	1/4	カマド
	146	有台壺	C・11.3 B・8.8 H・4.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ナデ	a・青灰色 b・灰色	良	S-1	1/4	
	147	有台壺	C・14.3 B・9.1 H・3.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	灰白色	良	M-2	完	住居内ビット
	148	壺	C・11.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	良	S-1	小片	
	149	壺	C・12.9 B・6.4 H・3.25	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ナデ	淡灰色	良	S-1	1/5	重燒痕
	150	盤	C・12.7 B・9.8 H・2.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ナデ	灰色	良		小片	
	151	瓶 (口縁部)	C・10.6	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・淡褐灰色	並	S-2	1/4	内外自然釉
	152	甕 (須志)		a・ナデ b・ナデ			灰色	良	S-	小片	一部自然釉 波状文
	153	楕	C・16.7	a・ナデ b・ナデ	a・ミガキ b・ミガキ			良	S-1	1/4	内外面赤彩
	154	楕	C・15.9	a・ナデ b・摩耗	a・ミガキ b・摩耗			不良	S-1 海綿骨片	1/7	内外面赤彩
	155	楕	C・11.3 B・6.0 H・2.75	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ		並		1/2	内外面赤彩
	156	甕	C・14.1 W・14.3 H・14.8	a・ナデ b・ハケ	a・ハケ b・ハケ	a・ハケ b・ハケ	淡褐色	良	M-1 S-3	1/2	
	157	甕	C・14.8 W・13.4 H・12.6	a・ハケ b・ハケ	a・ハケ b・ハケ	a・ハケ b・ハケ	暗褐色 棕色	並	L-1	3/4	

団版 番号	土器 番号	器種 形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
47	158	甕 (底部)	W · (14.7)	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ	a · 明橙褐色 b · 淡橙褐色	並	M - 2	完	カマド内	
	159	甕	C · 17.4 N · 14.4	a · ハケ→ナデ b · ハケ→ナデ	a · ハケ b · ハケ		黄褐色	良	L - 1 M - 2	1/8	
	160	甕	C · 19.2 N · 16.9	a · ナデ b · ハケ→ナデ	a · ハケ b · ハケ		a · 橙褐色 b · 橙色	並	S · M - ? 海綿骨片	1/4	
	161	甕 (底部)	B · 7.8		a · ハケ b · ハケ	a · ハケ b · 摩耗	淡灰褐色	並	S · M - ? 海綿骨片	1/3	
	162	壺か		a · ハケ→ナデ b · ハケ	a · ハケ b · ハケ		暗橙色	並	S · M - ?	小片	
	163	甕	C · 21.2 W · 21.0 H · 30.7	a · ハケ→ナデ b · 摩耗	a · 摩耗 b · ハケ	a · ハケ b · ハケ	橙色	不良	M - 3	2/3	カマド内
48	164	甕	C · 24.6 W · 24.3	a · ナデ b · ナデ	a · カキ目 b · 摩耗	a · 斜ツラキ b · 淡褐色	a · 明褐色 b · 淡褐色	並	S - 1 赤色粒	1/3	
	165	有台坏	B · 10.0		a · ナデ b · ナデ		綠灰色	良	S · M - ?	小片	
	166	有台坏	B · 12.1			a · ナデ b · ナデ	淡灰色	良	S - 1	1/4	
	167	坏蓋	C · (15.9)	a · ナデ b · ナデ			明灰褐色	並		小片	
	168	坏蓋	C · 15.3	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ		明灰色	並		1/5	
	169	坏	C · 11.9	a · ナデ b · ナデ			明灰褐色	並		小片	重焼痕
	170	坏	C · 16.6	a · ナデ b · ナデ		a · 暗灰色 b · 灰色	並		小片		
	171	坏	C · 14.7	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		褐灰色	良	S · L - ?	1/4	住居内土坑
	172	椀	C · 18.9	a · ナデ b · ナデ	a · ミガキ b · ミガキ			良	M - 1 S - 2	1/4	内外面赤彩
	173	椀	C · 18.4 B · 11.4 H · 3.2	a · ナデ b · ナデ	a · ミガキ b · ミガキ			良	M - 1 S - 2	1/8	内外面赤彩 住居内土坑
	174	椀	C · 19.2	a · ナデ b · ナデ	a · ミガキ b · ミガキ			良	M - 1 S - 2	1/8	内外面赤彩
	175	椀 (底部)	B · 11.1		a · ミガキ b · ミガキ			良	M - 1 S - 2	1/2	内外面赤彩
	176	椀	C · 18.5	a · 摩耗 b · ナデ	a · ミガキ b · ミガキ			並	L - 1 M · S - ?	1/2	カマド付近
	177	甕	C · 13.1 W · 14.4	a · 摩耗 b · 摩耗	a · 摩耗 b · 摩耗	a · 淡灰褐色 b · 淡橙褐色	不良	M - 1 S - 2		1/7	
	178	甕	C · 14.5 W · 14.6	a · ナデ b · ナデ	a · 摩耗 b · ハケ		暗褐色	並	L - 1 S · M - ?	1/4	カマド内
	179	甕	C · 10.6 W · 9.9 H · 9.8	a · ナデ b · ハケ→ナデ	a · ハケ→ナデ b · ハケ→ナデ	a · ナデ b · ハケ→ナデ	a · 淡褐色 b · 明橙褐色	並	L - 1 S · M - ?	2/3	カマド内
	180	甕	C · 14.8	a · ナデ b · ナデ	a · 摩耗 b · カキ目		橙褐色	並	S · M - ? 赤色粒	小片	
	181	甕	N · 15.9 W · 16.2		a · カキ目 b · カキ目	a · ケズリ b · ハケ	a · 暗橙褐色 b · 淡黄褐色	並	S · M · L - ? 海綿骨片	1/2	住居内ビット
49	182	甕	C · 14.5	a · ナデ b · ナデ	a · カキ目 b · カキ目	a · カキ目 b · カキ目	a · 淡橙褐色 b · 淡黄褐色	良	L · M · L - ? 鍋附・鉢附	1/6	カマド内
	183	甕	C · 12.7 W · 14.2	a · ナデ b · ナデ	a · カキ目 b · カキ目	a · カキ目 b · カキ目	a · 橙褐色 b · 黄褐色	並	S - 1 赤色粒	1/7	住居内ビット
	184	甕	C · 12.7 W · 13.2	a · ナデ b · カキ目	a · カキ目 b · カキ目	a · ナデ b · ハケ	a · 暗橙褐色 b · 淡橙褐色	並	M - 1 · S - ? 赤色粒		

図版番号	上器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
49	185	甕			a・青褐色 b・黒褐色		a・褐色 b・橙褐色	並	L-1 M-2	1/4	
	186	鉄製品(釘)	径・0.5 厚・0.4 L・7.6								床面下
	187	甕	C・20.3	a・ナデ b・ナデ			橙褐色	良	S, M, L-1	1/7	カマド付近
	188	甕	C・23.6	a・ナデ b・ナデ			淡橙褐色	並	L-1 赤色粒	小片	
	189	甕	C・23.6	a・ナデ b・ナデ			a・橙褐色 b・淡橙褐色	並	L-2	小片	
	190	甕	C・24.0 W・21.6	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・淡橙褐色 b・淡黄褐色	良	S, M-? 赤色粒	1/6	カマド付近
	191	甕	C・20.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	並	M-2	1/2	
	192	甕	C・21.8 W・22.8	a・ナデ b・ナデ	a・ハゲ b・ハケ		明黄褐色	並	L, M-? 赤色粒	1/4	カマド
	193	甕	C・22.4	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・淡橙褐色 b・橙褐色	並	S, M-? 赤色, 細點	1/7	カマド
	194	甕	C・29.6	a・ナデ b・ナデ	a・摩耗 b・ハケ		淡黄灰色	不良	L-1 S, M-?	1/5	
50	195	壙か	C・38.6	a・ナデ b・ナデ	a・ハゲ b・ナデ	a・カキ目	a・淡黄褐色 b・淡橙褐色	並	S, M-? 細點, 褐色	小片	
	196	甕?	C・32.1	a・ナデ b・カキ目	a・カキ目 b・カキ目		a・淡黄褐色 b・淡灰褐色	並	S, M-? 海綿骨片	1/4	
	197	壙 (底部)	B・6.1		a・ナデ	a・ヘビ尾 b・ナデ	a・淡灰褐色 b・淡灰色	並		1/3	底部ヘラ記号 カマド付近
	198	椭	C・17.6	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ			良	S-?, M-? 海綿骨片	2/3	内外面赤彩
	199	甕	C・13.8 N・12.7	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	並	S-1	1/6	カマド付近
	200	甕	C・10.3 W・11.4 H・8.9	a・ナデ b・ナデ	a・摩耗 b・ナデ	a・ハケ b・ナデ	a・淡灰褐色 b・淡褐色	並	S, M-? L-1	2/3	カマド付近
	201	甕	C・22.6 N・19.4	a・ナデ b・ナデ	a・摩耗 b・摩耗		a・明褐色 b・黄褐色	並	S-1 砂粒多	小片	カマド付近
	202	甕	C・26.6 N・23.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・摩耗		a・淡橙褐色 b・淡黄褐色	並	S, M-?	小片	
	203	壙	C・13.2	a・ナデ b・ナデ			淡灰色	並	S-2	1/4	
	204	壙	C・12.3 B・9.6 H・3.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	S-1	小片	
	205	壙	C・12.0 B・7.4 H・2.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	S-1	小片	
	206	壙	C・11.4 B・7.0 H・3.05	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ尾 b・ナデ	淡灰褐色	良	S-1	1/7	
	207	甕	C・25.6 N・21.5	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡橙褐色	良	S, M-? 赤色粒	小片	カマド
	208	甕	C・12.6 W・13.5	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡褐色	良	S, M-?	1/4	カマド
	209	壙	C・31.6 W・30.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・タタキ		a・淡褐色 b・淡橙褐色	並	S-3, M-? 赤色粒	1/5	
51	210	高壙か	C・18.0	a・ナデ b・ミガキ			a・橙褐色 b・黒褐色	並	S-3 M-1	1/3	内黒
	211	壙	C・26.0	a・ナデ b・カキ目	a・ハケ b・ナ・ナ		淡橙褐色	並	S, M-?	小片	
	212	壙蓋	C・17.0	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-2	小片	

図版番号	上器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
51	213	壺蓋	C・16.0	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-2	小片	
	214	壺蓋	C・17.2	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-2	小片	外面自然釉
	215	壺蓋	C・16.6	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-2	小片	外面自然釉
	216	壺蓋	C・17.0	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-1	小片	外面自然釉
	217	壺蓋	C・16.0	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-1	小片	外面自然釉
	218	壺蓋	C・15.2 H・2.6	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	並	S-2 M-1	1/3	外面自然釉 SI-34, 35±1
	219	甕	C・11.7 N・10.2	a・ナデ b・ナデ			淡黃褐色	並	S-1 M-2	1/7	
	220	甕	C・16.6 N・15.4	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ		a・淡褐色 b・淡黃褐色	並	M-1	1/9	
	221	甕	C・18.6	a・ナデ b・カキ目			橙褐色	並	S, M-1	1/9	
	222	鉄斧	L・7.8 W・5.2 D・3.6								木質一部残存 112 g
	223	壺蓋			a・ナゲ+ナフ b・ナデ		青褐色	不良	S-2 M-1	小片	
	224	壺	C・14.0	a・ナデ b・ナデ			灰白色	不良	S-2	1/2	225と同一個体か
	225	壺 (底部)	B・6.2			a・ハネシ	灰白色	不良	S-1	1/3	
	226	壺	C・13.4 B・8.4 H・3.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハネシ b・ナデ	灰色	並	M-2	1/3	重焼痕
	227	甕			a・カキ目 b・ナゲ+ナフ		a・褐色 b・淡褐色	並	S-1	小片	
	228	甕	C・12.0 N・11.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗褐色 b・褐色+鈍色	並	M-1	1/5	
	229	甕	C・21.6 N・19.1	a・ナデ b・カキ目	a・ナゲ+ナフ b・カキ目		橙褐色	並	M-2	1/4	
	230	砥石	L・15.8 W・8.9 D・7.8								1,670 g 砂岩
52	231	壺	C・12.2 B・7.3 H・3.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナゲ+ナフ b・ナデ	灰色	並	S-2	1/7	重焼痕
	232	壺	C・12.8 B・7.0 H・3.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハネシ b・ナデ	a・暗灰色 b・青灰色	並	S-3	1/7	重焼痕
	233	壺	C・14.0 B・7.9 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハネシ b・ナデ	a・淡青灰色 b・淡灰色	並	S-1	1/4	
	234	瓶 (底部)	B・7.6		a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・暗褐色 b・橙褐色	並	L, M-1	1/4	底部凹線2条
	235	瓶 (底部)	B・5.6			a・摩耗 b・摩耗	橙褐色	並	L, M-1	1/5	カマド
	236	甕	C・14.4 N・12.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡黃褐色	並	L, M-1	1/4	
	237	甕	C・16.5 W・15.4	a・ナデ b・ナデ	a・摩耗 b・摩耗		淡黃褐色	並	L-1 M-2	1/3	
	238	甕	C・14.0 W・14.8	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目	a・ケズリ b・ハケ	a・淡褐色 b・橙褐色	並	S-2	1/3	
	239	甕	C・16.2 W・17.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	並	M-1 S-2	1/6	
	240	甕 (底部)				a・ナゲ+ナフ b・ナゲ+ナフ	a・赤褐色 b・暗褐色	並	L-2 M-1	1/2	

図版番号	土器番号	器形式	法量(cm)	調 整			色調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
52	241	甕		a・摩耗 b・摩耗		a・淡褐色 b・褐色	並	M-2	小片		
	242	甕		a・摩耗 b・摩耗		黄褐色	並	S-1	小片		
	243	甕	C・21.4 N・19.6	a・ナデ b・ナデ	a・摩耗 b・カキ目		淡黄褐色	不良	L-1 M-2	1/7	
	244	甕	C・24.0 N・20.4	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	並	S, M-1	1/6	
	245	甕	C・24.6 N・22.2	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡褐色	並	L-1 M-2	1/4	外面下部工具による刺突痕
	246	埴か	C・29.2	a・ナデ b・ナデ			黄褐色	並	S-1	1/7	
53	247	有台环(底部)	B・11.0		a・ナデ b・ナデ	a・暗灰色 b・灰白色	並	M-3	1/5		
	248	甕	C・14.2 N・12.4	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目	a・暗褐色 b・淡橙褐色	並	砂粒多	1/3		
	249	甕	C・20.8 N・17.2	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目	a・橙褐色 b・淡橙褐色	並	L-1 赤色粒	小片		
	250	甕	C・20.8 N・17.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目	a・淡橙褐色 b・淡黄褐色	並	M-1	小片		
	251	甕	C・22.8 N・20.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡橙褐色	並	M-2 S-1	1/7	
	252	甕(底部)	B・6.8	a・ナデ b・ナデ	a・糸切り b・ナデ	a・淡橙褐色 b・淡褐色	並	L-1, M-3 赤色粒	1/4		
	253	甕(底部)	B・5.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	a・暗褐色 b・橙褐色	並	L-1 M-2, S-3	完		
	254	甕(底部)	B・9.0	a・カキ目 b・カキ目	a・ケズリ b・ナデ	淡橙褐色	並	M-1 S-2	完		
	255	甕(底部)		a・ハケ b・ハケ	a・ハケ b・ハケ	a・褐色 b・橙褐色	並	赤色粒	1/5		
	256	坏蓋	C・12.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・淡灰色 b・灰色	並	S-2	1/4	重燒痕 内面一部自然釉	
	257	有台环(底部)	B・10.6		a・ナデ b・ナデ	a・淡青灰色	並	S, M-1	1/5		
	258	有台环(底部)	B・7.8		a・ナデ b・ナデ	灰色	並	S-1	1/3		
	259	盤	C・16.3 B・13.0 H・2.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・淡灰色 b・ナデ	並	L, M-1 S-2	1/3		
	260	椀	C・13.4 B・9.2 H・3.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・淡灰色 b・ナデ	並	S-2	1/3		
	261	甕(底部)			a・摩耗 b・ナデ	淡黄褐色	並	S, M-1	3/4		
	262	埴	C・35.4	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡橙褐色	並	S-3	小片	
	263	カマド袖石	L・(15.7) W・17.9								1,520 g
54	264	カマド袖石	L・(16.1) W・15.2								1,680 g
	265	坏	C・14.0 B・9.0 H・3.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・淡灰色 b・灰色	並	L-1 M-3	小片	重燒痕	
	266	坏有台(底部)	B・12.0			a・淡灰色 b・ナデ	灰色	並	M-1 黒雲母	小片	
	267	甕	C・12.0 N・10.2	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ	a・暗褐色 b・淡黄褐色	並	L-1	小片		
	268	甕	C・12.4 W・12.3 B・5.4 H・11.7	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	淡褐色	並	S, M-1 赤色粒	完	

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
54	269	甕	C・12.1 N・11.0	a・ナデ b・摩耗	a・カキ目 b・カキ目		a・暗褐色 b・灰褐色	並	L・M-1 S-2	小片	
	270	底部	B・ 5.4		a・ケズリ b・ナデ		a・淡褐色 b・淡黃褐色	並	L-1 純素・點絞	完	
	271	甕	C・21.5 N・18.8	a・ナデ b・紺目・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・淡橙褐色 b・橙褐色	並	M-1 黒雲母多	1/5	
	272	甕	C・20.2 N・18.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ		橙褐色	並	M-2	1/5	
	273	砥石	L・11.9 W・ 5.3 D・ 4.3								360 g
	274	环	C・13.6	a・ナデ b・ナデ			淡青灰色	並	S-2	1/7	
	275	高坏	C・16.8 N・ 4.2	a・ナデ b・ミガキ	a・ナデ b・ミガキ	a・ナデ b・ナデ	淡橙褐色	並	M-2	2/3	内黑
55	276	壙	C・38.0	a・ナ・ナデ b・ナ・ナデ	a・ハケ b・ハケ	a・ケズリ b・ナデ	淡橙褐色	並	L-1, M-1 S-?	1/8	
	277	盤(有台)	C・20.4 B・14.2 H・ 3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナ・ナデ b・ナ・ナデ	淡灰色	並	L-1 M-2	小片	
	278	甕	C・27.8	a・ナデ b・ナデ			淡灰色	並	M-1	小片	外面下半に横線帶
	279	甕	C・11.0 W・11.8	a・ナデ b・紺目・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡橙褐色	並	S-2	1/6	
	280	甕	C・14.0 N・12.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ		淡橙褐色	並	S, M-1	小片	
	281	甕	C・13.6 N・11.6	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ		暗褐色	並		小片	
	282	甕	C・14.8 N・13.3	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・淡褐色 b・橙褐色	並	S, M-1	1/4	
	283	甕(底部)	B・ 2.0			a・ナデ b・ハケ	a・暗褐色 b・褐色	並	L-1 M-2	完	
	284	甕	C・22.2	a・ナデ b・ナ・ナデ			淡橙褐色	並	S-1	小片	
	285	甕	C・22.2 N・19.3	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ナ・ナデ		淡橙褐色	並	L-1 S, M-1	1/4	
	286	甕	C・17.4 N・15.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・カキ目		淡褐色	並	M-2	小片	
	287	甕	C・20.6	a・ナデ b・紺目・ナデ			橙褐色	並	M-1 S-2	小片	
	288	甕	C・21.6 N・18.3	a・ナデ b・紺目・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡黄褐色	並	S, M-1	小片	
	289	环蓋	C・12.0	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-1	小片	
	290	有台环(底部)	B・ 8.8			a・ナ・ナデ b・ナ・ナデ	灰色	並	M-1	1/6	
56	291	甕	C・13.8 N・11.9	a・ナデ b・カキ目	a・カキ目 b・カキ目		淡橙褐色	並	S, M-1	1/7	カマド
	292	甕	C・16.6 N・13.8	a・ナデ b・紺目・ナデ	a・ナデ b・ナ・ナデ		淡橙褐色	並	M-1 S-2	小片	カマド
	293	甕	C・19.8	a・ナデ b・ナ・ナデ			淡橙褐色	並	S-2	小片	
	294	甕	C・21.2 N・18.9	a・ナデ b・カキ目	a・カキ目 b・カキ目		a・淡褐色 b・褐色	並	S-2	1/7	
	295	壙	C・36.0	a・ナデ b・カキ目	a・カキ目 b・カキ目		赤褐色	並	L, M-1 S-1	小片	カマド
	296	壙	C・39.4	a・ナデ b・カキ目	a・カキ目 b・カキ目	a・タタキ b・タタキ	赤褐色	並	L, S-1 M-1	小片	カマド
	297	坏蓋	C・16.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡青灰色	良	S-1	1/6	カマド
	298	坏蓋	C・15.0	a・ナデ b・ナデ			淡青灰色	並	S-1	小片	

國版 番号	土器 番号	器種 形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 上	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
56	299	壺蓋	C・15.4	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-1	小片	カマド
	300	椀	C・19.0 B・9.3 H・3.3	a・ナデ b・ミガキ	a・ナデ b・ミガキ	a・ナデ b・ミガキ		並	S-1	1/4	内外面赤彩
	301	椀	C・16.4	a・ナデ b・ミガキ	a・ナデ b・ミガキ			並	S-1	1/8	内外面赤彩
	302	甌	C・14.8 N・13.4	a・ナデ b・ナデ	a・摩耗 b・摩耗		a・淡橙褐色 b・橙褐色	並	L-3 S-1	1/6	
	303	甌	C・17.4 W・17.6	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		a・淡褐色 b・橙褐色	並	L-1	1/7	
	304	甌	C・20.8	a・ナデ b・ナデ			橙褐色	並	M-2	小片	
	305	甌	C・23.0 N・18.8	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・橙褐色 b・淡橙褐色	並	S-1 M-2	1/7	
	306	甌	C・22.0 N・18.0	a・ナデ b・ <del>ナデ</del> 、 <sup>ナ</sup>	a・カキ目 b・カキ目		淡黃褐色	不良	M-2	1/4	摩耗頭著
	307	甌	C・30.0 N・26.2	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	並	L, M-1	小片	カマド
	308	甌	N・13.9	a・カキ目 b・ <del>ナ</del> 、 <sup>ナ</sup>			淡黃褐色	並	S-1	1/7	
57	309	壠	C・40.6	a・ナデ b・カキ目	a・カキ目 b・カキ目	a・タタキ b・ <del>タタ</del> 、 <sup>タ</sup>	淡黃褐色	並	M-1	1/3	
	310	壺蓋	C・15.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・明灰色 b・灰褐色	良	S-1	1/2	重燒痕
	311	壺蓋	C・16.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	良	S-2	1/4	
	312	壺	C・12.0	a・ナデ b・ナデ			淡褐色	不良	S-1	1/7	
	313	壺	C・13.4	a・ナデ b・ナデ			淡灰色	並	S-1	小片	重燒痕
	314	壺	C・12.3 B・8.2 H・2.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup> b・ナデ	青灰色	良	S, M-1	1/4	重燒痕
	315	壺	C・13.8 B・9.0 H・3.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup> b・ナデ	a・灰褐色 b・明灰色	良	S-1	1/8	
	316	盤	C・16.5 B・13.1 H・2.25	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup> b・ナデ	灰白色	並	S-1	小片	
	317	盤 (底部)	B・13.4			a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup> b・ナデ	a・灰色 b・淡灰色	並	S-2	1/4	
	318	有台壺 (底部)	B・8.6			a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup> b・ナデ	灰色	並	S-1	1/3	
	319	有台壺 (底部)	B・7.0			a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup> b・ナデ	明青灰色	良	M-2 S-1	完	
	320	有台壺 (底部)	B・8.7			a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup> b・ナデ	a・灰褐色 b・淡青灰色	良	S, M-1	1/2	転用窯 漆状のもの付着
	321	有台壺 (底部)	B・11.1			a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup> b・ナデ	灰色	並	S-1	1/4	
	322	壺	C・10.7	a・ナデ b・ナデ			a・暗灰色 b・灰色	良	S-1	1/4	外面自然釉
	323	有台壺	B・9.2		a・ナデ b・ナデ	a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup> b・ナデ	a・青灰色 b・灰色	良	S, M-1	1/3	
	324	瓶 (底部)	B・12.8			a・ナデ b・剥離	灰色	並	S-2	1/4	外面自然釉
	325	双耳瓶 (耳部)					灰色	並		完	自然釉
	326	甌			a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup>	a・ <del>タタ</del> 、 <sup>タタ</sup>	a・灰褐色 b・淡灰褐色	良	S-1	小片	外面自然釉
	327	椀	B・5.0			a・ケズリ b・ミガキ	a・赤褐色 b・淡橙褐色	良	S-1	1/2	外面赤彩か

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
57	328	底部	B · 6.4		a · 糸切り b · ナデ	褐色	並	S - 1	1/2		
	329	底部	B · 7.0		a · 糸切り b · ナデ	灰褐色	良	S, M-1 海綿骨片	1/3		
	330	底部	B · 5.5		a · ナデ b · ナデ	a · 淡橙褐色 b · 灰色	不良	S - 1	1/4	内黒 摩耗	
	331	底部	B · 5.3		a · ナデ b · ナデ	a · 淡橙褐色 b · 黑褐色	並	S - 1	1/3	内黒	
	332	椀	C · 18.2	a · ナデ b · ミガキ	a · ナデ b · ミガキ	a · 淡橙褐色 b · 黑色	並	S - 1	小片	内黒	
	333	椀	C · 15.8	a · ナデ b · ミガキ	a · ナデ b · ミガキ	a · 淡橙褐色 b · 黑色	並	M - 1	1/4	内黒	
	334	皿	C · 13.7 B · 6.0 H · 3.1	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ミガキ	a · 淡橙褐色 b · 黑褐色	良	精良	1/2	内黒	
	335	甕	C · 27.1	a · ナデ b · ナデ		淡褐色	並	S, M-1	小片		
	336	壺	C · 29.3	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · 橙褐色 b · 淡橙褐色	並	S, M-1	1/8		
	337	环蓋(鉢部)	W · 2.8		a · ナデ b · ナデ	a · 黑褐色 b · 淡褐色	不良	S - 3	完		
338	环蓋(鉢部)	W · 2.6		a · ナデ b · ナデ		灰色	並	S - 1	3/4		
	339	环蓋	C · 13.0	a · ナデ b · ナデ		灰色	並	S - 1	小片		
	340	坏	C · 12.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · 暗灰色 b · 灰色	並	S - 1	小片		
	341	坏	C · 12.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	灰白色	並	S - 1	1/4		
	342	坏	C · 14.5	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	灰色	並	S - 1	小片	上面	
	343	坏(底部)	B · 8.9		a · ハギレ b · ナデ	灰色	並	S, M-1	1/4	上面	
	344	坏(底部)	B · 8.6		a · ハギレ b · ナデ	灰色	並	M - 1 S - 2	1/2	上面	
	345	坏(底部)	B · 7.0		a · ハギレ b · ナデ	灰色	並	S, M-1	完	上面	
	346	坏	C · 14.0 B · 10.6 H · 3.3	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	灰色	並	S - 1	小片	上面
	347	坏	C · 13.0 B · 8.0 H · 3.3	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	暗褐灰色	不良		1/5	
348	有台环(底部)	B · 9.6		a · ハギレ b · ナデ		灰色	並	S, M-1	1/8	上面	
	349	有台环	C · 11.6 B · 8.9 H · 3.6	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	a · 淡青灰色 b · 灰色	並	S, M-1	小片	上面
	350	坏	C · 16.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	灰色	並	S - 1	小片	上面	
	351	坏	C · 17.8	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · 暗青灰色 b · 灰色	並	S - 1	小片	上面	
	352	甕	C · 27.6	a · ナデ b · ナデ		a · 暗灰色 b · 灰色	並	L - 1 M - 2	小片	上面	
	353	甕	W · 16.2	a · ナデ b · ハゲ, 剥離		灰色	並	L - 1 S - 2	1/3	上面 外面自然釉	
354	甕			a · 断裂 b · 剥離		a · 黑褐色 b · 淡青灰色	並	S - 3	小片	上面	
	355	甕	N · (23.2)		a · 断裂 b · 剥離	a · 淡灰色 b · 淡青灰色	並	M - 2	小片	上面 外面自然釉	
	356	坏	C · 14.4 B · 9.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	淡褐色	並	S - 1	1/4	上面 H · 3.05	

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
58	357	环	C・13.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡黄褐色	並	M-2	1/7	上面
	358	环	C・13.2 B・6.4 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	a・淡橙褐色 b・橙褐色	並	M-2	小片	
	359	底部	B・10.6			a・ナデ b・ナデ	淡褐色	並	S-1	1/3	上面
	360	环	C・10.0 B・6.0 H・3.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・摩耗 b・ナデ	淡褐色	不良	M-2 赤色粒	完	上面
	361	甕 (底部)	B・6.0		a・ナデ b・ナデ	a・糸切り b・ナデ	褐色	並	M-2	1/3	上面
	362	有台环	C・11.2 B・7.6 H・3.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ出し b・ナデ	淡褐色	並	M-2 S-1	1/3	
	363	底部	B・7.6			a・ナデ b・ミガキ	a・淡黄褐色 b・黒褐色	並	M-2	完	内黒
	364	甕	C・24.4	a・ナデ b・ナデ			a・淡橙褐色 b・淡黄褐色	並	L-1 海綿骨片	小片	上面
	365	甕	C・26.8	a・ナデ b・ツツハ			a・淡橙褐色 b・淡褐色	並	S-2	小片	上面
	366	甕	C・21.2 N・20.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡黄褐色	並	M-1	小片	上面
	367	甕	C・21.8	a・ナデ b・ナデ			淡褐色	並		小片	上面
59	368	刀子状 鉄製品	L・7.6 W・1.6 D・1.2								上面 15g
	369	坏蓋			a・ナデ b・ナデ		淡青灰色	並	S-2	1/4	
	370	坏蓋	C・15.0	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・暗灰色	並	M-1 S-2	小片	上面
	371	坏蓋	C・15.6	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・暗灰色 b・灰色	並	S-2	1/2	外面自然釉
	372	坏蓋	C・16.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・暗褐色 b・淡青灰色	並	S-2	1/4	
	373	坏蓋	C・16.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	並	S-1	1/3	
	374	坏蓋	C・18.0	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・暗灰色	並	S-2	小片	
	375	坏蓋	C・18.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡青灰色	並	S-2	小片	
	376	坏	C・11.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰白色	並	S-1	小片	重焼痕
	377	坏 (底部)	B・7.8			a・ヘビ出し b・ナデ	灰白色	並	S-1	1/8	上面
	378	坏 (底部)	B・9.2			a・ヘビ出し b・ナデ	淡青灰色	並	S-1	1/8	上面
	379	坏	C・12.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗灰色 b・灰色	並	S-1	1/6	
	380	坏	C・12.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		暗灰色	並	S-3	1/4	
	381	坏	C・12.2 B・9.1 H・3.35	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ出し b・ナデ	灰色・灰白色	並	M-1 S-2	1/6	
59	382	坏	C・14.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		暗灰色	並	S-3	1/8	
	383	坏	C・15.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	M-1 S-2	1/7	

図版番号	土器番号	器形	種式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
					口縁部	体 部	底 部					
59	384	环	C	15.4	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-2	小片	上面
	385	有台环	C	11.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ起し b・ナデ	灰色	並	L・M-1	1/3	
	386	有台环	C	11.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ起し b・ナデ	淡青灰色	並	S-2	1/3	
	387	有台环	C	15.6	a・ナデ B	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ起し b・ナデ	a・暗灰色 b・灰色	並	L-1 S-3	完	
	388	有台环 (底部)	B	8.2			a・ヘラ起し b・ナデ	淡灰色	並	S-1	小片	
	389	有台环 (底部)	B	10.0			a・ヘラ起し b・ナデ	淡灰色	並	S-2	1/3	
	390	有台环	B	10.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ起し b・ナデ	淡灰色	並	M-2 S-1	1/7	
	391	瓶	B	9.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	淡青灰色	並	S・M-2	1/2	内面自然釉
	392	甕	N	16.8	a・ナデ b・ナデ		a・灰色 b・暗灰色		並	S-2	小片	外面自然釉
	393	瓶類か			a・ナデ b・ナデ		a・灰色 b・淡灰色		並	S-1	1/4	外面自然釉
	394	甕	N	19.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・暗褐色 b・暗青灰色		並	S-1	1/6	
	395	甕	C	45.0	a・ナデ b・ナデ		a・青灰色 b・淡褐色		並	M-1	1/4	上面
	396	环 (底部)	B	8.0			a・ヘラ起し b・ナデ	淡褐色	並	L-1 M-2	1/2	上面
	397	甕 (底部)	B	8.6			a・糸切り b・ナデ	a・橙褐色 b・淡橙褐色	並	L・M-?	1/4	
	398	甕 (底部)	B	9.0			a・糸切り b・ナデ	淡褐色	並	L-1 M-2	完	
	399	椀	C	22.4	a・ナデ b・ナデ				並	M-2	小片	内外面赤彩
	400	甕	C	10.8	a・ナデ W	a・カキ目 b・ナデ	a・褐色 b・淡褐色		並	M-1	小片	上面
	401	甕	C	12.1	a・ナデ W	a・ナデ b・ナデ	a・淡褐色 b・橙褐色		並	L・M-1 赤色粒	1/2	
	402	甕	C	12.6	a・ナデ N	a・カキ目 11.2	a・褐色 b・淡橙褐色		並	L-1 M-2	小片	
	403	甕	C	19.6	a・ナデ W	a・カキ目 15.0	a・ケズリ b・ナデ	a・褐色 b・淡褐色	並	M-2 赤色粒	1/3	
	404	甕	C	16.5	a・ナデ b・ナデ			橙褐色	並	M-2	小片	上面
	405	底部	B	2.8			a・ナデ b・ナデ	a・淡橙褐色 b・橙褐色	並	M-2 赤色粒	完	
	406	甕	C	19.0	a・ナデ b・ナデ			橙褐色	並	L-1 M-2	小片	
	407	甕	C	19.0	a・ナデ b・ナデ			a・淡橙褐色 b・橙褐色	並	M-1	小片	
	408	甕	C	19.8	a・ナデ b・ナデ			淡橙褐色	並	M-1	小片	上面
60	409	甕	C	20.4	a・ナデ N	a・ナデ 17.4		橙褐色	並	L-2	小片	上面
	410	甕	C	19.6	a・ナデ b・ナデ			淡橙褐色	並	L-2, M-1 赤色粒	小片	
	411	甕	C	20.6	a・ナデ N	a・カキ目 19.8		橙褐色	並	赤色粒	小片	
	412	甕	C	21.4	a・ナデ b・ナデ			a・橙褐色 b・淡橙褐色	並	L-2	小片	

図版番号	土器番号	器種式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
60	413	甕	C・21.0 N・17.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・カキ目		淡黄褐色	並	L-2 M-1	小片	
	414	甕	C・22.6	a・ナデ b・ナデ			淡褐色	並	M-1 赤色粒	小片	
	415	甕	C・25.6	a・ナデ b・ナデ			橙褐色	並	S-2	小片	端か
	416	甕	C・25.4 N・23.2	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	並	M-1	小片	
	417	甕	C・22.6	a・ナデ b・ナデ			a・橙褐色 b・淡褐色	並	L-1 M-2	小片	
	418	有台坏	C・15.5 B・11.2 H・3.55	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ起し b・ナデ	青灰色	良	S-1	1/2	SP-a
	419	坏	C・13.8 B・10.2 H・3.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ起し b・ナデ	淡褐灰色	良	L-1 M-2	1/3	SP-a
	420	坏	C・11.4 B・8.2 H・3.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ起し b・ナデ	灰色	良	L-1 M-2	1/4	SP-a 重焼痕
	421	有台坏 (底部)	B・8.2			a・ヘラ起し b・ナデ	青灰色	良	S-1	小片	SP-b
	422	甕	C・27.6 N・24.8	a・ナデ b・ナデ	a・摩耗 b・摩耗		明褐色	並	L・M-3	小片	SP-b
61	423	坏蓋	C・16.3	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	M-2	小片	SP-a 重焼痕
	424	坏	C・14.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		青灰色	良		1/8	SP-a
	425	有台坏	B・7.4		a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ起し b・ナデ	灰色	良		1/5	SP-a
	426	甕	C・24.8	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ		淡橙褐色	並	M-1	小片	SP-a
	427	坏蓋	C・12.9	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		明灰色	良	S-1	1/8	SP-b 重焼痕
	428	甕	C・12.1 W・12.1	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		a・褐色 b・淡褐色	並	S・M-1	1/4	SP-b
	429	椭(底部)	B・11.0			a・ケズリ b・ミガキ		良	M-1	小片	SP-c 内外面赤彩
	430	把手			a・ナデ b・ナデ		a・橙色 b・橙褐色	並	S・M・L-2	完	SP-c
	431	坏蓋	C・12.5	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		青灰色	良	S-1	1/8	SP-d 重焼痕
	432	坏蓋	C・13.3	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡青灰色	良	S・M-1	1/4	SP-e
61	433	坏	C・16.2 B・11.2 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	a・灰色 b・暗灰色	良	L-1 M-2	小片	SP-e 重焼痕
	434	坏(鉢部)	W・2.5		a・ナデ b・ナデ		青灰色	良	S-1	完	SP-e 内面ヘラ記号
	435	有台坏 (底部)	C・15.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗青灰色 b・灰色	良	精良	1/6	SP-f 外面自然釉
	436	有台坏 (底部)	B・11.4			a・ヘラ起し b・ナデ	a・暗褐灰色 b・灰色	並	L-1 M-2	小片	SP-f
	437	壠	C・23.6	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ		淡橙褐色	並	L-1 M-3	小片	SP-g
	438	甕	C・19.0 N・16.8	a・ナデ b・カキ目	a・カキ目 b・ナデ		a・淡橙褐色 b・橙褐色	並	L・M-2	小片	SP-a
	439	甕			a・ハラ起し b・ナデ		a・淡褐色 b・暗橙褐色	良	L-1, M-2 赤色粒	小片	SP-a
	440	甕	C・11.6 W・12.3	a・ナデ b・ナデ	a・ミガキ b・ナデ		a・淡褐色 b・淡黄褐色	並	S・M-2 海綿骨片	小片	SP-a
	441	蓋 (鉢部)	W・2.2		a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	M-1	完	SP-a

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
61	442	壺蓋	C・14.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・黄白褐色 b・淡黄褐色	不良	S-1	1/4	SP-a
	443	壺蓋			a・ケズリ b・ナデ		a・淡綠灰色 b・淡灰色	並	M-2	小片	SP-a 外面自然釉
	444	壺	C・12.2 B・8.9 H・3.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ記し b・ナデ	灰白色	並	S-2	2/3	SP-b 重燒痕
	445	椀	C・11.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	並		1/5	SP-c
	446	底部	B・8.4		a・ナデ b・ナデ		赤褐色	並	M-1 S-2	小片	SP-a
	447	壺	C・12.6 B・8.4 H・2.95	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ記し b・ナデ	灰色	並	S-1	2/3	SP-a
	448	壺蓋	C・11.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		暗青灰色	並	S-1	1/5	SP-a 外面自然釉
	449	壺	C・12.6 B・8.8 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ記し b・ナデ	詳・暗褐色 詳・赤褐色	不良	M-2	4/5	SP-b 側面ヘラ記号
	450	底部	B・8.0			a・ナデ b・ナデ	淡褐色	並	M-1	1/5	SP-c 糸切りか
	451	有台壺	C・15.2 B・9.4 H・5.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ記し b・ナデ	a・暗灰色 b・灰色	並	M-1	2/3	SP-d
	452	壺蓋	C・17.2	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-1	小片	SP-a
	453	壺蓋	C・17.8	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S.M-1	小片	SP-a
	454	椀	B・11.0			a・ミガキ b・ミガキ		並	S-1 海綿骨片	1/3	SP-a 内外面赤彩
	455	椀	B・10.2			a・ミガキ b・ミガキ		並	S-1 繩筋・輪鉢	1/2	SP-a 内面赤彩・輪鉢
	456	壺蓋	W・3.0	a・ナデ b・ナデ			a・淡青灰色 b・灰色	並	S-2	完	SP-b
	457	壺(底部)	B・8.0			a・ヘラ記し b・ナデ	灰白色	並	S-1	1/5	SP-b
	458	壺蓋	C・12.5	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	L-2 S-1	1/5	SP-a
	459	壺蓋	C・13.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		暗青灰色	並	M-2 S-1	1/7	SP-b 外面自然釉
	460	壺蓋	C・16.7	a・ナデ b・ナデ			青灰色	並	S-1	小片	SP-c
	461	壺蓋	C・11.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗灰色 b・暗青灰色	並	S-2	1/2	SP-d
	462	甕	C・17.8	a・ナデ b・ナデ			淡黃褐色	並	M-1	小片	SP-d
	463	壺蓋	C・18.6	a・ナデ b・ナデ			a・暗灰色 b・灰白色	並	S-3	小片	SP-d
	464	壺蓋	C・14.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	並	S.M-1	1/4	SP-e
	465	壺	C・13.2 B・9.0 H・3.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ記し b・ナデ	灰白色	不良	M-2	1/3	SP-e
	466	有台壺 (底部)	B・7.0			a・ヘラ記し b・ナデ	a・淡青灰色 b・灰色	並	S-2	1/3	SP-e
	467	底部	B・8.0		a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ記し b・ナデ	淡黃褐色	並	L-1 赤色粒	完	SP-f
	468	反彌瓶 (肩部)	W・17.8		a・ナデ b・ナデ		淡青灰色	良	S-1	1/7	SP-f 外面自然釉
62	469	壺蓋	C・12.5 H・2.5	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・灰色 b・暗灰色	良	M-2	1/3	重燒痕

団版 番号	土器 番号	器種 形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				I部	II部	底 部					
62	470	坏	C・15.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		暗灰色	良	S-2	小片	
	471	甕	C・14.5 N・11.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・淡褐色 b・淡棕褐色	良	S-1	1/6	
	472	坏蓋	C・19.8	a・ナデ b・ナデ			a・暗灰色 b・灰色	並		小片	
	473	坏	C・11.3 B・9.6 H・3.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	灰色	良	L-1 M-2	完	重燒痕
	474	有台坏	C・10.3 B・7.6 H・3.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ベニレ b・ナデ	青灰色	良		1/2	重燒痕
	475	坏	C・15.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・灰色 b・淡灰色	良	L-1 M-2	小片	
	476	有台坏	C・10.3 B・7.6 H・3.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ベニレ b・ナデ	a・暗灰色 b・淡灰色	並	S-2	完	外面降灰
	477	有台坏	C・16.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	M-2	1/7	
	478	甕	C・21.3	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ		橙褐色	良	M-2 S-1	小片	
	479	坏蓋	C・13.9	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・淡黃灰色 b・明黃褐色	不良	S-1	1/5	
	480	坏蓋	C・16.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・灰色 b・淡灰色	良	S-1	1/4	外面自然釉
	481	坏蓋	B・18.1	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・淡灰褐色	不良	S-1	小片	
	482	有台坏	B・7.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・暗灰色 b・淡灰色	並	S-1	1/4	
	483	有台坏	C・15.6 B・10.9 H・4.1	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	a・暗灰色 b・淡灰色	並	S-2	完	
	484	甕		a・タタキ b・タタキ			暗灰色	並	S-1	小片	
	485	甕	C・14.4 N・12.5	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡褐色	良	S-1	1/6	
	486	甕	C・17.6	a・ナデ b・ナデ	a・摩耗 b・ナデ		a・淡橙褐色 b・淡褐色	良	S-1	小片	
	487	甕	C・21.4	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ナデ		a・淡黃褐色 b・淡灰褐色	並	S-1	1/5	
	488	甕	C・19.9 W・20.4	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		明橙褐色	並	S-1	1/6	
	489	甕	C・22.6 N・20.4	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・明黃褐色 b・淡黃褐色	並	S-1	1/8	摩耗顯著
	490	坏蓋	C・11.2	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・明青灰色 b・淡灰色	良		小片	
	491	坏蓋	C・12.7	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	良		2/3	
	492	坏蓋	C・13.2	a・ナデ b・ナデ			明灰褐色	並		小片	重燒痕
	493	坏蓋	C・13.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	良		1/4	
	494	坏蓋	C・14.9	a・ナデ b・ナデ			a・淡黃灰色 b・淡灰色	良		小片	
	495	坏蓋	W・16.1	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	良		1/4	
	496	坏蓋	C・19.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		明灰褐色	不良	S-1	1/5	
	497	坏	C・12.5	a・ナデ b・ナデ			淡灰褐色	不良	S-1	小片	
	498	坏	C・12.8	a・ナデ b・ナデ			淡灰色 淡灰白色	並	S-1	1/6	

団版 番号	土器 番号	器種 形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
62	499	坏 (底部)	B · 8.2		a · ハテ b · ナデ		明灰白色	不良	S - 1	1/2	
	500	坏	C · 14.5	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		淡灰白色	良	S - 1	小片	
	501	坏	C · 13.7 B · 10.4 H · 3.6	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハテ b · ナデ	a · 淡灰白色 b · 明灰白色	並	S, M-1	1/2	
	502	盤	C · 16.1 B · 13.7 H · 2.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハテ b · ナデ	淡灰色	良	S, M-1	1/3	
	503	高坏	B · 12.8		a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	淡橙灰色	並	S - 2	1/3	
63	504	甕			a · ハテ b · ハテ		暗橙褐色	並	M - 1	小片	
	505	甕	N · 23.1	a · ナデ b · ナデ	a · ハテ b · ハテ		暗灰色	並	S - 1	1/8	外面自然釉
	506	坏蓋	C · 16.6	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ		淡灰色	並	S - 2	小片	外面降灰
	507	坏蓋	C · 18.0	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ		a · 灰色 b · 淡灰色	並	M - 2	1/5	外面降灰 一部釉化
	508	有台坏	C · 15.2 B · 11.0 H · 4.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ	灰色	並	S - 1	1/5	
	509	有台坏	C · 14.5 B · 8.5 H · 4.5	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ	a · 淡青灰色 b · 淡灰色	並	M - 1	完	
	510	甕			a · ハテ b · ハテ		a · 暗灰色 b · 淡灰色	並	M - 1	小片	外面自然釉
	511	椀	C · 14.2	a · ナデ b · ナデ	a · ミガキ b · ミガキ			並	S - 2	小片	内外面赤彩
	512	坏蓋	C · 15.1	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ		灰色	良	L, M-1	1/7	外面自然釉
	513	椀	C · 15.0	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ			並	S, M-1	1/3	内外面赤彩
64	514	椀	C · 16.0	a · ナデ b · ナデ	a · ミガキ b · ミガキ			並	M - 1	小片	内外面赤彩 内面暗文
	515	椀	C · 16.8 B · 9.4 H · 4.6	a · ミガキ b · ミガキ	a · ミガキ b · ミガキ	a · 糸切り b · ミガキ		良	S, M-2	1/3	内外面赤彩 内面暗文
	516	甕	C · 13.8 W · 14.4	a · ナデ b · ナデ	a · ハテ b · ハテ	a · ハテ b · ナデ	淡黄褐色	良	M - 2	1/7	
	517	甕	C · 20.0 N · 16.9	a · ナデ b · ナデ	a · ハケ b · ハケ		淡橙褐色	並	S, M-1	1/4	
	518	甕	C · 19.2 N · 15.6	a · ナデ b · ハテ	a · ハケ b · ハケ		淡褐色	並	S, M-1	1/7	
	519	坏蓋	C · 11.5 H · 2.8	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		灰色	良	M - 1 海綿骨片	2/3	外面自然釉
	520	坏	C · 14.8	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		灰色	良	M - 1	1/7	
	521	坏	C · 13.9	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		灰色	良	M - 1	1/8	
	522	墻	C · 27.0	a · ナデ b · ナデ	a · ハケ b · ハケ		a · 橙褐色 b · 淡褐色	並	L - 3	小片	
	523	甕	C · 31.0	a · ナデ b · ナデ			a · 暗灰色 b · 灰褐色	並	S - 2	1/8	内外面自然釉
65	524	甕	N · 14.9 W · 16.3		a · ハケ b · ハケ	a · ハケ b · ハケ	暗橙褐色	並	L - 1 S, M-2	1/2	
	525	坏蓋	C · 15.5 H · 2.5	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ		淡灰色	良	S - 2 海綿骨片	3/4	外面自然釉
	526	坏蓋			a · ナデ b · ナデ		a · 灰色 b · 淡灰色	良	S, M-1	1/7	黑斑

団版 番号	土器 番号	器種 形式	法量 (cm)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部		体 部					
				a・ナデ	b・ナデ						
64	527	坏蓋	C・18.0	a・ナデ b・ナデ			暗青灰色	並	S・M-1	1/4	外面自然釉
	528	坏	C・14.8	a・ナデ b・ナデ			a・青灰色 b・淡青灰色	良	L・I-1	1/8	
	529	碗	C・15.8 B・9.3 H・4.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ、ケヅ b・ナデ	a・ハラシ b・ナデ	淡灰褐色	並	M-1	完	
	530	有台坏 (底部)	B・10.0			a・ナデ b・ナデ	淡赤褐色	不良	S・M-2	3/4	
	531	甕	C・21.7 W・22.2	a・ナデ b・ハケ	a・ナデ、ケヅ b・ハケ		淡褐色	並	M-1 S-3	4/5	
	532	坏蓋	C・16.0 H・2.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・淡青灰色 b・青灰色	良	L・M-2	完	外面降灰 一部釉化
	533	碗	C・17.6 B・8.0 H・5.0	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ	暗赤褐色	良	M-1 S-2	1/4	内外面赤彩
	534	甕	C・10.7 N・9.9	a・ナデ b・ハケ	a・ハケ b・ハケ		a・淡橙褐色 b・淡褐色	並	L-1 S・M-2	小片	
	535	有台坏	C・16.4 B・11.5 H・3.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハラシ b・ナデ	淡灰色	良	M-2	1/4	
	536	有台坏	B・10.5		a・ナデ b・ナデ	a・ハラシ b・ナデ	灰色	並	M-1	完	外面自然釉
	537	壺	C・(43.2)	a・ハラナデ b・ハラナデ			a・橙褐色 b・淡橙褐色	並	S・M-2	小片	
	538	坏	C・11.7	a・ナデ b・ナデ			淡灰色	良	S-1 海綿骨片	小片	
	539	坏蓋	C・17.4	a・ナデ b・ナデ			暗灰色	良	L-1 M-2	小片	重燒痕
	540	甕	C・21.2 N・18.5	a・ハラナデ b・ハラナデ	a・ハケ b・ハケ		橙褐色	並	M-1 S-2	1/4	
65	541	長頭瓶 (頸部)	W・4.6 (最小)		a・ナデ b・ナデ		灰褐色	良	S-2	完	高坏脚部か
	542	碗	C・11.3 B・5.7 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・糸切り b・ナデ	a・淡暗褐色 b・淡橙褐色	並	S-2 輪廓、輪廓	完	
	543	甕	C・19.0 N・17.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ハケ		淡褐色	良	M-1 S-2	1/8	
	544	甕	C・24.0	a・ナデ b・ナデ			淡褐色	並	M-1 S-2	小片	
	545	坏	C・13.4 B・10.0 H・3.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハラシ b・ナデ	明灰褐色	不良	S-1	1/2	
	546	甕	C・13.8 N・11.9	a・摩耗 b・摩耗	a・摩耗 b・摩耗		a・淡黄褐色 b・黃褐色	並	S-3 赤色粒	1/4	
	547	甕	C・14.6 N・12.3	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	良	M-1	1/8	
	548	甕 (底部)	B・8.7		a・ナデ b・ナデ	a・糸切り b・ナデ	a・赤褐色 b・橙褐色	良	S-1	1/6	
	549	甕	C・26.6 N・21.8	a・ナデ b・ハラナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	良	S-1	小片	
	550	甕	C・23.8 W・21.8	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	良	S・M-2	1/4	
	551	壺	C・30.4	a・ナデ b・ハケ	a・摩耗 b・ハケ		淡黄褐色	並	L-3	1/3	頭部凹線1条
	552	碗	C・(10.0)	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		橙褐色	不良	S-1 輪廓、輪廓	小片	
	553	碗 (底部)	B・8.2			a・輪廓+ハケ b・ナデ	淡黄褐色	並	L-1	1/3	内外面赤彩
	554	甕	C・13.8 W・15.2 H・15.1	a・ナデ b・ハラナデ	a・ハケ b・ハケ	a・摩耗 b・輪廓	a・淡褐色 b・淡黄褐色	並	L-2 赤色粒	1/3	

図版番号	上器番号	器種形式	法量(c m)	調 整 部			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
65	555	环蓋	C・11.6	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	並	S-1	1/2	外面自然釉 重焼痕
	556	盤	C・15.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・青灰色 b・灰色	並	S-1	1/7	重焼痕
	557	有台环	C・13.8 B・9.7 H・6.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラビン b・ナデ	淡青灰色	並	S-2	1/5	
	558	环蓋	C・12.8	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-1	小片	
	559	环蓋	C・13.8 H・2.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	並	S・M-1	2/3	重焼痕
	560	环蓋	C・14.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡青灰色	並	S-1	1/4	重焼痕
	561	环蓋	C・14.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	並	S・M-1	1/6	
	562	环蓋	C・14.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	並	S-1	1/6	
	563	坏	C・13.1	a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-1	1/7	
	564	坏 (底部)	B・7.2			a・ヘラビン b・ナデ	淡褐色	不良	S-1	完	
66	565	坏	C・11.2 B・7.2 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラビン b・ナデ	灰色	並	S・M-2	1/3	重焼痕
	566	坏	C・12.5 B・8.4 H・2.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラビン b・ナデ	灰色	並	S・M-1	1/6	
	567	坏	C・12.4 B・8.6 H・3.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラビン b・ナデ	灰色	並	L・M-1 S-2	1/2	重焼痕
	568	有台环	C・11.5 B・7.4 H・4.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラビン b・ナデ	淡灰色	並	S・M-1	1/4	
	569	盤	C・17.6 B・13.4 H・2.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラビン b・ナデ	淡青灰色	並	S-2	3/4	
67	570	盤	C・17.0 B・13.8 H・2.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラビン b・ナデ	淡灰色	並	S-2	1/3	
	571	坏	C・12.8 B・8.0 H・3.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラビン b・ナデ	淡橙褐色	並	S-1	3/4	
	572	甕	C・15.0 W・14.8	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・暗褐色 b・橙褐色	並	M-2	1/6	
	573	甕	C・19.6 N・17.8	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	並	M-1	小片	
	574	甕	C・21.6 N・19.2	a・ナデ b・ナデ			淡褐色	並	S-1	小片	
68	575	有台坏 (底部)	B・7.6			a・ヘラビン b・ナデ	灰色	並	M-1	完	
	576	甕		a・ナデ b・ナデ			灰色	並	S-1	小片	波状文2列 外面自然釉
	577	体部 (上部)			a・タタキ b・タタキ		淡橙褐色	並	S-1	小片	内面赤彩
	578	甕	C・10.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡暗褐色	並	S・M-1	1/6	

図版番号	土器番号	器種式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
66	579	甕 (底部)	B・5.7		a・ナデ b・ナデ	a・系切り b・ナデ	橙褐色	並	S.Ⅲ?	完	
	580	甕	C・13.3 N・12.0	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・暗褐色 b・淡橙褐色	並	M-1 S-2	1/6	
	581	甕	C・18.0 N・13.8	a・ナデ b・摩耗	a・カキ目 b・摩耗		淡黄褐色	並	S-2	小片	
	582	甕	C・20.8	a・ナデ b・ナデ			淡褐色	並	M-1 S-2	1/8	
	583	刀子状 鉄製品	L・(8.8) W・(1.3) D・(1.0)								重さ15g
	584	刀子状 鉄製品	L・(7.8) W・(1.4) D・(0.9)								重さ14g
	585	坏蓋	C・(12.0)	a・ナデ b・ナデ			灰白色	並	S-1	小片	
	586	坏蓋	C・12.2 H・2.5	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	並	M-2 S-1	2/3	外面自然釉
	587	坏蓋	C・12.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡褐灰色	並	S.Ⅲ-1	1/3	
	588	有台坏	C・(9.8)	a・ナデ b・ナデ	a・ b・ナデ	a・ b・ナデ	a・暗青灰色 b・灰色	並	S-2	小片	
67	589	甕	C・12.2 N・11.1	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡褐色	並	S.Ⅲ-1	1/5	
	590	坏蓋	C・14.0	a・ナデ b・ナデ			a・暗灰色 b・灰色	並	S-1	小片	外面自然釉
	591	坏蓋	C・17.0	a・ナデ b・ナデ			淡青灰色	並	S-1	小片	
	592	坏	C・13.8 B・8.9 H・3.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ足 b・ナデ	a・灰色 b・暗灰色	並	M-3	小片	
	593	有台坏	C・10.5 B・6.4 H・3.75	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ足 b・ナデ	a・淡青灰色 b・灰色	並	M-2	1/3	
	594	盤	B・14.0		a・ナデ b・ナデ	a・ヘビ足 b・ナデ	灰白色	不良	S-2	小片	2次被焼
	595	甕			a・斜引き b・斜開口		a・暗灰色 b・灰色	並	M-1	小片	
	596	椀	B・8.0		a・ナデ b・ミガキ	a・綱引き b・ミガキ	a・褐色	並	S-1 海綿骨片	1/6	内黒
	597	坏	C・13.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・灰色 b・淡青灰色	並	S-2	小片	重焼痕
	598	坏	C・18.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	S-2	小片	重焼痕
68	599	坏 (底部)	B・7.0		a・ヘビ足 b・ナデ		青灰白色	並	S-1	1/3	
	600	坏 (底部)	B・8.0		a・ヘビ足 b・ナデ		暗灰色	不良		2/3	
	601	坏 (底部)	B・7.8		a・ヘビ足 b・ナデ		灰色	並	S-2	1/6	
	602	甕	N・14.8	a・ナデ b・斜開口	a・ナデ b・斜開口		a・淡灰色 b・灰色	並	L-1 M-2	1/6	上面
	603	甕		a・ナデ b・斜開口	a・ナデ b・斜開口		a・暗灰色 b・淡灰色	並	M-1 S-3	小片	上面
	604	甕		a・ナデ b・斜開口	a・ナデ b・斜開口		灰色	並	I.-2 M-1	小片	上面
	605	短頸甕	C・7.6 W・14.2	a・ナデ b・ナデ	a・タタキ b・压痕		a・暗灰色 b・灰色	並	L-2 M-1	1/3	上面
	606	椀	C・8.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・瓢・綱引き b・ナデ	a・暗赤褐色 b・黒褐色	並	S-1	1/6	上面
	607	椀	C・12.0 B・6.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・瓢・綱引き b・ナデ	灰白色	不良	M-1 H・3.0	1/6	上面

図版 番号	上器 番号	器種 形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
67	608	楕(底部)	B · 8.6		a · 摩耗 b · 摩耗		淡橙褐色	並	M-1	1/3	上面
	609	甕	C · (17.6)	a · ナデ b · ナデ			淡橙褐色	並	L-1 S-2	小片	上面
	610	甕	C · (24.0)	a · ナデ b · ナデ			淡橙褐色	並	M-2	小片	上面
68	611	坏	C · 16.8	a · ナデ b · ナデ			灰白色	並	S-1	小片	上面
	612	有台坏	C · 14.4 B · 7.8 H · 5.8	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	a · 青灰色 b · 淡青灰色	良	L-1 M-2	1/6	上面
	613	甕		a · ハギレ b · ハギレ			淡灰色	並	L-1 M-3	小片	上面
	614	甕	C · (22.0)	a · ナデ b · ナデ			淡褐色	並	S-1	小片	上面
	615	壙	C · 32.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		淡橙褐色	並	S, M-?	1/7	上面
	616	坏	C · 10.0 B · 6.4 H · 2.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	暗灰色	不良	M-1	小片	重焼痕
	617	坏	C · 13.8	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 暗灰色 b · 淡灰色	並	S-2	小片	
	618	甕	C · (20.0)	a · ナデ b · ナデ	a · カキ目 b · ナデ		a · 橙褐色 b · 淡橙色	並	S-1	小片	
	619	坏	C · 12.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		淡灰色	並	S-1	小片	
	620	坏	C · 11.8	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		灰色	並	M-1	小片	重焼痕
	621	有台坏	C · 11.8	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 暗灰色 b · 灰色	並	S, M-1	小片	
	622	盤	C · 17.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		淡灰色	並	M-2	小片	
	623	甕	C · 25.6	a · ナデ b · ナデ			a · 暗灰色 b · 灰色	並	M-3	1/8	上面
	624	楕(底部)	B · 6.0		a · ナデ b · ナデ		赤褐色	並	M-2	1/2	上面
	625	甕(底部)	B · 5.4		a · 糸切り b · ナデ		a · 淡褐色 b · 淡黃褐色	並	L-1, S-?	1/4	
	626	甕	C · 25.2 W · 26.4	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 暗褐色 b · 淡褐色	並	M-2	小片	627と同一か
	627	甕	C · 25.2 W · 25.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 暗褐色 b · 淡褐色	並	M-2	小片	626と同一か
	628	坏(底部)	B · 6.8		a · ハギレ b · ナデ		淡青灰色	並	M-1	1/3	上面
	629	坏(底部)	B · 8.8		a · ハギレ b · ナデ		a · 灰色 b · 青灰色	並	L-1	1/5	上面
	630	有台坏(底部)	B · 6.2		a · ハギレ b · ナデ		a · 青灰色 b · 暗灰色	並	L-1 M-2	完	上面
	631	有台坏(底部)	B · 9.8	a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ		a · 暗灰色 b · 灰色	並	M-2	小片	上面
	632	甕		a · ハギレ b · ハギレ			a · 淡灰色 b · 灰色	並	L, M-1	小片	上面
	633	瓶類(肩部)		a · ハギレ b · ナデ			褐灰色	並	M-2	1/7	上面 瓶・瓶類
	634	瓶類(体部)		a · ナデ b · ナデ			a · 暗灰色 b · 淡灰色	並	L-1 M-2	1/6	上面
	635	楕	C · 11.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		淡橙褐色	並	S-1	小片	上面 内黒
	636	底部	B · 7.6			a · 摩耗 b · 摩耗	橙褐色	不良	S, M-1	小片	上面
	637	底部	B · (7.8)			a · 糸切り b · ナデ	a · 赤褐色 b · 黑褐色	並	M-1	小片	上面

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調			色調	焼成	胎土	遺存	備考
				口縁部	体部	底部					
69	638	甕	C・14.4 N・12.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・橙褐色 b・淡橙褐色	並		1/6	上面
	639	甕(底部)	B・4.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・カキ目	a・糸切り b・ナデ	a・淡黄褐色 b・暗褐色	並	M-2	1/6	上面
	640	甕	C・(21.2) N・(19.9)	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・カキ目		橙褐色	並	S-1	小片	上面
	641	甕	C・(23.8) N・(21.0)	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデか		淡橙褐色	並	S, M, L-1	小片	上面 摩耗
	642	刀子状 鉄製品	L・9.3 W・1.3 D・0.7								上面 27 g
	643	坏蓋	C・11.3	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	S-1	1/4	
	644	坏蓋	C・(16.0)	a・ナデ b・ナデ			青灰色	良	S, M-1	小片	
	645	坏蓋	C・17.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	良	L-1 M-2	1/4	重焼痕
	646	坏	C・13.6 B・9.8 H・3.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハゼル b・ナデ	灰色	良	L-1 M-2	1/4	重焼痕
	647	坏	C・15.3 B・11.6 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハゼル b・ナデ	明灰色	良	S-1	1/4	重焼痕
	648	坏	C・10.9	a・ナデ b・ナデ			a・青灰色 b・淡青灰色	並	S-1	小片	
	649	坏	C・11.6	a・ナデ b・ナデ			淡綠灰色	並	S-1	小片	砂質多
	650	坏	C・12.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・灰褐色 b・黃褐色	不良	S-1	1/6	
	651	坏(底部)	B・9.2			a・ハゼル b・ナデ	明灰色	良	S-1	1/4	
	652	坏(底部)	B・10.0			a・ハゼル b・ナデ	灰色	良	精良	1/8	
	653	坏(底部)	B・8.6			a・ハゼル b・ナデ	淡灰白色	良	M-1	小片	
	654	坏(底部)	B・8.6			a・ハゼル b・ナデ	淡灰色	良	M-1	小片	
	655	坏(底部)	B・8.3			a・ハゼル b・ナデ	明灰色	良	S-1	1/5	
	656	坏(底部)	B・8.1			a・ハゼル b・ナデ	淡青灰色	良	S, M-1	1/4	
	657	有台坏	C・16.4 B・10.6 H・4.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハゼル b・ナデ	a・黒灰色 b・灰色	良	L-1 M-2	1/3	外面降灰
	658	有台坏	C・11.8 B・7.6 H・4.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハゼル b・ナデ	a・青灰色 b・明灰色	良	S, M-1	1/2	
	659	有台坏(底部)	B・7.3			a・ハゼル b・ナデ	灰色	良	S-1	1/5	
	660	有台坏(底部)	B・9.0			a・ハゼル b・ナデ	a・黒灰色 b・灰色	良	L-1 M-2	1/5	外面降灰
	661	有台坏(底部)	B・12.5			a・ハゼル b・ナデ	a・灰色 b・淡灰色	並	S, M-1	完	
	662	有台坏(底部)	B・11.7			a・ケズリ b・ナデ	淡灰色	良	L, M-?	1/3	重焼痕
	663	有台坏(底部)				a・ハゼル b・ナデ	灰色	良	S-1	1/4	高台剥離
	664	盤	C・16.8 B・13.2 H・2.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		明灰色	良	S-1	1/8	重焼痕
	665	瓶類か	C・14.8	a・ナデ b・ナデ			a・黒灰色 b・灰色	良	M-1	小片	外面降灰

図版番号	I.器 番号	器 形 式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
69	666	壺	C・13.0 N・11.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ケズリ		淡青灰色	良	L-1 M-2	1/6	外面自然釉
	667	甕	C・21.5	a・ナデ b・ナデ			暗灰色	良	L-1 M-2	小片	
	668	甕	C・18.6	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・暗灰色	良	L-1 M-2	小片	
	669	甕	C・17.6	a・ナデ b・ナデ			淡褐色	並	L-1 M-2	小片	内外面降灰
	670	瓶 (底部)	B・11.8		a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	淡灰色	良	L-1 M-2	小片	
	671	甕			a・タタキ b・タタキ		a・暗灰色 b・黒灰色	良	L, M-1	小片	
70	672	体部		a・タタキ b・タタキ			灰色	並	S-1	小片	横瓶か
	673	双耳瓶	W・(15.6)	a・ナデ b・ナデ			a・暗灰色 b・淡灰色	良	M-1	小片	
	674	瓶 (底部)	B・10.1	a・ケズリ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・灰色 b・淡灰色	並	M-1	1/4		
	675	瓶	W・18.2 B・10.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・暗灰色 b・淡灰色	良	L-1 M-2	1/6	内面降灰	
	676	椀	C・13.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		乳褐色	良	稍良	1/4	
	677	椀 (底部)	B・6.1		a・糸切り b・ナデ		明黄褐色	並	S-1 赤色粒	1/2	摩耗顯著
	678	砾石	L・(5.3) W・(2.4) D・1.3								25.3 g
	679	有台坏	C・13.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・綠灰色 b・灰色	良	M-1	1/6	
	680	有台坏 (底部)			a・ハラミシ b・ナデ		明灰色	並	S-1	1/4	
	681	坏蓋	C・15.3 H・3.45	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	良	S, M-1	完	内外面一部 降灰
71	682	壺		a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・青灰色 b・暗灰色	良	M-1 S-2	1/8	
	683	坏蓋	銀径・2.8		a・ケズリ b・ナデ		明灰白色	良	S-1	1/3	
	684	有台坏	C・13.75 B・7.9 H・3.95	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハラミシ b・ナデ	淡灰色	良	S-1	2/3	南側東西流路
	685	有台坏 (底部)	B・10.0			a・ケズリ b・ナデ	a・灰色 b・淡灰色	並	S-1	1/4	
	686	甕		a・ナデ b・ナデ			灰色	良	S, M-1	小片	銅鑄文
	687	甕	C・19.6	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		淡青灰色	並	S-1	小片	刺離激しい
	688	甕	N・18.2		a・カキ目 b・カキ目		淡青灰色	並	S-1	1/6	
	689	瓶	B・10.2		a・ケズリ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	淡灰色	並	M-1	1/6	
	690	徳利	C・3.8 W・8.7 B・5.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・糸切り b・ナデ	淡灰色	並	S-1	完	H・11.45 c m
	691	皿	C・13.3 B・6.2 H・3.55	a・ナデ b・ミガキ	a・ナデ b・ミガキ	a・ケズリ+ナデ b・摩耗	a・湖色~鈍色 b・淡赤褐色	並	S, M-1 輪削片、赤色粒	1/3	全体に摩耗
	692	底部	B・6.2			a・糸切り b・ナデ	橙褐色	良	S, M-1 輪削片、赤色粒	完	
	693	甕	C・13.1 W・13.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナゲ b・ハケ		a・暗褐色 b・淡褐色	良	L, M-1	1/2	
	694	坏蓋 (銀部)	W・3.4		a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	S, M-1	完	東側南北流路

国版 番号	土器 番号	器種 形式	法量 (cm)	調 整			色調	焼成	脂土	遺存	備 考
				II 緑部		体 部					
				底 部							
71	695	壺蓋	鉢径・2.5		a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	良	M-1 S-2	1/3	
	696	壺蓋	鉢径・3.0		a・ケズリ b・ナデ		a・灰色 b・淡灰色	良	M-1 S-2	1/3	
	697	壺蓋	鉢径・2.9		a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	良	M-1 S-2	1/6	
	698	壺蓋	C・15.9 H・3.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・灰色 b・淡灰色	良	M-1 S-2	1/4	
	699	壺蓋	C・16.9	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	良	S, M-2	1/3	
	700	壺蓋	C・(17.3)	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	M-2	小片	外面降灰
	701	壺蓋	C・(16.1)	a・ナデ b・ナデ			a・淡灰綠色 b・淡灰色	良	M-1 S-2	小片	外面自然釉
	702	壺蓋	C・(15.8)	a・ナデ b・ナデ			灰色	良		小片	外面自然釉
	703	壺蓋	C・(13.7)	a・ナデ b・ナデ			淡灰綠色	良		小片	
	704	壺蓋	C・(15.3)	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	M-1	小片	内外面降灰
72	705	壺蓋	C・(15.5)	a・ナデ b・ナデ			淡灰色	良	S-2	小片	
	706	壺蓋	C・(16.0)	a・ナデ b・ナデ			灰色	良		小片	外面自然釉
	707	蓋	C・19.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・灰色 b・綠灰色	不良	L, M-2	1/8	
	708	坏	C・11.6 B・8.9 H・3.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・やれし b・ナデ	淡灰色	並	M-1 S-2	1/6	重燒痕
	709	坏	C・17.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・灰色 b・淡灰色	良	M-2	1/8	
	710	坏	C・15.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	良	M-1	小片	
	711	坏	C・15.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	良	M-2	小片	
	712	坏	C・13.4 B・9.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	良	S-2	小片	
	713	坏 (底部)	B・10.3		a・やれし b・ナデ		灰色	良	S, M-2	1/6	
	714	坏 (底部)	B・11.6		a・やれし b・ナデ		淡灰色	並	M-1 S-2	1/6	
73	715	有台坏 (底部)	B・10.2		a・やれし b・ナデ	a・暗青灰色 b・暗灰色	良	S, M-2	1/2		
	716	有台坏 (底部)	B・10.0		a・やれし b・ナデ	a・暗灰色 b・淡灰色	良	M-1 S-2	1/4	外面自然釉	
	717	有台坏 (底部)	B・9.3		a・やれし b・ナデ	a・暗灰色 b・灰色	並	M-1 S-2	1/6	重燒痕	
	718	有台坏 (底部)	B・9.6		a・やれし b・ナデ	淡灰褐色	並	M-1 S-2	1/7		
	719	有台坏 (底部)	B・9.7		a・やれし b・ナデ	淡灰色	良	S-2	1/4		
	720	有台坏 (底部)	B・9.6		a・ナデ b・ナデ	淡灰色	並	S, M-2	1/6		
	721	有台坏 (底部)	B・10.6		a・やれし b・ナデ	灰色	良	S, M-2	1/5		
	722	有台坏 (底部)	B・12.8		a・ナデ b・ナデ	淡黃白色	不良	M-1 S-2	1/5		
	723	有台坏 (底部)	B・9.4		a・ナデ b・ナデ	淡黃白色	不良	S-2	1/5		
	724	盤	C・15.2 B・12.2 H・2.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・やれし b・ナデ	明灰色	良	L-1 M-2	1/7	重燒痕

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整 部			色調	焼成	胎土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
72	725	甕	C・23.2 N・17.3	a・ナデ b・ナデ	a・タタキ b・タタキ		淡灰色	良	M-1 S-2	小片	外面自然釉
	726	甕	C・21.2 N・17.4	a・ナデ b・ナデ	a・タタキ b・タタキ		暗灰色	良	M-1	小片	
	727	甕	C・12.8 N・12.7 W・26.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・灰色 b・明灰色	良	S-1	1/3	
	728	壺・瓶類	W・(18.7)		a・ナデ b・ナデ		淡灰色	良		小片	波状文2段 外面自然釉
	729	瓶			a・ナデ b・ナデ		a・淡褐色 b・淡灰色	良		1/4	外面自然釉
	730	双耳瓶	W・16.4		a・ナデ b・ナデ		a・褐色 b・灰色	良	S・M-1	小片	外面自然釉
	731	瓶 (底部)	B・10.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・灰色 b・淡灰色	良	L-1 S・M-2	1/2		
	732	瓶 (底部)	B・8.3	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	淡灰白色	良	S・M-1	2/3	底部ヘラ記号 「+」
	733	瓶	W・15.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・綠灰色 b・淡灰色	良		1/6	外面自然釉
	734	瓶 (底部)	B・11.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	暗灰色	良	M-1 S-2	1/4	外面自然釉
	735	棱橢	C・18.6 B・11.8 H・6.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	a・暗灰褐色 b・灰色	良	精良	1/4	
	736	円面鏡	W・(16.4)		a・ナデ b・ナデ		暗灰色	良		小片	透孔推定で 12ヶ所
73	737	椀	C・15.5	a・ナデ b・ミガキ	a・ナデ b・ミガキ		淡橙褐色	良	海綿骨片 赤色粒	1/3	内黒
	738	椀	C・15.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡橙褐色	並	L-1 赤色粒	小片	
	739	椀 (底部)	B・13.6		a・摩耗 b・摩耗	a・摩耗 b・摩耗		並	S・M-1 網目、網越	1/4	
	740	皿	C・13.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡橙褐色	良	赤色粒	1/6	土師質土器
	741	底部	B・7.6		a・ナデ b・ナデ		淡褐色	並	L・S-1	完	
	742	底部	B・7.0		a・ナデ b・ナデ		淡褐色	並	L-1 M-2	1/4	
	743	底部	B・5.8		a・ナデ b・ナデ		明橙褐色	良	赤色粒	1/2	
	744	底部	B・7.7	a・摩耗 b・摩耗	a・摩耗 b・摩耗		明黃橙色	並	海綿骨片 赤色粒	1/3	
	745	底部	B・6.8		a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・淡黃褐色 b・淡灰褐色	良	海綿骨片 赤色粒	完	
	746	底部	B・5.5	a・摩耗 b・摩耗	a・摩耗 b・モチ	a・糸切り b・モチ	a・明黃褐色 b・明橙褐色	並	海綿骨片 赤色粒	完	
	747	甕		a・摩耗 b・モチ			橙褐色	並	S・M-1	小片	
	748	甕	W・14.5	a・ハケ b・ハケ	a・ナデ b・ハケ	a・ナデ b・ハケ	a・深褐色 b・褐色	良	L・M-1 S-2 海綿骨片	1/4	
	749	壺	W・29.6	a・ナデ b・カキ			淡褐色	良	M-1 S-2	小片	
	750	?	C・18.4	a・ナデ b・ナデ			淡褐色	並	M-3 海綿骨片	1/5	弥生壺か
	751	鉄滓	L・6.7 W・6.0 D・3.3								140g
	752	壺蓋	C・11.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		青灰色	良	S-2	1/4	
	753	壺蓋	C・15.0	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	S-1	小片	

団版 番号	土器 番号	器 種 形 式	法量(c m)	調 整			色 調	焼 成	脂 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
73	754	坏	B · 9.2		a · ナデ b · ナデ	a · ハゼレ b · ナデ	灰白色	良		1/4	
	755	椀	C · 10.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 暗灰色 b · 灰白色	不良	S - 3	1/6	
	756	坏蓋 (紐部)	W · 2.55		a · ナデ b · ナデ		灰色	良	M - 2	完	内面ヘラ記号
	757	有台坏 (底部)	B · 11.5		a · ナデ b · ナデ		明灰色	良	S - 1	1/8	
	758	坏蓋 (紐部)	W · 2.6		a · ナデ b · ナデ		淡灰色	良		完	
	759	坏蓋	C · (15.7)	a · ナデ b · ナデ			淡灰褐色	並	S - 2	小片	
	760	坏	C · 11.8	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		淡灰色	良	M - 1 S - 2	小片	重焼痕
	761	坏	C · 14.9	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · 暗灰色 b · 淡灰褐色	並	S, M - 2	小片		
	762	坏 (底部)	B · 11.5		a · ナデ b · ナデ	a · ハゼレ b · ナデ	淡灰色	良	M - 1 S - 2	1/2	
	763	坏	C · 12.3	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		淡灰色	良	M - 1 S - 2	小片	
	764	坏	C · 13.8 B · 10.0 H · 3.5	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハゼレ b · ナデ	淡灰色	良	M - 1 S - 2	1/5	重焼痕
	765	坏 (底部)	B · 10.8			a · ナデ b · ナデ	淡灰色	良	S - 1	小片	重焼痕
	766	坏	C · 13.6 B · 8.2 H · 4.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハゼレ b · ナデ	淡灰白色	並	M - 1 S - 2	1/4	
	767	有台坏 (底部)	B · 9.8			a · ハゼレ b · ナデ	a · 暗灰色 b · 灰色	良	S, M - 2	1/4	
	768	有台坏 (底部)	B · 11.1			a · ナデ b · ナデ	灰色	良	M - 1 S - 2	小片	
	769	有台坏 (底部)	B · 11.2			a · ナデ b · ナデ	灰色	良	M - 1 S - 2	1/6	
	770	甌	C · 18.5	a · ナデ b · ナデ			淡青灰色	良	M - 1 S - 2	小片	
	771	甌		a · ナデ b · ナデ			a · 暗灰色 b · 灰色	並	S - 2	小片	波状文2段
	772	壺 (底部)			a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	淡灰色	並	S, M - 2	1/6	内外面 一部自然釉
	773	底部	B · 6.4			a · ナデ b · ナデ	淡橙褐色	並	S - 2 赤色粒	1/3	外面赤彩
	774	椀 (底部)	B · 6.0			a · ナデ b · ナデ	淡橙褐色	並	S - 2 海綿骨片	1/2	外面赤彩 内黑

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
73	775	底部	B・7.0			a・ナデ b・ナデ	褐色	並	M-2 赤色粒	1/7	
	776	瓶(底部)	B・11.6			a・ナデ b・ナデ	灰色	良	S-2	1/8	外面自然釉
74	777	环(底部)	B・9.0			a・ハゼ b・ナデ	淡灰色	並	S-1	1/3	
	778	有台环(底部)	B・9.8			a・ハゼ b・ナデ	a・暗灰色 b・淡灰色	並	S-2	1/3	
75	779	瓶(底部)	B・8.8			a・ナデ b・ナデ	a・暗灰色 b・灰色	並	L-1 M-2	小片	
	780	甕			a・タタキ b・タタキ		a・暗褐色 b・淡灰色	並	L-1 M-2	小片	
76	781	底部	B・7.0			a・ナデ b・ナデ	橙褐色	並	S-2	1/4	
	782	甕	C・(19.0) N・(17.2)	a・摩耗 b・摩耗	a・摩耗 b・カキ目		淡褐色	並	M-1 S-2	小片	
77	783	甕	N・(13.4) W・(15.0)	a・カキ目 b・カキ目			淡橙褐色	並	L-3	小片	内面下半ヘラ 状具ナデ
	784	坏蓋	C・14.6 H・2.9	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰白色	不良	S-3	1/3	
78	785	坏蓋		a・ナデ b・ナデ			灰白色	不良	S-1	1/2	
	786	坏	B・8.6		a・ナデ b・ナデ	a・ハゼ b・ナデ	灰白色	不良	S-3	完	
79	787	有台坏	C・12.4 B・8.8 H・4.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	灰白色	不良	S-3	完	底面ヘラ記号 「+」
	788	碗(陶器)	C・14.7				淡綠黄色		精良	1/8	蓮弁花文 灰釉
80	789	甕			a・タタキ b・タタキ		灰色	並	M-1	小片	
	790	坏(底部)	B・(8.7)			a・ナデ b・ナデ	灰色	並	S-1	小片	
81	791	甕	C・12.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡褐色	良	S-1	1/4	
	792	坏蓋	C・(13.2)	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	M-1	小片	
82	793	坏(底部)	B・7.0		a・ナデ b・ナデ	a・ハゼ b・ナデ	淡青灰色	良	M-1	1/6	
	794	有台坏(底部)	B・10.6			a・ハゼ b・ナデ	淡青灰色	良	M-1	1/3	
83	795	甕	C・12.8 N・11.0	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・淡灰色	並	M-1	小片	
	796	底部	B・13.0	a・ケズリ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	良	L-1	1/5	
84	797	甕	C・23.2	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	S-1	小片	
	798	溜鉢(片口)	C・21.8	a・ナデ b・ナデ			赤褐色	並		小片	加賀焼
85	799	坏蓋(鉗部)	W・2.8	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	S-1	完	
	800	坏(底部)	B・(8.6)			a・ハゼ b・ナデ	淡青灰色	並	S-1	1/3	
86	801	有台坏(底部)	B・9.8			a・ハゼ b・ナデ	淡青灰色	良	S-1	1/7	
	802	有台坏(底部)	B・(13.6)			a・ハゼ b・ナデ	暗青灰色	並	L-1 M-2	1/4	
87	803	瓶(底部)				a・ナデ b・ナデ	灰白色	並	S-2	1/4	自然釉
	804	青磁	B・(10.0)				淡青綠色	並	精良	小片	碗か
88	805	青磁	C・8.0				淡青綠色	並	精良	小片	花瓶

# 遺物観察表

図版番号	土器番号	器種式	法量(c m)	調			色調	焼成	胎上	遺存	備考
				口縁部	体部	底部					
75	806	碗(磁器)	C・11.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		褐色	良	精良	小片	釉白濁色
	807	石劍(麻製)	L・(3.7) W・(7.1) D・1.5								40g 砂岩
	808	坏蓋	C・12.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		明灰色	良	S-2	1/5	
	809	坏蓋	C・15.6	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・明灰色	良	S-1	小片	
	810	坏(底部)	B・10.0			a・ハゼル b・ナデ	灰色	並	M-1	1/8	
	811	有台坏	B・7.5		a・ナデ b・ナデ	a・ハゼル b・ナデ	a・灰色 b・淡灰色	良	M-2	1/5	内面自然釉
	812	有台坏	B・11.5		a・ナデ b・ナデ	a・ハゼル b・ナデ	a・灰色 b・青灰色	良	S-2	1/4	
	813	有台坏(底部)	B・8.6			a・ハゼル b・ナデ	淡灰色	並	M-1 S-2	小片	
	814	有台坏(底部)	B・8.0			a・ハゼル b・ナデ	灰色	良	M-1	1/5	
	815	有台坏(底部)	B・9.0			a・ナデ b・ナデ	暗灰色	良	L-1 M-2	1/8	
	816	有台坏(底部)	B・11.1			a・ハゼル b・ナデ	a・灰色 b・淡灰色	良	M-1	小片	
	817	甕	C・19.5	a・ナデ b・ナデ			a・暗灰色 b・灰色	良	S-1	小片	
	818	臺(底部)				a・ナデ b・ナデ	a・綠灰色 b・灰色	並	M-1	1/7	外外面自然釉
	819	片口鉢		a・ナデ b・ナデ			a・明灰色 b・灰色	並	S-1	小片	
	820	高坏			a・摩耗 b・摩耗		a・淡黃褐色 b・淡褐色	並	M-1 S-2	1/4	剥離顯著
	821	皿(陶器)	C・7.35 B・4.6 H・1.8				魏・灰白色 輪・ナガラ 乳白色	並	精良	1/2	灰釉
	822	碗(青磁)					魏・灰白色 部・明褐色	良	精良	完	釉-淡綠灰色
	823	急須(磁器)					魏・灰白色	良	精良	完	釉-青灰白色 注口部・現代
	824	砥石	L・(4.3) W・(3.3) D・(1.3)								33.7g
	825	洪武通寶	径・2.1								楷書、1.4g
	826	元祐通寶	径・2.4								行書、2.0g
	827	坏蓋	C・12.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	良	M-1	1/8	
	828	坏	C・14.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	M-1	1/7	
	829	碗(陶器)	B・4.8				魏・淡灰色	良	精良	完	鐵釉(黒褐色)
	830	有台坏(底部)	B・5.9		a・ナデ b・ナデ	a・ハゼル b・ナデ	灰色	良	S.M-1	1/3	
	831	甕	C・12.7 W・15.4 H・13.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナガラ b・ナガラ	a・摩耗 b・摩耗	a・暗褐色 b・淡褐色	並	L-1 M-2	1/4	
	832	坏蓋	C・17.2	a・ナデ b・ナデ			a・淡青灰色 b・淡褐灰色	並	L-1 M-2	小片	重燒痕
	833	甕	C・17.8 W・18.2	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・ナデ		淡褐色	並	M-1	1/4	
	834	坏	C・12.8 B・9.4 H・3.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ハゼル b・ナデ	明灰色	良	S.M-1	1/4	

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
75	835	壺蓋	C・15.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・暗灰色 b・明灰色	良	M-2 S-1	1/4	
76	836	椀	C・21.2	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ			並	M-1 S-2	1/5	外面赤彩 内黒
	837	壠	C・24.7	a・ナデ b・ナデ	a・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup> b・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup>		暗褐色	良	L-1 M-2	小片	
	838	有台壺	C・13.8 B・9.4 H・4.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	明灰色	良	S-1	1/3	
	839	壺	C・12.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		明灰色	良	S-1	1/4	重焼痕
	840	盤	C・15.8 B・12.9 H・2.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup> b・ナデ	a・灰色 b・青灰色	良	S・M-1	1/4	重焼痕
	841	壺蓋	C・15.3 H・4.2	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	並	S-1	完	外面降灰
	842	壺蓋	C・14.3	a・ナデ b・ナデ			a・淡灰色 b・灰色	良	M-1	小片	内面自然釉
	843	壺	C・11.9 B・8.7 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup> b・ナデ	a・暗灰色 b・暗灰色	良	L-1 M-2	1/5	重焼痕 内面自然釉
	844	有台壺	C・13.0 B・10.0 H・4.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup> b・ナデ	淡褐色	不良	M-1	1/4	底面ヘラ記号 「+」
	845	有台壺(底部)	B・8.6			a・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup> b・ナデ	淡褐色	不良	M-1	完	転用覗か
	846	甕	C・18.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗褐色 b・淡褐色	並	M-1	小片	外面四線1条
	847	甕			a・タタキ b・タタキ		a・暗褐色 b・明橙褐色	良	L・M-2 赤色粒	小片	
	848	盤	C・15.3 B・12.9 H・2.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup> b・ナデ	灰色	良	S-1	1/4	重焼痕
	849	甕	B・12.3			a・ケズリ b・ナデ	淡褐色	良	L・M-2 赤色粒	小片	
	850	甕	C・12.5 W・12.1	a・ナデ b・ナデ	a・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup> b・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup>		a・淡橙褐色 b・淡黄褐色	並	L・S-2 M-2	1/4	
	851	壺	C・13.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗灰色 b・灰色	良	S-1	小片	
	852	甕	C・25.8	a・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup> b・ナデ	a・ハケ b・靴瀧		淡褐色	並	L・M-2 赤色粒	小片	
	853	高壺	B・11.4 (受部)		a・ナデ b・ナデ		橙褐色	良	L・M-2	1/3	
	854	壺	C・11.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	S-1	1/6	肩部降灰
	855	鉢	C・31.0	a・ナデ b・ナデ	a・ミガキ b・ナデ		a・黒褐色 b・淡灰褐色	良	L・M-2 海綿骨片	小片	
	856	甕	C・(19.9) N・15.3	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・摩耗		淡橙褐色	良	S・M-1	1/8	
77	857	壺蓋	C・17.2	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		暗灰色	良	L-1 S-2	1/6	
	858	有台壺 (底部)	B・9.9			a・ケズリ b・ナデ	暗灰色	良	L-1 M-2	1/7	
	859	有台壺	B・11.1		a・ナデ b・ナデ	a・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup> b・ナデ	暗灰色	良	L-1 M-2	1/3	
	860	甕	C・15.9 W・15.4 H・14.5	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ	a・ケズリ b・ケズリ	淡橙褐色	良	L・M-2	1/3	
	861	甕	C・26.5 W・24.5 H・(31.6)	a・ <sup>ナゲ、ナゲ</sup> b・ナデ	a・ハケ b・ハケ	a・ハケ b・ハケ	a・赤褐色 b・暗赤褐色	良	L-1 M-2	1/6	

図版番号	上器番号	器種形式	法量(cm)	調 整			色調	焼成	胎土	遺存	備 考
				口縁部	体部	底部					
77	862	碗	C・14.6 B・6.0 H・4.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・糸切り b・ナデ	橙褐色	良	S-1 海綿骨片 赤色粒	完	
	863	有台环	C・16.2 B・11.2 H・4.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ芯 b・ナデ	淡灰色	良	L.M-1 S-2	1/4	重焼痕
	864	环蓋	C・16.0	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・淡灰色	良		小片	外面自然釉
	865	有台环(底部)	B・10.0			a・ナデ b・ナデ	淡灰色	良		小片	
	866	蓋	C・12.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰白色	良	S.M-2	1/4	ケズリは天井部外面
	867	环蓋	C・13.1	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰白色	良	S-1	1/3	
	868	环蓋			a・ケズリ b・ナデ		灰白色	良	S-1 海綿骨片	1/3	内面ヘラ記号「-」?
	869	有台环(底部)	B・8.6		a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ芯 b・ナデ	a・淡灰色 b・明灰色	良	S.M-1	1/3	
	870	転用硯	B・9.3			a・ヘラ芯 b・ナデ	灰色	良	L-1 M-2	完	外底面使用痕 墨痕あり
	871	甕	C・22.0 N・18.3	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・淡橙褐色 b・橙褐色	良	L.M.S-1 海綿骨片	1/6	
	872	甕(底部)	B・6.6		a・ナデ b・カキ目	a・ケズリ b・ナデ	a・褐色 b・淡褐色	並	L-1	1/3	
	873	甕	C・22.0 N・20.2	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		黃褐色	並	L.M-2	小片	
	874	环蓋	C・(13.3)	a・ナデ b・ナデ			灰色	良	M-1	小片	
	875	坏	C・15.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	良	M-2	小片	重焼痕
78	876	鉢(繩文)	C・15.7 H・9.1	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ	a・ミガキ b・ミガキ	淡褐色～ 淡粉褐色	良	L-1 S.M-2	1/4	御経塚式 (古相)
	877	口縁部(繩文)		a・ミガキ b・摩耗			a・橙褐色 b・淡橙褐色	並	L-1 S.M-2	小片	井ノ口W
	878	体部片(繩文)					淡褐色	並	S-1	小片	御経塚式 (古相)
	879	坏	C・11.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰白色	並	S-1	1/8	重焼痕
	880	坏	C・12.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	不良	S-1	小片	
	881	坏	C・14.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	並	S-2	小片	
	882	有台环	B・9.0	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ芯 b・ナデ		淡青灰色	並	S-2	1/4	重焼痕
	883	深鉢(繩文)	C・25.5 W・27.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		暗褐色	並	S.M-2	1/5	御経塚式 (古相)
	884	有台环(底部)	B・11.3			a・ヘラ芯 b・ナデ	淡紫灰色	並	M-1 S-2	1/2	
	885	环蓋	C・12.9	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・淡青灰色 b・暗褐色	並	S-2	完	
	886	底部	B・9.6		a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	淡青灰色	並	M-1 S-2	1/7	内面自然釉 瓶類か
	887	环蓋	C・14.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰白色	不良	S-1	1/5	
	888	盤	C・18.7	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰白色	不良	S-1	小片	重焼痕
	889	甕	N・20.8		a・タタキ b・タタキ		淡青灰色	並	S-2	1/7	
	890	甕か	C・(12.9)	a・ナデ b・ナデ			褐色	並	S-1	小片	
	891	坏	C・(12.4)	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡青灰色	並	S-1	小片	内面凹線4条

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎土	遺存	備 考	
				口縁部	体 部	底 部						
78	892	有台坏 (底部)	B · 7.4		a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハグレ b · ナデ	淡青灰色	並	S - 1	1/6 転用碗か	
79	893	有台坏	C · 12.0 B · 7.8 W · 4.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハグレ b · ナデ	a · ハグレ b · ナデ	淡灰色	並		1/7	
	894	坏蓋	C · 12.0	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ			灰色	並	S - 1	1/2	
	895	有台坏	C · 10.8 B · 8.2 H · 4.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハグレ b · ナデ	a · 淡青灰色 b · 淡褐灰色	並	S - 1	1/2		
	896	坏蓋	C · 12.8	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ			淡青灰色	並	M - 3	小片 重焼痕	
	897	坏蓋	C · (16.2)	a · ナデ b · ナデ				淡灰色	並	M - 3	小片 外面降灰 内面自然釉	
	898	坏 (底部)	B · 9.5			a · ハグレ b · ナデ		淡灰色	並	S - 1	1/5	
	899	有台坏 ?	B · 4.6				a · ナデ b · ナデ	a · 淡灰色 b · 暗灰色	並	S - 1	1/7	
	900	椀	C · 11.8	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ			淡黄褐色	並	S - 1	1/7	
	901	壠	C · 38.0	a · ナデ b · ナデ	a · カキ目 b · ナデ			淡橙褐色	並	L · M - 1	1/8	
	902	小毫	C · 7.9 W · 9.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 暗灰色 b · 灰色	並	L - 1	小片		
	903	底部	B · 6.2		a · ナデ b · ナデ	a · 糸切り b · ナデ	a · 暗褐色 b · 淡褐色	並	L · S - 1	完	上面	
	904	甕	B · 10.1		a · カキ目 b · カキ目	a · ナデ b · ナデ		淡褐色	並	S - 1	1/4 上面	
	905	坏蓋	C · (10.0)	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ			淡青灰色	並	M - 2	小片 上面	
	906	坏	C · 13.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 淡青灰色 b · 灰色	並	M - 1	小片		
	907	坏	C · 12.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 橙褐色 b · 淡橙褐色	並	S - 2	1/6 上面		
	908	底部	B · 6.1			a · 糸切り b · ナデ	a · 赤褐色 b · 淡褐色	並	S - 2	1/4 上面		
	909	椀	C · 17.6	a · ナデ b · ナデ	a · ナデか b · ナデか			橙褐色	並	M - 2	小片 内外面赤彩 摩耗激しい	
	910	椀 (底部)	B · 8.1			a · ナデ b · ミガキ		淡褐色	並		1/8 内黒 上面	
	911	甕	C · 10.0 N · 9.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ			暗褐色	並	S - 1	小片 上面 摩耗激しい	
	912	底部	B · 9.6	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		淡黄褐色	並	M - 2	1/6 上面	
	913	壠	C · 28.6	a · ナデ b · カキ目	a · ナデ b · カキ目			淡橙褐色	並	L - 1	小片	
	914	甕	C · 24.0	a · ナデ b · ナデ	a · カキ目 b · ナデ			淡橙褐色	並	S - 1	小片 上面 摩耗	
	915	甕	C · 22.6 W · 24.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · 淡褐色 b · 淡橙褐色	並	L - 1 M - 2	1/8		
	916	底部	B · 4.6		a · ナデ b · ナデ	a · 糸切り b · ナデ	a · 灰白色 b · 暗褐色	並	S - 1	1/4		
	917	椀	C · 23.7	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 暗褐色 b · 黑褐色	不良	M - 1	1/8 摩耗		
	918	甕	C · 21.4	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · カキ目			淡橙褐色	並	M - 1	1/7	
80	919	甕			a · タタキ b · タタキ		a · 暗青灰色 b · 灰色	良		小片		
	920	底部	B · 5.0			a · ナデ b · ナデ	a · 淡橙褐色 b · 淡褐色	並	M - 2	2/3		
	921	甕	C · 12.6	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 暗褐色 b · 淡褐色	並	M - 2	1/6		

図版番号	土器番号	器形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
80	922	甕	C・21.4 W・20.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・褐色 b・淡褐色	並	L-1 M-2	1/7	
	923	壺	C・12.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	M-1	小片	上面
	924	椀	C・12.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡橙褐色	並	S-1	小片	内黒
	925	壺蓋	C・12.4	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・青灰色 b・暗褐色	並	S, M-1	1/3	上面
	926	壺	C・13.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	並	M-3	小片	
	927	壺	C・15.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		暗褐色	並	S-1	小片	上面
	928	壺 (底部)	B・(6.4)			a・ナデ b・ナデ	灰色	並	S-1	小片	上面
	929	椀 (底部)	B・6.2		a・ナデ b・ナデ	a・糸切り b・ナデ	橙褐色	並	S-1	1/4	上面 内黒
	930	壺	C・(30.0)	a・ナデ b・カキ目	a・ハケ b・ハケ		a・橙褐色 b・淡橙褐色	並	S, M-1	小片	上面
	931	椀 (底部)	B・5.0			a・糸切り b・ナデ	淡橙褐色	並	S-2	完	外面赤彩 内黒、上面
	932	椀	B・7.0		a・ナデ b・ナデ	a・糸切り b・ナデ	淡橙褐色	並	S-1	1/6	内黒 上面
	933	壺	C・25.6	a・ナデ b・カキ目			淡橙褐色	並	S-2	小片	上面
	934	底部	B・(7.0)			a・ナデ b・ナデ	淡褐色	並	L-1	小片	上面
	935	棒状 鉄製品	L・(13.85) W・(2.1) D・(2.65)								上面 126 g
81	936	壺蓋	C・14.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	並	L-1	小片	重焼痕
	937	壺蓋	C・13.0	a・ナデ b・ナデ			a・灰色 b・淡灰色	並	M-2	小片	
	938	皿	C・(9.6)	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡黄褐色	並	L-1 S-2	小片	灯明皿
	939	甕			a・ナデ b・ナデ		a・淡橙褐色 b・橙褐色	並	L, S-1	小片	
	940	甕	C・12.2 N・11.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		暗褐色	並	M-2	1/6	
	941	甕	C・29.6 N・27.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡橙褐色	並	M-2	小片	摩耗激しい
	942	壺	C・15.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰白色	並	M-2	小片	
	943	壺 (底部)	B・8.5		a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	淡灰色	並	M-2	1/3	
	944	盤	C・17.2 B・13.2 H・2.25	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	淡灰色	並	L-1	1/4	
	945	椀	C・19.4	a・ナデ b・ナデ			淡黄褐色	並		小片	
82	946	底部	B・7.8			a・ナデ b・ナデ	褐色	不良	S-1	1/3	
	947	底部	B・10.4			a・ナデ b・ナデ	淡黄褐色	並	M-1	小片	
	948	底部	B・5.4			a・糸切り b・ナデ	淡褐色	並	M-1	1/4	内黒
	949	椀	C・14.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		橙褐色	並	S-1	小片	内黒 摩耗
	950	壺	C・11.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	並	L-1	小片	重焼痕
	951	椀	C・15.0 B・6.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・糸切り b・ナデ	a・暗褐色 b・淡褐色	並	S, M, L-1 赤色粒	1/3	H・5.1

図版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
81	952	壺	C・(8.8)	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡灰色	並	M-1	小片	
	953	甕	C・12.6 W・10.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		暗褐色	並	L-1 M-2	小片	
	954	壺	C・12.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰白色	並	M-1	1/7	
	955	有台壺	B・9.4		a・ナデ b・ナデ	a・ <sup>ハタキ</sup> <sub>ナデ</sub> b・ナデ	a・暗褐色 b・暗赤褐色	不良	M-2	1/7	
	956	甕			a・タタキ b・タタキ		a・灰色 b・淡灰色	並	M-1	小片	
	957	椀	C・12.6 B・7.5 H・3.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・糸切り b・ナデ		並	M-1	1/5	外面赤彩 内黒
	958	甕	C・20.0 N・17.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡褐色	並	M-2	1/5	
	959	甕	C・19.6 N・16.4	a・ナデ b・ナデ	a・カキ口 b・ナデ		a・褐色 b・淡褐色	並	L-2, S-1 赤色粒	小片	
	960	壺蓋	C・17.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		灰色	並	L-1 M-2	1/6	重焼痕
	961	壺蓋	C・12.6	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・灰色 b・淡灰色	並	S, M-2	2/3	
82	962	瓶	B・11.6		a・ <sup>ナデ, ナデ</sup> b・ <sup>ナデ, ナデ</sup>	a・ <sup>ナデ, ナデ</sup> b・ <sup>ナデ, ナデ</sup>	暗灰色	並	L-2 M-1	1/3	
	963	甕			a・タタキ b・タタキ		a・暗青灰色 b・灰色	並		小片	
	964	壺	C・11.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・灰褐色 b・青灰色	良	S-1	1/8	
	965	壺	C・13.6 B・8.6 H・2.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ <sup>ハタキ</sup> b・ナデ	暗灰色	良	M-2	1/4	重焼痕
	966	壠	C・33.0	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ <sup>ナデ, ナデ</sup>		a・暗褐色 b・淡褐色	良	M-1 S-3	小片	
	967	盤	C・14.7 B・11.2 H・2.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	淡褐色	不良	M-1	1/6	
	968	壺蓋	W・3.4 (縦部)		a・ケズリ b・ナデ		a・灰白色 b・黃灰色	並	M-1	1/4	外面降灰 自然釉
	969	壺蓋	C・15.7 H・1.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	良	S, M-1	1/4	内外面降灰
	970	壺	C・16.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・黃灰色 b・灰色	並	L, S-1 M-2	1/4	
	971	甕			a・タタキ b・タタキ		淡黃褐色	不良	S-1	小片	
83	972	深鉢 (縄文)	B・9.2		b・ナデ	a・ <sup>繩正筋</sup> b・ナデ	a・淡橙褐色 b・淡灰褐色	良	L, M-3	1/3	底部不明瞭
	973	鉢 (縄文)	C・(16.8)	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		暗棕褐色	並	M-2	小片	
	974	壺蓋	C・14.7	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡褐色	不良	S-2	1/6	
	975	壺	C・10.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	良	M-2	小片	
	976	有台壺	B・9.1		a・ナデ b・ナデ	a・ <sup>ハタキ</sup> b・ナデ	灰褐色	良	S-2	1/3	
	977	鉢	C・16.2 W・19.1	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・淡橙褐色 b・橙褐色	良	M-2	1/4	
	978	壺 (底部)	B・7.3			a・ <sup>ハタキ</sup> b・ナデ	明灰褐色	並	S-1	1/4	
	979	椀	C・10.6 B・5.2 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ミガキ	a・ケズリ b・ミガキ	橙褐色	良	精良	1/3	内黒
	980	甕	C・19.1 N・16.3	a・ナデ b・ナデ	a・ハケ b・ハケ		a・灰褐色 b・暗灰色	並	S, M-2	1/4	

国版番号	土器番号	器種形式	法量(c m)	調 整			色調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
82	981	甕	C・14.3 N・12.9	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		a・淡褐色 b・乳白色	良 S-1	M-2 S-1	1/4	
	982	甕	C・22.4 N・19.9	a・ナデ b・ナデ	a・カキ目 b・カキ目		橙褐色	良	M-2	1/4	
	983	壺		a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・暗綠灰色 b・灰色	良	S, M-1	1/4	外面全体に 自然釉付着
83	984	壺	C・12.0 B・9.4 H・3.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ毛	淡灰色	並	S-1	1/4	重燒痕
	985	壺	C・9.4 B・9.0	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		a・暗灰色 b・淡灰色	並	S-2	小片	外面降灰 一部自然釉
	986	瓶類 (頭部か)	W・4.8		a・ナデ b・ナデ		a・暗灰色 b・淡灰色	良	精良	1/4	内外面自然釉
	987	甕			a・タタキ b・タタキ		淡橙褐色	良	S, M-1	小片	
	988	甕	W・40.2		a・ナ・タタキ b・タタキ		暗灰色	並	M-2	1/8	
84	989	甕	N・23.8	a・ナデ b・ナデ			淡灰色～ 灰色	良	M-2	1/5	990と同一個体 波状文2段
	990	甕	W・58.2	a・ナデ b・ナデ	a・タタキ b・タタキ	a・タタキ b・タタキ→ナ	灰色	良	M-2	2/3	外面自然釉 肩部に径10.9 c mの環重焼痕 最低4ヶ所有
85	991	壺蓋	C・17.3	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・灰色 b・淡灰色	良	S, M-1	1/8	
	992	壺	C・13.2 B・10.6 H・2.85	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ毛	淡灰色	良	S, M-1	1/4	
	993	有台壺	C・14.0 B・10.7 H・4.25	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ毛	淡灰色	良	S-1	1/4	
	994	有台壺 (底部)	C・13.1			a・ヘラ毛	a・灰色 b・淡灰色	良	S-1 海面骨片	小片	
	995	天目 茶碗	C・13.4	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		素地・淡褐色	並	精良	1/5	施釉部・黒褐色 0.5 mm程度の 薄い釉
	996	壺蓋	C・16.5	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		a・淡灰色 b・灰白色	良	M-1	1/6	外面自然釉
	997	壺	C・12.9	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰色	良	M-1	小片	
	998	壺 (底部)	B・9.0			a・ケズリ	a・淡灰褐色 b・淡橙褐色	不良	L-1 M-2	1/2	摩耗、剥離
	999	有台壺	C・11.3 B・7.4 H・4.2	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ヘラ毛	a・暗灰色 b・灰色	良	L, M-2	1/3	
1000	1000	壺 (底部)	B・8.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	灰色	良	L, M-1	完	外面降灰	
	1001	甕	C・18.3 N・16.4	a・ナデ b・ナ・タタキ	a・カキ目 b・カキ目		淡橙褐色	良	S, M-2 赤色粒	1/5	
	1002	壺	C・10.5	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		暗青灰色	良	S-1	1/4	
	1003	盤 (底部)	B・16.5		a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	灰褐色	良	S-1	1/8	重燒痕
	1004	有台壺 (底部)	B・9.6			a・ヘラ毛	a・暗灰色 b・淡灰色	良	S-1	完	外面降灰
	1005	深鉢 (繩文)	B・7.6		a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・淡黃褐色 b・褐色	並	M-3	1/3	御経塚式か
	1006	鉢		a・ナデ b・ナデ			a・淡青灰色 b・淡灰色	良	S, M-1	小片	内面措目有り
	1007	瓶 (底部)	B・12.0	a・ケズリ→ナ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	a・暗灰色 b・淡灰色	良	S-1	1/3	外面降灰

団版 番号	土器 番号	器種 形式	法量(c m)	調 整			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				LII縁部	体 部	底 部					
85	1008	瓶	W · 9.4		a · ナデ b · ナデ		明灰色	良	S - 1	1/4	外面自然釉 頭部絞痕有り
	1009	甕	C · 14.7 N · 13.8	a · ナデ b · ナデ	a · カキ目 b · ナデ		淡橙褐色	良	L, M-1 S - 2	小片	
	1010	片口壺鉢 (珠洲)	C · (18.8)	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 暗灰色 b · 灰色	良	S, M, L-1	小片	内面耀目
	1011	青磁碗	C · 15.7				素地 · 灰色	良	精良	小片	釉 · オリーブ 灰色
	1012	坏蓋	W · 2.8 (鉢部)		a · ケズリ b · ナデ		灰色	並	S - 2	完	
	1013	坏蓋	W · 2.7 (鉢部)		a · ケズリ b · ナデ		淡褐灰色	並	S - 3	小片	
	1014	坏蓋	C · 12.0	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ		灰色	並	S - 2	1/4	外面自然釉 重焼痕
	1015	坏蓋	C · 12.0	a · ナデ b · ナデ	a · ケズリ b · ナデ		灰色	並	S - 1	小片	重焼痕
	1016	坏	C · 12.2	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		淡褐灰色	並	S - 1	1/6	
	1017	坏	C · 13.9 B · 10.2 H · 3.1	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	a · 灰色 b · 暗灰色	並	S - 2	1/2	重焼痕
86	1018	坏	C · 13.3 B · 9.0 H · 3.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	灰白色	並	S - 1	1/6	重焼痕
	1019	坏	C · 13.6 B · 8.2 H · 3.35	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	灰色	並	S - 1	1/2	重焼痕
	1020	坏	C · 14.9	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		灰白色	並	S - 2	小片	
	1021	碗	C · 19.0	a · ナデ b · ナデ	a · ナデ b · ナデ		a · 暗灰色 b · 灰色	並		小片	重焼痕
	1022	有台坏 (底部)	B · 4.8			a · ナデ b · ナデ	灰色	並	S - 2	1/6	重焼痕
	1023	有台坏 (底部)	B · 7.6		a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	灰白色	並	S, M-1	1/6	
	1024	有台坏 (底部)	B · 12.4			a · ハギレ b · ナデ	灰色	並	S - 1	1/2	
	1025	有台坏 (底部)	B · 12.3		a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	灰色	並	S - 1	1/8	
	1026	有台坏	B · 12.0		a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	a · 暗青灰色 b · 灰色	並	S - 1	1/6	
	1027	有台坏	B · 12.2		a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	灰色	並	L - 1 S - 2	小片	
	1028	有台坏 (底部)	B · 8.8		a · ナデ b · ナデ	a · ハギレ b · ナデ	a · 揭灰色 b · 揭褐色	並	S - 1	1/4	
	1029	瓶	W · 16.4		a · ナデ b · ナデ		淡褐灰色	並	S - 3	1/7	外面自然釉
	1030	瓶			a · ナデ b · ナデ		a · 暗青灰色 b · 淡青灰色	並	M - 1 S - 2	小片	外面自然釉
	1031	甕	C · 22.2	a · ナデ b · ナデ			a · 淡褐灰色 b · 灰色	並	S - 2	小片	
	1032	甕	C · 30.6 N · 24.8	a · ナデ b · ナデ			a · 灰色 b · 暗灰色	並	M - 1 S - 2	小片	
	1033	甕	N · 20.0		a · タタキ b · タタキ		灰色	並	S - 1	1/7	
	1034	甕	C · (41.3)	a · ナデ b · ナデ			暗灰色 ~ 灰色	並	M - 3	小片	
	1035	甕	C · 20.4 N · 17.2	a · ナデ b · ナデ	a · カキ目 b · カキ目	a · ケズリ b · ナデ	淡橙褐色	並	L - 1 M - 2	小片	摩耗激しい
	1036	甕	C · 21.6	a · ナデ b · ナデ			a · 橙褐色 b · 淡橙褐色	並	L - 1 赤色粒	1/8	

図版番号	土器番号	器種式	法量(cm)	調 整 部			色 調	焼成	胎 土	遺存	備 考
				口縁部	体 部	底 部					
86	1037	甕	C・22.4 N・17.8	a・ナデ b・ナデ			a・淡橙褐色 b・淡褐色	並	L-1 M-2	小片	
	1038	甌	C・(14.9)	a・ナデ b・ナデ	a・ミガキ b・ミガキ			並		小片	外面赤彩 内里
	1039	染付皿	C・9.0 B・4.0 H・2.8				素地・乳白色 白色 淡藍色	精良		完	現代 ススキ模様
87	1040	壺蓋	C・12.8	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ		淡灰色	並	M-2	1/8	重焼痕
	1041	壺	C・12.8	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		灰白色	並	S-1	小片	重焼痕
	1042	壺	N・11.9		a・ナデ b・ナデ		a・明灰色 b・暗灰色	良	S-1	1/8	
	1043	壺	N・(31.6)	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・橙褐色 b・橙色	並	S, M-1	小片	
	1044	盤	C・15.2 B・10.0 H・2.65	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ	a・ケズリ b・ナデ	灰色	良	M-2	小片	近代用水
	1045	有台壺	B・8.6	a・ナデ b・ナデ	a・ナデ b・ナデ		淡褐灰色	良	M-1	1/7	

石製品一覧表（弥生時代以前）

○ 打製石斧

図版番号	遺物番号	法量(cm) ( )は既存値	重量(g)	石質等	図版番号	遺物番号	法量(cm) ( )は既存値	重量(g)	石質等	図版番号	遺物番号	法量(cm) ( )は既存値	重量(g)	石質等
87	1046	L・(4.75) W・6.35 D・2.15	80	火山礫 凝灰岩	88	1058	L・(9.4) W・7.5 D・1.6	118	流紋岩	89	1070	L・(16.3) W・9.3 D・2.9	500	輝緑岩
	1047	L・(9.7) W・7.35 D・3.1	280	角閃石 安山岩		1059	L・(14.2) W・10.6 D・3.0	386	砂岩		1071	L・(10.6) W・8.7 D・2.9	297	砂岩
	1048	L・(13.5) W・5.5 D・1.8	185	砂岩		1060	L・(13.5) W・6.0 D・3.3	350	輝岩 安山岩		1072	L・(16.8) W・8.6 D・2.5	527	砂岩
	1049	L・25.6 W・11.3 D・3.2	960	火山礫 凝灰岩		1061	L・(13.0) W・7.3 D・2.4	260	角閃石 安山岩		1072	L・(4.5) W・5.2 D・1.3	27	石英 安山岩
	1050	L・(12.6) W・8.9 D・1.7	230	火山礫 凝灰岩		1062	L・(19.7) W・10.6 D・2.8	725	火山礫 凝灰岩		1074	L・(8.4) W・6.25 D・1.7	101	砂岩
	1051	L・(10.8) W・10.35 D・2.8	301	石英 安山岩		1063	L・(5.9) W・10.0 D・1.7	130	凝灰岩		1075	L・(7.6) W・6.2 D・2.2	100	石英 安山岩
	1052	L・(9.9) W・6.2 D・1.7	109	安山岩		1064	L・18.9 W・10.65 D・2.8	501	火山礫 凝灰岩		1076	L・(5.2) W・6.3 D・2.65	101	輝石 安山岩
	1053	L・(12.4) W・8.9 D・2.5	205	砂岩		1065	L・(13.3) W・9.4 D・3.4	501	角閃石 安山岩	90	1077	L・(7.5) W・5.75 D・2.1	120	火山礫 凝灰岩
	1054	L・(15.7) W・7.8 D・3.0	415	砂岩		1066	L・(12.3) W・8.7 D・3.1	350	角閃石 安山岩		1078	L・(7.8) W・6.7 D・2.7	176	石英 安山岩
	1055	L・(8.6) W・9.4 D・2.4	235	火山礫 凝灰岩		1067	L・(16.3) W・12.3 D・3.3	725	火山礫 凝灰岩		1079	L・13.4 W・6.75 D・1.65	169	石英 安山岩
	1056	L・(15.6) W・9.5 D・2.35	401	砂岩		1068	L・(7.9) W・10.9 D・2.2	251	石英 安山岩		1080	L・15.01 W・7.4 D・2.9	320	石英 安山岩
	1057	L・(13.1) W・9.4 D・1.9	332	火山礫 凝灰岩		1069	L・(8.5) W・6.85 D・2.8	215	火山礫 凝灰岩		1081	L・14.65 W・6.7 D・2.8	363	火山礫 凝灰岩

◎ 打製石斧

図版番号	遺物番号	法量(cm) ( )は推定値	重量(g)	石質等
90	1082	L・(12.7) W・8.6 D・2.3	350	角閃石 安山岩
	1083	L・(7.6) W・9.7 D・3.4	315	砂岩
	1084	L・(12.4) W・9.9 D・1.9	288	砂岩
	1085	L・18.6 W・6.7 D・3.4	585	石英 安山岩

◎ 噫石・磨石

図版番号	遺物番号	法量(cm) ( )は推定値	重量(g)	石質等
90	1086	L・(8.4) W・6.4 D・5.3	409	砂岩
	1087	L・(9.9) W・4.15 D・3.7	270	砂岩

◎ 石鎌

図版番号	遺物番号	法量(cm) ( )は推定値	重量(g)	石質等
90	1088	L・(2.0) W・2.1 D・0.4	1.1	
	1089	L・(2.6) W・1.6 D・0.5	1.6	
	1090	L・(2.1) W・(1.6) D・0.35	0.8	

\* 器種

器種については一般的な名称を記すにとどめ、須恵器、土師器の別は実測図中で前者を断面黒塗りで、後者を白抜きで表現している。また、珠洲焼など須恵器系のものについても断面黒塗りとし、土師質土器や陶磁器類については土師器の表現法を踏襲したが、表中にその旨を標記している。

法量

単位はすべてcmで統一し、Cは口径を、Nは頸部径を、Wは胴部最大径を、Bは底径を、Hは器高を表している。また、土器以外のものについてはLは全長を、Wは最大幅を、Dは厚さを表している。表中数字を( )で囲ったものについては推定値である。

調整

口縁(頸)部、体部、底部に大まかに分けて観察した。色調も含めて外面、内面の区別は前者をaで、後者をbで表している。

胎土

細繅については粒の大きさをS(1mm以下)、M(1~3mm)、L(3mm以上)とし、量を1(少量含む)、2(やや多い)、3(多い)で表した。また、土師器については海綿骨片などの土壤そのものに関わるものや、赤色粒などの混和材に関わるものも併せて記入した。

石質

石製品の石質についてはすべて横山が肉眼で検討をおこなった。また、出土地点についてはほとんどが包含層からの出土であり、遺構出土のものも若干含まれるが溝などへの混入品(遺構の上限を示さない)であるためここでは特に記載していない。



## 第3章 考察 -古代集落の一様相-

### 第1節 掘立柱建物の類別

先に述べたとおり当遺跡から検出された掘立柱建物は54棟を数えるが、そのほとんどは遺物の上から時期を確認できるものではなく、集落全体の動向を考える上で非常な困難を伴う。したがってここではまず建物それぞれを構造として読み取れる情報を基に整理し、建物相互の組み合わせや占地、建物小群の中での移動といった要素も加味した上でグルーピングを試みたい。

#### 1. 桁行／梁行での検討（建物プラン）

桁行を縦軸に、梁行を横軸にとって全体を検出し得た建物の分布を示したものが表1である。これによると、当遺跡を構成する建物群は大まかに

I類 係数2.3前後の大型建物群

II類 係数1.6前後の広く一般的に認められる建物群

III類 係数1.1前後のはばスクエアなプランを有する建物群

の3タイプに分類されることがわかる。I類はSB-33・49（50含む）・55の3棟が認められ、この内SB-33のみは桁行5間であるが他は前述のとおり8間及び7間の長大な建物であり、当遺跡の中でも卓越した階層の居宅と見て間違いない。II類は面積の大小はあるものの、最も普遍的なものであり、当遺跡の建物群の主体を占める。この内SB-10・12・15・18・23・45・47・53の8棟は桁行4間であり、他は3間である。梁行は両者とも2間を有とする。III類は倉庫群であり、2×2間の総柱建物が主体であるが、一部桁行3間のものも含む。また、総柱ではないものの小規模の割りに柱穴の深いSB-25・35・51なども倉庫に準じた機能を有するものとして理解したい。これらのことから棟樋や円面鏡などの特殊な遺物を出土した当遺跡の性格を考える時、I類の建物の推移を核として各期ごとにII類及びIII類の建物を数揃づつ擁する集落景観が浮かび上がってくるのではないか。

#### 2. 床面積及び軸方位での検討

床面積での分類は上述の建物プランでの分類を追認したに過ぎず、倉庫群は概ね20m<sup>2</sup>以下、II類に分類された建物はほぼ40～20m<sup>2</sup>の範囲に収まるものであり、すでに報告した上新庄ニシウラ遺跡に見られたような床面積50m<sup>2</sup>前後を測る5×3間の建物及び全ての柱穴の形状に明確な方形を採用したものは確認されていない。また、建物の主軸方位についてはポイントの密集を避けるため便宜的に横軸に方位を取ったが、一見して横方向に薄く広く分布しており、一定のグループを見出せないのが実情である（表2）。そこで、次の作業として前述I類の大型建物SB-33・49・55の分布に着目し、それぞれを核として桁行4間の建物及び倉庫群の動向にも注意しながら軸を大きく西に振るもの（表3-A群）、ほぼ磁北からやや西に振るもの（同B群）、東へ振るもの（同C群）の3群に大別を試みた。この内、B群については建物相互の重複関係や建物小群の中での予測される移動なども考慮し、さらに①軸をやや大きく西に振るもの、②SB-49に近くほぼ磁北か僅かに西へ振るものに細分した。建物小群の在り方から見たSB-04の帰属など細部に依然検討の余地を残すものの、上記1の検討と合わせて得られた見通しをもって次に集落全体の変遷を考えて行きたい。

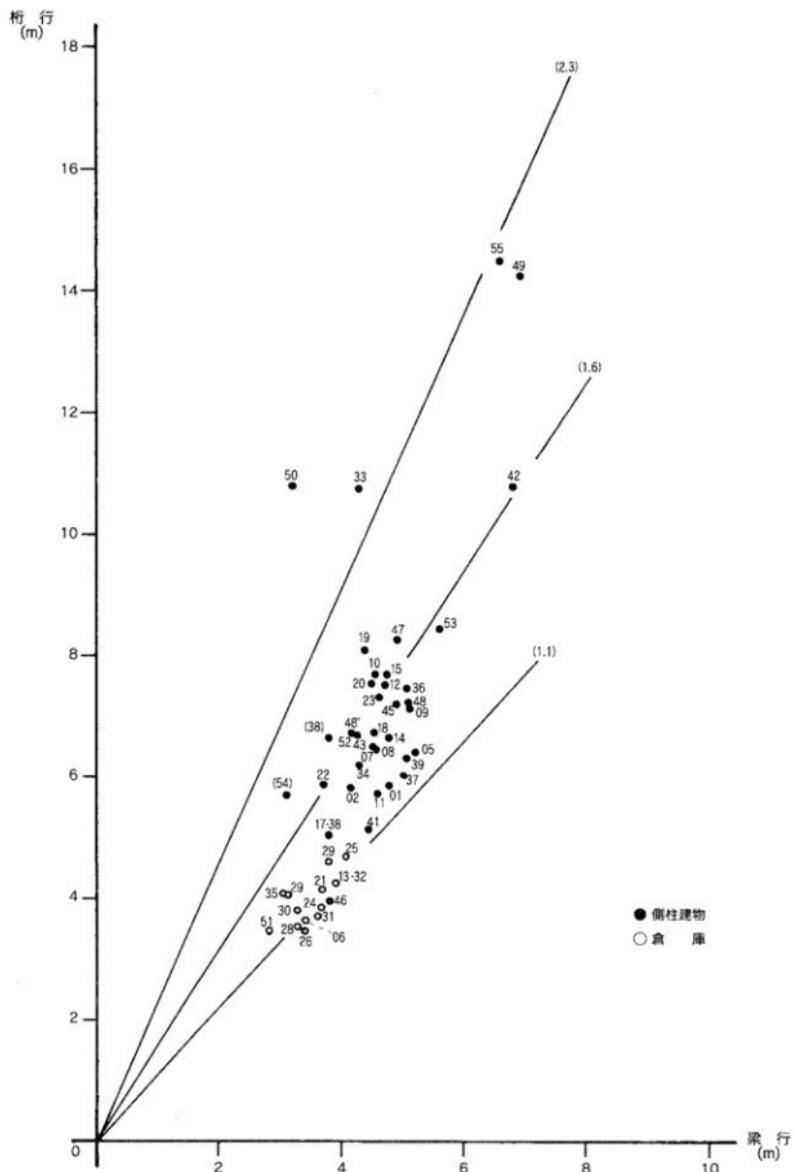


表 1 捏立柱建物柱梁比

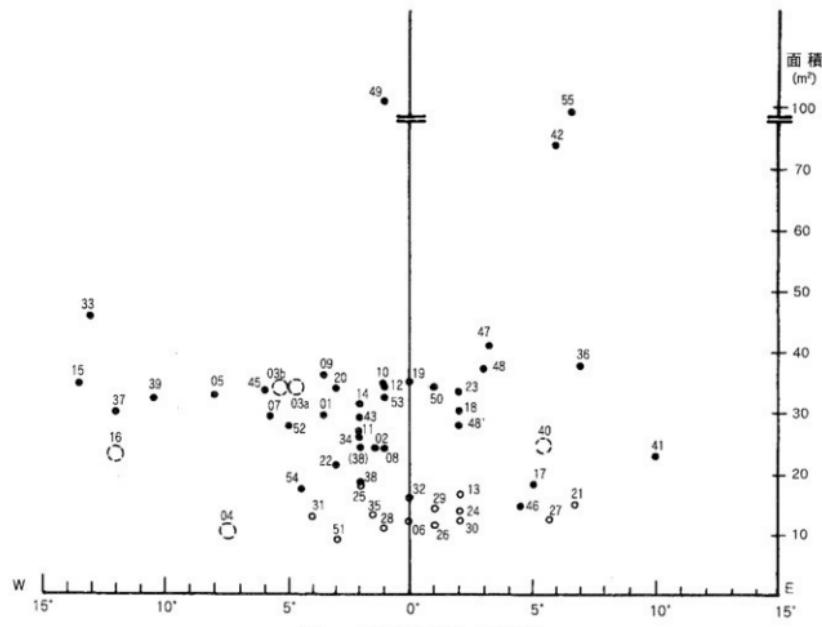


表 2 維立柱建物主軸・面積分布

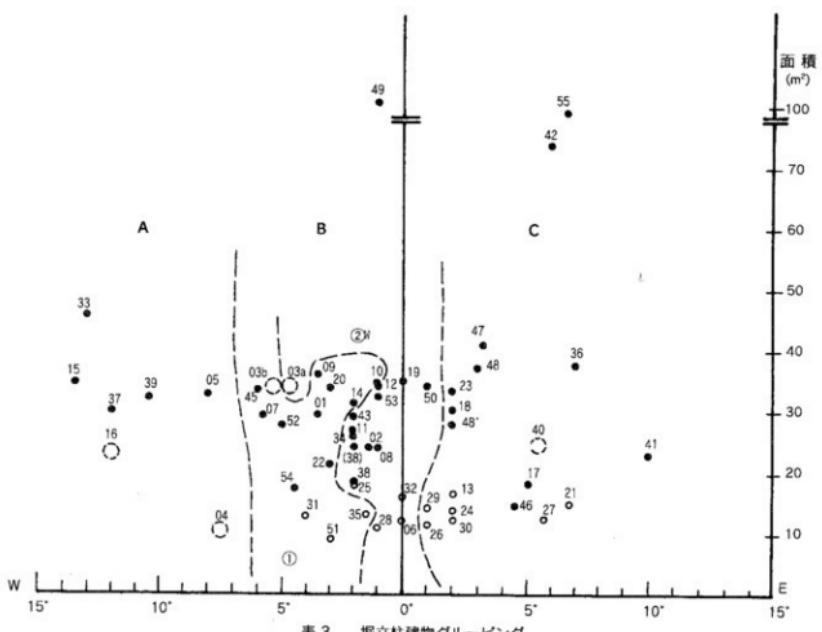


表 3 維立柱建物グルーピング

## 第2節 集落の変遷

掘立柱建物についてこれまで行った検討の結果、以下の4グループに分類できる見通しを得た。なお、A～C群のI類についてはそれぞれA群→SB-33を、B群①・②→SB-49を、C群→SB-55を充てるものとする。

A-II類 SB-05・15・37・39

A-III類 SB-04・16

B①II類 SB-01・03b・07・09・10・14・20・22・45・52

B①III類 SB-31・35・51・54

B②II類 SB-02・03a・08・11・12・19・38・43・53

B②III類 SB-06・25・28・32

C-II類 SB-18・23・36・40・41・42・47・48・48'

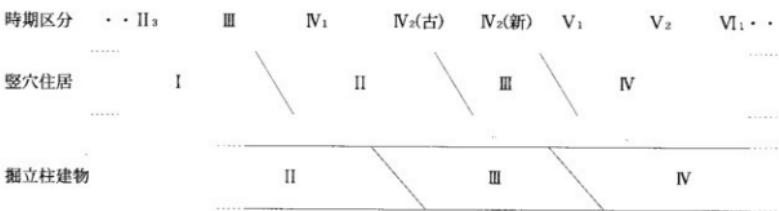
C-III類 SB-13・17・21・24・26・27・29・30・46

この内C-II類のSB-47・48・48'については建物相互の距離及び重複関係からさらに3度の建て替えが看取される。検出時の状況から48'→48の推移が確認されており、47については柱穴より出土した遺物(448～451)の様相から48→47の時間的差異が認められる。桁行3間の建物から4間の建物への変換を同一建物小群の動きとして良いかどうかは注意を要するところであるが、C-II類に対するC-III類の棟数の多さはさらに細分できる可能性を示唆するものと理解したい。

さて、これらと整合させるべき竪穴住居の変遷については第2章第3節の1で若干触れたとおりⅢ期を中心としてⅡ<sub>3</sub>～V<sub>1</sub>の範囲で捉えられている。竪穴住居についてはⅢ期以降急速に掘立柱建物に建て替えが進むことが広く北陸でも確認されており、当遺跡においても同様の傾向を見せるものと思われるが、主体とはなり得ないもののSI-20のごとく小型の独立した竪穴住居としてそれ以降に存続するものも見られる。第91～94図は前章で作成した表を遺構図上に置き換えたものである。Ⅰ期は田嶋編年Ⅱ<sub>3</sub>～Ⅲ段階に、Ⅱ期は同Ⅳ<sub>1</sub>～Ⅳ<sub>2</sub>(古)段階に、Ⅲ期は同Ⅳ<sub>2</sub>(新)段階に、Ⅳ期は同V<sub>1</sub>段階以降にあたるものであるが、表中で示したとおり並存等のある一定の時間幅も当然考慮しており、主体となり得る時間的流れの中で見ていただきたい。次に、掘立柱建物との時間的な関係であるが、竪穴住居Ⅰ期としたSI-43からSB-49を経てSB-55に建て替わることは先に検証したとおりであり、その卓越した造りと規模よりある特定の階層の居宅としての機能(目的)を受け継いだものと見て間違いない。僅かずつの中ではあるが、遺物からの様相ではSI-43とSB-49(50)との間にはさほど時間的差異は認め難いものの、遺構の示す状況からはSI-43と占地を同じくして直後にSB-49が建てられた可能性が高く、竪穴住居Ⅰ期に掘立柱建物B類が後続することは間違いない。また、細分したB①類とB②類との関係であるが、SB-34より僅かに1点出土した壺蓋(442)はSB-07のそれに後続するものであり、少々強引ではあるがここではSB-49を核としたB①類→B②類の推移を想定しておきたい。集落を大きく区画するSD-07もこの時期に掘られたものであろう。C類については上記のとおりSB-55がSB-49に後続しており、B①類→B②類→C類の順で捉えられる。最後にA類の位置付けであるが、検証する根拠に乏しくいかんともし難いのが実情である。建物小群の見地に立てば3群程度からなる可能性があり、SB-15の東に流れる自然流路SD-01に規制されたかのような軸方位の取り方は、いかにも自然発生的な集落という印象も受けれる。しかし、当集落の早い段階に位置付けられるSI-43が竪穴住居であることを考える時、それより早い時期もしくは同時期に5間規模の掘

立柱建物が存在したということは認め難く、むしろC類にまで存在した卓越した階層にある人物が他へ移住した後の、集落が縮小した最後の姿と理解する方が適當と考えられる。以上のことを遺構図上で示したもののが第95～97図である。掘立柱建物II期はB類に対応し、①と②の移動については予測できる限り図上に矢印で示した。同III期はC類に対応するものであり、小移動についてはII期と同様矢印で示している。同IV期についてはA類に対応する。

これまで検証して来たことを図に示すと、以下のようにまとめることができる。



各期の設定については、掘立柱建物の初現が縫穴住居I期の直後に位置付けられるとの理解からII期からのスタートとしたが、縫穴住居の時期区分と必ずしも歩みをひとつにするという確証は得られていおらず、縫穴住居と掘立柱建物との重複などから微妙なずれ及び時間幅の中での小移動があったものと思われる。

### 第3節 集落の位置づけ

4次にわたる当遺跡の発掘調査は組合施行の区画整理事業を契機としており、その推定地のほぼ全城を調査できた意義は非常に大きく、古代の集落の姿を伝える恰好の資料を提供している。ここでは、当遺跡の周辺も含めた発掘調査をとおして得られた所見を今一度振り返り、下新庄アラチ遺跡の集落としての位置づけを考えることでまとめに代えたい。

1. 下新庄アラチ遺跡は鶴来町と境を接する野々市町の南部、手取川によって形成された手取扇状地に位置する南北約1.4km、東西約0.5kmに及ぶ長大な島状微高地のほぼ中央に立地し、標高42～40m、推定面積20,000m<sup>2</sup>余りの規模を有する大集落跡である。
2. 集落としての存続時期は、出土した遺物の様相から8世紀初頭から9世紀後半に及ぶが中心は8世紀全般から9世紀前半までであり、それ以降急速に衰退していく。確認された遺構は主要なものとして縫穴住居48棟、掘立柱建物54棟に及び出現当初から卓越した規模と造りの大型建物（住居）を核として有する。このことは当地より約0.3km南に位置するさらに広大な上林新庄遺跡（次年度報告予定）で7世紀初頭にすでに集落としての萌芽を見、横穴式石室を持つ古墳を築造する勢力の存在が確認されていることから、決して突然の出来事ではなく、南部遺跡群としての開発及び力の醸成は下新庄アラチ遺跡が出現した段階で、かなりの成熟度を見せていたものと考えられる。

3. 集落としての構成は、ムラオサの居宅と思われる卓越したSI-43を核とし、調査区の北半を中心にして東西に二分される堅穴住居群からなる段階をⅠ期とし、その後同一場所で建て替えされた二重構造と見られる特別な建物SB-49（50）を核とした掘立柱建物群からなる集落に生まれ変わる（Ⅱ期）。この際掘削されたSD-07によって東西に二分された姿はⅠ期のそれを継承しているものと思われる。両者の関係は不明であるが、西半においては卓越した規模の建物を見出すことができないのに対して、東半については前述の大型建物の存在に加えSD-07の東岸に沿って整然と配置された倉庫群の在り方や、やはり溝東岸に多数見られる小ピット列は柵状の施設が存在した可能性を示しており、その区画はSD-07が西折した地点から更に南へ最低でも26m程度広がるものと考えられる。これらのことから、前代を通じて西グループに対する東グループの優位性は動かし難いものと思われる。（SB-38の南側にある小溝は旧河道へ注ぐ旧用水残土であり、当時の地割の参考となるものではない。）なお、Ⅱ期を通じて一時期の建物数は副屋・準母屋級10棟、倉庫棟4～5棟程度であろう。続くⅢ期ではやや南に建て替えられたSB-55を核とし、SA-05により南北に二分された集落景観となる。この時点では東西グループ間の関係は解消されたかに見えるが、新たに南端に桁行5間規模のやや大型の建物SB-42が出現し、一定の建物グループを形成する。なんらかの規制により西グループ→南グループへの移動といった可能性も考えられるが、現段階では保留しておきたい。また、前代に通じる倉庫群の在り方はSD-07の存在を強く意識させるが、SB-17などの在り方からⅢ期の中のある時期でその意識は失われたものと考えておきたい。一時期の建物構成については前述のごとく細分の可能性を含むことから、Ⅱ期と同程度のものであろう。最後にⅣ期については、核となる建物を有するグループが移動を果たし、建物小群3群程度からなる縮小した集落の姿を求めることができる。なお、集落移動に係る経緯については不明な点が多くここでは言及できないが、遺跡推定地全域で耕土下良好な黒色土（包含層）が40cm以上遺構検出面を覆っており、砂礫層を含む間層は確認できなかったことから、洪水等の自然災害によるものとは考えにくい。

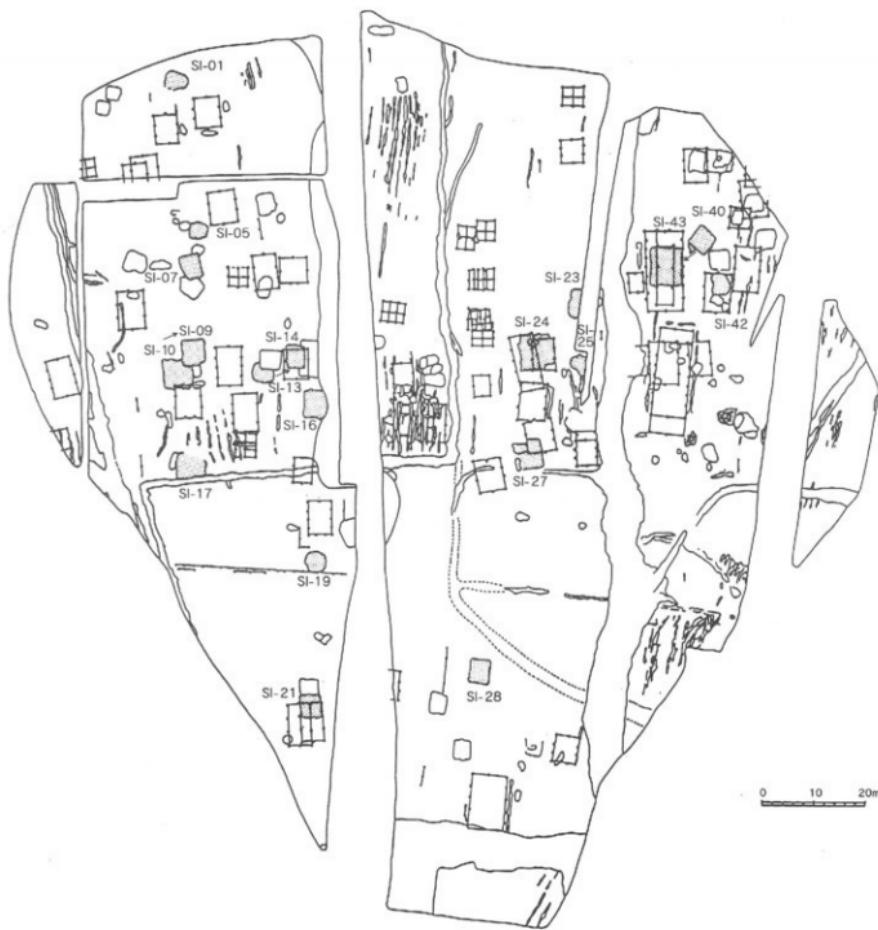
以上のことから当遺跡の位置づけを考える時、まず念頭に置かなければならないことは単に下新庄アラチ遺跡のみに止まらず、周辺も視野に入れた扇状地全体での動向を考慮した上で、南部遺跡群の在り方を検証して行かなければならぬということである。遺跡が失われることを前提とした調査で得られた皮肉な結果であるが、土地区画整理組合及び開発事業者のご理解により幸いにして一遺跡という枠に止まらない、粟田遺跡までを含めた地域全体の様相を知ることができたことは他に類を見ない成果であり、その取り扱いにも慎重を要する。粟田遺跡については推定面積の全域を調査した訳ではないが、これまでの全調査面積約70,000m<sup>2</sup>に及ぶ南部土地区画整理事業関係の調査の中で、確認された建物遺構は200棟余りに達する。この内今回の下新庄アラチ遺跡で検出されたSI-43、SB-49・55のような造り、規模とともに卓越した大型建物（住居）はそれ以外の調査区では確認されておらず、8世紀～9世紀前半にかけてこの地が南部遺跡群の中心として機能していたことは間違いないと思われ、整然と建ち並ぶ倉庫棟の多さもその傍証となろう。これらの評価については郷長クラスが居住した集落<sup>(1)</sup>の可能性や、区画溝SD-07が条里にのっとったものである可能性の指摘<sup>(2)</sup>も戴いているが、これらについては筆者自身現状では知識が浅く、ここで論を展開することは早急に過ぎると考えており、もとより事業者に経費の負担を戴く一報告書の任に過ぎるものではなかろうか。次年度報告予定の約40,000m<sup>2</sup>を調査した上林新庄遺跡の検討を経た後、諸先学の更なるご教導を仰ぎながら機会を改めて検討していただきたい。

註（1） 吉岡康暢氏のご示唆による。なおご示唆を戴くにあたって、筆者の怠慢から必ずしも十分な検討資料のご提示をできなかつたことについて、この場を借りてお詫び申し上げる。  
また、その意を生かすことができなかつたことは一重に筆者の責によるものである。

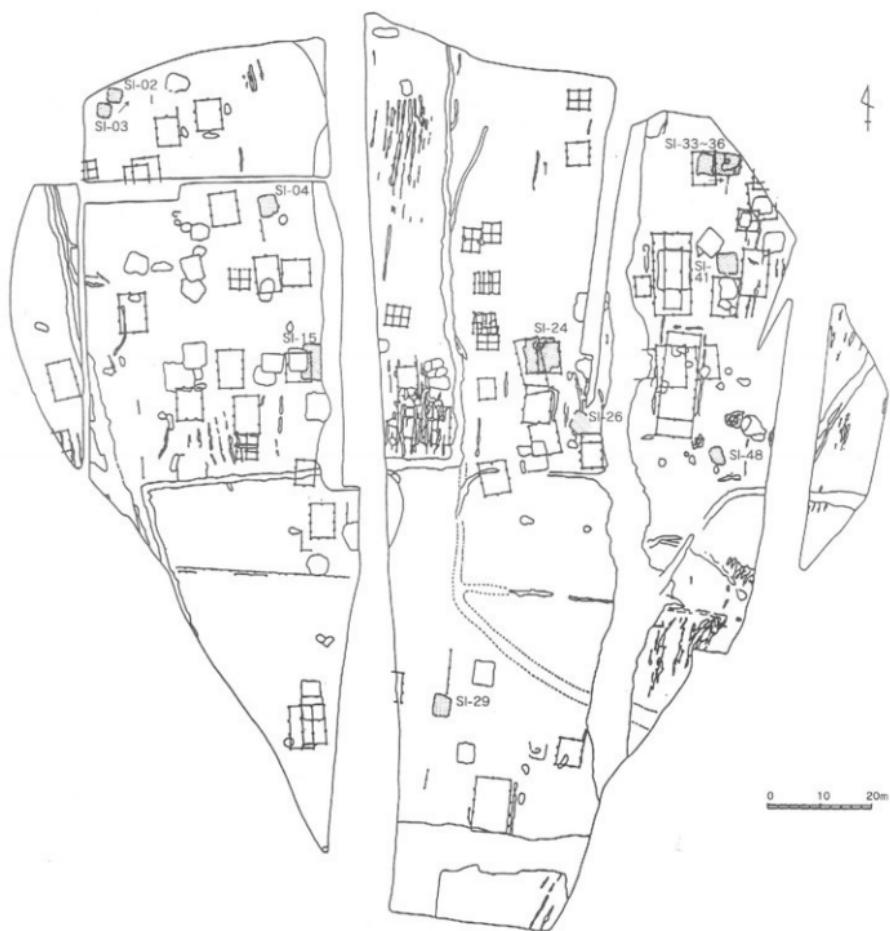
（2） 戸淵幹夫氏のご示唆による。その経緯については同上。

#### 参考文献

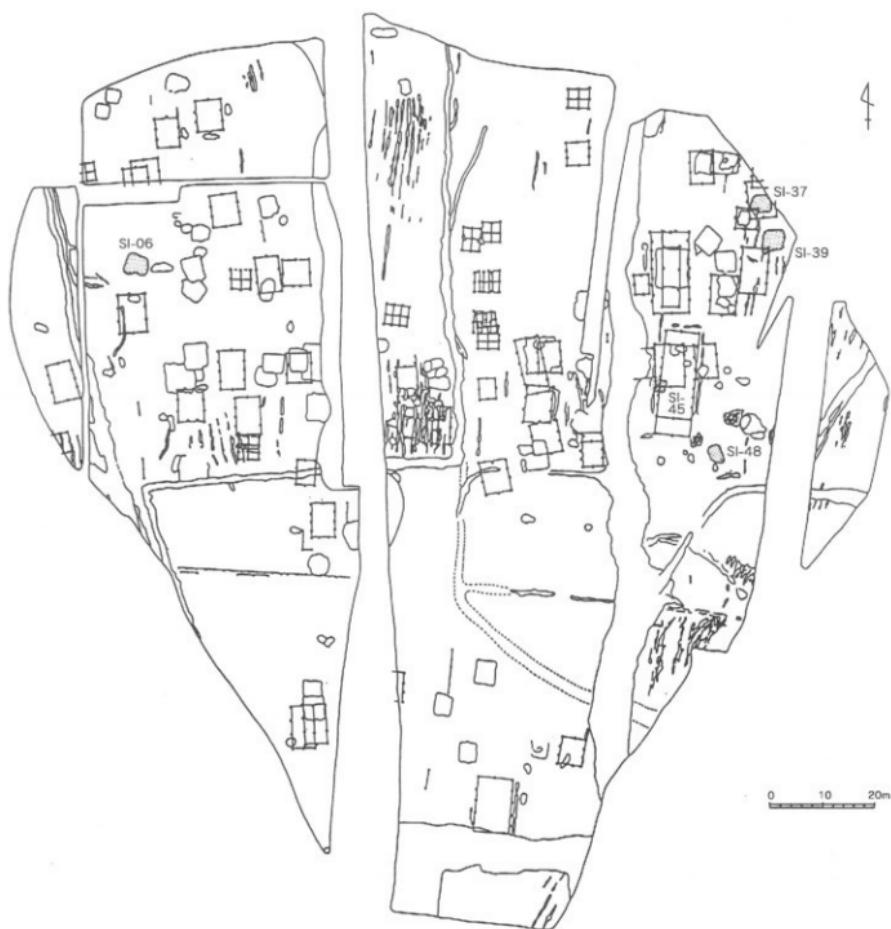
- 1967 落合重信 「条里制」 日本歴史叢書17 日本歴史学会
- 1983 田嶋明人 「奈良・平安時代の建物グループと集落遺跡  
－加賀・能登の掘立柱建物群を中心とした観書－」  
『北陸の考古学』 石川考古学研究会
- 1994 森本 敏 「古代集落－地城と中央権力」  
『文化財学論集』 文化財学論集刊行会
- 1994 荒井健治 「武藏国府の集落様相について」  
『文化財学論集』 文化財学論集刊行会
- 1996 宇野隆夫 「土地利用の歴史と条里制の意義について」  
『条里制研究』 第12号 条里制研究会
- 1998 森 隆 「任海遺跡群の古代建物群構成－南中田D遺跡の事例より－」  
『富山考古学研究』 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所



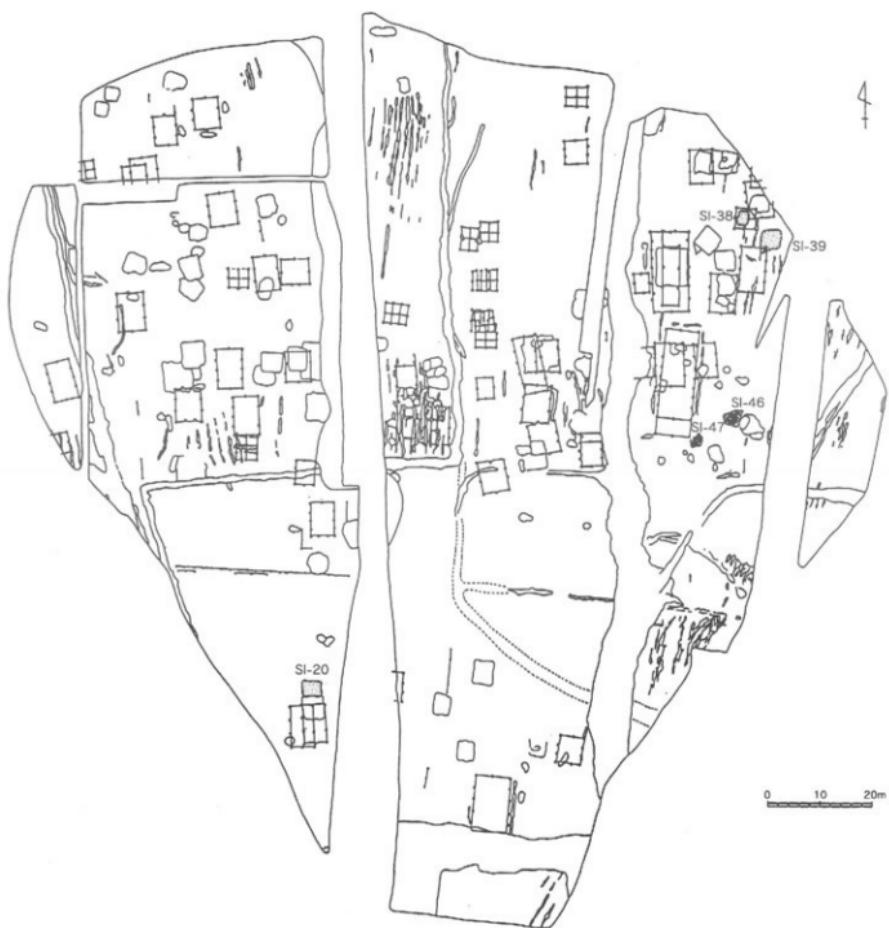
第91図 I期 積穴住居



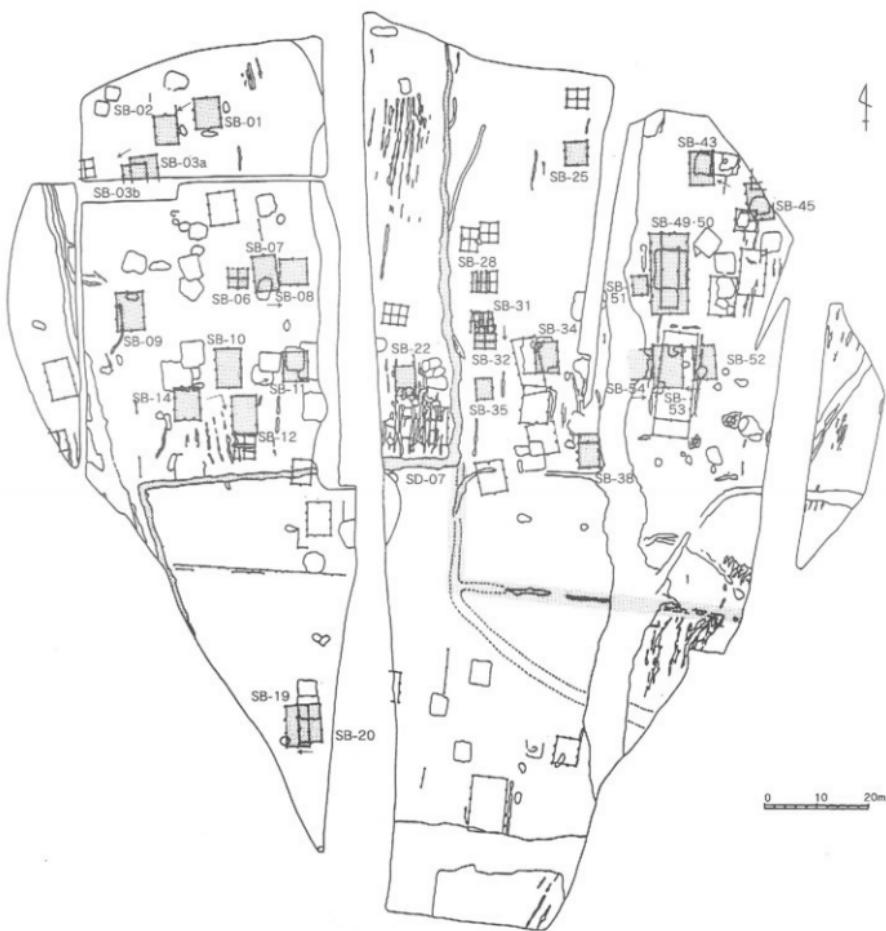
第92図 II期 整穴住居



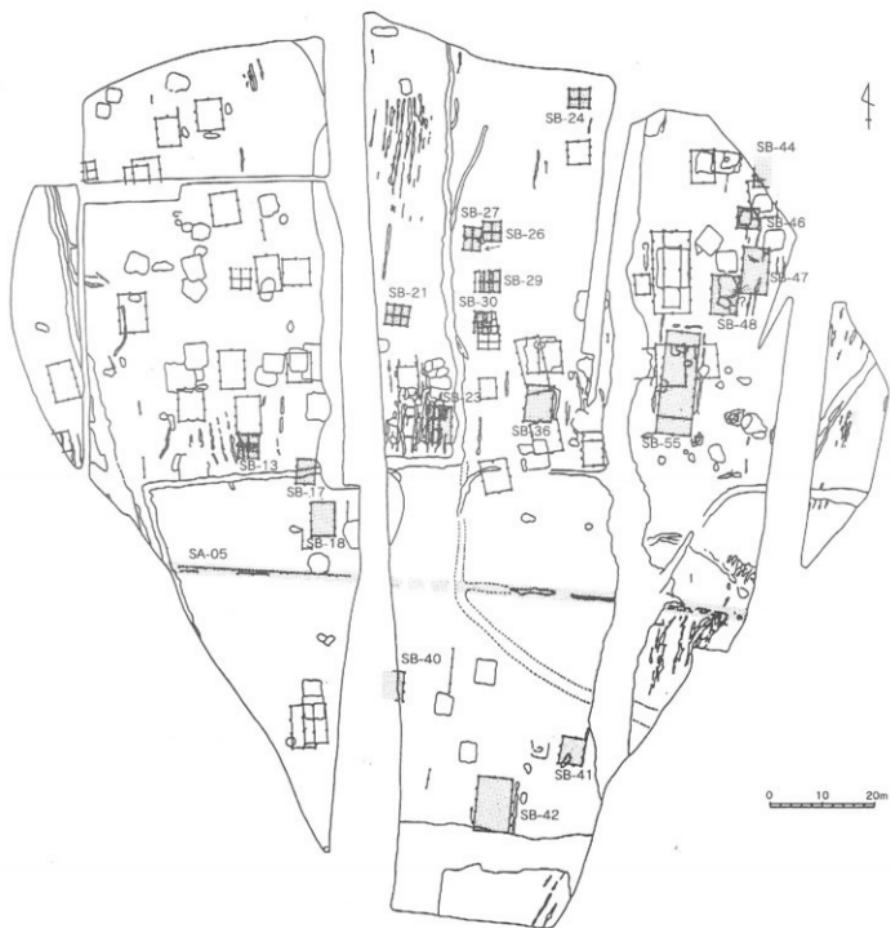
第93図 Ⅲ期 積穴住居



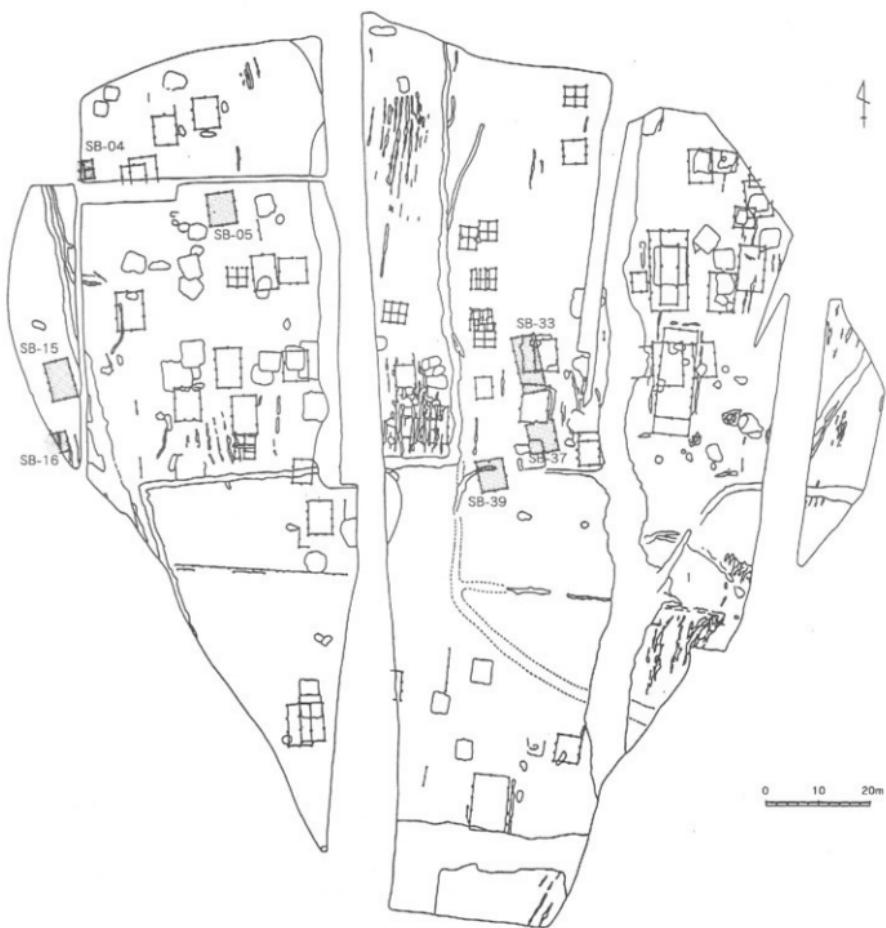
第94図 IV期 整穴住居



第95図 II期 掘立柱建物



第96図 III期 挖立柱建物



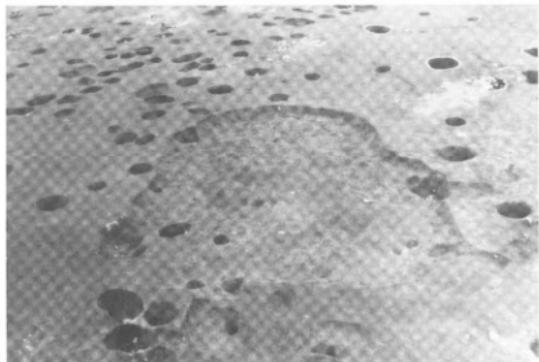
第97図 IV～期 建立柱建物

写 真 図 版

遺 物 写 真 図 版



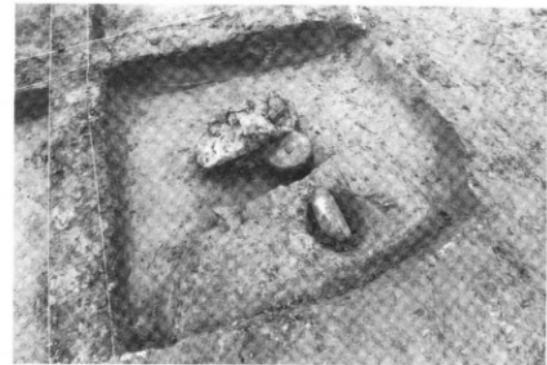
平成3年度  
調査区全景（西より）



SI-01  
(西より)



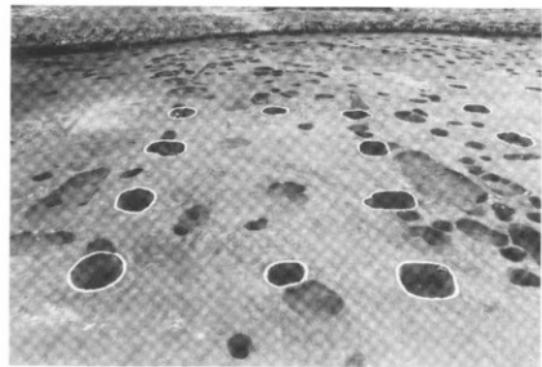
SI-02・03  
(北西より)



SI-02  
カマド付近

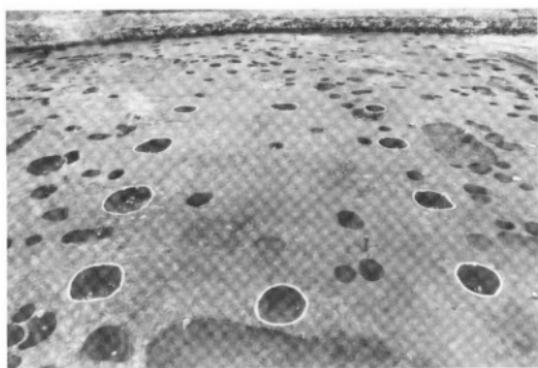


SI-02・03  
完壁



SB-01  
(南より)

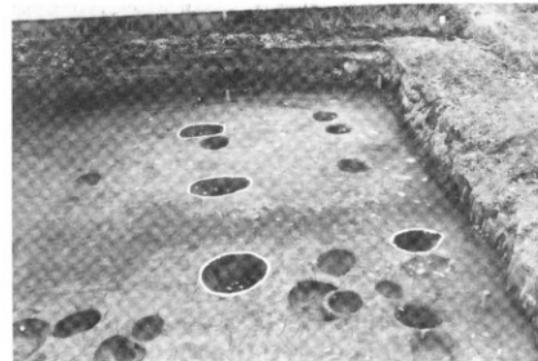
SB-02  
(南より)



SB-03a・b  
(北より)



SB-04  
(北より)





平成 6 年度 B 区全景  
(南より)



SD-01・02  
(南より)



SD-01  
(北西より)

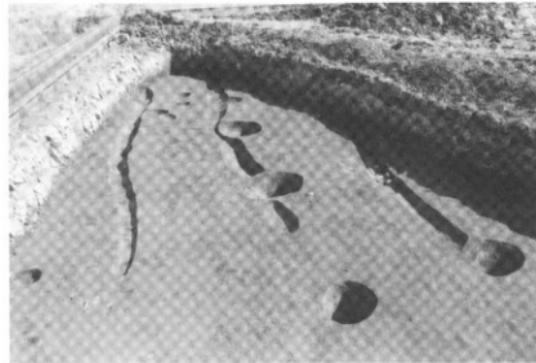
SD-01・02全景  
(南より)



SB-15  
(北より)

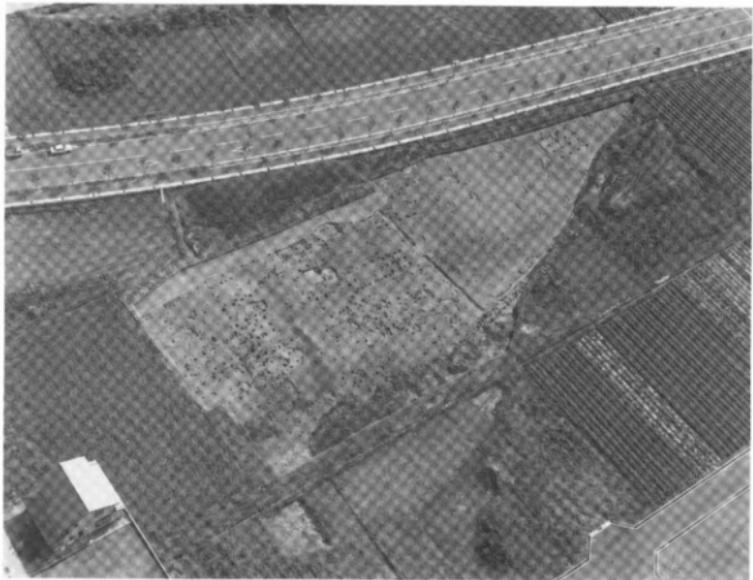


SB-16  
(北より)





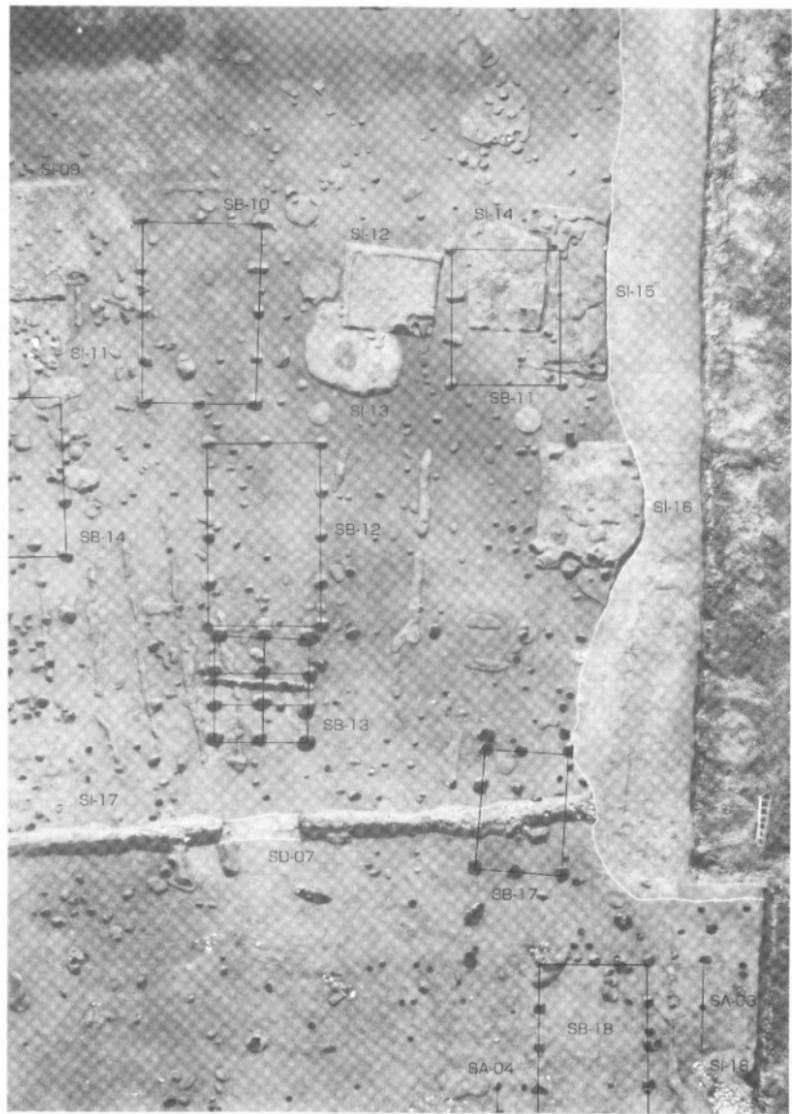
遺跡遠景（平成6年度調査区）



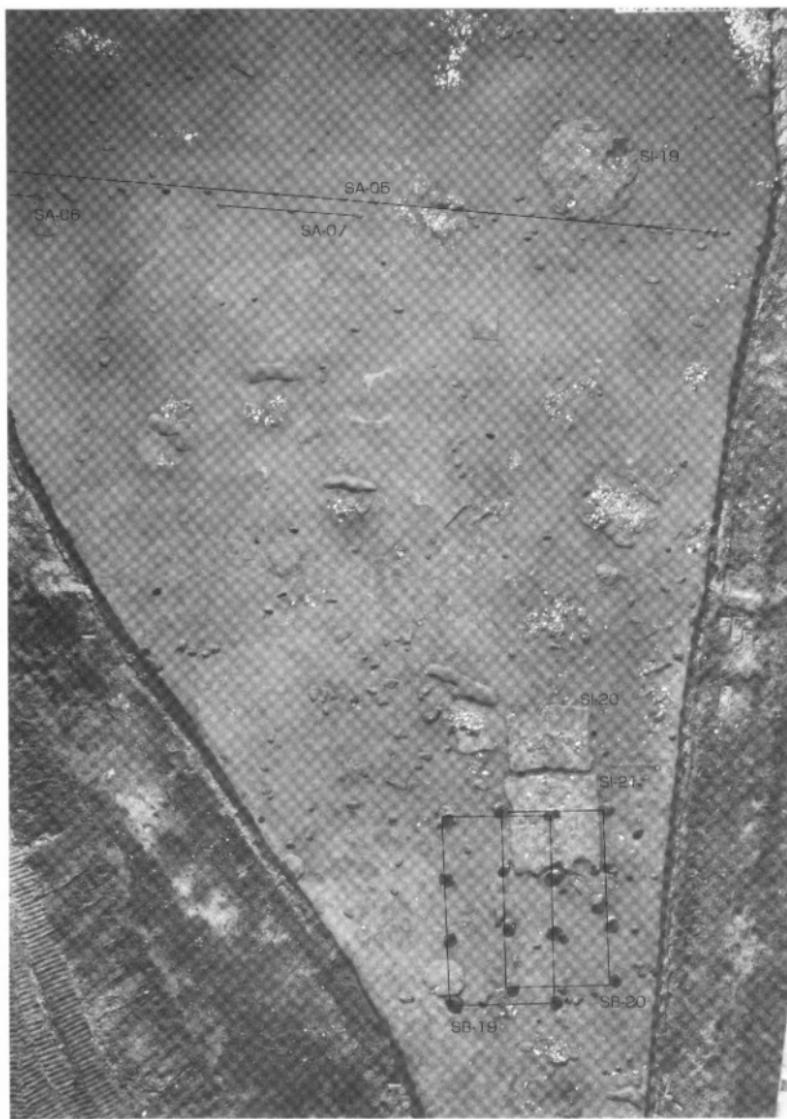
C区全景



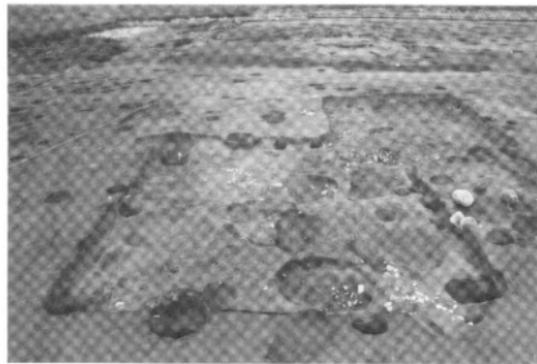
C区全景



C区中央付近 N↑



C区 南端付近 N↑



SI-09・10・11  
(南より)

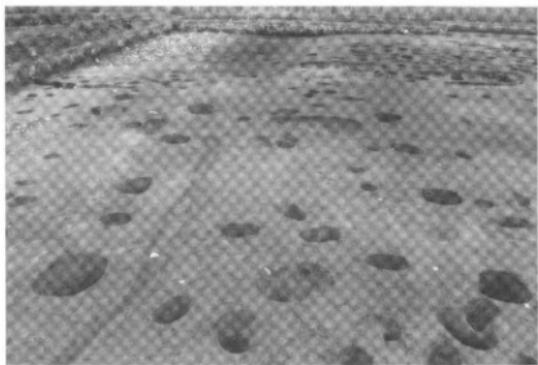


SI-12・13  
(北より)



SI-12  
カマド付近

SB-09  
(南より)

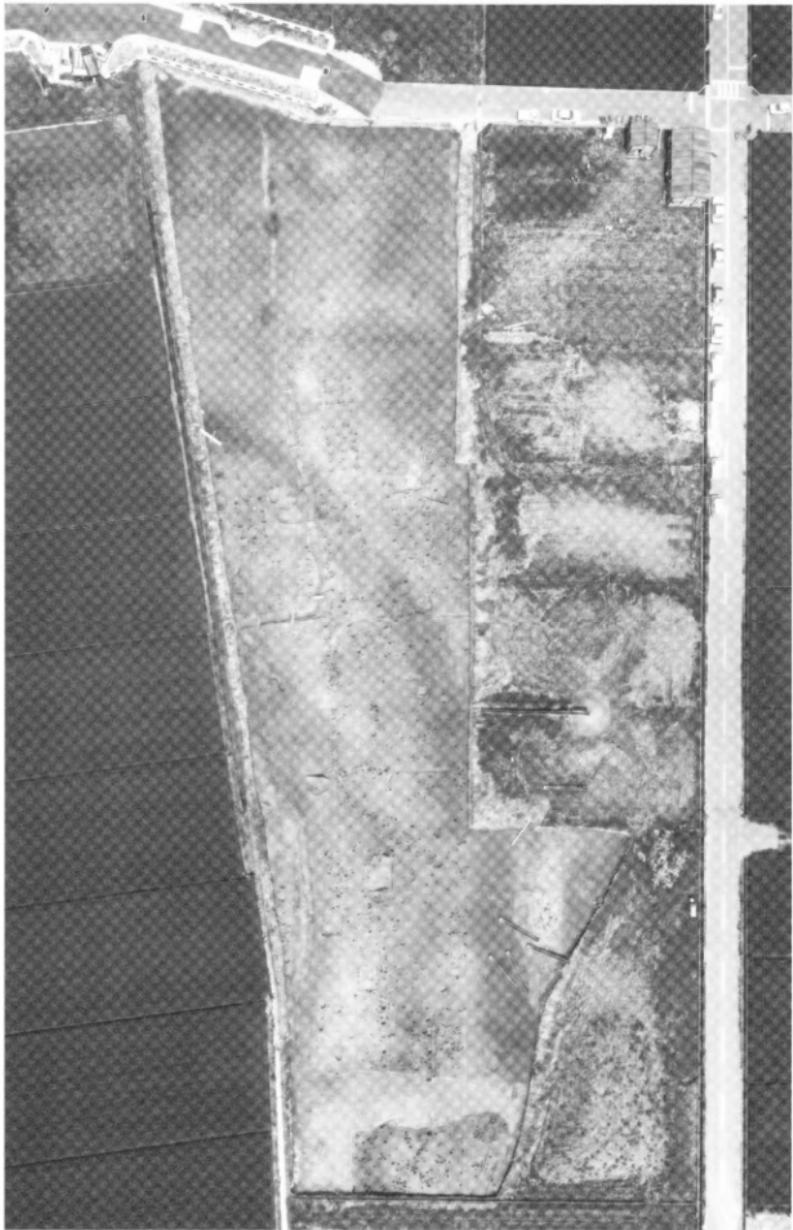


C区 SD-07  
(東より)

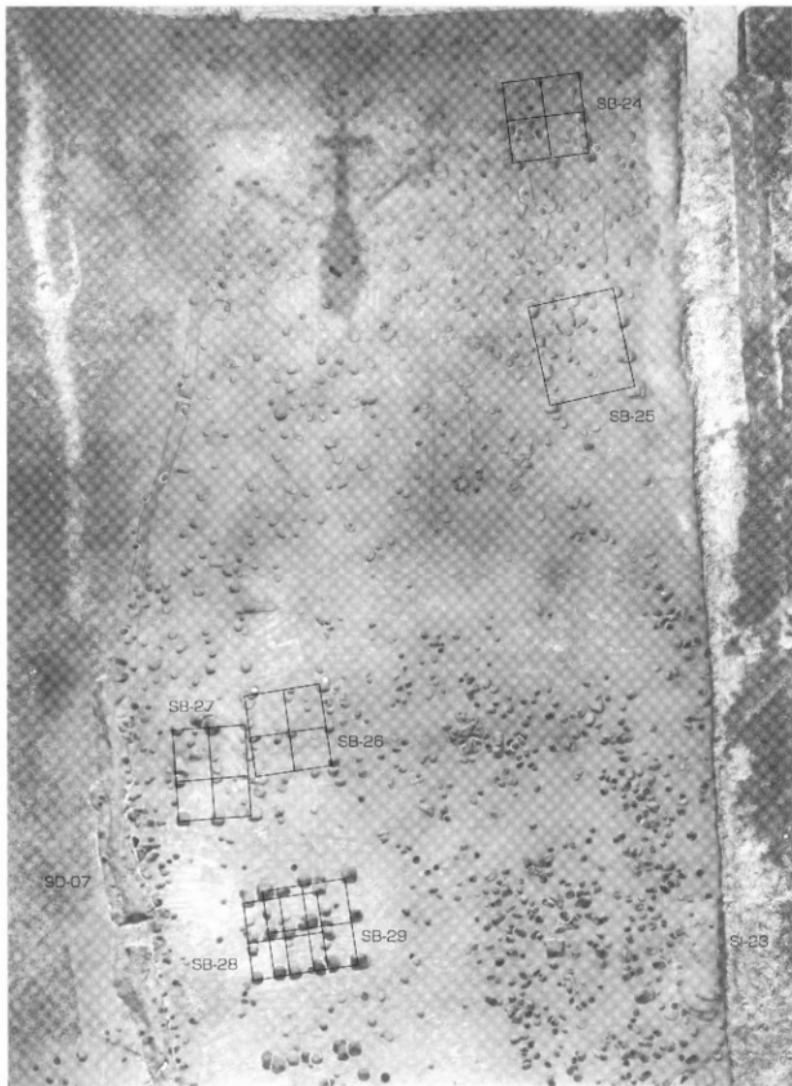


SA-05・06  
(西より)





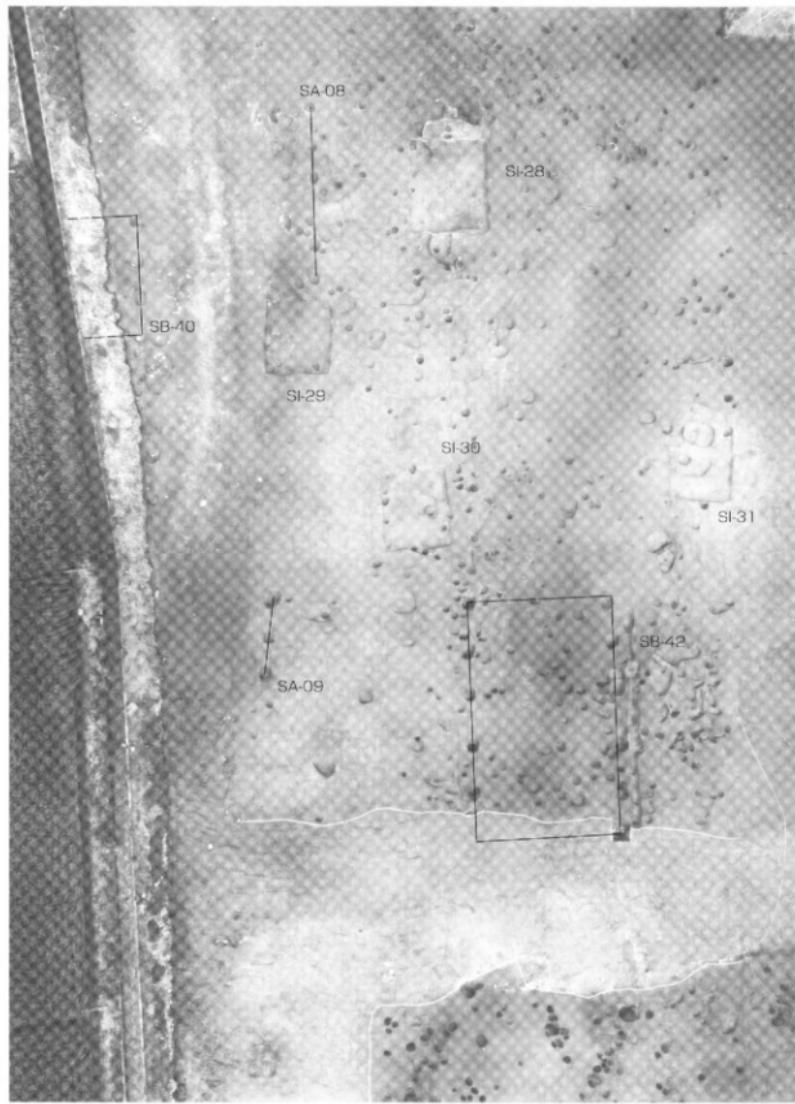
平成4年度調査区（D区）全景 N↑



D区 北半 N↑



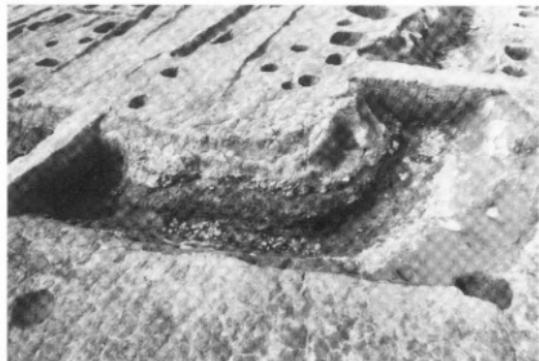
D区 中央付近 N↑



D区 南半 N↑



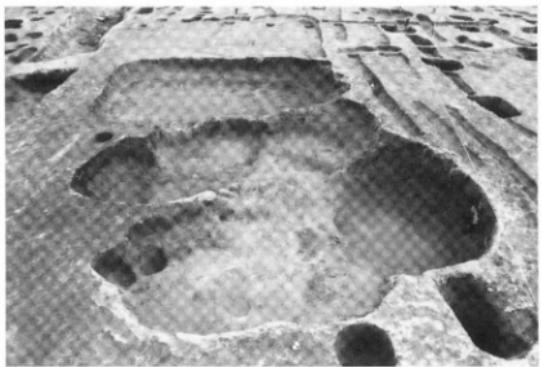
D区 SD-07  
(南より)



SD-07屈曲部  
(南より)



SD-07  
棲楓出土状況



SK-10・11・12・13・14  
(北より)



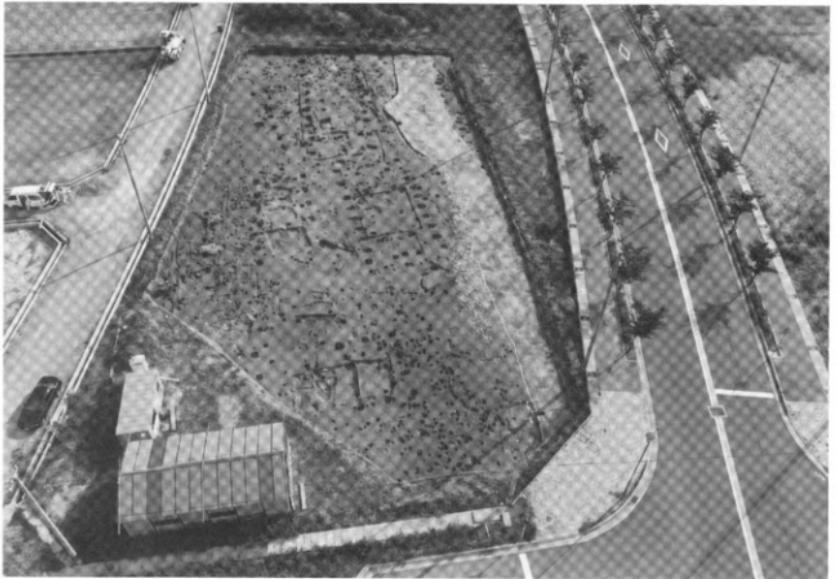
旧河道跡 調査状況



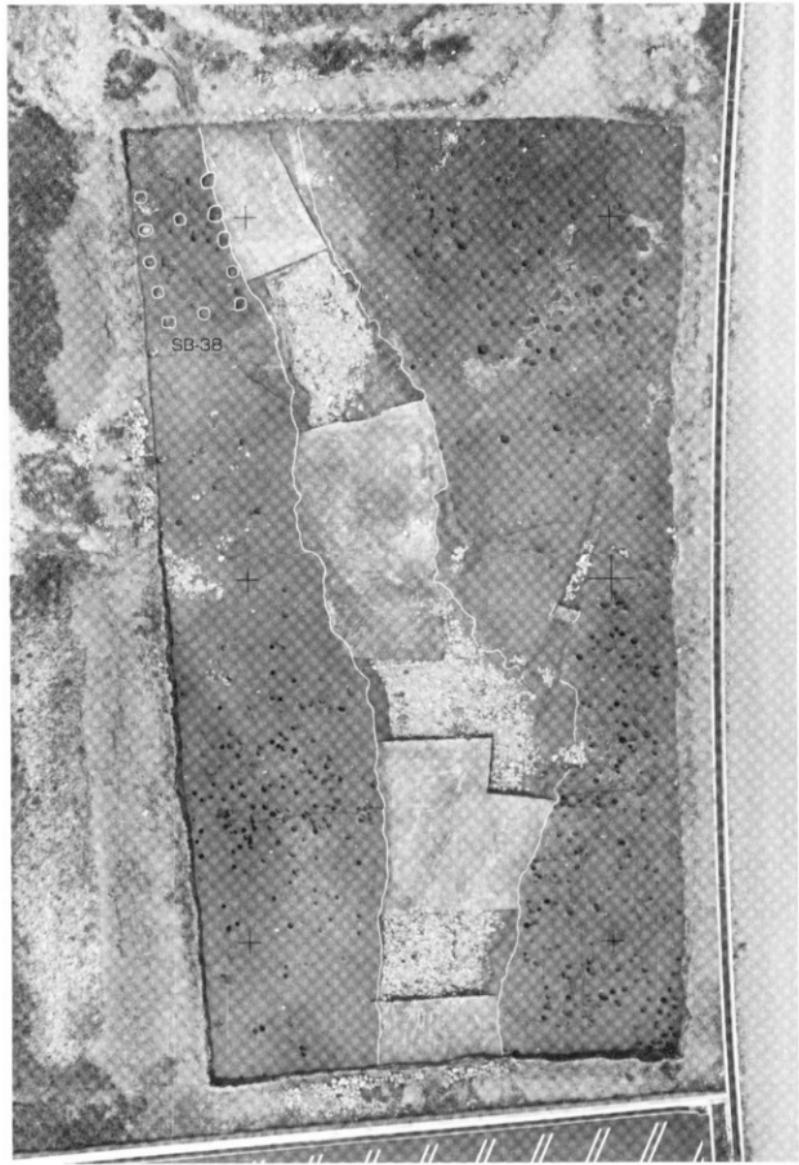
旧河道跡 河床状況



平成 8 年度 調査区 南半 全景（北より）



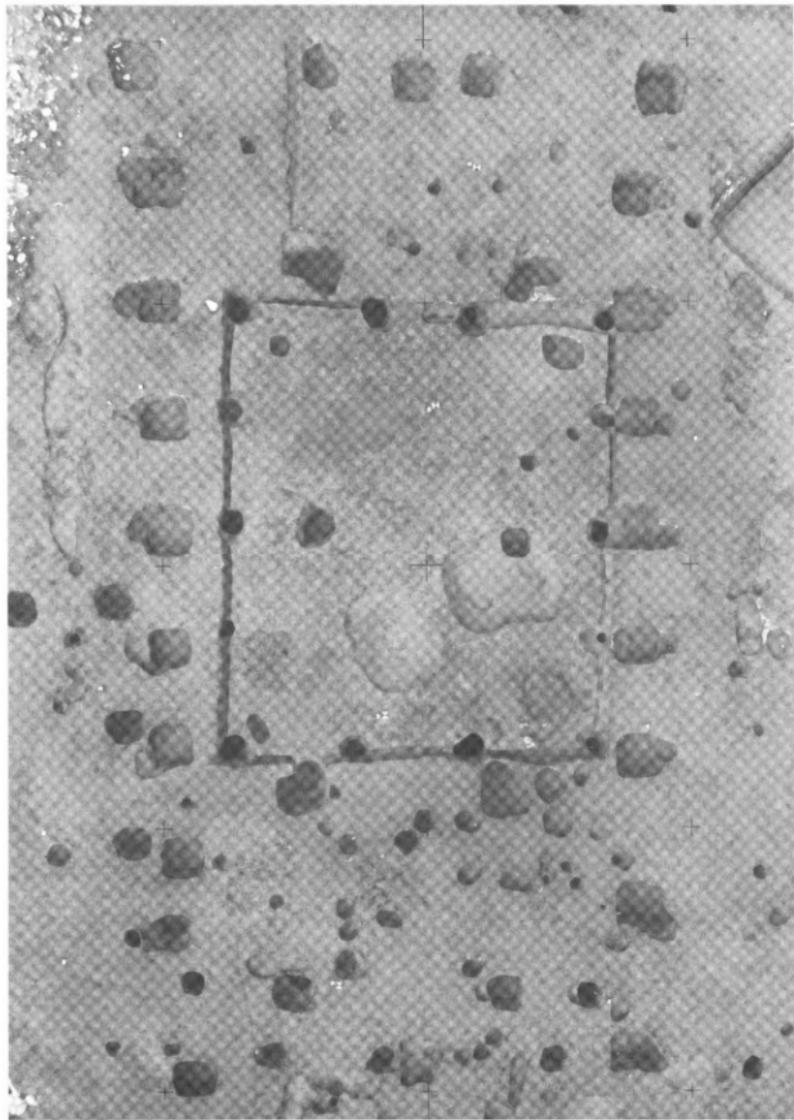
平成 8 年度 調査区 北半 全景（北より）



平成8年度 調査区 南半 全景 N↑



E区（平成8年度調査区 北半）全景



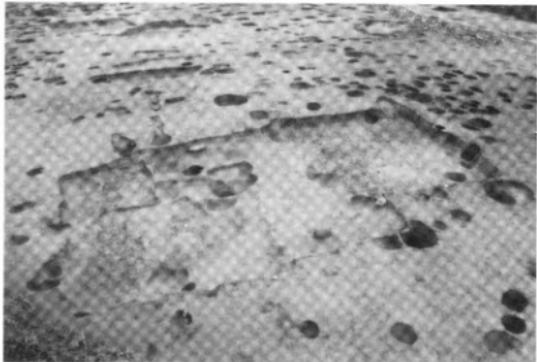
E区 SI-43, SB-49·50



SB-38  
(南より)

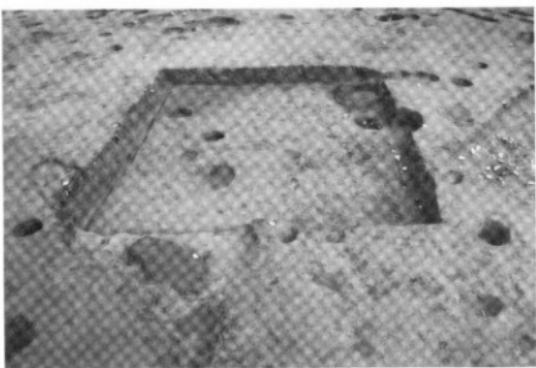


SI-47・48付近  
上層土器出土状況（北西より）



SI-33~36  
(北より)

SI-40  
(南西より)



SI-40  
内部カマド付近



SI-40  
外部カマド状施設







156



179



200



253



259



268



309



387



451



447



473



476



483



1



529



515



531



542



551



569



681



571



684



605



690



693



735



784



787



841



862



885



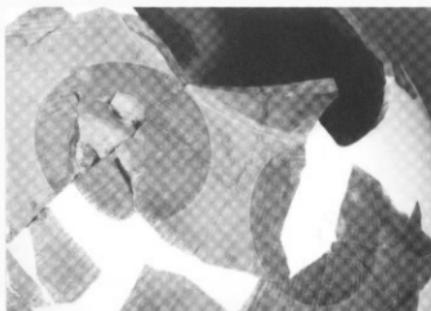
895



955



972



990 (部分)

# 報 告 書 抄 錄

ふりがな 書名	しもしんじょうあらちいせき 下新庄アラチ遺跡					
副書名	野々市町南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 II					
卷次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	横山 貴広					
編集機関	野々市町教育委員会					
所在地	〒921-8815 石川県石川郡野々市町本町5丁目4番1号					
発行年月日	西暦 1999年3月31日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経 °°' °°'	調査期間	調査 面積m <sup>2</sup>	調査原因
しもしんじょう 下新庄	いしかわけんのしかわん 石川県石川郡	17344 16006	36° 136°	199104~	18,350	上地区画 整理事業
アラチ遺跡	ののいちまち 野々市町		30' 36'	199106		(組合施行)
	かんばやしょんちゅうめ 上林4丁目、		16" 37"	199205~		
	しんじょうろくちゅうめ 新庄6丁目			199212		
				199404~		
				199412		
				199605~		
				199610		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
下新庄アラチ	集落跡	奈良時代~ 平安時代前半	竪穴式住居跡 掘立柱建物跡 柵列 溝・上坑 ピット	須恵器 土師器 石器	奈良時代~平安時代前半の掘立柱建物群と竪穴式住居跡からなる集落跡を検出。 集落内の区画溝より円面鏡と稜鏡を検出。	

## 下新庄アラチ遺跡

発 行 1999年3月31日（平成11年）  
編集発行 野々市町教育委員会  
〒921-8815  
石川県石川郡野々市町本町5丁目4番1号  
☎ 076-246-2344

印 刷 株式会社 箕間製作印刷所

# 下新庄アラチ遺跡遺構図

1991.1992.1994.1996



